

第七章 鑛山事業ノ概況

明治四十五年中ニ於ケル鑛山事業ニ付テハ以下逐次其概況ヲ記述スル所アルモ今之ヲ綜合概觀スルニ同年中ニ於テハ一般鑛產物ノ市價概ネ昂騰シ殊ニ金屬市價ノ騰貴ハ近年稀ナル盛況ヲ呈シタルヲ以テ勢ヒ此種ノ鑛物ヲ目的トスル鑛山ノ新ニ事業ヲ開始シ又ハ既設事業ノ擴張ヲ爲シタルモノ多キハ下ニ掲クルカ如シ而シテ此等鑛山ニ於ケル事業ノ發展ニ伴フ生産力ニ及ホス結果トシテ既ニ第三章ニ述フルカ如ク產額ノ増加著シキモノアルヲ見ル就中銅ハ其最タルモノニ屬シ小坂、足尾、日立ノ大銅山ニ於ケル產額ノ増加ハ其最モ注目スヘキ所ナリ又亞鉛鑛ハ神岡、高田、太良鑛山等ノ產出大ニ増加シ從テ其輸出額ハ前年ニ比シ増加セルノミナラス内地各所ニ於ケル亞鉛製鍊工場ニ於テ消費セラル、モノモ亦尠カラサリシ

生野鑛山、明延坑ノ錫鑛ハ次第ニ其產出ヲ増シ現ニ毎月含錫六割ノ錫鑛三十一、六噸ヲ產スルニ至レリ又重石鑛ノ前年ニ比シテ著シク増加セルハ主トシテ山口縣喜和田鑛山及玖珂鑛山ヨリ石灰重石鑛ノ產出増加セルニ因ルモノトス

近年ニ於テ大鑛業家ノ鑛業發展ニ努力セルハ大ニ注目スヘキコトナリ殊ニ久原房之助ハ從來從事セシ諸鑛山ヲ發展セシメ尙鑛業界ニ雄飛スルノ計畫ヲ以テ其事業全部ヲ資本金一千萬圓ノ株式會社ト爲セリ新潟縣下諸油田ノ出油量ハ近年減少ニ傾キシカ本年輸入セシ「バーカ」式回轉鑿井機使用ノ結果深掘リ作業容易トナリ西山油田ノ產油ニ劇増ヲ來シタリ日本石油株式會社ハ茲ニ一千萬

圓ノ増資ヲ爲シ益々發展ヲ期スルニ至レリ又北海道炭礦汽船株式會社ハ經營上久シク困難ノ狀況ニ在リシカ十二月ニ至リ三井ノ後援ヲ得テ舊株ノ三分ノ一切捨優先株募集ノ策ヲ決シ新資金ノ一部分ハ炭礦ノ改良ニ投スルコト、ナリタレハ將來大ニ面目ヲ新ニスルニ至ラン

探鑛ノ目的ヲ以テ試錐機ヲ使用スルノ方法ハ石炭坑ニ於テハ夙ニ行ハレタル方法ナレトモ金屬鑛山ニ在リテハ明治四十年日立鑛山ニ於テ坑内外ニ「スリーバン」式及「シユラーム、バーカー」式金剛石試錐機及「カリツクス」試錐機ヲ使用シ以テ盛ニ探鑛ヲ行ヒ坑道ノ鑛床ニ到着セサル以前其鑛量及鑛質ヲ精察シ直ニ之ニ應スルノ諸設備ヲ築造シタルハ同鑛山發展ノ急速ナリシ所以ニシテ今回又同一方法ヲ以テ本坑二百尺坑道ニ於テ巨大ナル鑛塊ヲ發見セリ又青森縣安部城鑛山ハ明治四十二年九月ヨリ日々十臺ノ上總掘試錐ヲ使用シテ探鑛ニ從事シ其總箇所數二百三十八ニ及ヒ內鑛床ニ當レルモノ九十井アリ之ニ依リ略鑛床ノ大サ及性質ヲ審ニシ尙ホ試錐ヲ續行スルト同時ニ地表ノ設備ニ着手シ而シテ製鍊ハ八月之ヲ開始シ其月ニ於テ既ニ銅十萬餘斤ヲ產シ更ニ十二月ニ至リテハ十六萬餘斤ヲ產シ急劇ナル發展ヲ遂ケタルハ實ニ快心ノ舉ト謂フヘシ其他福島縣八莖鑛山ニテハ金剛石試錐機ヲ、福島縣祖谷鑛山ニテハ網索試錐機ヲ以テ探鑛ニ着手スル計畫ナリ、足尾鑛山ノ諸鑛脈ハ石英粗面岩ノ地盤ニ在リテハ富良ノモ之ヲ圍繞セル古生層中ニ在リテハ貪瘠ナリシカ故ニ從來此地盤ニ於ケル探鑛ハ之ヲ閑却シタリシモ近時本山方面ニ於テ藤倉探鑛坑道ノ開鑿ニ着手シ此ノ部分ノ探鑛ニ從事セルハ同鑛山ノ將來ニ於ケル發展ニ資スル所大ナルヘシ又福岡縣早良郡鳥飼村附近及粕屋郡志賀島村附近ニ於テハ試錐ノ結果有望ナル炭層ヲ發見シ福岡市附近廣大ノ地積ニ

於テ石炭ノ埋藏セラル、ヲ豫想セラル、ニ至レリ

金屬鑛山ノ開鑿ニ關シテハ鑿岩機ノ使用盛大ナラントスルノ趨向ヲ示セリ彼ノ別子鑛山第四通洞開鑿工事ハ去ル明治四十三年二月着手セラレ「シユラーム」鑿岩機ヲ使用セルカ平均一箇月工程約三百尺本年末ニ於ケル總延長ハ六千三百四十六尺ニ達シ殘餘八千五百尺ノ開鑿ハ約二箇年半ノ日子ヲ以テ完成シ得ヘク從テ著シク豫定年月ヲ短縮セシムルヲ得タルハ全ク鑿岩機ノ偉功ニ歸セサルヘカラス又機械的探鑛ニ關シテハ先ニ日立鑛山ニ於テハ「スリーバン」式「ストバー」ヲ「シユリンケージ」探鑛法ニ利用シ大ニ成功シタルノミナラス普通階段掘ニ於テモ亦之カ應用ノ有望ナルヲ認メラル即チ之カ爲メ經費ニ於テ三割ヲ減シ使用人員ニ於テハ約三分ノ二ヲ減シ得ル事ヲ認メタリ、足尾銅山ニ於テハ近年坑夫ノ不足ヲ補ハンカ爲ニ坑井掘上リ掘鑿ニ「ストバー」ヲ使用シタル結果ニ鑑ミ本年ニ於テハ探鑛用トシテ階段掘ニ使用スルニ至レリ又石炭山ニ於ケル截炭機ニ關シテハ從來處々ニ使用セラレシモ未タ實用ノ域ニ達セサリシカ近年ニ至リ芳谷炭礦ニ於テハ稍實用ニ近キ程度ニ於テ「クイック・ピック」截炭機ヲ使用シ又茨城縣茨城無煙炭礦第二坑ニ於テハ一部分ニ營業的ニ使用セルヲ見ル其他福岡縣大辻及金田ノ諸炭礦ニ於テ同シク「クイック・ピック」截炭機ヲ試用スルニ至レリ探鑛方式ニ付テハ金屬鑛山ニ於テハ小鑛山ヲ除クノ外盡ク階段掘ニ變シタリ而シテ小阪鑛山ノ大鑛床ノ探掘ニ際シテハ上下ヲ數段ニ分チ各段ニ龍頭ヲ殘シ探掘跡ニハ土砂充填ヲ爲シタル後龍頭拂ヲ行ヒ以テ殘鑛ナカラシメンコトヲ期セシモ後露天掘ノ有利ナルヲ認メ盛ニ開鑿ニ從事セルヲ見ル又日立鑛山ニ於テハ其ノ大鑛床ヲ探掘スルニ當リテハ「シユリンケージ」方法ヲ以テ有利ニ操

業シツ、アリ筑豊石炭山ニ於テハ從來少數鑛山ニ於テ長壁法ノ行ハレタル外專ラ殘柱法ニ依リシモ輓近長壁法ヲ用ユルモノ多キヲ見ルニ至レリ又從來坑道掘進ニ際シテハ其左右ニ五十尺乃至六十尺ノ保安壁ヲ殘存セルモ作業進捗ニ伴ヒ坑道地壓ノ爲ニ保持ノ困難ヲ感スルニ至リタルヲ見ル是實ニ保安壁ノ大サ比較的小ナルニ基因スルコト勿論ナルモ若シ之ヲ擴大ニスルトキハ勢ヒ出炭量ヲ減スルノ結果ヲ生スヘシ然ルニ福岡縣田川炭礦本坑及山野炭礦鴨生坑ニ於テハ炭層ノ上磐頁岩ニシテ採炭後上磐ハ靜穩ニ沈定スルヲ見テ前進長壁法ヲ應用シ保安壁ヲ殘サス盡ク採掘シタルニ其結果出炭ノ割合ヲ増加シ加フルニ坑道ニ及ホス地壓ハ比較的輕減セラレ二三回追切セシノミニテ全ク沈定シ爾後修繕ヲ要スルコト尠キ好成绩ヲ得タリシヲ以テ三井本洞炭礦亦此ノ法ヲ應用スルコト、ナレリ蓋シ之ト同一狀況ニ在ル諸炭礦ニ於テハ大ニ講究スヘキ問題ナリトス又土砂注填法ハ厚層ノ石炭ヲ安全且ツ有利ニ採掘スル爲メ必要ナル方法タルト同時採炭跡瓦斯鬱積ヲ防止スル上ニ於テモ必要ナル方法ナレトモ經濟上未タ之ヲ實行スル能ハサリシカ近年三池炭礦宮ノ浦坑ニ於テハ炭塵及捨石ヲ用キ之ヲ行ヒツ、アリ輓近尾尾日立及別子等ノ諸鑛山并ニ筑豊諸炭礦ニ於テハ豎坑ニ於ケル坑夫ノ出入ヲ便ニシ且ツ歩行昇降ニ依リ無益ノ時間ト勞力ヲ節約セシメンカ爲メ捲揚臺ニテ昇降セシメツ、アリシカ本年ニ至リ大ノ浦、新入及高島ノ諸炭礦ノ斜坑道ニ於テハ坑夫運搬用車ノ運轉ヲ開始シタルヲ見ル石油井掘鑿ニ關シテハ手掘法ハ夙ニ其跡ヲ絶チ新津油田熊澤ニ於テハ上總掘大ニ行ハレシモ大ナル發達ヲ爲スニ至ラス又米國式綱索鑿井法ハ明治三十年ヨリ實施セラレ當今唯一ノ鑿井法ナリキ

後「マニラ」網ニ代フルニ鋼索ヲ使用スルニ至リ其功用ヲ増シ二三百間以内ノ油層ニ達スルニハ困難ナラサリシモ第三油層ニ達セシカ爲メ五百餘間ノ深井ヲ掘下セントセハ日子ト費用ヲ要スルノミナラス往々失敗ノ患ナキニ非サリシモ本年六月日本石油株式會社ハ「バーカー」氏回轉鑿井機ヲ輸入シ新潟縣西山油田、伊毛及鎌田ニ試ミシニ二箇月間ニシテ五百餘間ヲ掘下シ其經費ハ三千圓乃至五千圓ヲ要シタルニ過キサリキ之レヲ舊來ノ網索鑿井法ニ比スルニ時日ニ於テ九分ノ一、經費ニ於テハ五分ノ一ニテ足り且ツ失敗ノ虞ナキハ石油界ニ一生命ヲ附與シタルモノニシテ現在ニ於テ同會社ハ西山油田ニ七基、五智油田ニ一基及新津油田ニ一基ヲ運轉シ寶田石油株式會社モ亦西山油田ニ於テ四基ヲ運轉シツ、アリ

金屬鑛山ニ於テハ坑内點燈用トシテ「アセチリン」燈ノ使用ハ前年ニ比シテ益々弘布セルヲ見ル又炭坑用安全燈トシテ從來使用セシ「クラニー」式「キャンブリヤン」式ニ比シ「ウォルフ」式安全燈ノ優秀ヲ認メ之レニ代フルモノ多キニ至レリ又其點火裝置トシテハ從來摩擦發火具ヲ用キタリシモ本年ハ理想的點火具タル「バイロホクツク」合金點火具獨逸國ヨリ輸入セラレタ張炭礦等ニ於テ之ヲ試用スルニ至レリ排水ニ關シテモ強力ナル電氣唧筒及「タービン」唧筒使用ノ趨勢ハ屢々トシテ止ム所ヲ知ラス而モ金屬鑛山ニ於テハ酸性坑水ノ爲ニ鐵管及唧筒ヲ腐蝕セルヲ常トセリ故ヲ以テ秋田縣花岡鑛山ニ於テハ之カ防止方法トシテ先ツ坑水ニ石灰ヲ投入シ之ヲ中和シタルニ其好果著シク且ツ之ト同時ニ銅ヲ沈澱セシムルノ利アルヲ證セリ

高田鑛山ニ於テ舊捨石ヲ處理シ亞鉛鑛ヲ收集スル爲ニ行ヒツ、アル特許第二二八四八號瓦斯選鑛

法ハ浮選法ノ一種ニシテ其方法タル先ツ原料ヲ三十目乃至三十五目ニ粉碎シ千分ノ六ノ重曹ヲ加ヘ(萬分ノ五位ノ微量ノ重油ヲ加フレハ尙可ナリ)百分ノ一ノ硫酸ヲ含メル溫湯中ニ投入スレハ硫化鑛物ハ浮昇シ脈石ハ沈降シ一割内外ノ精鑛ヲ得其實收率ハ九割以上ニシテ百貫ノ鑛石處理費ハ僅カニ四十錢ナリト謂フ此方法タル獨リ亞鉛鑛ニ限ラス總テ硫化鑛物ヲ含有スル鑛石ニ對シテハ應用シ得ヘキカ故ニ其範圍廣キト實收率高キト設備簡單ニシテ建築費及地積ヲ要スルコト尠ク操業容易ナルト且ツ精鑛富良ナルカ故ニ手選ノ程度ヲ粗ナラシムルコトヲ得ルトノ如キハ此ノ方法ノ直接ノ利益ト認ム可ク又賣鑛鑛山等ニ在リテハ鑛石ノ容量ヲ縮少ニスル結果從來ニ比シ運賃ヲ利スルコトヲ得ヘク且ツ實收率高キ爲ニ鑛尾ニ硫化物ヲ殘存スルコト僅少ナルカ故ニ從來ノ如ク鑛滓ノ滲透水ヨリ鑛毒水ヲ發生スルノ患ナク只土砂トシテ散亂ヲ防止スルノミニ足レルカ如キハ間接ノ利益ト稱スヘシ之ヲ要スルニ該方法ハ大正第一年ヲ紀念スヘキ好個ノ發明トシテ我鑛業界ヲ利スルコト多大ナルヘキモノト信ス

石炭山ニ於テハ機械選炭法益々盛トナリ本年ニ於テ選炭機ノ新設又ハ改設スルモノ甚タ多シ殊ニ從來ハ乾選炭ヲ主トセルモ近年洗炭法ヲ行フモノアルニ至リ彼ノ二瀨炭礦及大嶺炭礦ニテハ「ニユ一、センチュリ」型洗炭機ヲ使用ス殊ニ後者ニ於テ該機使用ノ結果トシテ從來鍊炭ニ適セサリシ粗惡粉炭ヨリ六割ノ良炭ヲ得ルニ至レリ

從來別子鑛山四阪島製鍊所ニ於テハ六百六十五區ノ燒鑛窯ヲ使用シテ燒鑛ヲ爲シ熔冶ヲ行ヒツ、アリシモ本年夏季ヨリ全ク其使用ヲ廢止シ生鑛製鍊ニ從事スルコト、ナリ此ニ於テ銅ノ還元製鍊

法ハ大鑛山ニ於テハ全ク其跡ヲ絶チ僅ニ小鑛山ニ於テノミ見ルニ過キサルニ至レリ
小坂鑛山ニ於テハ從來鑛石ニ對シテ一割餘ノ返シ鉋ヲ爲セシモ近時之ヲ廢シ且ツ媒熔劑トシテ石
灰ヲ使用セルニ從來捨鑊ハ含銅百分ノ〇・三五アリシカ今日ハ〇・二五ニ減少セルヲ見ル是レ實ニ製
鍊上著シキ問題ナレトモ其原因ハ返シ鉋ノ廢止ニ因ルカ將又媒熔劑ノ使用ニ歸スヘキヤ未タ不明
ナリトス、別子鑛山ニ於テハ從來捨鑊ハ鑊壺ニテ運搬シ之カ爲ニ百餘人ノ勞働者ヲ要シタリシモ本
年ニ至リ捨鑊ハ盡ク水碎シテ運鑛帶ヲ用キ運搬ヲ開始セルニ其結果良好ニシテ鑊引キ人夫ハ全ク
之ヲ解雇スルニ至レリ、日立鑛山ニ於テハ其產銅ノ著シク増加セルニ伴ヒ既設電鍊場ノ一箇月百萬
斤ノ設備ナリシヲ今回擴張シテ百五十萬斤ト爲セリ

亞鉛製鍊業ハ前年ニ比スレハ著シク進捗セルヲ見ル即チ乾餾法ニ依ルモノハ製鐵所、亞鉛製鍊株式
會社及神岡鑛山ナリ就中製鐵所ニ於テ夙ニ製造セラレタルモ其製品ハ亞鉛鍍板ノ製造ニ使用シッ
ツアリ亞鉛製鍊株式會社神ノ島工場ノ建設ハ既ニ落成セシヲ以テ乾餾爐(百二十ト入)四臺ヲ使用シ
一箇月百三十二噸ノ製品ヲ出スニ至リタレハ尼ヶ崎工場ハ追テ廢止スル筈ナリ又神岡鑛山ノ亞鉛
鑛ハ同山ニ於テ焙燒シ後福岡縣三池炭礦ニ送り製鍊ニ附スル筈ナリ同工場ノ能力ハ一箇月鑛石千
噸ヲ處理シ製品約三百六十噸ヲ得ル計畫ニシテ目下建造中ニ在リ次ニ小坂鑛山ハ濕式電解法ヲ以
テ毎月製品一萬斤ヲ製出シ市場ニ出シタリ亞鉛電氣製鍊株式會社ハ新潟縣東蒲原郡下條村工場ニ
於テ宮澤式ナル濕式電解法ニテ操業スヘク目下工場建築中ナリ
金銀鑛業ニ於テ佐渡鑛山ハ青化製鍊工場ヲ改築シ從來ノ泥鑛青化法ヲ改良シ其處理量ヲ増加シ銘

銀作用ヲ進ムルノ計畫ナレハ將來產銀ノ増加ハ期シテ待ツヘシ波佐見鑛山ニ於テハ其改築工場落成シ本年中金八十五貫餘ト銀百二十三貫餘ヲ產出スルニ至レリ次ニ院內鑛山ニ於テハ毎月三百噸ノ貧鑛並ニ鑛滓（金百萬分ノ一、三）ヲ處理スルノ目的ヲ以テ青化製鍊場ヲ起セルハ遺利ヲ興スモノト謂フヘシ

次ニ日立鑛山ニ於テ烟害除去ノ一端トシテ前年ニ於テハ排烟中ノ亞硫酸ヲ採リ硫酸製造ヲ開始セルモ尙本年ニ於テハ鎔鑛爐烟道内ニ沈定セル烟塵ヲ乾留シテ製造シタル硫黃ヲ採リ之ニ醋酸會社ノ副產物ナル「レトルト」木炭ヲ加ヘ廿五「キロワット」ノ電力ヲ用キ毎日三百封度ノ二硫化炭素製造ヲ開始セリ

動力トシテ蒸汽力ノ使用少カラスト雖モ電力ニ至リテハ殊ニ其著シキ増加アルヲ見ル即チ日立鑛山ニ於テハ先ニ石岡發電所ニ於テ四千「キロワット」ヲ發電シ使用シタリシカ近時又動力ノ不足ヲ感シ島縣石城郡赤井村ニ於テ七千二百「キロワット」ノ發電所ノ建設ニ着手シ大正三年ニ至リ落成スル筈ナリ別子鑛山端出場發電所ハ五月工事落成シ千五百「キロワット」ヲ發電スルヲ見ル三池炭鑛ニ於ケル「コツパース」骸炭爐ヨリ發スル瓦斯ヲ利用セル六千「キロワット」ノ發電所ハ十月落成シ十一月ヨリ運轉ニ着手セリ荒川鑛山ニ於テハ廣久内ニ第五發電所ヲ設ケタリ其他島根縣大森鑛山、福島縣小野田炭鑛ニ於テモ各發電所ヲ建設セリ

電力購入ノ便利ヲ有スル所ニ在リテハ購入ノ方法ニ依リ供給ヲ受クルモノ著シク増加セリ例ヘハ茨城無烟炭鑛第二坑カ日立鑛山石岡發電所ヨリ、石川縣遊泉寺鑛山カ金澤電氣瓦斯株式會社ヨリ、德

島縣東山鑛山カ德島水力電氣株式會社ヨリ、和歌山縣浦神鑛山カ那智水力電氣株式會社ヨリ、岡山縣豐岡鑛山カ津山電氣株式會社ヨリ配電ヲ受クルカ如シ

筑豐煤田ニ於テハ從來比隣ノ炭礦各必要ナル動力ヲ發生シツ、アリシハ識者ヲシテ往々中央動力發生所ノ利益ヲ說カシメタリシカ今ヤ動力中央集中主義ノ萌芽ヲ見ルニ至レルハ國家經濟上大ナル福利ト稱スヘシ即チ三井田川炭礦ニ於テハ「モンド」瓦斯ヲ以テ四千「キロワット」ヲ發電シ同坑ハ勿論本洞及山野二炭坑ニ送電スルコト、ナリ又大ノ浦炭礦ニ於テハ桐野坑ニ蒸汽機關ヲ設置シ千五百馬力ヲ發電シ桐野菅牟田及滿之浦ニ供電シ尙遠ク大辻炭礦ニ送電スルニ至レリ

運搬ニ關シテハ近時鐵道及輕便鐵道ノ普及ト海運ノ發達ニ伴ヒ買鑛製鍊業ノ益々盛ナルヲ見ル從來買鑛ニ從事セシ鑛山ニ在リテハ小坂、日立、生野等ナリ就中日立鑛山ノ操業日淺キニ拘ハラズ先進諸鑛山ヲ凌キテ金ニ於テハ第一位、銀ニ於テハ第四位、銅ニ於テハ第三位ヲ占ムルニ至レルハ刮目スヘキ現象ナリ本年ニ至リテハ石川縣遊泉寺鑛山、島根縣寶滿山鑛山及岩手縣大荒澤鑛山ノ如キモ亦買鑛ヲ開始セリ殊ニ足尾鐵道完成セシ今日ニ在リテハ足尾鑛山ニ於テ久根鑛石ノ製鍊セラルヘキハ勿論ナルモ尙進ンテハ他鑛山ヨリ買鑛ヲ爲スノ日モ遠キニ非サルヘシ

從來奥羽、中國、四國地方ノ小鑛山ハ盛ニ買鑛ヲ爲シ來ルモ本年ニ入リテ栃木縣日光近傍ノ諸鑛山及伊豆ノ諸鑛山ノ買鑛大ニ盛ナルヲ見ル

鐵道院ニ於テハ本年一月ヨリ東北線及奥羽線ノ各驛ヨリ七指定驛ニ向テ發送スル鑛石ニ對シテハ特別低運賃ニテ取扱フノ方法ヲ取リシモ十月一日院線ノ全部ニ於テ賃率ヲ改正セリ其要點ハ(一)山

陽線ヲ除クノ外ハ全線ヲ通シテ同一賃率ヲ適用セリ(二)發着手數料ヲ廢シタリ(三)運賃計算ニ當リ從來階梯計算法ナリシヲ累加計算ニ改メタリ(四)輸送カ連絡船ニ依ツテ甲乙兩地ノ兩線ニ跨ルトキハ其運賃ハ從來甲乙兩線各別ニ打切り計算シタリシヲ改正ニ依ツテ兩者通算計上スルコト、ナレリ而シテ改正ノ結果鑛產物ノ運賃概シテ低下スルニ至レリ

變災ニ就テハ本年ニ於テ死亡者ノ最モ多カリシハ夕張第一鑛第二斜坑ニ於ケル二回ノ瓦斯爆發ニ基因セルモノナリ輓近ニ於テハ諸炭鑛競フテ通風機及安全燈ヲ改良シ爆發物ノ撰定及其取扱ニ注意シ且ツ喫煙具及發火具ノ携帯ニ就テ取締ヲ嚴ニシツ、アルニ拘ハラズ災害ノ瀕リニ臻ルハ誠ニ歎スヘキノ至リナリ然レトモ爆發力強烈ナラサル場合及坑内火災ノ場合等ニ於テハ救命ノ準備充分ナランニハ若干ノ罹災者ヲ救出スルコト困難ナラサルハ從來幾多ノ經驗ニ徴シテ明ナリ且ツ幸ニ救命機ノ裝置ハ現時頗ル發達シ實用ニ適スルモノ尠カラス諸炭鑛等ニ於テ之ヲ備フルモノ多キヲ見ル即チ三池炭鑛ニ於テハ「フロイス」型十二組及同「ニューマトウゲン」型三組、豐國炭鑛ニテハ「ドレー」型四組、目尾炭鑛ニテハ「ドレー」型一組、筑豐石炭鑛業組合ニテハ「ドレー」型二組、ウエスト「ドレー」型二組及「フロイス」型二組、夕張第一鑛ニテハ「ドレー」型二組及福岡鑛山監督署ニ於テハ「ドレー」型二組及「ウエスト」型三組ヲ有セルモ其使用練習ニ至リテハ何レモ充分ナリト言ヒ難キモ筑豐石炭鑛業組合ニ於テハ練習所(内法幅五尺、高六尺、長三十尺、木造廊下)ヲ作り松葉ヲ燻シテ二回使用ノ練習ヲ行ヘリ其第一回ハ本年七月十五日ヨリ同二十四日迄十日間ニシテ四十七炭鑛ヨリ招集セル百七十七人ニ就キ第二回ハ十月十六日二十五炭鑛ヨリ集レル役員三十一人ニ行ヘリト謂ヘルモ其

練習ノ方法ニ至リテハ未タ完全ト稱シ難シ故ニ將來ハ益々改善ヲ加ヘ實地運用ニ練達ノ域ニ達スルヲ期セサルヘカラス

一 新ニ事業ニ着手シタル鑛山

試掘權登録 金銀銅 位置 渡島國茅部郡白尻村
第二五五號 亞鉛 鑛業人 小橋メ

本年十二月ヨリ事業ニ着手シ精進川河床ノ露頭ヨリ小堅坑ヲ穿チ目下二十尺餘掘進セリ

本鑛山ハ今ヨリ七八十年以前松前藩時代ニ於テ既ニ銀鉛鑛トシテ稼業セル所ニシテ精進川流域ニ數個ノ舊坑ト製鍊所ノ舊跡ヲ存セリ近年ニ在リテハ明治四十一年頃試掘ヲ爲シタルモ間モナク休業シ今日ニ至レリ

現今掘鑿シツ、アル露頭部ニ於テハ鑛脈ノ厚サ一尺位ナルモ坑底ニ於テハ數寸ニ狹縮セラレ主トシテ亞鉛鑛ナルモ鉛鑛ヲ混在セリ目下鑛夫四名ヲ使役スルニ過キス融雪期ヲ俟チテ精査ヲ爲シ將來ノ方針ヲ決定スル筈ナリト云フ

試掘權登録 金銀銅 位置 後志國余市郡余市村
第二一五號 鑛業人 田中平八

本年五月事業ニ着手シ舊坑ヨリ約二十米突下方ニ疏水坑道ヲ穿チ其延長百五十四米突ニシテ初メテ鑛脈ニ逢着セリ該鑛ハ約五寸ノ幅ヲ有スルモ未タ確實ナル鑛脈ニアラサルカ如シ現今坑夫四名雜夫二名ノ使役ス

金榮鑛山 金銀銅 位置 後志國壽都郡壽都町
亞鉛 鑛業人 金榮合資會社

本年四月開坑ニ着手シ専ラ探鑛中ニシテ大切坑、中切坑及金榮一號坑ヲ開鑿セリ而シテ其延長八間、二十八間及十間ニ達シ目下中切坑ノミ掘進セリ鑛石ノ品位ハ上鑛金痕跡、銀〇・〇一〇五、銅二・八一ナリ現今坑夫六名、雜夫五名ヲ使役セリ

試掘權登錄 第六五號 滿俺 鑛業人 後志國太樺郡太樺村 北海道鑛業合資會社

本年九月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛ヲ主トシテ開坑五箇所ニ及ヒ精鑛約二百噸ヲ得タリ現在使役ノ鑛夫ハ探鑛夫二十名、選鑛夫十名、雜夫五名ナリ

白老鑛山 金銀銅 鑛業人 膽振國白老郡白老村 阿部

本鑛區ハ膽振國試掘權登錄第二七八號ノ轉願ニシテ本年一月探掘登錄トナリタルモノニシテ事業ハ試掘當時ヨリ繼續シ來リ別ニ變化ヲ見ス

中島鑛山 金銀 鑛業人 宮城縣桃生郡飯野川村 金澤 忠兵衛

從來休業中ノ處二月ヨリ探鑛ニ着手セリ

馬頭鑛山 金 鑛業人 宮城縣刈田郡小原村 代表者 三角有次郎

十一月ヨリ探鑛ニ着手セリ

試掘權登錄 第三一九號 金銅 鑛業人 宮城縣本吉郡新月村 代表者 佐藤甚四郎

九月五日ヨリ探鑛ニ着手セリ

入谷鑛山 金 鑛業人 宮城郡本吉郡入谷村 代表者 植村貫藏

一月ヨリ探鑛ニ着手シ五月搗鑛場、木梓鐵製五本立一臺、十一月青化場(徑四尺溶解槽十個)ヲ開設シ

テ製鍊ヲ行ヒツツアリ

七里澤鑛山 金銀鉛 鑛業人 宮城縣刈田郡小原村 井上信

三月試掘許可ヲ受ケ六月ヨリ探鑛ニ着手シ四千貫ノ賣鑛ヲ爲セリ

第三掘權登錄 試掘權登載 安賀母尼 鑛業人 宮城縣栗原郡文字村 代表者 玉井慶松

十一月末釜三個ヲ設備セル製鍊場ヲ開設シ試驗的製鍊ニ着手ス

松川南鑛山 金銀 鑛業人 福島縣信夫郡松川村外一村 山口嘉三

一箇月約三萬貫ノ舊鑛滓並ニ探掘粉鑛ヲ處理シ金七十五匁銀九百匁ヲ採取セントスル目的ヲ以テ大正元年十一月ヨリ探鑛ヲ開始シ目下青化製鍊場建設中ナリ

五萬洞鑛山 金銀鉛 鑛業人 福島縣河沼郡下谷村 代表者 永井まさす

久シク休業中ノ處十月ヨリ仁田澤方面ニ於ケル亞鉛鑛探掘ノ目的ヲ以テ舊坑ノ取明ニ着手ス

高旗鑛山 金銀銅鉛 鑛業人 福島縣安積郡三和村 大橋吉郎

久シク休業中ノ處八月ヨリ探鑛ニ着手ス

月形鑛山 金銀銅鉛 鑛業人 福島縣安積郡月形村 月形鑛山株式會社

八月ヨリ探鑛探鑛ニ着手セシカ鑛床ハ粘板岩及砂岩ノ互層中ニ胚胎セル三個ノ鑛脈ニシテ一箇

月精鑛三萬貫ヲ產出シ小坂鑛山ニ賣鑛セリ

安達鑛山 金銀 鑛業人 福島縣安達郡高川村 代表者 品川英一

一月ヨリ探鑛ニ着手ス

探掘權登錄 第一七四號 金銀銅 鑛業人 福島縣耶麻郡熱塩村 代表者 宮森良三

七月ヨリ探鑛ニ着手ス

試掘權登錄 第六六七號 銅鉛亞鉛 鑛業人 福島縣岩瀬郡長沼村外一村 代表者 外岡祐次郎

二月ヨリ探鑛ニ着手ス

試掘權登錄 第六九八號 金銀銅 鑛業人 福島縣大沼郡川西村 鈴木寅三

五月ヨリ探鑛ニ着手ス

試掘權登錄 第七〇九號 金銀銅 鑛業人 福島縣石川郡須釜村外一村 代表者 田中伊三郎

九月ヨリ探鑛ニ着手ス

試掘權登錄 第七五二號 金銀重石 鑛業人 福島縣石川郡石川町外一村 田中伊三郎

九月ヨリ探鑛ス

水上澤鑛山 金 鑛業人 岩手縣和賀郡澤内村外一村 中孟

七月ヨリ鑛夫十三名計リヲ使役シ専ラ探鑛掘進ニ從事セリ

志賀來鑛山 銅 鑛業人 岩手縣和賀郡澤内村 橋本喜助

兼テ休業中ノ處七月ヨリ開業舊坑ヲ取明ケ探鑛並ニ殘鑛探掘ヲ行ヘリ

無地内鑛山 銅 鑛業人 岩手縣和賀郡湯田村 藤村精一

兼テ休業中ノ處五月ヨリ鑛夫三名ヲ使役シテ探鑛掘進ニ從事セリ

槻柳鑛山 金 鑛業人 岩手縣和賀郡湯田村 福田秀一

金鑛ハ漸次不振ノ有様ナレトモ偶々銅鑛ノ有望ナルモノニ遭遇シ又他ニ新ニ發見シタルモノアリテ銅山トシテ發展ノ機運ニ向ヒ專ラ探鑛ニ努メツツアリ

平和鑛山 金銅鉛 鑛業人 岩手縣和賀郡湯田村 駒澤 鶴藏

明治四十四年七月試掘許可ヲ受ケ大正元年九月新ニ探鑛ニ着手セリ

試掘權登錄 第八九二號 金銀銅 鑛業人 岩手縣和賀郡橫川目村 代表者 今岡義一郎

九月ヨリ鑛夫兩三名ヲシテ探鑛坑道掘進中ニアリ

試掘權登錄 第七四九號 金銅 鑛業人 岩手縣和賀郡橫川目村 柳瀬 萬吉

八月ヨリ鑛夫兩三名ヲシテ探鑛坑道掘進中ニアリ

大石岱鑛山 銅 鑛業人 岩手縣和賀郡湯田村 小林 辰治

六月ヨリ探鑛ニ着手ス

青金鑛山 金銀 鑛業人 岩手縣氣仙郡日頃市村 代表者 木田庄之助

七月ヨリ探鑛ニ着手ス

試掘權登錄 第七七七號 金 鑛業人 岩手縣氣仙郡矢作村 照井 八村

三月ヨリ探鑛ニ着手ス

試掘權登錄 第七五〇號 金銀 鑛業人 岩手縣氣仙郡米崎村外三村 代表者 千葉綱太郎

十一月ヨリ探鑛ニ着手ス

試掘權登錄 第八五二號 金銅 鑛業人 岩手縣和賀郡湯田村 佐藤 雪藏

十月ヨリ探鑛ニ着手ス

金手平鑛山 金銅鉛 鑛業人 置 岩手縣岩手郡御明神村 代表者 松村伊平

十月ヨリ着手ス

佐井鑛山 銀銅 鑛業人 置 青森縣下北郡佐井村 寺田省歸

二月ヨリ探鑛ニ着手シ入坑者總員六十名熱心鑛床ノ探究中ニ屬ス

諏訪之澤鑛山 銀銅亞鉛 鑛業人 置 青森縣東津輕郡原別村 鈴木吉二

本鑛山ハ明治四十四年八月探鑛ノ緒ヲ開キ大正元年八月益々其歩武ヲ進メ遂ニ三條ノ銅鑛脈ノ存在スルコトヲ確ムルニ至レリ鑛床ハ凝灰岩中ニ胚胎セル硅石質銅鑛ニシテ中央ノ一條ハ走向ニ於テ約二百尺ノ間幅二尺ニシテ其大半鑛石ナリ品位ハ無選鑛ニテ含銅百分ノ七ヲ有シ最下水準以上三十尺同以下五十尺ノ間ハ變化ナシ目下計劃中ナル製鍊場ノ完成スルニ至ル迄ハ依然探鑛ヲ繼續スヘシト云フ尙將來ノ計劃トシテハ大切坑ヲ開鑿シ奥部ノ鑛脈ニ對シ亞鉛鑛ノ探鑛ヲ行ハントスルニアリ

轟木鑛山 滿俺 鑛業人 置 青森縣西津輕郡大戸瀨村 宮本茂市

四十四年十二月現鑛業人之ヲ買受ケ撰鑛場ヲ新築シ九月ヨリ二三名ノ坑夫ヲ使役シ探掘ニ從事ス

燒山鑛山 金銀銅 鑛業人 置 青森縣下北郡佐井村 硫磺鐵 鑛業人 平森縣田豐作

九月ヨリ探鑛ニ着手セリ

久渡寺鑛山

滿俺

位 置
鑛業人

青森縣中津輕郡清水村
合資會社杉林黑鉛滿俺製煉場

六月現鑛業人之ヲ讓受ケ七月十五日ヨリ坑夫五六名ニテ探鑛ヲ兼ネ探掘ニ從事シ鑛石ハ之ヲ南

品川ナル本店ニ送り製鍊ニ付ス

試掘權登錄
第二六八號

金銀銅

位 置
鑛業人

青森縣東津輕郡一本木村
小倉善助

十一月ヨリ探鑛ニ着手鑛床ハ黑物ナリ

大正鑛山

金銀銅

位 置
鑛業人

青森縣下北郡川内村
大正鑛山合名會社

三月ヨリ探鑛ニ着手シ傍ラ一方宿野部部落ニ通スル一里半間ノ道路開鑿ヲ企圖シ目下開鑿中ニ

屬ス鑛床ハ黑物ニシテ已ニ一萬八千貫ノ賣鑛ヲ爲セリ

試掘權登錄
第二九二號

金銅

位 置
鑛業人

青森縣下北郡川内村
代表者 八重樫源太郎

六月ヨリ探鑛ニ着手セリ

試掘權登錄
第三三九號

金銀銅

位 置
鑛業人

青森縣下北郡川内村
代表者 平塚矢之助村

九月ヨリ探鑛ニ着手セリ

試掘權登錄
第三二六號

金銀銅

位 置
鑛業人

青森縣下北郡川内村
田中銀之助村

九月ヨリ探鑛ニ着手セリ

試掘權登錄
第二七二號

金銀銅

位 置
鑛業人

青森縣南津輕郡大鰐村
代表者 藤田廣吉村

探鑛ノ傍ラ探鑛ヲ爲シ二萬貫ノ賣鑛ヲ爲セリ

試掘權登錄
第三六六號

金銀銅

位 置
鑛業人

山形縣東田川郡大泉村
佐藤治郎助村

六月ヨリ鑛押坑ヲ穿チ探鑛ニ從事セリ

試掘權登録 金銀 鑛業人 川上 山形縣東田川郡大泉村
第三五六五號

明治四十四年末ヨリ坑夫二名ヲ使役シ専ラ探鑛中ナリ

千代ヶ澤鑛山 金銀銅 鑛業人 山形縣北村山郡山口村
代表者 中村 伍作

明治四十四年八月試掘ニ着手以來鑛況大ニ見ルヘキモノアリ大正元年十一月探掘ノ許可ヲ受ケ

鑛夫六十名ヲ使役シ探鑛探鑛ヲ兼行シ探鑛量ハ一箇月約一萬貫内外ニシテ東京關東酸曹株式會

社ニ賣鑛セリ銅ノ品位ハ平均百分ノ五内外ナリ

富山鑛山 金 鑛業人 山形縣北村山郡宮澤村
代表者 大澤 清次

久シク休山中ノ處八月鎔解槽六本ヲ有スル青化製鍊場一棟ヲ建設シ鑛滓ノ製鍊ニ着手ス

小俣鑛山 銀銅鉛 鑛業人 山形縣最上郡安樂城村
代表者 古河 合會社

二月以來坑道ノ取明ニ着手シ五月選鑛場ヲ建設シ開鑛ヨリ生スル亞鉛鑛ヲ選鑛シ賣鑛ヲ爲ス

立谷澤鑛山 金銀銅鉛 鑛業人 山形縣東田川郡立谷澤村
代表者 岡崎 義爲

九月以降探鑛ヲ開始ス

逢坂鑛山 銅 鑛業人 山形縣南村山郡東村
代表者 山本 巳之助

十月ヨリ舊坑取明ニ着手ス

小泉鑛山 金 鑛業人 山形縣最上郡新庄町
代表者 眞木 藤助

十月ヨリ探鑛ニ着手ス

吉野鑛山 金銀銅 鑛業人 山形縣東置賜郡吉野村
代表者 澤一、フアブルブランド、エンドサン合名會社

十二月ヨリ探鑛ニ着手ス

第四試掘權登録 金銀銅 鑛業人 山形縣南村山郡山元村
代表者 西村 宗七

四月ヨリ探鑛ニ着手シ四千貫ヲ賣鑛セリ

第四試掘權登録 金銀銅 鑛業人 山形縣南置賜郡三澤村
代表者 竹内 音三郎

六月ヨリ探鑛ニ着手ス

第四試掘權登録 金銀銅 鑛業人 山形縣東村山郡津山村
代表者 工藤 泰吉

七月試掘許可ヲ受ケ八月ヨリ探鑛ニ着手ス

第四試掘權登録 金銀銅 鑛業人 山形縣南村山郡本庄村
代表者 原田 清三郎

九月ヨリ探鑛ニ着手シ千八百貫ヲ賣鑛セリ

第五試掘權登録 金銀銅 鑛業人 山形縣西村山郡白岩町
代表者 石川 春吉

十一月ヨリ探鑛ニ着手ス

相内鑛山 金銀銅 鑛業人 秋田縣北秋田郡大葛村
代表者 諸橋 龍藏

四十四年八月頃ヨリ探鑛ヲ開始セルカ今年六月ニ至リ再ヒ試掘ノ許可ヲ受ケ多少ノ探掘ヲモ兼

ヌルニ及ヒ約三千六百尺ノ自働鐵索工事ヲ起セリ

四角嶽鑛山 銅 鑛業人 秋田縣鹿角郡柴平村外二縣二郡二村
代表者 藤 盛孝

七月探鑛ニ着手シ多少ノ探鑛ヲ爲スニ至レリ出鑛ハ不老倉鑛山ニ賣鑛ス

長部鑛山 金銀銅鉛 鑛業人置 秋田縣北秋田郡大葛村
雨宮正太郎

九月ヨリ探鑛ニ着手ス

十和田鑛山 金銀銅鉛 鑛業人置 秋田縣鹿角郡七瀧村
小瀧元司

久シク休業中ノ處現鑛業人讓受ケ七月再ヒ開業約一箇年ヲ期シ舊坑ヲ取明ケ黑鑛塊ニ達セシメ

ント努力シツ、アリ

西明寺鑛山 金銀銅 鑛業人置 秋田縣仙北郡西明寺村
石川榮太

九月探鑛ヲ兼ネ中切坑ノ開鑿ヲ始ム

彌生鑛山 金銀銅 鑛業人置 秋田縣由利郡笹子郎村
片倉清太郎

九月探鑛ニ着手ス

大倉鑛山 金銀銅 鑛業人置 秋田縣雄勝郡駒形村外一村
合名會社藤田組

十月ヨリ探鑛ニ着手セリ

柴平鑛山 金銀銅 鑛業人置 秋田縣鹿角郡柴平村外一村
福田秀一

六月試掘ノ許可ヲ受ケ探鑛ノ結果稍々有望ナル數條ノ鑛脈ヲ發見シタリ

試掘權登録 第六三六號 金銀銅鉛 鑛業人置 秋田縣南秋田郡上新城村外一村
代表者 佐藤重常

五月ヨリ探鑛ニ着手シ四千貫ノ鑛石ヲ販賣セリ

試掘權登録 第七五六號 金銀銅鉛 鑛業人置 秋田縣北秋田郡長木村
代表者 伊藤良藏

十月ヨリ探鑛ニ着手セリ

堀内鑛山 金銀銅 鑛業人 秋田縣鹿角郡小坂村

九月末ヨリ探鑛ニ着手シ採取シタル鑛石二千貫ヲ販賣セリ

第七掘權登錄(大卷鑛山) 金銀銅 鑛業人 秋田縣北秋田郡西館平村

二月ヨリ探鑛ニ着手セリ

第八掘權登錄 金銀銅 鑛業人 秋田縣北秋田郡大葛村

七月ヨリ探鑛ニ着手セリ

第八掘權登錄 金銀銅 鑛業人 秋田縣北秋田郡長木村

三月試掘許可ヲ受ケ探鑛ニ着手シ千三百貫餘ノ賣鑛ヲ爲セリ

第八掘權登錄 金銀銅 鑛業人 秋田縣北秋田郡大葛村

三月試掘許可ヲ受ケ探鑛ニ着手シ六萬貫餘ノ賣鑛ヲ爲セリ

第八掘權登錄 金銀銅 鑛業人 秋田縣北秋田郡大葛村

七月ヨリ探鑛ニ着手セリ

第八掘權登錄 銅 鑛業人 秋田縣鹿角郡柴平村

七月ヨリ探鑛ニ着手セリ

大樂前鑛山 銀銅 鑛業人 秋田縣鹿角郡大湯村

九月試掘許可ヲ受ケ十月ヨリ探鑛ニ着手セリ

第九掘權登錄 金銀銅 鑛業人 秋田縣鹿角郡宮川村

十一月ヨリ探鑛ニ着手セリ

試掘權登録 金銀銅 鑛業人 伊田縣由利郡笹子村 吉

元試掘權登録第五九六號ト同一地ニ於テ再ヒ試掘ノ許可ヲ受ケ十一月五本立搗鑛器一臺ヲ設備

セル搗鑛場ヲ開設ス

試掘權登録 金畑鑛山 金銀銅 鑛業人 秋田縣鹿角郡小坂村 代表者 熊谷チヨ

九月ヨリ探鑛ニ着手シ三萬五千貫ノ鑛石ヲ販賣セリ

藤琴鑛山 金銀銅鉛 鑛業人 秋田縣山本郡藤琴村 亞鉛硫化鐵 佐藤得四郎

七月ヨリ探鑛ニ着手シ主トシテ舊坑ノ取明ヲ爲ス

試掘權登録 銅 鑛業人 東京府小笠原島嶼六 新

本鑛區ハ煤島全部ヲ占メ鑛床ハ第三紀ノ集塊岩中ニ胚胎セル含銅硫化鐵ノ層狀鑛脈ナリ本年事業ヲ開始シ其稼行場所ハ隣濱ト稱スル海中及海岸ニシテ約十五度ノ傾斜ヲ以テ沖ヨリ海岸ニ向ヒ漸次隆起セル所トス鑛層ハ厚サ三四尺ニシテ含銅品位百分ノ三乃至四アリ現在使用人員六名ナリ

千本鑛山 金銀 鑛業人 新潟縣佐渡郡高千村 三菱合資會社

本山ノ鑛床ハ凝灰岩凝灰質頁岩及輝石安山岩ノ裂罅ヲ充填セル石英脈ニシテ其主要ナルモノヲ赤岩脈及小又脈トス前者ハ走向百四度傾斜北八十五度幅約五尺後者ハ走向百四度傾斜南八十度幅約七尺金銀ヲ含有ス千本川岸ヨリ赤岩脈ヘ向ヒ南ニ掘進スルコト千八十尺ニシテ本年五月打

當テ爾來手掘法ニ依リ六七ノ杵ニテ東西ニ延長スルコト二百三十尺專ラ鑛量調査ニ從事シ未タ探鑛ヲ行ハサルモ探鑛ヨリ得タル鑛石ハ五百八十三噸ニシテ海路佐渡鑛山ニ輸送シ製鍊ニ附セリ其品位金十萬分ノ七、銀千分ノ五ヲ有ス濃金坑澤ニ事務所、赤岩坑口ニ選鑛場各一棟、赤岩坑附近及濃金坑澤等ニ鑛夫長屋三棟ヲ建設セリ

鷹千鑛山 金銀 鑛業人 新渴縣佐渡郡高千村 菱合資會社

本鑛山ハ前鑛業人時代ニ於テ永ク休業狀態ニ在リシモ現鑛業人ニ於テ買受後再ヒ鋤追探鑛ニ着手セリ其鑛床ハ凝灰岩及凝灰質頁岩、輝石安山岩ノ裂罅ヲ充填セシ石英鑛脈ニシテ走向二百六十二度傾斜北五十五度脈幅約五尺ヲ有ス

戸中鑛山 金銀 鑛業人 新渴縣佐渡郡金泉村 西敏

本山ノ鑛床ハ凝灰質頁岩ノ裂罅ヲ充填セル石英鑛脈ニシテ走向百十度傾斜西南ニ七十度脈幅三尺ノモノト之ニ併走セル脈幅四尺ノモノトノ二條ヲ有シ專ラ第一鑛脈ノ舊坑杵擴ケト共ニ鋤追探鑛中ナリ

葡萄鑛山 亞鉛 鑛業人 新渴縣岩船郡鹽野町 長谷川久治村

本年一月事業ニ着手ス鑛床ハ石英粗面岩中ニ存スル鑛脈ニシテ六、七條アリ銅、鉛、亞鉛ヲ含有ス目下豎坑ヲ開鑿シ舊坑下部ノ探鑛ニ從事セリ

小岐鑛山 銀銅鐵 鑛業人 新渴縣北蒲原郡赤谷村 小林友太郎

本鑛山ハ明治八年發見セラレ爾來數多ノ經營者之カ稼行ニ從事シ而シテ此間二十八年ヨリ三十

四年ニ至ル數年間ハ稍ヤ見ルヘキノ盛況ヲ呈シタリ其後明治四十年ニ至リ現鑛業人ノ所有ニ歸シ一時休山セシカ更ニ四十四年中再ヒ稼行ノ準備ヲ爲シ本年度ニ入り探鑛ニ着手セリ

鑛床ハ古生紀粘板岩及石灰岩中ニ成生シタル接觸鑛床ニシテ前鑛中鑛奥中鑛及奥鑛等ノ併走セル鑛床ヲ有ス其形狀ハ稍扁豆狀ヲ爲シ膨大シタル箇所ハ幅約五尺乃至十五尺ニシテ上下ニ二十尺乃至三十尺ノ高低ヲ有シ走向ニ沿ヘル延長五十尺乃至八十尺ニ達スルコトアリ而シテ鑛床中包含セラル、鑛物ハ黃銅鑛、黃鐵鑛、雲母鐵鑛、磁鐵鑛等ナリ

採掘權登錄 銅亞鉛 鑛業人 亞新渴縣東蒲原郡下條村
第二四二號

本鑛山ハ引續休業中ナリシモ其附屬事業トシテ嘗テ亞鉛電氣製鍊法ノ特許ヲ得タル宮澤治七郎管理ノ下ニ試驗的規模ノ電氣製鍊場設置ヲ企劃シ本年十月之カ起工ヲ見タリ其設備左ノ如シ

百馬力「タービン」水車

一 原 動 用

十七馬力「ベルトン」水車

一 同

直流式五十「ボルト」六十「キロワット」發電機

一 電 解 用

直流式二十「ボルト」五「キロワット」發電機

一 同

直流式二百二十「ボルト」發電機

一 動力及點燈用

幅五 長四十二尺 反射爐

一 燒 鑛 用

其一箇月ニ於ケル鑛石取扱高ハ原鑛四十噸ノ豫定ニシテ差當リ之ニ供用スル鑛石ハ附近鑛山ニ產出セル亞鉛鑛ヲ買收スルノ見込ナルモ追テ本鑛區ノ事業ヲ開始シ其出鑛ヲ以テ之ニ供用スル

ノ計劃ナリ

日本平鑛山 金銀鉛 位 置 新渴縣東蒲原郡下條村外一郡二村
亞鉛 鑛業人 小 出 淳 太

本鑛山ハ本年六月事業ヲ開始シ第五號坑ニ於テ直徑十二尺大ノ亞鉛鑛塊ニ掘リ當テタル以來大ニ活氣ヲ呈シ引續キ探鑛ニ努ムルト同時ニ山元ヨリ持倉銅山製鍊場附近迄ノ間ニ運搬用架空索道建設工事中ナリ

古小中鑛山 銅鉛 位 置 新渴縣中蒲原郡川内村
鑛業人 爲 田 文 太 郎

從來休業中ノ處本年一月事業ニ着手シタリ鑛床ハ粘板岩ト石灰岩トノ間ニ存スル一小鑛塊ニシテ黃銅鑛及砒硫鐵ヲ産ス

小日向鑛山 金銀銅鉛 位 置 群馬縣利根郡水上村
鑛業人 成 馬 富 公 三 郎

本鑛山ハ久シク休業中ナリシカ本年四月一日ヨリ操業ニ着手シ目下探鑛中ナリ

第一掘權登錄 金銀重石 位 置 茨城縣西茨城郡北那珂村
一九五號 鑛業人 吉 川 季 次 郎

本鑛區ハ本年一月ヨリ事業ニ着手シ現時探鑛中ナリ

第二掘權登錄 金銀銅 位 置 茨城縣多賀郡分村外一郡二村
二一號 鑛業人 小 川 六 右 衛 門

本鑛區ハ本年二月探鑛ニ着手セリ

第三掘權登錄 金銀銅 位 置 栃木縣那須郡高林村
三五號 鑛業人 齋 藤 一 郎

本鑛山ハ大正元年八月事業ニ着手セリ鑛床ハ玢岩閃綠岩及頁岩中ニ胚胎セラル、粒狀含銅硫化鐵鑛脈ニシテ未タ幅三四寸ノモノニ過キス專ラ探鑛中ナリ

赤澤鑛山 金銀銅 鑛業人 枋木縣鹽谷郡鹽原村

本鑛山ハ明治四十四年十二月下旬操業準備ヲ整ヘ引續第一號坑及第二號坑ヲ開掘シ目下主トシ

テ探鑛中ニ屬ス鑛床ハ石英粗面岩ニ胚胎セル鑛脈ニシテ脈幅五六寸銅亞鉛鑛ヲ夾雜ス

第三八〇號 試掘權登録 金銀銅 鑛業人 枋木縣鹽谷郡三依村

本鑛山ハ明治四十五年一月事業ニ着手シ舊坑ヲ取明ケ他ニ一坑ヲ開鑿セリ鑛床ハ閃綠岩中ニア

リテ幅三尺乃至五尺ノ間ニ鑛染狀態ヲ爲セリ

高德金山 金銀銅 鑛業人 枋木縣鹽谷郡藤原村

本鑛山ハ明治四十四年五月ノ設定ニ係リ試掘時代ヨリ休稼常ナク見ルヘキ事業ナカリシカ本年

一月現鑛業人ノ有ニ歸シ同年五月事業ニ着手シタル以來探鑛ヲ主トシ兼テ試掘時代ノ開鑿ニ係

ル一號坑ノ探掘ヲ爲シツ、アリ

圓山鑛山 銀銅 鑛業人 枋木縣鹽谷郡藤原村

本鑛山ハ明治四十五年七月ノ設定ニシテ大正元年十月事業ヲ開始シ專ラ探鑛中ナリ

五十里鑛山 金銀銅 鑛業人 枋木縣鹽谷村三依村

本鑛山ハ大正元年八月ノ設定ニシテ試掘時代ニ於テ探鑛ニ着手シ同郡内ニアル自己所有ニ屬ス

ル大曾根鑛山(試登第三八〇號)蜂ヶ澤鑛山(探登第七七號)ノ事業開始ヲ豫想シ及附近他鑛山ヨリ買

鑛スルノ目的ヲ以テ選鑛場及製鍊場ノ開設ヲ企劃シ製鍊場ハ本年末ニ竣工シ選鑛場ハ尙工事中

ニアリ

製鍊場ノ設備ハ水胴式徑三尺三寸熔鑛爐一座、徑四尺眞吹爐四座及「ルーツ」式四番形鼓風機一臺ニシテ之カ原動力ハ選鑛場ト兼用ノ六十馬力「ペルトン」水車一臺ナリ稼行ノ目的トセル鑛床ハ小瀧澤鑛ト稱シ黃銅鑛、黃鐵鑛ヲ包含セル石英質塊狀鑛床ニシテ探鑛日淺ク其性狀不明ナリ

千手入鑛山 金銀銅 鑛業人 置 栃木縣上都賀郡日光村 亞鉛 鑛業人 菅 又 藤 一

本鑛山ハ本年六月十九日探鑛ヲ開始セリ

落合鑛山 金銀銅 鑛業人 置 栃木縣上都賀郡落合村 熊倉 春 三郎

本鑛山ハ本年二月二十五日ヨリ探鑛ニ着手セリ

第三七六號 試掘權登錄 金銀重石 鑛業人 置 栃木縣上都賀郡栗野町 安賀母尼 大牧 谷次郎

本山ノ鑛床ハ古生紀粘板岩中ニ胚胎シ其走向三百五十五度傾斜東ニ八十度ヲ示シ其幅二尺乃至四尺ニシテ白色硅石ヨリナル其品位十萬分ノ一乃至二銀十萬分ノ二乃至三ナリ而シテ本年二月五日ヨリ探鑛ニ着手セリ

第三九六號 試掘權登錄 金銀銅鉛 鑛業人 置 栃木縣上都賀郡今市町外一郡一村 長 塚 定 助

本鑛山ハ本年五月一日ヨリ探鑛ヲ開始セリ

引田鑛山 銅 鑛業人 置 栃木縣上都賀郡東大蘆村 長 塚 定 助

從來休業中ノ處大正元年八月事業ニ着手セリ鑛床ハ粘板岩中ニ存スル一條ノ含銅硫化鐵鑛脈ニシテ其厚サ平均一尺ナリ現時鑛夫二十二名ヲ使役シ探掘ニ従事ス

石見鑛山 銅 鑛業人 置 栃木縣河内郡豐岡村外一郡一村 田中 經 一 郎

本鑛山ハ數年來休業中ナリシカ本年中其本支山ノ關係アル木戸ヶ澤鑛山ニ於テ製鍊業ヲ開始スルニ當リ調合材トシテ鹽基性鑛物ヲ得ルノ必要アリ然ルニ本山ノ鑛石ハ含銅硫化鐵鑛ニシテ其用途ニ向テ最モ適當ナリシカ故ニ茲ニ其探掘ヲ企劃シ本年一月ヨリ舊坑内取明ニ着手シ五月ヨリ探鑛ヲ開始セリ

大篠鑛山 金銀銅 鑛業人 置 栃木縣河内郡篠井村 齋藤富吉

本鑛山ハ古キ歴史ヲ有シ嘗テ篠井鑛山トシテ三井ノ經營シタリシ鑛區ノ一部分ニ屬ス本年三月現鑛業人探掘權ヲ設定シ十月一日其操業ヲ開始セリ鑛區内ニ數多ノ鑛床ヲ存在セルモ其主要ナルモノ四條アリ石英斑岩及石英粗面岩中ニ胚胎セラレ脈幅何レモ三寸乃至一尺五寸内一條ハ金鑛脈ニシテ他ハ皆銅鑛脈ナリ

試掘權登錄 鐵滿俺 鑛業人 置 愛知縣北設樂郡田口町 藤武平

本鑛山ハ本年十月ノ設定ニ係リ十一月四日ヨリ操業ニ着手シ目下探鑛中ナリ

笹山鑛山 金 鑛業人 置 靜岡縣安倍郡井川村 新納龜吉

四十三年一月以來休業中ナリシカ本年十一月再ヒ探鑛ニ着手セリ

試掘權登錄 金銀 鑛業人 置 靜岡縣賀茂郡下河津村 近藤政廣

鑛床ハ輝石安山岩中ニ胚胎セル合金銀石英脈ニシテ小字砥川山地内ニ一條ヲ露出ス幅一尺五寸アリ露頭下約五十尺ノ地點ニ鑛入坑道ヲ掘鑿シ延長十間ニシテ鑛脈ニ會シ現在左右ニ鑛追探鑛

中ナリ

試掘權登錄 第二五五號 金銀 鑛業人 靜岡縣賀茂郡稻生澤村白濱村 辻田國太郎

本鑛山ハ大正元年九月事業ニ着手セリ鑛床ハ第三紀凝灰岩及輝石安山岩中ニ胚胎セル含金石英鑛脈ニシテ幅十尺乃至二十尺アリ走向三百五度傾斜東北ニ七十五度ヲ爲ス目下專ラ探鑛中ニシテ鑛押ニ百尺掘進セリ坑夫二人及手子二名ヲ使用ス

試掘權登錄 第二七二號 金銀銅 鑛業人 靜岡縣賀茂郡稻梓村 齋藤松司

大正元年十月初メテ事業ニ着手ス鑛床ハ凝灰岩中ニアル含銅硫化鐵ノ鑛脈ニシテ目下探鑛中ナリ

常葉鑛山 金銀銅 鑛業人 山梨縣西八代郡富里村 横山久太郎

本年一月ヨリ事業ニ着手セリ鑛床ハ第三紀凝灰岩中ニ於ケル塊狀含銅鑛床ニシテ方解石ヲ伴隨ス現在鑛夫七十九名ヲ使役シ專ラ探鑛ニ勉メ本年度中銅鑛九萬四千三百貫餘平均品位百分中三八ヲ產出セリ

乙女坂鑛山 重石 鑛業人 山梨縣東山梨郡西保村外一郡一村 大石重石鑛業社

本鑛山ハ本年十月操業ヲ開始シ專ラ探鑛ニ努メ本年度中重石精鑛二噸ヲ產出セリ

西ノ宮金山 金 鑛業人 山梨縣南巨摩郡川村 中野欽九郎

本山ハ明治四十四年四月以來試掘ニ着手シ大正元年十一月探掘ニ移レルモノトス鑛床ハ含金銀石英脈ニシテ二條ノ併走鑛脈アリ其厚二、三寸乃至五、六尺ニ亘リ通常七、八寸ノ處含金豐富ナリ鑛石ノ品位ハ金十萬分ノ一乃至萬分ノ二平均十萬分ノ二三ニシテ少量ノ硫化鐵及砒硫鐵ヲ伴隨ス

現在其一鑛脈ニ對シ上下ニ六坑道ヲ他ノ一鑛脈ニ對シ一坑道ヲ開鑿シ鑛夫百三十六名ヲ使役シ
專ラ探鑛ニ力ヲ致シ他方ニ於テハ左記ノ製鍊場及其附屬裝置ノ設置計畫中ニ在リテ本年度中其
基礎工事ヲ完成セリ將來金山トシテ多少ノ發展ヲ期待シ得ヘシ

格子篩

「ブレーキ」式嚙鑛器

「ジャレンジ」式給鑛器

八百五十封度「カリフォルニヤ」式搗鑛機五挺杵組

「ウイルフレ」式淘汰盤

混汞鍋

攪拌器

集砂槽

滲出槽

貯液槽

金液槽

液溜

硫酸槽

沈定槽

一 一 二 二 二 四 三 一 一 二 二 二 一 一

亞鉛函

液揚用離心電氣唧筒

沈澱金熔解爐

橫軸形「タービン」水車ニ聯結セル百二十馬力三相交流

發電機一臺ヲ有スル原動所

自働玉村複線式索道貯鑛場製鍊場間 三千六百七十尺

探掘第一二號 黑鉛位置 岐阜縣吉城郡河合村

本鑛區ハ明治四十五年一月ノ設定ニシテ七月小規模ノ操業ヲ開始シ鱗狀黑鉛一萬千三百斤ノ產出ヲ見タリ

長島鑛山 銀銅位置 岐阜縣惠那郡長島町

口碑ノ傳フル所ニ據レハ本鑛山ハ約百五十年前時ノ領主岩村藩侯金山トシテ之ヲ稼行シタルコトアリト云フ爾來久シク廢山ニ歸シタリシカ明治以後二三ノ手ニ依リ銅鑛ノ探掘ヲ爲シタリシモ何レモ成效セスシテ止ミ本年二月現鑛業人ニ於テ鑛業權ヲ得五月ヨリ舊坑ノ取明及鑿坑ノ開鑿ニ着手シタリ

鑛床ハ石英斑岩中ニ併走セル鑛脈數條ヨリ成リ其幅約三尺内外アルモ脈中鑛物ノ配布頗ル不規則ナリ鑛物ハ黃銅鑛ヲ主トシ砒硫鐵鑛及黃鐵鑛ヲ夾雜ス

蛭川鑛山 金銀銅 位置 岐阜縣惠那郡蛭川村

本年七月八日事業ニ着手ス鑛床ハ含重石、石英脈ニシテ既知ノ鑛脈大小露頭ヲ合セテ十四條アリ其厚三、四寸乃至一、二尺ニシテ走向何レモ東西、傾斜略ホ直立ナリトス以來本坑、一番坑、二番坑、三番坑、四番坑等ノ五坑ヲ開鑿シ探鑛ニ努力シ側ラ本坑ニ於テ探鑛ヲ開始セリ本年度掘採セル重石精鑛高ハ一噸半ニシテ現在鑛夫三十九名ヲ使役ス

試掘權登錄 滿俺 鑛業人 佐長野縣上伊那郡川島村
第二二七號 倉佐茂二郎

本鑛山ハ本年三月操業ニ着手シ目下探鑛中ナリ

高甫鑛山 銅 鑛業人 長野縣上高井郡高甫村
位置 大野甚助

本鑛山ハ本年十一月二十四日ヨリ鑛夫合計十三名ヲ使役シテ一番坑ノ取明ケ及二番坑並ニ堅坑ノ開掘ニ着手シ目下一番坑八十九尺、二番坑五十六尺、堅坑二十七尺ヲ進行セリ

鉢伏鑛山 金銀 鑛業人 長野縣諏訪郡平野村
位置 河村小次郎

鑛區内ニ併走セル三條ノ含石英脈アリ主脈、前鑛及小屋前鑛ト稱シ何レモ其幅廣大ニシテ主脈ハ十二尺乃至十五尺、前鑛ハ十六尺、小屋前鑛ハ十五尺ノ幅ヲ有シ露頭ノ延長千尺餘ニ亘レリ本山ハ此等鑛脈ヲ探鑛スル爲メ本年七月ヨリ操業ヲ開始セリ

金谷鑛山 銅亞鉛 鑛業人 京都府天田郡下夜久野村外一村
位置 武智正次郎

本年七月ヨリ兵庫縣飾磨町ニ附屬製鍊所ノ設置ニ着手シ既ニ八分通りノ竣成ヲ見ルニ至レリ而シテ製鍊法ハ乾式還元方法ニシテ設備トシテハ燒鑛用反射爐長四十八尺、幅七尺一基及七貫匁入「レトリ」九十六本ヲ備フル蒸餾爐二基トス本工事完成ノ曉ハ一箇月亞鉛十八噸餘、亞鉛華二百十

貫ノ製出ヲ見ル豫定ナリ

狸岩鑛山 滿俺 位置 京都府南桑田郡宮前村
鑛業人 小寺幸次郎村

本年八月ヨリ事業ニ着手セリ

大内鑛山 滿俺 位置 京都府船井郡東本梅村
鑛業人 糟谷鹿次郎村

本年一月ヨリ事業ニ着手セリ

水飲鑛山 滿俺 位置 京都府綴喜郡多賀村
鑛業人 末政三太郎村

本年一月ヨリ事業ニ着手セリ

二又分鑛山 滿俺 位置 京都府船井郡古富村
鑛業人 秋田權一

本年三月ヨリ事業ニ着手セリ

奥山鑛山 滿俺 位置 京都府船井郡世木村
鑛業人 秋田權一

本年八月ヨリ事業ニ着手セリ

生畑鑛山 滿俺 位置 同府同郡同村
鑛業人 秋田權一

本年八月ヨリ事業ニ着手セリ

大和谷鑛山 銀銅 位置 京都府船井郡川邊次村
鑛業人 鈴木精

本年十二月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登録 銀銅 位置 京都府加佐郡東大浦村
第二三五號 鑛業人 山本房吉村

本年四月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登錄 第二五六號 滿俺 鑛業人 置 京都府船井郡常太木郎村

本年九月ヨリ事業ニ着手セリ

明月鑛山 銀銅 鑛業人 置 大阪府豐能郡田尻村 代表者 大鹽龜三郎

本年六月ヨリ事業ニ着手シ大切坑開鑿延長九十尺ニシテ鑛床ニ着鉑セリ爾後引續キ探鑛中ナリ

桃谷鑛山 銀銅 鑛業人 置 大阪府豐能郡東能勢村 齋藤虎太郎

本年十月ヨリ事業ニ着手シ豎坑掘鑿中ナリ

生野鑛山(支山多々良木坑) 銀銅鉛 鑛業人 置 兵庫縣朝來郡中川村 三菱合資會

本年三月ヨリ舊坑ヲ取明ケ探鑛中ナリ鑛脈ハ千枚岩中ニ成生シタル硅質ニシテ走向北零度乃至

三十度西傾斜南西五十度位ナリ

鹽山鑛山 銀銅鉛 鑛業人 置 兵庫縣栗郡土萬村 代表者 岡本正夫

本年六月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ閃綠岩中ニ介在シ塊狀ヲ爲ス

最上鑛山 銀銅鉛 鑛業人 置 兵庫縣佐用郡西庄村 眞村一

本年六月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ石英粗面岩ト粘板岩トノ接觸部ニ生シ走向南

北傾斜八十度東鍾幅一尺ニシテ鑛物ハ黃鐵鑛及黃銅鑛ヨリ組成セラル

竹野鑛山 金銀 鑛業人 置 兵庫縣城崎郡中竹野村 山說太郎

本年一月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ石英粗面岩中ノ金鑛脈ニシテ走向南北傾斜西

八十度トス

千本野鑛山 金銀銅 鉛亞鉛 鑛業人置 兵庫縣川邊郡西谷一村

本年六月ヨリ事業ニ着手セリ鑛床ハ石英斑岩中ニ成生シタル石英質鑛脈ニシテ脈幅一尺トス主要鑛物ハ方鉛鑛ナリ

第三試掘權登號 銀銅 鑛業人置 兵庫縣栗郡三河村

本年四月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ閃綠岩中ノ鑛脈ニシテ走向北西ヨリ南東傾斜南西六十度トス

第三試掘權登號 銀銅鉛 鑛業人置 兵庫縣栗郡土萬村

本年七月事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ閃綠岩中ノ正規鑛脈ニシテ走向北二十度東傾斜北西四十度トス

第三試掘權登號 銅 鑛業人置 兵庫縣佐用郡石井村

本年六月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ

第三試掘權登號 金銀銅鉛 鑛業人置 兵庫縣養父郡建屋村

本年十一月ヨリ事業ニ着手シ目下鑛押ニ探鑛中ナリ既ニ開坑セルモノハ一號坑二號坑ニシテ何レモ硅石質鑛脈トス主要鑛物ハ方鉛鑛閃亞鉛鑛等ニシテ多少ノ含銀アリ

第三試掘權登號 錫重石 鑛業人置 兵庫縣養父郡南谷村

本年九月ヨリ事業ニ着手シ目下鑛押ニ探鑛中ナリ鑛床ハ硅質鑛脈ニシテ鑛幅二尺乃至三尺トス

本年三月ヨリ事業ニ着手セリ

第三掘權登録 金銀 鑛業人置 兵庫縣城崎郡中竹野村
木瀬六郎太野夫村

本年四月ヨリ事業ニ着手セリ

第三掘權登録 金銀 鑛業人置 兵庫縣城崎郡奥竹野村
代表者 藤井順治

本年六月ヨリ事業ニ着手セリ

第四掘權登録 銀銅亞鉛 鑛業人置 兵庫縣赤穂郡相生村
代表者 藤井光次郎

本年九月ヨリ事業ニ着手セリ

第四掘權登録 金銀銅 鑛業人置 兵庫縣水上郡葛野村外一村
代表者 萩野萬太郎

本年十一月ヨリ事業ニ着手セリ

第四掘權登録 銅 鑛業人置 兵庫縣赤穂郡矢野村
代表者 山本喜三郎

本年十一月ヨリ事業ニ着手セリ

笠松鑛山 銅 鑛業人置 奈良縣吉野郡下市町
代表者 東實藏

本年六月ヨリ事業ニ着手シ舊坑下部ニ向ヒ疏水坑ヲ開鑿中ナリ鑛床ハ粘板岩中ノ含銅硫化鐵鑛

ニシテ鍾幅二尺トス

第一掘權登録 金銀銅 鑛業人置 奈良縣山邊郡丹波市町外一村
代表者 松本勇藏

本年三月ヨリ事業ニ着手シタルモノニシテ鑛床ハ花崗岩中ノ裂罅ニ填充セル合金銀銅鑛脈ナル

モ未タ着鑛スルニ至ラス

試掘九四號 銅 位置 奈良縣吉野郡南芳野村
後藤輝德

本年四月ヨリ專ラ探鑛中ニシテ鑛床ハ千枚岩ノ層間ニ介在セル銅鑛脈ナリ走向北六十度東傾斜
西北二十度トス

試掘一九七號 銅 位置 奈良縣吉野郡賀名生村
代表者 田中銀之助

本年六月ヨリ專ラ探鑛中ニシテ鑛床ハ輝綠凝灰岩中ニ胚胎セラレタル含銅黃鐵鑛ナリ走向東西
傾斜北二十度鍾幅四尺ナルモ未タ着鑛スルニ至ラス

試掘二〇〇號 銅 位置 奈良縣吉野郡下市町外一村
西本重太郎

本年六月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ粘板岩中ノ銅鑛脈ニシテ走向北四十度西傾斜
北東二十度鍾幅二尺内外トス

大燈鑛山 銅 位置 三重縣南牟婁郡入鹿村
鑛業人 松江武次郎

本年三月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ砂岩中ニ成生セル鑛脈ニシテ鍾幅一尺内外ト
ス鑛物ハ主トシテ黃鐵鑛ニシテ上磐又ハ下磐ニ沿ヒ時々銅鑛ヲ産ス

楊枝川鑛山 銀銅 位置 三重縣南牟婁郡上川村
鑛業人 木村久太郎

本年二月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中鑛床ハ第三紀砂岩中ノ銅鑛脈ニシテ鍾幅二尺内外トス

立神鑛山 銅滿俺 位置 三重縣志摩郡立神村
鑛業人 森陸三郎

本年七月ヨリ事業ニ着手セリ鑛床ハ中生紀ニ屬スル砂岩頁岩ノ累層中ニ胚胎セル褐鐵鑛床ニシ
テ層厚約二十尺鑛石ハ滿俺ヲ含有スルコト多ク品位ハ鐵分百分ノ三〇、滿俺百分ノ八、燐百分ノ〇、

二内外ナリ而シテ鑛區ハ海ニ面シ舟運ノ便自在ナリ

試掘權登録 銀銅硫 鑛業人 三重縣北牟婁郡尾鷲村
第一二三號 化鐵 鑛業人 中捨

本年二月ヨリ事業ニ着手セリ

石部鑛山 銀銅 鑛業人 滋賀縣甲賀那石部村
本年十一月ヨリ事業ニ着手セリ

本年十一月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登録 銀 鑛業人 滋賀縣犬上郡大瀧村
第九二號 中勝藏

本年十二月ヨリ事業ニ着手セリ

細野口鑛山 銀銅鉛 鑛業人 福井縣大野郡荒土村外一
本年三月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ石灰岩中ニ胚胎セル銅鑛脈ニシテ走向南北傾

斜西方ニ七十度内外ナリ鑛幅二尺ニシテ微量ノ合金アリ

子馬巢谷鑛山 銀銅 鑛業人 福井縣大野郡上穴馬村
本年九月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ石灰岩中ニ存在スル銅鑛脈ニシテ走向北四十

度東傾斜南東四十度トス

光ノ本鑛山 金銀銅 鑛業人 福井縣大野郡上庄村
本年三月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ石英粗面岩中ニ存在スル合金銀石英脈ニシテ

走向北五十度西傾斜南西七十度鑛幅三尺トス鑛石品位ハ合金十萬分ノ一内外ナリ

赤壁鑛山 金銀銅 鑛業人 福井縣大野郡平泉寺村
本年三月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ石英粗面岩中ニ存在スル合金銀石英脈ニシテ

走向北五十度西傾斜南西七十度鑛幅三尺トス鑛石品位ハ合金十萬分ノ一内外ナリ

赤壁鑛山 金銀銅 鑛業人 福井縣大野郡平泉寺村
本年三月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ石英粗面岩中ニ存在スル合金銀石英脈ニシテ

走向北五十度西傾斜南西七十度鑛幅三尺トス鑛石品位ハ合金十萬分ノ一内外ナリ

本年七月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ

試掘權登録 第一四一號 金 鑛業人 福井縣丹生郡西安居村外一郡一村 木山與一

本年七月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ凝灰岩中ノ金鑛脈ニシテ走向南北傾斜西四十

度鑛幅約三尺ニシテ含金十萬分ノ一乃至二ナリ

試掘權登録 第一四八號 銀銅 鑛業人 福井縣遠敷郡宮川造村 代表者 兒島豐

本年十一月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ

須曾鑛山 滿俺 鑛業人 石川縣鹿島郡西島村外一村 代表者 山本七朗

一時休業中ノ處本年四月ヨリ事業ニ着手セリ鑛床ハ安山岩ヲ被覆スル赤色粘土層内ニ成生セル

滿俺鑛ニシテ良好ナル部分ハ往時既ニ探掘シタルヲ以テ目下舊坑内ニ向ヒ疏水坑ヲ掘進シ排水

ノ上殘鑛ヲ採取スル計畫ナリ

倉谷鑛山 金銀銅鉛 鑛業人 石川縣石川郡犀川村 橫島直彌

一時休業中ノ處本年二月以降事業ニ着手セリ

重見谷鑛山 金銅鉛 鑛業人 石川縣能美郡西尾村 亞鉛 富澤喜兵衛

一時休業中ノ處本年四月ヨリ事業ニ着手セリ

金野鑛山 金銅 鑛業人 石川縣能美郡金野村 松田清三

本年八月ヨリ事業ニ着手セリ

探掘權登録 第七〇號 滿俺 鑛業人 石川縣羽咋郡東土田村 坂本喜八

本年五月ヨリ舊坑取明ケニ着手セリ

試掘權登録 金銀銅 鑛業人 石川縣石川郡犀川一村
第二六三號

本年五月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登録 金銀銅鉛亞 鑛業人 富山縣上新川郡大山村
第八六號 鉛硫化鐵

本年六月ヨリ龜谷鑛山(探登八號)ト事業ヲ合併シ八月以降勘助平東方ノ露頭ヨリ鑢押ニ掘進シ目

下探鑛中ナリ

試掘權登録 金銀銅 鑛業人 富山縣下新川郡境村
第九二號

本年七月ヨリ事業ニ着手シ「トチ」谷露頭ニ向ヒ掘進約二十間ニシテ着鉛シ鑛況佳良ナリ而シテ本

鑛山ハ龜谷鑛山(探登二號)ト近接セルカ故ニ事業ヲ合併セリ

試掘權登録 滿俺 鑛業人 山鳥取縣八頭郡三郎村
第七二號

本年四月ヨリ事業ニ着手セリ

日原鑛山 銀銅 鑛業人 島根縣鹿足郡日原村
代表者 林元三郎

本年十月ヨリ事業ニ着手セリ

足谷鑛山 銅 鑛業人 岡山縣吉備郡福谷村外一
尾吉太郎

久シク休業中ノ處本年三月ヨリ事業ニ着手シ舊改榮坑ノ對岸ニ新坑ヲ開鑿シ露頭下部ニ向ヒ掘

進中ナリ

一宮鑛山 銀銅 鑛業人 岡山縣吉田郡一ノ宮村
橋本與平

本年一月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ閃綠岩中ノ銅鑛脈ニシテ走向北五十度東傾斜
西北五十度鑛幅四五尺ニ達スルコトアルモ未タ富鑛部分ニ逢着セス

平福鑛山 銀銅 鑛業人 岡山縣英田郡檜原村外一村
吉茂

本年三月ヨリ事業ニ着手セリ鑛床ハ粘板岩中ノ銅鑛脈ニシテ走向北六十度西傾斜東北七十度鑛
幅一尺内外トス鑛石品位ハ含銅百分ノ一〇ニ達ス而シテ目下探鑛セルモノハ大切坑内二百尺ノ
奥部引立ニシテ鑛床ノ下底ニ向テ掘進シ上部坑道ニ貫通スルノ目的ナリ

大原鑛山 銅 鑛業人 岡山縣英田郡豐田村
代表者 北村文治

本年一月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ石英斑岩中ノ銅鑛脈ナリ走向東西傾斜南七十
度鑛幅五寸乃至一尺ニシテ鉛及亞鉛鑛ヲ夾雜シ含銅品位百分ノ八ナリ

橡木鑛山 銅 鑛業人 岡山縣英田郡江見村
澤愛

本年二月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ粘板岩中ノ銅鑛脈ニシテ走向北六十度西傾斜
南西六十度鑛幅一尺内外トス品位含銅百分ノ五ナリ

金堀鑛山 銅 鑛業人 岡山縣英田郡同村
橋本與平

本年一月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ粘板岩中ノ銅鑛脈ニシテ走向ハ北四十度西傾
斜南西六十度鑛幅一尺乃至三尺ニシテ鉛亞鉛鑛ヲ伴隨シ品位銅百分ノ六ナリ

小金鑛山 銀銅鉛 鑛業人 岡山縣英田郡栗江見村
惣平

本年五月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ粘板岩ト石英斑岩トノ接觸部ニ胚胎シタル銅

鑛脈ニシテ方鉛鑛ヲ伴隨シ鑛幅一尺内外銅品位百分ノ八ナリ

明治鑛山 銅硫化鐵 鑛業人置 岡山縣後月郡明治七村

本年一月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ粘板岩中ノ銅鑛脈ニシテ鑛幅一尺内外トス鑛

石品位ハ含銅百分ノ四ナリ

岩谷鑛山 銀 鑛業人置 岡山縣久米郡大井西村

本年一月ヨリ事業ニ着手セリ

福滿鑛山 銅 鑛業人置 岡山縣英田郡檜原平村

本年一月ヨリ事業ニ着手セリ

大谷鑛山 銀銅 鑛業人置 岡山縣上房郡有漢藏村

本年三月ヨリ事業ニ着手セリ

伊勢和鑛山 銀銅 鑛業人置 岡山縣和氣郡神根郎村

本年六月ヨリ事業ニ着手セリ

地辰鑛山 銅 鑛業人置 岡山縣赤磐郡山萬通村

本年五月ヨリ事業ニ着手セリ

牛ノ子鑛山 銅 鑛業人置 岡山縣英田郡江見郎村

本年七月ヨリ事業ニ着手セリ

吹出鑛山 銅 鑛業人置 岡山縣和氣郡神根卓村

本年八月ヨリ事業ニ着手セリ

明神鑛山 銅 鑛業人置 岡山縣和氣郡日笠村
代表者 國延壽吉

本年九月ヨリ事業ニ着手セリ

探掘權登録 銀銅亞鉛 鑛業人置 岡山縣御津郡江與味村
第一七四號 贊田由三郎

本年七月ヨリ事業ニ着手セリ

田地子鑛山 銅 鑛業人置 岡山縣御津郡上建部衛村
鑛業人 山口文

本年九月ヨリ事業ニ着手セリ

岩屋鑛山 銀銅鉛 鑛業人置 岡山縣吉備郡阿曾村
代表者 林閑一

本年九月ヨリ事業ニ着手セリ

榎鑛山 銅 鑛業人置 岡山縣久米郡大倭村
代表者 鈴木右吉

本年九月ヨリ事業ニ着手セリ

探掘權登録 銅 鑛業人置 岡山縣川上郡吹屋町外一郡一市村
第一八二號 荻野儀

本年九月ヨリ事業ニ着手セリ

國富鑛山 銀銅鉛 鑛業人置 岡山縣小田郡美川次村
代表者 定井覺

本年十一月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登録 銅 鑛業人置 岡山縣真庭郡美和村
第四八四號 代表者 弓削田千吉

本年二月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登錄 銅 鑛業人 岡山縣川上郡高山村
第四九七號

本年三月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登錄 金銀銅 鑛業人 岡山縣吉備郡次田郡
第五〇二號

本年六月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登錄 銀銅鉛 鑛業人 岡山縣英田郡栗井村
第五四〇號

本年八月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登錄 金銀銅鉛亞鉛鐵重石 鑛業人 岡山縣川上郡手莊村
第五四四號

本年九月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登錄 鉛金銀銅 鑛業人 岡山縣後月郡高屋村
第五五六號

本年十月ヨリ事業ニ着手セリ

大盛鑛山 銅 鑛業人 廣島縣蘆品郡常金丸村 外一衛村
本年八月ヨリ事業ニ着手セリ

坂田鑛山 銅 鑛業人 廣島縣神石郡來見村
本年八月ヨリ事業ニ着手セリ

大屋鑛山 銅 鑛業人 廣島縣比婆郡美古登村
本年八月ヨリ事業ニ着手セリ

油木鑛山 銀銅亞鉛 鑛業人 廣島縣神石郡油木助村
本年十一月ヨリ事業ニ着手セリ

本年十一月ヨリ事業ニ着手セリ

宮林鑛山 銀銅 鑛業人置 廣島縣安佐郡日浦村

本年八月ヨリ事業ニ着手セリ

平野鑛山 銅 鑛業人置 和歌山縣東牟婁郡色川村

本年十二月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ頁岩中ニ生成セル銅鑛脈ニシテ走向南北傾

斜西五十度鑛幅一尺内外ナリ

第一掘權登錄 銅 鑛業人置 和歌山縣伊都郡高野村

本年四月ヨリ事業ニ着手セリ

第一掘權登錄 銅 鑛業人置 和歌山縣伊都郡高野村

本年九月ヨリ事業ニ着手セリ

釜脇鑛山 銅 鑛業人置 德島縣美馬郡端山村

本年四月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ

中西鑛山 銅硫化鐵 鑛業人置 德島縣三好郡三繩村

本年六月ヨリ事業ニ着手セリ

拜村鑛山 銅硫化鐵 鑛業人置 德島縣美馬郡穴吹村

本年七月ヨリ事業ニ着手セリ

第一掘權登錄 銅 鑛業人置 德島縣海部郡奥木頭村

本年五月ヨリ事業ニ着手セリ

宮崎鑛山 銅 位置 愛媛縣越智郡波方村
鑛業人 俊成比古次郎

本年一月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ花崗岩中ノ銅鑛脈ニシテ二條アリ東部ニアルモノハ走向東西傾斜七十度北西部ニアルモノハ走向北西ヨリ南東ニシテ北東ニ二十度内外ノ傾斜ヲ爲ス鑛幅一尺含銅品位ハ百分ノ三乃至五ナリ

大成鑛山 銅 位置 愛媛縣周桑郡千足山村
鑛業人 代表者 川村益太郎

本年一月ヨリ事業ニ着手セリ鑛床ハ綠泥片岩中ノ含銅黃鐵鑛床ニシテ三條アリ走向ハ何レモ北西ヨリ南東ニシテ傾斜西南五十度上層ハ探鑛充分ナラサルヲ以テ不明ナルモ中層下層ハ厚サ平均三尺鑛石品位ハ含銅平均百分ノ四ニシテ製鍊場ヲ新築シ熔鑛爐一基眞吹床三座ヲ設置セリ

三ッ足鑛山 銅硫化鐵 位置 愛媛縣宇摩郡新立村外一村
鑛業人 大塚惣松

本年二月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ綠泥片岩中ノ含銅黃鐵鑛床ニシテ附近ノ高峯三ッ足山頂附近ニ露出シ走向北六十五度西傾斜南西三十度中磐約三尺ヲ挾ミ上磐ニ硫化鐵鑛約二尺下磐ニ含銅黃鐵鑛約一尺アリ含銅品位ハ百分ノ五内外ナリ

野坂鑛山 銅硫化鐵 位置 愛媛縣西宇和郡三崎村
鑛業人 矢野莊三郎

本年一月ヨリ事業ニ着手セリ

廣田鑛山 銅 位置 愛媛縣伊豫郡廣田村
鑛業人 清家衆一郎

本年六月ヨリ事業ニ着手セリ

大野原鑛山 銅 位置 愛媛縣新居郡大生院村 代表者 野澤榮次郎

本年十一月ヨリ事業ニ着手セリ

平山鑛山 銅 位置 愛媛縣伊豫郡下灘村 代表者 宮内松太郎

本年四月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ綠泥片岩中ノ含銅黃鐵鑛床ニシテ鑛幅二三尺ナリ

長澤鑛山 銅 位置 愛媛縣伊豫郡中山村 代表者 野管治郎

本年一月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ綠泥片岩中ノ含銅黃鐵鑛床ニシテ走向北六十度東傾斜北西七十度鑛幅三尺内外鉋幅七八寸含銅品位ハ百分ノ四内外ナリ

田ノ鶴鑛山 銅 位置 愛媛縣西宇和郡日土村 代表者 明治製鍊株式會社

本年七月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛ニ從事シハアリ鑛床ハ綠泥片岩中ノ含銅硫化鐵鑛ニシテ走向南北傾斜西二十五度内外トス鑛幅ハ二尺内外含銅品位百分中平均二五ナリ

九尾鑛山 銅 位置 愛媛縣西宇和郡日土村 代表者 宇都宮鑛業本部

本年五月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛セル箇所ハ新九尾坑ニシテ鑛體ノ南部トス鑛床ハ綠泥片岩中ノ含銅硫化鐵鑛脈ニシテ走向ハ北十度西ニシテ南西ニ傾斜スルコト十五度内外鑛幅ハ四尺ナリ

大木鑛山 銅硫化鐵 位置 愛媛縣西宇和郡川ノ石村 代表者 吉岡又市

本年七月ヨリ事業ニ着手シ探鑛中ナリ鑛床ハ綠泥片岩中ニ在ル含銅硫化鐵鑛床ニシテ走向東西

傾斜南ニ二十度内外トス未タ探鑛充分ナラサルヲ以テ鑛幅不明ナリ

明間鑛山 滿俺 鑛業人 愛媛縣東字和郡下字和平村

本年十一月ヨリ事業ニ着手セリ

川中鑛山 銅 鑛業人 愛媛縣喜多郡立川藏村

本年五月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ綠泥片岩中ノ含銅黃鐵鑛床ニシテ走向東西傾

斜北十度鑛幅三尺ナリ

第五〇八號 銅硫化鐵 鑛業人 愛媛縣周桑郡櫻樹村

本年二月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ綠泥片岩中ノ含銅黃鐵鑛床ニシテ尙未タ有望

ナル部分ニ逢着セス

第五六三號 銅硫化鐵 鑛業人 愛媛縣西字和郡宮内村外一村

本年一月ヨリ事業ニ着手セリ

第五五八號 銅 鑛業人 愛媛縣周桑郡德田村

本年八月ヨリ事業ニ着手セリ

第六一〇號 銅 鑛業人 伊媛縣新居郡加茂村

本年八月ヨリ事業ニ着手セリ

第六二三號 銅 鑛業人 愛媛縣伊豫郡上灘村

本年十月ヨリ事業ニ着手セリ

第五掘權一號錄 滿俺 鑛業人 愛媛縣東字和郡太倭津郎村

本年九月ヨリ事業ニ着手セリ

第六掘權一號錄 銅 鑛業人 淺愛媛縣周桑郡櫻樹村

本年十二月ヨリ事業ニ着手セリ

第五掘權二號錄 滿俺 鑛業人 愛媛縣東字和郡宇和村外一村

本年九月ヨリ事業ニ着手セリ

富郷鑛山 銅 鑛業人 高知縣土佐郡大川村

本年一月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ

高川鑛山 銅 鑛業人 高知縣土佐郡土佐山村外一村

本年六月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ粘板岩中ノ鑛脈ニシテ走向東西傾斜南六十度

露頭ハ廣大ニシテ厚十數尺ニ達セリ

第一掘權六〇號錄 銅 鑛業人 高知縣吾川郡池川村

本年一月ヨリ事業ニ着手シ目下地表ヨリ「ボーリング」ヲ爲シ探鑛中ナリ

第一掘權七二號錄 銅 鑛業人 高知縣土佐郡地藏寺村

本年四月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ綠泥片岩中ニ層狀ヲ爲セル含銅硫化鐵鑛床ニ

シテ走向東西傾斜北ニ五十度乃至六十度層厚二尺ナリ

第一掘權八五號錄 銅 鑛業人 高知縣吾川郡富岡村

本年六月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ鑛床ハ綠泥片岩中ニ層狀ヲ爲セル含銅黃鐵鑛床ニシテ走向東西傾斜北十度鑛幅二尺乃至三尺ナリ

第試掘權登錄 銀鉛 鑛位置 高知縣 幡多郡 上灘村
第一八七號 鑛業人 代表者 富田 鴻藏村

本年九月ヨリ事業ニ着手セリ

第試掘權登錄 滿俺 鑛位置 山口縣 熊毛郡 室積村
第三六七號 鑛業人 登山 嘉良 吉村

本年三月十日試掘ニ依リ滿俺鑛ノ存在ヲ認メタリ其鑛幅一尺乃至二尺五寸走向四十五度傾斜二十五度ナリトス

第試掘權登錄 銀銅 鑛位置 山口縣 阿武郡 佐々並村
第四二七號 鑛業人 松下 廣三 郎村

本年十月十六日第一號坑第二號坑及第三號坑等ノ掘進ヲ爲セシモ未タ鑛脈ニ達セス然レトモ舊坑ニハ銅鑛存在セルヲ以テ其直下ニ達セハ鑛床ニ逢着スヘキカ如シ

第試掘權登錄 銀銅 鑛位置 山口縣 美禰郡 綾木村
第三八九號 鑛業人 長洲 以正村

本年七月二十九日ヨリ綾木村字大石地内ニテ探鑛ニ着手ス鑛物ハ硅酸銅鑛及硫化鐵鑛ノ二種トス

第試掘權登錄 銅 鑛位置 山口縣 美禰郡 赤郷村
第三六九號 鑛業人 杉山 權藏村

本年九月二十日赤郷村小字大穴窪地内ニテ試掘ニ着手セルモ未タ鑛物存在ノ狀況ヲ詳カニセス
第試掘權登錄 銅 鑛位置 福岡縣 企救郡 企救村
第四四〇號 鑛業人 野口 遵村

本年六月一日企救村字蒲生ニ於テ試掘ニ着手ス

第五掘三二號錄 金銀銅鉛著鉛 鑛業人 福岡縣田川郡採銅所村

本年七月四日ヨリ採銅所村字三ノ岳ニ於テ試掘ニ着手シ垂直ニ四十二尺ヲ掘進シ得タリト雖モ未タ目的トセル鑛物ヲ認メス

第三掘四號錄 滿俺 鑛業人 大分縣北海部郡白杵町

本年八月一日ヨリ白杵町大字深江奥西平字東平及字山ノ上及下浦村大字長目字九尾ニ於テ試掘ニ着手シタルモ本鑛區ハ先年探掘シタル舊坑ニシテ探鑛スヘキ箇所少ナキ爲メ龍頭トシテ殘存セル部分ヲ探鑛セシニ止マレリ

第三掘二八號錄 金銀錫 鑛業人 大分縣北海部郡神崎村

本年十月二十日神崎村大字志生木山字長田ニ於テ舊坑ノ下部ヨリ新坑ノ開鑿ニ着手セリ鑛質ハ坑内地表ニ接近セル部分ハ赤色ニ酸化セルモ間々含銅百分ノ一内外ノ硫化鐵鑛ヲ存在セリ鑛床ノ狀態ハ甚タ不規律ニシテ未タ要領ヲ得サルモ結晶片岩中ニ存在スル含銅硫化鐵鑛ニシテ走向約東西傾斜北十度内外幅一尺乃至二尺ナリ舊廢坑ノ少シク下部ヨリ更ニ新坑開穿ニ着手シ坑口ヨリ十三尺ニシテ鑛床ニ着シ夫レヨリ走向ニ沿ヒ約三十尺ヲ延長セシカ斷層ノ爲メ鑛床ヲ失ヒ爾來該斷層ヲ辿リテ掘下リ中ナルモ未タ其接續ニ會セス

第一掘九號錄 銅 鑛業人 熊本縣球磨郡五木村

本年五月小屋掛及道路ノ開鑿ヲ爲シタル後五木村大字平野字野谷川ニ於テ試掘ニ着手ス第一號坑ハ發見セシ鑛床露頭ノ箇所ニ於テ方位二百四十度ニ向ヒ約七十尺ヲ掘進シ第二號坑ハ方位八

十五度ニ向ヒ約五十尺ヲ掘進シ目下工事ヲ中止セリ第三號坑ハ露頭ノ箇所ヨリ方位百八十度ノ箇所ニ於テ八十五尺下リ約百五十尺ニシテ鑛ニ達スル豫定ニテ百尺ヲ掘進シ第四號坑ハ第一號坑口ヨリ方位百九十度ノ方向ニシテ百九十尺下リタル箇所ニ於テ約四十尺ヲ掘進セリ

以上開坑ニ依リ確認シタル鑛ノ存在ノ狀況ハ第一號露頭鑛ハ幅三十尺、方向ハ方位八十度ナリ、第二號鑛ハ幅七十尺ニシテ方向方位八十度、第三號鑛ハ幅二十尺ニシテ方向方位ハ前二者ニ等シ採鑛高ハ第一號坑ヨリ約七千貫ノ鑛石ヲ採掘セシモ第二、第三、第四號坑ハ未タ鑛ニ會セス

試掘權登録 鐵 鑛業人 熊本縣阿蘇郡尾ヶ石村 田勘 七

本年一月尾ヶ石村小字明神山地内ニ於テ試掘ニ着手ス鑛床ハ八尺乃至十尺内外ノ硫化鐵ニシテ其鐵分ハ百分中四八、五四内外ナリ

試掘權登録 滿俺 鑛業人 宮崎縣西臼杵郡高千穗村 安並 十 太郎

本年三月一日高千穗村大字向山字黑仁田大野平ニ於テ探鑛ニ着手セシモ舊坑ノミニシテ何レモ中止セリ

火打谷鑛山 燐 鑛業人 石川縣羽咋郡東土田村 多木 久 次郎

一時休業中ノ處本年七月ヨリ事業ニ着手セリ鑛床ハ安山岩上ニ堆積セル含燐介殼層ニシテ廣サ東西三十間南北十二間厚約五間ノ塊狀ヲ爲セリ

試掘權登録 燐 鑛業人 石川縣羽咋郡東土田村 北陸人造肥料株式會社

本年六月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ

試掘權登錄 燐 鑛業人置 石川縣羽咋郡西土田村
第二六二號

本年三月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ

大二神威炭鑛 石炭 鑛業人置 石狩國空知郡歌志內村
橫山庄左衛門

本炭鑛ハ元臼威炭鑛ト稱シ明治三十九年頃開坑セシコトアルモ僅カニ一年ニ充タスシテ休業シ
數年間放棄ノ狀態ニ在リシカ同四十五年一月ヨリ再ヒ事業ヲ開始セリ現今鑛夫六十六人ヲ使役
シ三箇所ニ開坑シ一ハ舊坑ノ取明ケヲ爲シ他ハ新ニ開坑掘進中ナリ

阿部炭鑛 石炭 鑛業人置 石狩國空知郡歌志內村
河野鮫雄

大正元年十一月十八日初メテ事業ニ着手シ目下鑛夫十六名ヲ使用シ居レリ

國見鑛山 亞炭 鑛業人置 宮城縣宮城郡大澤村
島郊三郎

八月試掘ノ許可ヲ受ケ翌月ヨリ探鑛ニ着手シ一萬斤ノ賣炭ヲ爲セリ

試掘權登錄 亞炭 鑛業人置 宮城縣栗原郡築館町
第二八八號 佐藤清藏

三月ヨリ開坑シ二萬八千貫ヲ賣炭セリ

試掘權登錄 亞炭 鑛業人置 宮城縣宮城郡大澤村
第二八二號 菅澤與右衛門

二月ヨリ開坑ニ着手セリ

山崎炭鑛 石炭 鑛業人置 福島縣石城郡內郷村外一
山崎藤太郎

本炭鑛ハ元福島縣探掘權登錄第一四四號ノ一部ニシテ十月分割成立シタルモノナルカ三月斜坑
ヲ開鑿シ五月中旬四十五間ニシテ着炭現今本卸延長百餘間ニ達ス坑外設備トシテハ三月徑五呎

十一時二分ノ一長二十九呎二時二分ノ一「ランカシャ」汽罐一臺、五十一馬力單汽笛單鼓胴齒車式蒸
汽捲揚機械一臺及「シンブレックス」唧筒一臺、ウオーシントン唧筒一臺ヲ設置ス

井之上炭礦 石炭 位置 福島縣石城郡山田村 高崎吉久

本炭礦ハ久シク休山セシカ九月下旬斜坑ノ開鑿ニ着手シ二十餘間ニシテ五尺炭ニ着ス坑外設備
トシテハ直立汽罐及捲揚機械ヲ据付ケ又磐城採炭株式會社軌道ト連絡スヘキ百餘間ノ軌道ヲ布
設セリ

櫻無煙炭礦 石炭 位置 福島縣石城郡川部村 櫻無煙炭礦株式會社

本炭礦ハ一時休山セシカ新ニ堅坑ノ開鑿ニ着手シ五月深サ百五十餘尺ニシテ着炭ス爾來舊堅坑
ニ使用セシ汽罐二臺捲揚機械及唧筒ヲ設置シ目下採炭準備トシテ坑道ノ延長ヲ急キツツアリ

高野炭礦 石炭 位置 福島縣東白川郡高野村 四方常次郎

久シク休業中ノ處五月ヨリ採炭ヲ開始ス

瀧ノ澤炭礦 石炭 位置 山形縣北村山郡大音根村 代表者 大場紋三郎

十二月ヨリ開坑ニ着手ス

試掘權登錄 石炭 位置 山形縣西田川郡溫海村 代表者 市川準四郎

五月ヨリ探鑛ニ着手ス

阪見鑛山 亞炭 位置 山形縣北村山郡福原村 代表者 沼澤兵治

十一月ヨリ露頭部横坑ヲ開鑿シ目下坑道延長中ナリ

試掘權登録 石炭 新渴縣中頸城郡豐葦村
第八九號 代表者 東條 忠和

本炭礦ハ本年四月ヨリ其操業ヲ開始セリ

採掘權登録 亞炭 群馬縣群馬郡片岡村
第五四號 代表者 根岸 豐治郎

本鑛區ハ大正元年八月ヨリ事業ニ着手シ鑛夫四名ヲ使役シ其炭層ハ二層アルモ採炭セルハ上層ニシテ厚サ七寸ナリ而シテ一箇月四萬斤内外ヲ採炭ス

高山炭礦 石炭 茨城縣多賀郡華川村
鑛業人 代表者 高 久 馨

本炭礦ハ明治四十五年五月十五日ノ設定ニ係リ間モナク事業ヲ開始シ本年度ニ於テ鑛產物處分ノ認可シタル數量ハ石炭十八萬斤ナリ

採掘權登録 石炭 茨城縣多賀郡關本村
第六二號 鑛業人 牛 圓 競 一

本鑛山ハ明治四十三年八月以來休業シ舊坑全部水沒セシカ本年二月排水ニ着手シ五月末ニ至リ一旦揚水ヲ終リシモ其排水設備ハ不完全ナル人力裝置ナリシ爲メ再ヒ溜水ノ不幸ヲ見ルニ至リ茲ニ機械力ニ依ル設備ヲ企圖シ本年十一月ヲ以テ半多管式汽罐一基徑七吋半「ウオーシントン」唧筒一臺及徑六吋捲揚機一基ヲ新設シ事業ヲ開始スルニ至レリ

試掘權登録 亞炭 愛知縣東春日井郡高藏寺村外一村
第七一號 鑛業人 安 藤 滋 之

本炭礦ハ本年十月ヨリ探鑛ヲ開始セリ

池ノ内炭礦 亞炭 愛知縣東春日井郡篠岡村外一村
鑛業人 山 根 龜 藏

本炭礦ハ本年八月ヨリ探鑛ヲ開始セリ

野口炭礦 亞炭 鑛業人置 愛知縣東春日井郡高藏寺村外一村
鑛業人置 稻垣金治 耶

本炭礦ハ本年五月ヨリ探鑛ヲ開始セリ

野口炭礦 亞炭 鑛業人置 愛知縣東春日井郡篠岡村
鑛業人置 稻垣信三 耶

本炭礦ハ本年五月ヨリ探鑛ヲ開始セリ

常滑炭礦 亞炭 鑛業人置 愛知縣知多郡常滑町
鑛業人置 加藤縣知文 耶

本炭礦ハ本年七月ヨリ探鑛ヲ開始セリ

採掘權登錄 亞炭 鑛業人置 岐阜縣土岐郡駄知村
第四八號 鑛業人置 宮地針 藏村

本炭礦ハ本年三月ヨリ探鑛ヲ開始セリ

稻津炭礦 亞炭 鑛業人置 岐阜縣土岐郡稻津村
鑛業人置 山田縣定治 耶

本炭礦ハ本年四月ヨリ探鑛ニ着手セリ

山口炭礦 亞炭 鑛業人置 岐阜縣土岐郡妻木村
鑛業人置 山口縣遠 耶

本炭礦ハ本年五月ヨリ探鑛ヲ開始セリ

採掘權登錄 亞炭 鑛業人置 岐阜縣土岐郡妻木村
第一三〇號 鑛業人置 水野邦 倍村

本炭礦ハ本年十月下旬ヨリ探鑛ヲ開始セリ

試掘權登錄 亞炭 鑛業人置 岐阜縣可兒郡中村
第三四一號 鑛業人置 代表者 永瀬榮次 耶

本炭礦ハ本年四月ヨリ探鑛ヲ開始セリ

採掘權登錄 石炭 鑛業人置 長野縣東筑摩郡日向村
第一〇號 鑛業人置 久保田三代 吉村

本炭礦ハ久シク休業中ナリシカ本年十一月十五日操業ヲ開始セリ

採掘權一號 石炭 位 置 長野縣東筑摩郡生坂村
代表者 後藤 喜吉

本鑛區ハ久シク休業中ノ處本年三月ヨリ着手シ鑛夫七名ニテ厚サ六寸及四寸ノ二層ヲ採掘シ一箇月約九萬斤餘ヲ採炭ス

採掘權五號 石炭 位 置 長野縣東筑摩郡坂井村外一郡一村
若林 惠一 郎

本鑛區ハ明治四十三年以來休業中ノ處本年五月ヨリ事業ニ着手シ鑛夫四名ヲ使役シ其稼行炭層ハ厚サ六寸ニシテ一箇月約一萬五千斤ヲ採炭ス

試掘權三號 石炭 位 置 長崎縣北松浦郡小佐々村
高橋 勝太 郎

本年十一月十六日試掘ニ着手シ其後直チニ開坑ス坑道ノ延長十六間炭層ハ其數六枚ニシテ合計厚サ六尺六寸ナリ

試掘權七號 石炭 位 置 長崎縣西彼杵郡黒瀬村
古賀 春一

本年五月ヨリ黒瀬村字間瀬ニ於テ「ロープボーリング」ヲ行ヒ深サ約四百尺ニシテ上層炭ナル二尺層ニ到達セリ又十二月ヨリ同村字馬籠新田ニ於テ金剛石試錐ヲ行ヒ既ニ二百尺許リ掘進シ上層二尺炭ニ達セルモ未タ下層ニ達セス尙ホ別ニ二箇所ノ試掘ヲ行フヘキ計畫ナリ

試掘權九號 石炭 位 置 福岡縣早良郡鳥飼村
土田 政次 郎

第一號試錐ハ本年七月三十一日鳥飼村大字鳥飼小字別府原ニ着手ス目下二百八十尺掘進シ地表ヨリ深サ百五尺ノ位置ニ於テ八尺炭層ノ存在ヲ確メ尙ホ其以下ニ於テ五尺炭層及四尺炭層ノ存

在位置ヲ確カムル豫定ナリ

第六號試錐ハ本年十二月十一日鳥飼村大字鳥飼小字別府原ニ着手ス地表ヨリ深サ七十七尺ニシテ八尺炭層ノ存在ヲ確認シテ中止セリ

第四號試錐ハ本年九月六日鳥飼村大字鳥飼小字十畝町ニ着手ス地表ヨリ二十二尺ニシテ五尺炭層ノ存在ヲ確メ深百九十尺マテ掘進セシモ斷層ノ爲メ四尺炭層ニ達セステ中止セリ

以上ノ試錐ニ依リ八尺炭層及五尺炭層ノ存在ヲ確認セシモ四尺炭層ニ對シテハ調査中ニ屬ス

第試
五掘
二權
七登
號錄

石炭
鐵業人置
北岡縣早良郡姪濱
島俊行町

第一號試錐ハ本年七月六日姪濱村字「コウシ」ニ着手シ九月二十四日四尺炭層ニ、同月二十七日六尺炭層ニ、十月十五日三尺炭層ニ、同月二十二日二尺炭層ニ着炭セリ

第二號試錐ハ本年十月九日姪濱町字中尾ニ着手シ十二月二日四尺炭層ニ、同月五日六尺炭層ニ、同月二十二日三尺炭層ニ、同二十八日二尺炭層ニ着炭セリ

第三號試錐ハ本年十二月六日姪濱町字五ツ釜ニ着手シ同月三十日迄ニ深サ百尺ヲ掘進セシモ未
タ着炭スルニ至ラス

以上試錐ニ依リテ確認シタル炭層ハ四尺層、六尺層、三尺層及二尺層等ナリトス

第試
一掘
七權
二登
號錄

石炭
佐賀縣西松浦郡東山代村
位業人置
湊庄五郎

本年七月二十日東山代村大字川内野小字藤川ニ於テ試掘ニ着手シ漸次横坑ヲ穿チテ掘進シタル
モ炭質劣等ニシテ未タ確實ニ操業スヘキ見込立タス

試掘權登錄
第一八一號

石炭

鑛業人 佐賀縣東松浦郡北波多村
三菱合資會社

北波多村大字志氣地内民有地約一反歩ノ地ヲトシ倫敦「シユラムハーカ」會社製最新式金剛石試錐機及水管式汽罐各一臺ヲ据付ケ六月三日徑五吋八分ノ七ノ錐冠ヲ用ヒテ試錐ニ着手シ百四十三吋三吋二分ノ一ヲ進錐セリ此間ニ於ケル地質ハ稍ヤ粗粒ノ砂岩ニシテ地表ヨリ六十呎間ハ岩石分解シ加フルニ垂直ニ近ツキ龜裂續出セシヲ以テ屢々「セメント」充填ヲ行ヒタリ夫レヨリ徑四吋八分ノ七錐冠ニ改メ四百七十五呎七吋ニ達セリ此間ハ大部分砂岩ニシテ之ニ加フルニ安山岩ヲ以テシ龜裂多ク且漏水ノ箇所アリシニ依リ「セメント」充填ヲ施シ更ニ徑四吋八分ノ一ノ錐冠ニ改メ砂岩頁岩及礫岩等ヲ穿進シ年末迄ニ一千〇九十二呎三吋ヲ進錐スルニ至レリ此間ニ於テモ龜裂多ク且漏水セシヲ以テ作業ニ障礙ヲ來セリ一日ノ最大進錐工程ハ十呎四吋ニシテ同最少一呎半吋ナリ掘進日數百八十八日ニ對シ進錐尺數千九十二呎三吋ニシテ一日平均五呎十吋ナルモ未タ主要ノ目的タル炭層ニ到達セス

試掘權登錄
第一五四號

石炭

鑛業人 佐賀縣西松浦郡大坪村
大信

本年三月頃大坪村大字今岳字内笑ニ於テ試掘ニ着手シ約二箇月間ニ露頭ヨリ二十五六間掘進シ一旦事業ヲ中止シタル後同年十二月二十日頃ヨリ再ヒ事業ニ着手セリ而シテ其着炭シタル炭層ハ上層七寸ノ石炭アリ其下ニ七寸ノ岩石アリ其下ニ四寸ノ石炭存在シ其下ニ五寸ノ岩石アリ其下ニ五寸ノ石炭存在セルヲ認メタリ

試掘權登錄
第一七三號

石炭

鑛業人 熊本縣天草郡都呂々村
木村硯九郎

本年六月十日都呂々村字上ワクド石ニ於テ着手ス地質ハ粘土及砂岩ニシテ横坑ヲ開鑿シ四十二尺ニシテ無煙炭(瓦ヶ炭)上層二尺炭ニ着炭セリ

町居鑛山 石油 鑛業人 青森縣南津輕郡尾崎村 外二村
日本石油株式會社

本年七月鑿井ニ着手シ汽力鑿井機一臺ヲ設置シ目下掘進中ニ屬ス

試掘權登錄 石油 鑛業人 秋田縣由利郡道川 平
第六四三號

石油產地トシテハ新規ノ箇所ニシテ七月末米國式鑿井ヲ試ミタルニ四間ニシテ油氣ヲ見六十二間ニシテ瓦斯之ニ伴ヒ七十三間ニ達セシニ瓦斯ノ噴出最モ烈シク九十間ニ及ヒ日產約三石ノ出油層ニ達シタルモ深度百二十間迄鑿井ヲ進メ尙ホ掘進中ニシテ未タ汲油ヲ爲サス

試掘權登錄 石油 鑛業人 秋田縣南秋田郡旭川村 外一村
第七〇〇號

五月ヨリ漸次鑿井ニ着手シ當時上總掘三機械掘二各六十間乃至八十間ノ深度ニ達シ多少ノ出油ヲ見ルモノアリ

試掘權登錄 石油 鑛業人 秋田縣由利郡平澤町外一村
第六七四號

四月ヨリ鑿井ニ着手シ多少ノ出油ヲ見タルヲ以テ更ニ石油發動機ヲ設置シ機械鑿井ヲ開始シタルカ十三間三十六間ニテ出油アリ油質ハ「ボーマー」二十三度前後ニシテ其量甚少シ更ニ掘下ヲ續ケ約三百間ノ深度ニ達セリ

浦山鑛山 石油 鑛業人 秋田縣南秋田郡金足村
土瀝青 鑛業人 日本石油株式會社

九月土瀝青探掘ヲ開始シ十月鎔解窯二十四個ヲ設置シ製鍊ヲ開始シタリ尙ホ石油探掘ノ爲メ鑿

井ノ計畫アリ

荒雄嶽押野硫黃山 硫黃 鑛業人 宮城縣玉造郡鬼首村 荒雄嶽押野硫黃鑛業合資會社

七月以來探鑛ノ結果鑛量非常ニ豐富ナルヲ認メタルヲ以テ去ル十一月製鍊釜二座ヲ築造シテ製鍊ニ着手シ尙來春八座ノ増設ヲ爲サントシ一方製鍊場及鳴子三里ノ間ニ玉村式鐵索架設ノ計畫ヲ以テ目下測量中ニ屬ス

信夫鑛山 硫黃 鑛業人 福島縣信夫郡庭坂村 代表者 齋藤伊三郎

六月試掘權ノ許可ヲ受ケ七月ヨリ開坑ニ着手シタルニ鑛量豐富ナルヲ確メタルモ附近薪材ノ供給ニ不便ナルヲ以テ十月四個連續ノ自熱爐一座ヲ新設シ之カ試驗中ナリシカ十一月ヨリ豫期ノ成績ヲ見ルニ至レリ而シテ同地方ハ十二月ヨリ積雪期ニ入リタルヲ以テ大正二年春期融雪ヲ待チ事業ヲ擴張シ更ニ自熱爐四座増設ノ豫定ナリ

探掘權登錄 第八六號 硫黃 鑛業人 青森縣下北郡田名部町外一村 代表者 岡部長

元試掘權登錄第二一一號及同第二一九號ヲ合併シタルモノナルカ爾來引續キ探鑛ヲ繼續シ多大ナル鑛量ヲ確認シ製鍊釜三座並ニ同附屬工作建設中ニ屬ス

赤川鑛山 硫黃 鑛業人 青森縣下北郡大畑村 高森橋文之助

六月探鑛ニ着手シ同時ニ十二枚ヲ一座トセル燒取式製鍊釜三座ヲ開設シ直ニ製鍊ヲモ開始ス

試掘權登錄 第四〇三號 硫黃 鑛業人 山形縣南置賜郡南原村 金形縣南置賜郡南原村 金澤萬吉郎

七月ヨリ探鑛ニ着手ス

試掘權登録 第四七二號 硫黃 鑛業人 置 山形縣南村山郡堀田八

六月試掘權ヲ繼續シ探鑛中ナリ

試掘權登録 第七一〇號 土瀝青 鑛業人 置 秋田縣由利郡北内越村 則村

九月事業ニ着手シ同十一月熔解釜十一個ヲ備ヘタル製鍊所ヲ設置シ試験的製鍊ヲ開始セリ

試掘權登録 第一七二〇號 石油 鑛業人 置 新潟縣刈羽郡中通村 茂作

本鑛區ニ於テハ明治四十五年六月二十一日機械掘井一坑ノ開掘ニ着手シ目下深度二百三十間ニ達シタルモ未タ油層ニ逢着スルニ至ラス今尙ホ掘進中ナリ

試掘權登録 第一九四九號 石油 鑛業人 置 新潟縣刈羽郡北條村外一村 殺

本鑛區ニ於テハ大正元年十一月機械掘井一坑ノ掘鑿ニ着手セリ

足洗場鑛山 石油 鑛業人 置 新潟縣中蒲原郡小須戸町 中野合資會社

本鑛山ニ於テハ隣區中央會社ノ坑況良好ナルニ鑑ミ大正元年九月十五日及同月二十八日ヨリ「スター」式二坑ノ鑿井ヲ開始シタルニ第一號井ハ十月十四日深度六十一間四尺又第二號井ハ同月十九日深度六十八間四尺ニシテ油層ニ到達スルヲ得タルヲ以テ十月二十日第三號井ノ掘鑿ニ着手シ目下深度五十八間二尺ニ達セリ然ルニ油量僅少ニシテ成功當時十石内外ノ日產ヲ見タルモ忽チ一、二石ニ減退スル狀態ナルヲ以テ尙ホ二、三坑ノ試掘ヲ遂行スルノ豫定ナリ因ニ油質ハ極メテ濃厚ニシテ「ボーメ」八度内外ナリトス

足洗場鑛山 石油 鑛業人 置 新潟縣中蒲原郡小須戸村 日本石油株式會社

本鑛山ニ於テハ隣區中央會社ノ坑況佳良ナルニ徴シ望ヲ囑シテ十一月六日機械掘一坑ノ開掘ニ着手シ目下深度八十七間二尺ニ達セルモ未タ成功スルニ至ラス目下掘進中ニアリ

第三九三號錄 石油 鑛業人 豐新 舘縣中蒲原郡新津町
豐礦石油株式會社

本鑛區ニ於テハ本年九月十五日機械掘井一坑ノ掘鑿ニ着手シ十一月二十日深度百四十九間ニシテ油層ニ達シ本年申ニ於テ十石内外ノ出油ヲ得タリ油質ハ「ボーメー」十七度トス

第一八二五號錄 石油 鑛業人 新舘縣中頸城郡板倉村外一村
代表者 藤卷喜四郎

本鑛區ニ於テハ本年七月一日手掘井一坑ノ開鑿ニ着手シ目下深度七十二間ニ達シタルモ未タ成功スルニ至ラス

第二四四號錄 石油 鑛業人 新舘縣中頸城郡板倉村
代表者 鈴木末藏

本鑛區ニ於テハ本年一月ヨリ手掘井一坑ノ開掘ニ着手シ目下掘進中ニアリ

第一七五四號錄 石油 鑛業人 新舘縣北蒲原郡加治村
石黒忠藏

本鑛區ニ於テハ本年四月二十日上總掘井一坑ノ掘鑿ニ着手シ目下深度百四十六間ニ達シタルモ未タ成功スルニ至ラス

第二〇〇三號錄 石油 鑛業人 新舘縣北蒲原郡中浦村
代表者 澤田徳次

本鑛區ニ於テハ本年七月九日上總掘一坑ノ開掘ニ着手シ深度五十四間ニシテ多少ノ出油ヲ見タルモ採油スルニ足ラサルヲ以テ今尙ホ掘進中ニアリ

菅山鑛山 石油 鑛業人 靜岡縣榛原郡菅山村
日木石油株式會社

本鑛山ニ於テハ本年十一月二日上總掘一坑ノ掘鑿ニ着手シ目下深度十八間一尺ニ達セリ

採掘權登録 第一六號 石炭 鑛業人 置 京都府何鹿郡東八田村 爲三郎

本年一月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登録 第二四〇號 石炭 鑛業人 置 京都府加佐郡東大浦村 丸山亭藏

本年六月ヨリ事業ニ着手セリ

伊山鑛山 亞炭 鑛業人 置 三重縣阿山郡島ヶ原村 右近福松

本年六月ヨリ事業ニ着手セリ炭層ハ頁岩中ニ介在シ厚三尺ナリ運搬ニ付テハ鑛區ヨリ伊賀河岸迄數町間輕便軌道布設ノ計畫中ニシテ實現セル上ハ關西線島ヶ原驛ニ搬出シ販路ヲ京都ニ開ラ

ク見込ナリ

伊賀鑛山 亞炭 鑛業人 置 三重縣阿山郡島ヶ原村 之本助

本年六月ヨリ事業ニ着手セリ炭層ハ頁岩中ニ介在シ厚サ約三尺ナリ

試掘權登録 第一三〇號 石炭 鑛業人 置 三重縣南牟婁郡上川村 那須由助

本年九月ヨリ事業ニ着手シ目下舊坑ノ排水及取明ニ從事シツ、アリ炭層ハ頁岩中ニ介在シ全厚

三四尺トス

試掘權登録 第一四〇號 亞炭 鑛業人 置 三重縣桑名郡古美村 伊藤延次郎

本年十二月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登録 第一三五號 亞炭 鑛業人 置 三重縣鈴鹿郡白川村 成瀬熊太郎

本年十二月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登錄 石炭 鑛業人 石川縣能美郡中海生村
第二七一號

本年六月ヨリ事業ニ着手シ目下探鑛中ナリ

富吉鑛山 石炭 鑛業人 岡山縣御津郡馬屋上郎村
有岡岡直五郎

本年五月ヨリ事業ニ着手セリ炭層ハ第三紀層中ニ殆ント水平ノ層ヲ爲シ厚四尺ニシテ相當ノ炭量ヲ有ス

萬歲鑛山 石炭 鑛業人 和歌山縣東牟婁郡三津村
代表者 木村六右衛門

久シク休業中ノ處本年九月ヨリ事業ニ着手シ目下疏水坑ノ開鑿中ナリ

金加鑛山 石炭 鑛業人 和歌山縣東牟婁郡三津村
西浦字吉

本年七月ヨリ事業ニ着手セリ鑛床ハ頁岩中ノ無煙炭層ニシテ走向南北傾斜東十度トス現今稼業セル部分ハ厚五寸内外ニテ炭質優良ナリ目下風道坑ノ西向ヲ延長シテ第一坑トノ貫通ニ從事セリ

試掘權登錄 石炭 鑛業人 和歌山縣東牟婁郡九重村
第一八二號

本年六月ヨリ事業ニ着手セリ

試掘權登錄 硫黃 鑛業人 渡島國檜山郡上ノ國村
第二三一號

本年四月事業ニ着手シ露頭部ヨリ探鑛シ將來露天掘ニ依リテ探掘ノ見込ナリ

試掘權登錄 硫黃 鑛業人 後志國奥尻郡奥尻村
第二〇九號外二

各鑛區共近接區域ニシテ本年七月ヨリ探鑛ニ着手シ數箇所ニ開口セシモ末々充分ノ成績ヲ見ル能ハスシテ十月末ニ至リ積雪ノ爲メ中止セリ

第三試掘權登録 硫黃 鑛業人 置天鹽國增毛郡增毛路町
三五九號 代表者 奈良義路

本年十二月事業ニ着手シ坑道掘又ハ露天掘ニ依リテ探鑛ヲ爲シツ、アリ目下坑夫八名雜夫十五名ヲ使役セリ本鑛ハ海岸ナルヲ以テ運搬至便ナリ

第二試掘權登録 硫黃 鑛業人 置山梨縣東山梨郡西保村
二三六號 武田丑太郎

本年十月一日探鑛ヲ開始セリ

二 事業ヲ擴張シ又ハ擴張ニ着手シタル鑛山

國富鑛山 金銀銅鉛 鑛業人 置後志國岩内郡小澤村
代表者 田中平八

昨年來試驗中ナリシ「ポット、ロースチング」法ハ良好ノ成績ヲ舉クルニ至リシヲ以テ本年十一月更ニ内徑六尺ノモノ二臺ヲ設置シ愈々操業ヲ開始セリ一日ノ處理鑛石高ハ約三十噸ナリトス
本年十月小澤岩内間輕便線布設開業ノ結果從來ノ元山小澤間馬車鐵道ヲ廢シ分岐線ニ依リテ元山小澤間ヲ鐵道運輸ニ改メタリ

製鍊裝入ノ補助トシテ大和國共盛鑛山ヨリ鑛石ヲ供給シツ、アリシカ該鑛山ハ漸次鑛量減少セシ爲メ之カ不足ヲ告クルニ至リ新ニ青森縣安部城鑛山及滋賀縣土倉鑛山ヨリ買鑛スルコト、ナリ前者ハ本年三月ヨリ二千餘噸ノ供給ヲ仰キ後者ハ本年六月ヨリ約八百噸ノ送鑛ヲ受ケタリ

宮城金山 金 鑛業人 置 宮城縣本吉郡御嶽村

明治四十四年中新設計畫ヲ爲シタル「コルニツシユ」汽罐二臺及「ウオシントン」蒸汽唧筒二臺ノ増設ヲ廢止シ二月熔解槽六個ヲ増設ス

津谷金山 金 鑛業人 置 宮城縣本吉郡御嶽村

本鑛山附近ノ地質ハ古生紀ニ屬スル砂岩、粘板岩及閃綠玢岩ヨリ成リ鑛脈ハ主トシテ前記砂岩、粘板岩中ニ胚胎シ主要ナルモノ七條ヲ算ス何レモ幅七寸ヨリ六尺ニ達スル含金石英脈ニシテ多量ノ硫砒鐵鑛及硫化鐵鑛ヲ伴ヒ合金品位十萬分ノ一乃至三ニ達ス

五月現鑛業人ニ移轉以來漸次盛大ニ探鑛ヲ行ヒ坑夫八十餘名ヲ使役シ日産六千貫ノ粗鑛ヲ探掘シ簡單ナル選鑛ヲ經テ椿鑛山ニ送附ス將來ニ於ケル一箇月ノ送鑛豫定量ハ二十七萬貫ノ見込ナリ

戸澤鑛山 金銀銅 鑛業人 置 宮城縣刈田郡小原村

八月坑内土砂坑木運搬用トシテ水車、捲揚機各一臺坑内排水用トシテ「コルニツシユ」唧筒一臺ヲ設置セリ

高田鑛山 銀銅鉛亞鉛 鑛業人 置 宮城縣栗原郡麓澤村

明治四十四年中改修ニ着手シタル坑内ハ漸次整理ノ歩武ヲ進メ現ニ發見ニ係ル鑛脈ハ其數頗ル多ク其最主要ナルモノヲ以テスルモノ十餘條ヲ算スルヲ得ハク又幅員ニ至リテハ三尺乃至六尺最大ナルモノハ實ニ三十有餘尺ニ達シ脈數及幅員ニ於テ實ニ稀ニ見ル所ノ鑛山タリ、主要鑛物ハ

含銀方鉛鑛、閃亞鉛鑛ニシテ之ニ少量ノ黃鐵鑛、黃銅鑛、鉛鑛等ヲ伴隨ス。今坑外設備中其重要ナルモノヲ舉クレハ

(イ) 發電所 明治四十四年起工セル一迫川發電所ハ一五〇「キロワット」ノ電力ヲ送電スル施設ヲ完成シ、本山動力ニ供スルニ至レリ

(ロ) 選鑛 本鑛山選鑛ハ舊選鑛々滓中ノ鉛及亞鉛鑛ヲ回收スルヲ以テ目的トセルモノニシテ從來設置ノ機械選鑛ニ加フルニ磁選鑛ヲ併用シ、試験研究ヲ重ネシカ其成績ノ顯著ナラサルヲ以テ七八月ノ交ヨリ瓦斯選鑛ノ研究ニ腐心シ成績甚タ良好ニシテ從來ノ不成績ヲ補ヒ得ヘキコトヲ確メタルヲ以テ十一月一晝夜三十噸ノ鑛量ヲ處理シ得ヘキ同選鑛場ヲ開設シ之ヲ併用スルニ至レリ

尙其他本年ニ於テ増設セル工作物ノ主要ナルモノハ廻燒爐一座、捲揚機二臺、蒸汽機關一臺、及電氣唧筒一臺トス、本鑛山現今ノ產出鑛量ハ一箇月亞鉛精鑛平均五百噸ナルカ、大正二年四、五月ノ交ニ至ラハ優ニ之ヲ倍加シ得ヘシト云フ

砂金鑛山 銅 位置 鑛業人 宮城縣柴田郡川崎村

本鑛山ハ四十四年十二月着手以來出鑛漸次ニ増加シ九月中粗銅三千斤ヲ產出スルヲ得タルモ之ヲ持續スルニハ將來幾多ノ施設ヲ要スヘキヲ以テ賣鑛方針ヲ採ルヘシト謂フ

黃金澤鑛山 金銀 位置 鑛業人 福島縣西白河郡金山村外一村

本鑛山ハ明治四十四年着手以來坑内作業漸次進捗シ採鑛量増加セシヲ以テ同四十五年三月搗鑛

場ヲ増築シ杵十本(杵重量六、百磅一晝夜工程三千二百貫ヲ設備シ同時ニ動力ノ豫備トシテ「ロコモ
チーブ」型汽罐一臺ヲ新設シ又同製鍊場ノ擴張ニ伴ヒ九月青化製鍊場ヲモ増設セリ(滲出槽深徑四尺
十二箇液槽深徑四尺六個又八月從來原動用トシテ使用セシ鐵骨日本式水車ヲ藤田式「タービン」型橫
置水車(實馬力二五)ニ變更セリ

大瀧鑛山 金銀銅 鑛業人 福島縣石城郡田人村外一村
代表者 加藤爲二郎

本鑛山ハ從來主トシテ探鑛其他坑道ノ掘進ニ努メツ、アリシカ愈々探鑛ヲ開始スルコトナリ
十月ニ於テ鑛山及瀧道間ニ延長四千四百二十一尺高低差三百八十二尺ノ玉村式鐵索ヲ架設シ爾
來毎月五萬貫餘ノ產額アリ主トシテ關東酸曹會社ニ之ヲ販賣ス、尙ホ原動力トシテ房林鐵索停車
場ニ火管式汽罐一臺ヲ新設セリ

八莖鑛山 金銀銅 鑛業人 福島縣石城郡大野村
水鉛 鑛業人 八莖鑛山合資會社

從來ノ產額ヲ二倍ニ増大センカ爲メ運搬力ノ擴張ヲ計リ鑛入坑道ノ開鑿ニ着手シ現ニ使用シ、
アル坑外運搬軌道ノ補助タラシメントス同鑛入坑道ハ其延長千二百五十尺ニシテ大正二年二月
頃完成スルノ豫定ナリ更ニ之ニ應スルノ目的ニテ製鍊裝置ノ擴張ヲ企圖シ八呎角爐一座、眞吹爐
五座、三尺丸爐一座及「ルーツ」六番型鼓風機一臺ノ建設ニ着手シ其竣工期ハ大正二年二月ノ豫定ナ
リ其他動力ノ補充トシテ「サクシヨン」瓦斯機關五十一馬力一臺ヲ設置シタリ
本鑛山ハ九月初メ出水ノ爲メ坑外ノ運搬軌道ハ殆ント全部ヲ流失シ復舊費ニ多大ノ損失ヲ蒙リ
タリト雖トモ其他ノ工作物並ニ各作業場ハ幸ヒ無事ナルヲ得タルヲ以テ直接操業上ニハ甚シキ

影響ヲ受クルコトナク前記ノ計畫ニ對シ着々歩ヲ進メツ、アリ

松川鑛山 金銅 位置 鑛業人 田岩手縣和賀郡澤内村 新 七

事業ノ進捗ニ伴ヒ漸次採鑛量ヲ増加シ來リタルヲ以テ製鍊操業ヲ擴張シ併セテ鑛利ヲ損セサルノ目的ニテ從來ノ山下吹ニ代フルニ鎔鑛爐眞吹爐ヲ新設シ製產物ヲ從來ノ約二倍(約一箇年廿五萬斤)ニ増加セントス其新設製鍊場ノ設備ハ左ノ如クニシテ十一月中既ニ工事竣成シ十二月初ヨリ吹入ヲ爲シタリ

丸型水套式熔鑛爐(徑三呎前床付)

眞吹爐(徑三呎深二呎五吋)

「ルーツ」三番型鼓風機

送風原動用木製水車(十五馬力)

赤石鑛山 金銀銅 位置 鑛業人 佐岩手縣和賀郡湯田村 木喜代治

從來専ラ稼行シタル金鑛ハ不振ニ陥リタルモ銅鑛ハ漸次發展スルニ至レリ而シテ曩ニ開鑿ニ着手シタル疏水道ハ十一月中ニ竣成セリ

大萱生鑛山 金 位置 鑛業人 大萱生縣紫波郡乙部村 大萱生金山合資會社

二月石油發動機五馬力ノモノ一臺ヲ据付ケ原動力ノ不足ヲ補ヒタルヲ以テ製鍊取扱鑛量一箇月約四萬五千貫ニ増加シタルモ坑内ノ作業ハ採鑛ヲ主トセリ

金澤鑛山 金 位置 鑛業人 池岩手縣上閉伊郡金澤村 聰一郎

明治四十四年十月坑内作業ニ着手シタルモノナルカ坑外ニ殘存セル舊時ノ廢鑛ノ多量ナルヲ見込ミ五月混汞製鍊場ヲ建設シ越テ七月青化製鍊場ノ建設ヲ見ルニ至レリ其ノ設備ノ大要左ノ如シ

輾轉嚙鑛器(十馬力)

一

「ハンチントン」磨鑛器(徑三呎半)

四

攪拌槽(徑八呎深三尺)

三

「ウキルフレー」汰盤

四

集砂漉過槽(徑六尺深四尺五寸)
(徑七尺深五尺五寸)

三二

青化原液槽(徑六尺深六尺)
(徑四尺深四尺)

一二

青化滲出槽(徑十一尺深四尺五寸)

六

青化金液槽(徑三尺深三尺)

二

受液槽(徑七尺深六尺)

二

唧筒水筒(徑四吋銜程六吋)

一

「ラストン」式吸入瓦斯機關(三十一馬力)

二

田ノ上鑛山 金銀 立置 岩手縣氣仙郡世田米村
鑛業人 氣仙金鑛合資會社

搗鑛製鍊滓並ニ採鑛々石中一分目篩下粉鑛ヲ處理スルノ目的ヲ以テ九月青化製鍊場一棟ヲ新設ス其設備左ノ如シ

青化原液槽(徑九尺深九尺五寸)

三

青化滲出槽

(徑十尺深四尺七寸
徑八尺深五尺
徑七尺深五尺)

八二八

青化受液槽(徑八尺深七尺)

三

釜石鑛山 銅鐵

鑛業人 田中長兵衛
岩手縣上閉伊郡釜石町

三月以來新山採鑛場ニ於テ「ウオーター・ライナー」鑿岩機三臺ヲ使用シ其原動用トシテ「ハイネー」式水管汽罐一臺「ライナー」式空氣壓搾機一臺ヲ設置シ降テ五月中旬大橋ヨリ新山ヲ經テ赤岩ニ至ル間ニ玉村式複線鐵索ヲ架設シ以テ採鑛々石運搬ノ便ニ供シ是ト同時ニ兼テ探鑛中ナリシ細越鑛床ノ採掘ニ着手シ運搬用トシテ同所ヨリ砂子ニ至ル間ニ單線式鐵索ヲ架設シタリ而シテ從來採鑛シツ、アリシ男岳二俣鑛床ハ單ニ探鑛ニ止メタリ

鈴子本工場ニ於テハ銅鑛運搬車道布設ノ爲メ南方ノ高丘ニ二箇所ノ隧道開鑿ニ着手シ又鎔鑛爐ノ鑛滓ヲ南方溪谷ニ運搬スル爲メ二箇所ノ鐵索ヲ架設シ共ニ八月之ヲ完成セリ又四月附帶事業トシテ鈴子本工場内ニ人糞處理ノ目的ヲ以テ硫酸「アンモニヤ」製造工場ヲ設置シタルモ尙ホ試驗的設備ニ屬ス

製鍊部ニ於テハ採掘鑛量ノ増加ニ伴ヒ第二號圓形鎔鑛爐ヲ第一號八尺鎔鑛爐ト全ク同形ノモノニ改築シ從來ノ鼓風機室ヲ移轉シ此處ニ亦同形ノ八尺爐三基ヲ新設シ又從來使用シタル單笛無凝汽機ヲ廢シ新設ノ鼓風機室ニ平臥双笛二重膨脹ノ無凝「コーリッス」式二百十馬力ノ原動機ヲ据付ケ同時ニ從來ノ六番型「ルーッ」鼓風機三臺ニ新規六番型「ルーッ」鼓風機一臺及九番型「ルーッ」鼓風機二臺ヲ併置シ其結果從來ノ取扱鑛量ニ更ニ七萬七千貫ノ大橋銅鑛及三萬三千貫ノ臺灣金鑛ヲ

増加セリ

栗木鑛山 銅鐵 位置 岩手縣江刺郡米里村
鑛業人 栗木鐵山株式會社

三月大破損ノ爲メ使用ニ堪ヘサリシ舊式三噸鎔鑛爐一座ヲ修理シテ一晝夜ノ工程五噸吹キノモノトシ又八月米里村字大石探鑛事務所ヨリ姥石峠ヲ越ヘ栗木澤製鍊場ニ至ル四哩間ニ運鑛ノ爲メ玉村式架空鐵索ヲ架設シ製鍊原鑛ノ不足ヲ告クルコトナカラシメ尙ホ進ンテ一般貨物輸送ノ便ニ供スル目的ナリ

探鑛場ニ於テハ伊手村方面通稱バクチ洞ト稱スル處ニ含銅磁硫鐵鑛ノ一大鑛床ヲ發見シ目下之カ探鑛ニ努力シツ、アリ其結果ニ依リテハ銅鑛製鍊場ヲ設置セントス

大荒澤鑛山 銅鉛 位置 岩手縣和賀郡湯田村
鑛業人 合名會社 藤田組

高柴大切坑準以下ニ於ケル諸鑛探鑛ノ目的ヲ以テ高柴澤大切坑道面ヨリ開鑿セル坑内豎坑ハ目下約百尺掘下セリ其他各坑トモ依然開坑及探鑛作業ヲ繼續スルト共ニ探鑛準備ニ從事シ大正二年上半期ニ至ラハ毎月平均含銅三%内外ノ粗鑛一箇月百廿萬貫ヲ探掘スル豫定ナリ而シテ高柴大切坑々口ヲ距ル百廿間ノ所ニ選鑛場ヲ新設シ左記諸機械ヲ据付中ニシテ大正二年一月末ヲ以テ竣成ノ豫定ナリトス

鐵製斜篩

四

「ブレーキ」式嚙鑛機

一

圓錐篩

六

「ロール、ジョウ」嚙鑛機

二

「スツルテヴァント、ヒイスビー」磨鑛器

二

「リチャードバルセーター」分級器

一

「ハンコック」式跳汰機

二

「バルツ」式粗粒跳汰機

一

同 床付跳汰機

二

尖箱

二

「ウイルフレー」式汰盤

四

「デイスター」汰盤

二

「バケット」揚鑛機

四

是等ノ原動用トシテハ五十、三十、十五及十馬力ナル四箇ノ電働機ヲ設置シ既ニ其据付ヲ終了シタ
リ

前記選鑛ヨリ生スル平均含銅百分ノ九内外ノ精鑛及少量ノ買鑛ヲ處理スル爲メ鑛區外湯田村字
仙人ニ製鍊場ヲ建設中ニ在リ其設備ハ左記ノ如クニシテ大正二年二月ヲ以テ全部竣成セシムヘ
キ豫定ナリトス

局部水套鎔鑛爐

一

鑄鐵製燒結鍋

二

眞吹爐

六

「ルーツ」式七番型鼓風機

一

複胴七馬力半電勸捲揚機

一

「ルーツ」式六番型鼓風機

一

製鍊原動用トシテハ左記電勸機ヲ据付クル豫定ナリ

六十馬力誘導電勸機

一

五十馬力誘導電勸機

一

七馬力半誘導電勸機

一

本山ニ於ケル凡テノ原動力ヲ供給スル爲メ南本内川ノ水力發電所ノ工事ハ約一哩ニ近キ水路ヲ完成シテ十二月十日ヲ以テ通水ヲ試ミタルモ水車發電機其他ノ据付ヲ終ルハ大正二年二月末頃ナルヘク而シテ全部電力ノ輸送ヲ開始シ得ルハ解雪期ノ頃ナルヘシ
鑛石並ニ貨物運搬ノ目的ヲ以テ選鑛場製鍊場間及製鍊場平和街道間ニ玉村單線式架空鐵索ヲ布設シ其原動並ニ臨時坑内捲揚及排水ノ原動力ヲ供給スル爲メ七十馬力吸入瓦斯發動機ヲ設置セリ

水澤鑛山 銅

位置 鑛業人 岩手縣和賀郡岩崎村
古河合名會社

鑛産額ノ増加ヲ計リ本山ノ基礎ヲ確立センカ爲メ水澤前鑛ノ下底探鑛ノ傍ヲ疏水、通氣、運搬等ニ資スル目的ヲ以テ開鑿セラレタル第二通洞ハ十二月上旬ニ於テ延長二千三百尺ニ達シ着鑛迄ニ

ハ今後尙ホ一箇年半ヲ要スヘシ從來ノ粉鑛處理法ハ不完全ヲ極メシヲ以テ口徑五尺五寸底徑二尺高サ四尺五寸容量約一千貫ノ燒結鍋二箇ヲ新設シ十二月中旬ヲ以テ全部完成セリ又五月鑛石其他物資運搬ノ目的ヲ以テ選鑛場ヨリ製鍊場ニ至ル間ニ延長九百四十尺ノ自動單線式鐵索ヲ架設シ七月下旬ヲ以テ竣成セリ

三ッ澤鑛山 銅 鑛業人 岩手縣稗貫郡太田村
小瀧元司

前年ニ引續キ專ラ坑内整理及出鑛増加ニ意ヲ注キ選鑛場設備ニ改善修補ヲ加フルト共ニ原動力補充トシテ廿五馬力「ケルチング」吸入瓦斯發動機二臺ヲ増設シ内一臺ヲ豫備トセリ

鷲ノ巢鑛山 金銀銅 鑛業人 岩手縣和賀郡湯田村
爲田清一

鑛況ハ下底ニ進ムニ從ヒ母岩中ニ滲透セル網狀細脈益々粗大トナリ合金品位降下シテ硫化物ノ量増加スルノ傾向アリ而シテ採掘費ハ深ク下ルニ從ヒ益々昂騰シ經濟上苦痛ヲ感スルニ至リシヲ以テ主トシテ比較的採掘費ノ少額ナル露天掘並ニ受負掘ヲ行ヒ而シテ赤倉、綠青及松蔓方面ハ品位優秀ノモノニ對シテノミ拔掘ヲ爲シツ、アリ

銅分ニ富ミタル鑛石ハ從來生鑛ノ儘鎔鑛爐ニ裝入セシモ近時粉鑛ノ產出増加セルヲ以テ粉鑛燒結ノ目的ヲ以テ口徑五呎五吋、底徑二呎八吋、高サ四呎七吋、容量約一千貫ノ燒結鍋一個ヲ新設セリ

網取鑛山 銅 鑛業人 岩手縣和賀郡橫川目村
平井六右衛門

新ニ發見セラレタル塊狀黑物鑛床及從來稼行シツ、アル鑛脈ノ下部探鑛並ニ排水ノ目的ヲ以テ開鑿セラレタル大切坑ハ十一月末ニ於テ約二百間掘進シ更ニ五十間ニシテ塊狀鑛床下底ニ達ス

ル豫定ナリ其他事業ノ進捗ニ伴ヒ漸次採鑛量ヲ増加シ從來ノ選鑛場設備ノ不完全ヲ認メタルヲ以テ之ニ改善ヲ加ヘ從來ノ三重圓錐篩一個ヲ廢止シ圓錐篩四臺及回轉手選帶一個跳汰機六臺「バケツト」揚鑛機二個ヲ増設セリ

又從來ノ製鍊場ハ設備不完全ニシテ頽廢ニ近ツキタルヲ以テ五月新設計ニ依リ建設工事ヲ起セリ該計畫ハ一個月約十二萬貫ノ鑛石ヲ處理シテ約四萬斤ノ粗銅ヲ產出セシムルノ豫定ニシテ十一月末ヲ以テ大略工事ヲ完成シ十二月十三日ニ初メテ吹入レヲ試ミタリ而シテ設備ノ大略ヲ舉クレハ左ノ如シ

圓形局部水套鎔鑛爐

鑄鐵製燒結鍋

眞吹爐

「ルーツ」六番型鼓風機

其他鼓風用トシテ從來ノ「ルーツ」式三番型鼓風機ヲモ存置シ又製鍊原動用トシテハ新ニ五十馬力「ペルトン」水車一個ヲ増設シ尙ホ豫備トシテ八馬力石油發動機一個ヲ設置セリ

仙人鑛山

銅鐵

位置 岩手縣和賀郡湯田村外一村
鑛業人 株式會社仙人製鐵所

本山ニ於テハ近時漸ク粉鑛ノ產出増加セルヲ以テ銅及鐵粉鑛燒結ノ目的ヲ以テ口徑五呎九吋、底徑二呎三吋、高サ四呎、容量約一千貫ノ鑄鐵製燒結鍋四個ヲ新設セリ

卯根倉鑛山

銅

位置 岩手縣和賀郡湯田村
鑛業人 合名會社藤田組

本鑛山ハ八月十八日現鑛業人ニ移轉シタル以來舊來ノ第二選鑛場ヲ廢止シ開坑探鑛並ニ採鑛準備ニ主力ヲ盡シ傍ラ從來搬出堆積セル鑛石及舊鑛並ニ開坑ノ際採取セル鑛石等ヲ製鍊ニ附シツッアリシモ大正二年ニ至ラハ從來ノ第一選鑛場及製鍊場ヲモ全廢シ新ニ左記ノ設備ヲ有スル機械選鑛場ヲ設置スヘキ計畫ニシテ同年七月ヲ以テ竣成ノ豫定ナリ

鐵製斜篩

二

圓錐篩

二

「ロールジョウ」齒鑛機

一

「ハンコック」式跳汰機

二

齒鑛機

二

手選臺

一

「ハルツ」式跳汰機

一

尖函

一

離心磨鑛器

一

「ウイルフレー」式汰盤

一

「カロー」式分類器

一

「フリュウ」式汰盤

二

以上ノ設備ニ依リ得タル精鑛ハ之ヲ大荒澤鑛山ニ送致シ同所ニ於テ製鍊セシムルノ計畫ニシテ

鑛石並ニ貨物運搬用トシテ新設選鑛場ヨリ檜澤ナル仙人鑛山所有輕便軌道線路ニ至ル約九百十間ノ間ニ玉村式單線架空鐵索ヲ架設セントセリ

赤金鑛山 銅 位置 岩手縣江刺郡伊手村外一組 鑛業人 合名會社 藤田組

從來ノ製鍊裝置ハ山下吹爐一座ヲ有スルノミナリシカ爾來探鑛進捗ノ結果漸次鑛量ノ増加ヲ來タシタルヲ以テ製鍊場ノ擴張ニ着手シ七月竣成セリ而シテ其設備左ノ如シ

水套式熔鑛爐(徑三呎三吋長五呎) 一

山下爐 二

「ルー」式四番型鼓風機 一

橫置式汽機(三十五馬力) 一

多管式汽罐(徑三呎七吋四分ノ一長十五呎十吋) 一

燒鈹釜 二〇

安部城鑛山 金銀銅 硫化鐵 位置 青森縣下北郡川内村 代表者 田中銀之助

明治四十四年以來工事中ナリシ選鑛及製鍊設備ハ同四十五年七月其竣工ヲ告ケ直ニ吹入ヲ爲シ爾來每月十萬乃至十六萬斤ノ產銅ヲ見ル其設備ノ大要左ノ如シ

選鑛用平面鐵篩 四

同 斜面鐵篩 四

燒結爐(碗形口徑六呎六吋深三呎) 四

角形鑄鑛爐(長十四呎幅三呎三吋羽口準裝入床間高十三呎) 二

丸形鍊鋸爐(徑三呎八吋羽口準裝入床間高十三呎) 一

眞吹爐(徑三呎三吋深十八吋) 八

「ルーッ」式八番型鼓風機 一

同 六番型鼓風機 一

「ランカシヤ」型汽罐(長二十七呎徑六呎六吋) 一

單汽笛橫置式汽機(百七馬力) 一

製鍊場用水衝索道(延長八十七尺五寸) 一

貯鑛場用水衝索道(延長五十尺) 一

採鑛場用自働索道(延長百二十六尺) 一

右ノ外物資運搬ノ便ニ供センカ爲メ鑛山ヨリ川内部落ニ至ルノ間延長五哩ニ亘ル單線輕便軌道

ヲ布設セリ

佐井鑛山 銅亞鉛 鑛業人 青森縣下北郡佐井村 歸

四月中一晝夜取扱鑛量千五百貫ノ簡單ナル選鑛場ヲ開設シ原動力トシテ四馬力石油發動機ヲ設

置ス

夏坂鑛山 銅 鑛業人 青森縣三戸郡上郷村 代表者 小越幸助

鑛況良好ナルヲ以テ七月以來品位劣等ノモノ一箇月一萬貫ノ製鍊ヲ不老倉鑛山ニ委托シ自家製

鍊ハ從前ノ通之ヲ行ヘリ

西山鑛山 金 位 置 鑛業人 福 山 形 縣 西 村 山 郡 西 山 村 田 秀 一

大切坑ノ下部六十尺ニ中切坑道ノ開鑿ヲ企テ之ヲ完成シタリ同坑ニ於テ探掘セル鑛脈ハ石英粗面岩並凝灰岩中ニ胚胎シ走向二百九十度傾斜百八十度幅四尺ヨリ十三尺ニ達シ少量ノ銅鉛亞鉛ヲ隨伴シ含金量平均十萬分ノ三ニ達ス鑛石ハ依然日立鑛山ニ賣却ス

大鳥鑛山 銀銅 位 置 鑛業人 古 山 形 縣 東 田 川 郡 大 泉 村 河 合 名 會 社

事業ノ進捗ト共ニ鑛物品位貧劣ニ且多量トナリタルト一方木炭ノ供給困難ヲ見ルニ至リタルヲ以テ製鍊法變更ノ目的ヲ以テ左ノ諸設備ニ着手シ大正二年三月完成ノ豫定ナリ

燒鑛場

一

鎔鑛場

一

燒窯(一座裝入量一萬貫)

四

鎔鑛爐(徑三尺五寸高サ十一尺羽口四本一日裝入量五百貫)

一

眞吹場

一

眞吹爐(一回裝入量五百貫)

四

原動工場

一

「タンギ」式吸入瓦斯發動機(四十八馬力)

一

「ルーッ」式四番型鼓風機

二

大藏鑛山 金銀銅 位 置 山形縣最上郡大藏村外一村
鑛業人 合名會社 橫山鑛業部

從來ノ選鑛法不完全ナリシヲ以テ五月機械選鑛場一棟ヲ新設ス建家ハ木造平家四階段ニシテ建坪二百二十坪ヲ有ス其設備左ノ如シ

「ブレーキ」式嚙鑛機 一

鋼鐵製圓錐篩 五

木製圓盤手選臺 二

麻製送鑛帶 一

「クローム」式轉輥機 一

「コルニツシユ」式轉輥機 一

「ハンチングトン」磨鑛機 一

鐵製圓錐形水壓分粒器 四

木製方錐形平流分級器 三

「ハルツ」式木製三區跳汰器 七

「ウオバーストローム」式汰盤 六

沈澱池 二

原動機「ケルチング」式吸入瓦斯發動機(二十五馬力) 一

同 「キヤンベル」式吸入瓦斯發動機(十八馬力) 一

本鑛山ノ採鑛場ハ地勢峻險ナル裏山ニ在リ坑外餘地ヲ存セス僅ニ選鑛場ノ一部ヲ設置シ餘ハ全部前山ニ於テ操業セル爲メ兩所ノ連絡ヲ計リ四十三年七月延長四千六十尺ノ通洞ヲ起工セシカ同北口通洞ハ岩質軟弱ニシテ崩壞甚シク坑道ノ保存至難ナルヲ以テ同坑口ヲ廢棄シ應急設備トシテ大黒四番坑トノ貫通ヲ計リ九月之レヲ完成シ前山トノ連絡ノ便ヲ得タルヲ以テ裏山選鑛場ヲ廢止セリ尙ホ通洞ハ將來大黒鑛脈ノ下底ヲ窺ヒ右折シテ松森鑛脈下底ヲ探リ一方北口ニ當ル地質堅硬ナル位置ヲ撰ヒ開通セシムルノ豫定ナリ

大門鑛山

金銀銅 鑛業人 置 山形縣南村山郡東雄村
亞鉛 鑛業人 爲

從來關東酸曹株式會社或ハ小坂鑛山ニ賣鑛シツ、アリシカ出鑛漸次増加シタルカ爲メ九月鑛業事務所ヨリ字大門部落ノ對岸ニ至ル約十五町ノ間ニ軌道ヲ敷設シ鑛石運搬ノ便ニ供セリ

荒川鑛山

銀銅 鑛業人 置 秋田縣仙北郡荒川村
鐵 鑛業人 三 菱 合 資 會 社

嗽澤十五番坑ノ着鑛 嗽澤坑ハ二月地表水ノ浸入ニ因リ下底ノ浸水ヲ受ケタルモ主要採鑛場ハ罹災ヲ免レタル爲メ產額ニ格別ノ影響ヲ受ケス七月大體ノ排水ヲ終リ一時水沒ノ儘放棄シタル最底十五番坑ヲモ排水シ此處ヨリ鑛脈ニ向テ豎入坑道ノ開鑿ヲ試ミシ處十一月中旬着鑛シ鑛勢鑛幅共ニ優良ニシテ將來更ニ產額ヲ増加スルニ至ルヘシ

電力ノ供給 本鑛山ハ從來電力不足ノ爲メ操業上不便ヲ感スルコト尠カラサリシカ六月廣久内第五發電所ノ工事ヲ完成シタルニ依リ茲ニ電力ノ餘裕ヲ生スルニ至リ發展上大ナル利益ヲ受クルニ至ル

收銅裝置 廢石中ノ銅分回收ノ目的ヲ以テ七月沈澱銅採取裝置ヲ設ケ毎月十噸乃至十五噸ノ澱物ヲ採取セントス

駒木澤鑛山 金銀銅鉛 位置 秋田縣仙北郡檜木内村 古河合名會社

從來探鑛中ノ處六月末探鑛ヲ開始スルニ至リ尙ホ現在下底坑道地並ヨリ百七十尺ノ下ニ大切坑ノ掘進中ニアリ

日三市鑛山 金銀銅鉛 位置 秋田縣仙北郡中川村外一村 三菱合資會社

本鑛山ハ二月送電上ノ故障ニ依リ坑内ヲ浸水セシメ一時產額ニ非常ノ影響ヲ來シタルモ五月ニ至リ全部ノ排水ヲ了シ坑内ノ整理ヲ遂ケ六月荒川鑛山第五發電所ヨリ直接ニ電力ノ供給ヲ受クルニ至リタルヲ以テ爾來產額非常ニ増加シ其當時ニ比シテ倍加スルニ至レリ其他設備ノ異動ヲ示セハ左ノ如シ

新設ノ分

唧筒 二

電働機 三

坑内輕便捲揚機 一

手選臺 二

嚙鑛機 一

轉碎機 一

「ハルツ」式跳汰器

三

「ハンチングトン」磨鑛機

一

「バケット」揚鑛機

一

乾鑛爐

一

廢止ノ分

「ボット」

全部

松岡鑛山

金銀銅位
鉛亞鉛鑛業人
秋田縣雄勝郡山田村外一付
合名會社藤田組

小坂鑛山ニ對スル送鑛ノ關係上去ル十月ヨリ出鑛量ヲ増加スルコト、ナリ選鑛場ノ一部ヲ改築

シテ其工事ヲ了シ又次年ニ至ラハ現今ノ堅坑ヲ更ニ掘下スル計畫ニシテ之ニ要スル排水唧筒及

發電機等ノ準備中ニアリ

小坂鑛山

金銀銅位
亞鉛蒼鉛鑛業人
秋田縣鹿角郡小坂村
合名會社藤田組

本鑛山ニ於テ豫テヨリ亞鉛製鍊法ノ研究中ナリシカ愈々之ヲ實地ニ營ムコトナリ六月諸般ノ裝

置ヲ竣成スルニ至レリ其概略ヲ示セハ左ノ如シ

溶解槽(徑六尺深二尺六寸)

四

酸性液槽(長十尺幅十尺深五尺)

一

廢液槽(同上)

一

中性液槽(長十尺幅八尺深五尺
長十尺幅九尺深九尺)

一一

洗滌槽(長十尺幅八尺深五尺)

遠心唧筒

電働機(五馬力)

銅電解槽(長六尺幅三尺五寸深三尺五寸)

淨液槽(徑三尺深三尺五寸
長幅深三尺五寸)

電解槽(長六尺幅二尺八寸深三尺)

一五

四四

二

一

一

右ノ外碎鑛及鑛石焙燒ニ付テハ既設ノ碎末場及燒鈹場ノ一部ヲ使用シ又亞鉛陰板鎔解ニ付テハ既設ノ「バークス」鍋ヲ流用ス而シテ右製鍊裝置ニ供給スル原鑛ハ主トシテ鴉鑛山ノ亞鉛鑛及買入鑛ニ仰キ毎月一萬五千斤ノ型亞鉛ヲ製出スルノ計畫ナリ

又從來ノ製團ハ其質脆弱ニシテ鍊鑛配合上到底全部ノ粉鑛ヲ處理スルコト能ハサルヲ以テ新ニ獨逸「ブリュクレチエル」會社製最新式橫置粉鑛壓搾機三臺ノ据付ニ着手シ四月之レヲ完成セリ同機ハ一臺一時間一個一貫七百六十四匁ノ團鑛千個ヲ製出スルノ能力ヲ有ス尙ホ附屬ノ給鑛及團鑛運搬ノ爲メ排給機及運鑛帶ヲ設置シ全操業ノ動力供給用トシテ五十馬力誘導電動機ヲ備付タリ

本年中ニ於ケル本鑛山ノ產額ハ其數量ニ於テ未曾有ノ巨額ニ達セルカ是レ全ク各種操業ノ順調ニ進行セル爲メナルモ就中從來故障多カリシ鎔鑛爐ニ種々ノ改良ヲ加ヘ爐況ノ頓ニ良好トナリタルモノ其最タル原因ナリトス

花岡鑛山

金銀銅鉛
硫化鐵

位置
鑛業人

秋田縣北秋田郡花岡村
小林清一郎

本山ノ鑛床ハ從來本坑部、大切部、新坑部ノ三鑛床ナリシカ客年六月精細ニ鑛區内ノ地質ト鑛床トノ調査ヲ爲シタルニ當時該方面ニ向テ探鑛ヲ開始セル新鑛床ノ西北方即安山岩ニ接觸セル凝灰岩中ニハ慥ニ鑛床存在スヘシトノ斷案ヲ得爾來其探鑛ヲ繼續シ或ハ坑道掘進ニ或ハ試錐ノ掘下ニ銳意其進行ヲ計リ同年九月ニ至リ實ニ一大鑛床ノ別ニ存スルコトヲ確ムルニ至レリ

新發見鑛床 本鑛床ハ客年九月ニ至リ愈々其一大鑛床タルコトヲ確メ得タルモノニシテ目下尙ホ其幅員延長ヲ調査スル爲メ急速其探鑛ヲ進行セルモ隨テ掘進スレハ隨テ鑛床ニシテ其際限ヲ知ルヘカラサルモノアリ今假ニ本鑛床ヲ長サ五十間幅四十間深サ三十間ノ正方形トシ一立坪ノ鑛量ヲ五千貫トシテ計算スルトキハ現在坑道内ニ於テ表レタル鑛量ノミニテ既ニ莫大ノ數量ニ達スヘク而シテ第一號試錐ハ地表ヨリ五十五尺、第四號試錐ハ同七十六尺、第五號試錐ハ同五十八尺ニシテ着鑛セリ

地上設備トシテハ明治四十四年十二月製鍊場ヲ完成シ直ニ吹入レヲ行ヒ益々擴張ヲ圖リ種々ノ故障又ハ製鍊所火災ノ厄ニ遭ヒシモ漸ク年末ニ至リ毎月十六萬斤餘ノ產銅ヲ見ルニ至レリ而シテ設備ノ異動ヲ示セハ左ノ如シ

新設シタルモノ

選鑛ノ部

斜面鐵篩

六

採鑛ノ部

電氣捲揚機

一

「ノルス」三聯式「ブランヂヤ」唧筒

一

「タービン」式電氣唧筒

一

電働機

四

製鍊ノ部

燒結爐

三

眞吹爐

八

井口式渦卷唧筒

一

廢止シタルモノ

採鑛ノ部

單甯併列式蒸氣捲揚機

一

「ウォーシントン」式蒸氣唧筒

二

「マーシュ」式蒸氣唧筒

一

製鍊ノ部

「ノルス」三聯式「ブランヂヤ」唧筒

一

椿鑛山 金銀銅鉛

位置 秋田縣山本郡八森村
鑛業人 武田恭作

本鑛山ノ作業場ハ鑛床ノ上部ニ位シ探掘上不利尠ナカラサリシヲ以テ兼テ移轉ノ計畫ヲ立テ明治四十四年中熔鑛場及眞吹場ヲ移轉シタリシカ本年ニ入り分銀場、南蠻絞場ヲ移轉シ更ニ十一月ニ選鑛場ノ移轉工事ニ着手セリ而シテ作業場設備ノ擴張ヲ示セハ左ノ如シ

九形熔鑛爐(徑二尺羽口準裝入床間高七尺)

「ルーッ式」九番型鼓風機

堅形複式「シーメン」發電機(三百馬力)

「ハイネ」水管式汽罐

院內鑛山

金銀銅鉛 硫化鐵 鑛業人 秋田縣雄勝郡院內町
古河合名會社

本鑛山選鑛場ハ明治四十四年十一月全部燒失シタルヲ以テ同四十五年六月其復舊工事ヲ起シ十月之ヲ完成セリ其設備ハ從前ノモノト同一ナリ

又產出鑛石並ニ舊鑛滓ノ青化製鍊法ニ關シ數年來種々研究シツツアリタルカ愈々之ヲ實地ニ營ムコトトナリ毎月原鑛三百噸(百分中金〇.〇〇〇一三、銀〇.〇〇一五)ヲ處理スルノ目的ヲ以テ十二月工事ニ着手シ大正二年三月ヲ以テ竣成セシムルノ豫定ナリ其設備ノ大要左ノ如シ

集砂槽(徑十尺深五尺)

「バケット」揚鑛機(幅四尺長五十八尺)

「チユーブミル」(徑三尺五寸長十五尺)

攪拌溶解槽(徑十五尺深十五尺)
(上部圓壺形下部圓錐形)

二 一 一 六

「バツタース」壓氣機

一

「バツタース」濾過機

一

貴液槽(徑十二尺深六尺)

二

受液槽(徑二十尺深六尺)

一一

洗滌槽(徑六尺深二尺)

二

攪拌溶解槽附屬「セントリフューガル」唧筒

六

苛化液繰返用「セントリフューガル」唧筒

一

電働機(六十五馬力)

一一

阿仁鑛山 銀銅

鑛業人 置 秋田縣北秋田郡阿仁合町 古河合名會社

本鑛山ハ漸次經營ノ苦痛ヲ覺エ萱草及眞木坑場ニ於テハ全部受負精鑛法ヲ行フニ至リ一方地表探鑛ヲ始メ下底採掘ノ困難ヲ補ハントス又本鑛山ノ鑛石ハ硅酸分多量ニシテ熔鍊上媒熔劑ニ要スル經費ノ不利ヲ補ハン爲メ花岡鑛山ノ品位劣等ノ鹽基性鑛物ト交換製鍊ヲ開始セリ工作物ノ主要ナルモノハ小澤坑内ニ「タービン」唧筒六臺ヲ設置シ工場ニ鼓風機一臺ヲ増設セリ

秋津鑛山

金 銀 銅 亞鉛 鑛業人 置 秋田縣北秋田郡矢立村外二村 佐渡島 伊平

疏水坑道下五十尺ノ地點ニ於テ存在セル良鑛ニ對シ九月同坑下百五十尺下底ニ大切坑ノ開鑿ニ着手シ目下掘進中ニシテ大正二年十月着鑛ノ豫定ナリ

蘆内鑛山

銀銅 鑛業人 置 秋田縣北秋田郡大葛村 荒谷

本鑛山ハ銀銅鑛ノ探掘ヲ爲シ居タル所七月其兩壁ニ銀鑛ノ含有セルヲ發見シ共ニ之ヲ探掘スルニ至レリ

大拔鑛山

金銀銅 鑛位 置 秋田縣北秋田郡真中村
鉛亞鉛 鑛業人 代表者 西村準三郎

本鑛山ハ從來專ラ亞鉛ノ探掘ヲ目的トシ稼行セルモノナリシカ鑛況不良ノ結果一時探掘ヲ中止シ專ラ力ヲ探鑛ニ注キシカ九月舊坑上部ニ於テ銅鑛脈ノ優良ナルモノヲ發見シタルカ故ニ爾來漸次坑夫ノ増員ヲ計リ探掘ノ擴張ヲ計畫スルニ至レリ

立又鑛山

金銀銅 鑛位 置 秋田縣北秋田郡西館村
鑛業人 池上爲助

久シク探鑛ノ結果四月以來愈々探鑛期ニ入り百餘名ノ鑛夫ヲ使役シテ八萬貫餘ノ鑛石ヲ產出スルニ至リ尙ホ追次事業ノ發展ヲ期シツツアリ

杉澤鑛山

金銀銅 鑛位 置 秋田縣仙北郡土川村
鉛亞鉛 鑛業人 小西傳助

本鑛山ハ排水困難ノ爲メ甚タ振ハサリシカ探鑛ノ結果脈幅五六寸品位良好ノ金鑛脈ヲ發見シタルヲ以テ爾來金ヲ主トシ銅ヲ副產物ト爲スニ至レリ

不老倉鑛山

銅 鑛位 置 秋田縣鹿角郡柴平村外一村
鑛業人 古河合名會社

本鑛山ハ五月小坂鑛山ニ其全鑛石ノ賣鑛ヲ契約シ直ニ兩鑛山間鐵索ノ架設ニ着手シ右完成ノ上ハ直ニ送鑛ヲ開始シ同時ニ製鍊ヲ休止スルノ豫定ナリ又五月久七坑前ニ手選鑛場ヲ開設シ大切選鑛場ニモ改良ヲ行ヒ專ラ實收率ヲ高ムルニ努メツツアリ此等ノ計畫ハ總テ經費節減ノ趣旨ニ出タルモノニシテ最モ注目スヘキ値アルモノトス

尾去澤鑛山

金銀銅 鑛業人 秋田縣鹿角郡尾去澤村
 鉛亞鉛 鑛業人 三菱合資會社

四十四年十月起工シタル鑛水除害工事ハ七月全部竣工ヲ告ケタリ又製鍊場ニ鼓風機二「ホット」二、瓦斯發動機五十八馬力一ヲ増設セリ

而シテ本鑛山ニ於テ近キ將來ニ於テ施行セントスル改良工事ハ選鑛場ノ改築及坑内馬車軌道ヲ電車鐵道ニ變換セントスルモノニシテ此等豫定工事ノ完成セル曉ニハ本鑛山ハ更ニ一層ノ盛況ヲ呈スルコト疑ナカルヘシ

太良鑛山

銀銅 鑛業人 秋田縣山本郡藤琴村
 亞鉛 鑛業人 古河合名會社

從來ノ銅鉛亞鉛選鑛場ハ其成績不完全ノモノアリテ充分ナル實收ヲ得ルコト能ハサリシヲ以テ八月七枚澤ニ水選鑛場、磁選鑛場、浮流選鑛場各一棟ヲ設置シ爾來放棄セル銅及亞鉛鑛ノ回收ヲ行ヒ同時ニ鉛鑛ノ實收ノ向上ヲ計レリ

佐渡鑛山

金銀銅 鑛業人 新潟縣佐渡郡相川町
 鑛業人 三菱合資會社

本年中ニ於テ青化製鍊工場及火藥庫ノ改築ヲ初メ工作物ノ増設ヲ爲セリ今其設備ノ大要ヲ掲クレハ左ノ如シ

青化製鍊工場ノ改築 從來ノ泥鑛青化法ニ依レハ(一)濃泥水分ノ脫離未タ充分ナラス從テ青化液ヲ稀釋シ化學的機械的損失ヲ大ナラシメ(二)溶解裝置不足ニシテ充分ナル溶解作用ヲ行ハシムルコト能ハス(三)濾過器ハ壓搾濾枠ニ依ルヲ以テ使用人多キニ拘ラス事業ノ進捗速カナラス即チ換言スレハ青化加里ノ消耗ヲ減シ溶銀作用ヲ進メ勞力ヲ節約センカ爲メ左記連續的操業法ヲ採ル

ノ計畫ヲ企ツルニ至レリ

搗鑛場ヨリ流出セル鑛流ニ石灰ヲ装入シ隔板附「コーン」ニ依リテ砂泥ノ分級ヲ行ヒ以テ既設ノ沈
 定池ニ代ヘ「コーン」ノ下端ヨリ滴下セル砂鑛ハ砂鑛溜ニ堆積シテ其含水ヲ滲滴セシメ從來ノ砂鑛
 青化法ニ準シテ之ヲ處理シ泥鑛ハ分水「コーン」ニ依リテ濃化セシメテ泥鑛溜ニ收メ更ニ回轉濾過
 器ニテ水分ヲ排去シ玆ニ青化濃液ヲ注射シ鋤板ニ依リテ濾面附着ノ泥塊ヲ剝脫シ磨潰器ニ投シ
 テ泥液ニ化シ外槽附連續溶解槽ニ送り給氣攪拌シテ金銀ノ溶解作用ヲ充分ナラシメ其外輪槽ニ
 テ泥液分離作用ヲ全クシ金液ハ縁邊開口ヨリ自ラ清澄溢出シ亞鉛函ニ入ル殘滓ハ必要ニ應シテ
 再ヒ回轉濾過器ニ依リテ濾過洗滌セラレテ川中ニ放流セシム

以上ノ計畫ニ基キテ明治四十五年六月工事ニ着手シ大正二年三月落成ノ豫定ナリ而シテ其裝置
 左ノ如シ

名	稱	個數	長	徑 幅	深	摘 要
石灰	裝入器	一		尺		鑛流ヲ利用シテ自動的ニ石灰ヲ装入シ中和ト沈定トヲ促ス 其ノ尖端ヨリ八寸及三尺ノ距離ニ橫隔板ニ板ヲ附ケ砂泥ノ分級 ナ完全ナラシム 底部「アーチ」トナリ其兩端邊ニ近ク溝ヲ設ケ含水ヲ滲滴セシム 容量約二千三百噸 泥鑛濃化ニ供ス 濃化貯留場 容積約八千二百立方尺
分級	「コーン」	三		六	九	
砂	鑛溜	一				
分水	「コーン」	三〇		三	五	
泥	鑛溜	一				

回轉濾過器	磨潰器	溶解槽	泥溜	亞鉛函	離心唧筒	二聯「プランジャ」唧筒 「ウェット、ヴァキューム」 唧筒	「ドライヴァキューム」唧筒	壓氣器	發電機
四	二	六	一	八	五	二	一	一	二
			二五	一二					
二八		一〇	二三	二六					
		三五	八八	一五					
該形外周ニ沿フテ二十四室ヲ有シ渡木綿ヲ張りタル木枠ヲ嵌メ 泥鑛ヲ鑛面ニ吸收シ液水ヲ排除ス同轉數一時間二十回一臺一日 四十五噸ヲ鑛過シ得ベシ	快速力ニ回轉スル攪拌器	鋼板製五十度ノ圓錐底ヲ有シ中央ニ徑六寸ノ攪拌用昇氣管ヲ具 ヘ二十封度ヲ壓氣ヲ噴出セシム槽ノ上部ニ更ニ外輪槽(徑十八 尺深十四尺)ヲ設ケ内外相通シ金液ノ清澄ニ資ス	溶解槽ノ修繕其他ノ故障豫備	十區劃ニ分ツ	内一個送泥用 一個金液用 三個母液用	内一個射液用 一個揚泥用豫備	濾過器用	濾過器用	攪拌及濾過器用 内一個五十馬力 一個二十五馬力

工作物増設 大立坑構内ニ發電所ヲ設置シ左記工作物ヲ据付ケタリ

發電機

直流交流ノ別

馬力

使用目的

三相交流

五〇

坑内電氣唧筒運轉原動力及唧筒室内電燈用

十一馬力「タービン」唧筒

一

大立三番坑ニ据付坑内水ヲ疏水道ニ汲上ク一分間ノ揚水量二十立方尺垂直高百六十尺
十三馬力「タービン」唧筒

一

大立五番坑ニ据付坑内水ヲ三番坑ニ汲上ク一分間ノ揚水量十二立方尺垂直高三百二十尺
火藥庫建設 四十五年六月中尾澤ニ「ダイナマイト」庫一棟(建坪十五坪)雷管庫一棟(建坪一坪五合)ヲ
新設シ又火藥渡場トシテ十二月中高任大立兩坑ニ「ダイナマイト」庫(建坪一坪六合)雷管庫(建坪一坪)
各一棟ヲ新設ス

西三川鑛山 金銀

位置 新潟縣佐渡郡西三川村
鑛業人 久原房之助

本年三月乙坑採掘鑛石選鑛及運搬ノ爲メ乙坑々口前ニ選鑛場ヲ設ケ長十尺幅五尺目幅一寸二分
及同八分ノ二枚斜篩ヲ備ヘタリ又同所ヨリ漁海貯鑛場マテ六百尺ノ間ニ運鑛用九封度軌條ヲ布
設セリ

安者坑鑛石運搬用トシテ漁海貯鑛場ニ坑口ヲ開鑿シ延長百八十尺ニシテ安者坑ト連絡セリ
鑛石ハ茨城縣多賀郡日立鑛山ニ送り製鍊シ來リシニ粉鑛多量ノ爲メ製鍊上困難ナルヲ以テ同鑛
山ニ於テ目下粉鑛處理設備中ニ付之カ完成迄採鑛ヲ一時中止スルコト、シ十一月下旬ヨリハ專
ラ探鑛ヲ主トスルニ至レリ本山ハ本年中ニ於テ鑛石九十六萬貫ヲ採掘シ其品位金十萬分ノ一、六
六銀萬分ノ一、八五ナルヲ以テ此含有金量十五貫九百三十六匁、同銀量百七十七貫六百匁ニシテ重
要鑛山ノ資格ヲ得ルニ至レリ

持倉鑛山

金銀銅 鑛業人 新潟縣東蒲原郡下條村
亞鉛 鑛業人 小太

前年來探鑛ノ結果鑛床ノ下底ニ鑛量ノ豊富ナルヲ確メ茲ニ大通洞ノ開鑿ヲ企テ本年五月宿場澤地内第二坑道地並以下二百尺ノ地點ニ開坑シ掘鑿中ニアリ

坑外ニアリテハ鑛業事務所ト五十島出張所トノ間一里十八町ヲ車道ニ改修シテ運輸ニ便シ其間ニ私設電話ヲ増設シテ山内各所ニ於ケル連絡通信ヲ便ニス加フルニ岩越線五十島停車場ノ請願認可ヲ得目下其筋ニ於テ起工中ナルヲ以テ遅クモ大正二年三月迄ニハ竣工セラルヘシ

製鍊ニ付テハ眞吹爐ノ統一ヲ計リ舊床二座ヲ廢シ更ニ二座ヲ増設シテ都合五座ト爲シ「ルーツ」式五番型鼓風機一臺ヲ据付ケタリ

坑内鑿岩機用原動力及電燈使用ノ目的ニテ五十母川支流ノ流水ヲ利用シ山内小字持倉ニ發電所ヲ設置シ目下六十馬力「ペルトン」水車二基、直流發電機一基ノ据付工事中ニシテ大正二年二月竣成ノ豫定ナリ

毛猛鑛山 銅

鑛業人 新潟縣北魚沼郡入廣瀬村
合名會社 藤田組

本年中經營セル事業ハ主トシテ探鑛準備並ニ製鍊及運搬設備ノ完成ヲ期シタルニアリ

探鑛ニアリテハ一番坑、二番坑、三番坑ハ前年ニ引續キ鑢押探鑛ヲ進メ尙ホ既知ノ鑛石ニ對シテハ探鑛準備ヲ爲シ大正二年ヨリ毎月十萬貫ヲ探鑛シ得ル程度ニ進捗セリ

運搬ニアリテハ坑内鑛石ハ凡テ堅坑ニ依リテ三番坑ニ下シ三番坑ヨリハ木製軌條ニテ坑外ニ搬出シ輕便鐵索場ニ集ム鐵索ニテ搬送シタル鑛石ハ更ニ木道ニ依リテ製鍊場ニ運搬スルノ設備ヲ

完成セリ

製鍊場トシテハ木造平家八十一坪ヲ建設シ丸形徑三尺五寸熔鑛爐一座「ルーツ」式四番型鼓風機及其動力用木製水車徑十八尺幅三尺ノ据付ヲ了シ尙ホ附屬器具ノ竣成ヲ待チ大正二年二月ヨリ一箇月鑛石十萬貫ヲ處理シ得ヘキ程度ニ達スルヲ得タリ

日立鑛山

金銀銅

位置
鑛業人

茨城縣多賀郡日立村
久原房
外一郡二村
之助

本山ノ主腦運搬坑タル第一豎坑ハ本年中ニ直立百五十九尺ヲ掘下ケ全長千六十一尺ニ達シタリ次ニ當豎坑ニ於テ運搬能力ヲ増シ兼テ昇降ノ際生スル危險ヲ防止スル爲メ從來ノ捲揚機ノ外ニ更ニ人ノ昇降及坑內材料ノ運搬專用ニ供スル捲揚機ヲ増設シ十月下旬完成セリ又前年來工事中ナリシ中盛部第四豎坑ハ零尺坑道ヨリ已ニ三百五十尺坑道マテ開鑿シ捲揚機ヲ設ケ一方五百尺坑道ヨリ掘上ケ中ニシテ本年末其掘進百八尺ニ達セリ

本坑西部ニテハ零尺坑道以下ノ鑛石捲揚ノ爲メ同零尺地並ニ第五豎坑ノ開鑿ヲ企テ十二月初旬二百尺坑道ヨリ掘上ケニ着手セリ而シテ其鑛石ヲ坑外ニ搬出スルニ電車ヲ使用スル計畫ヲ立テ零尺坑口ヨリ該豎坑マテ約二千尺ノ間坑道ノ改修ニ着手シ已ニ改修ヲ了シタル長サ千四百八十五尺ニ及ヒ大正二年二月ニハ全部竣工ノ見込ナリ

又第一豎坑ト第四豎坑トノ連絡完成シタルヲ以テ從來二百尺坑道以上ノ鑛石捲揚ニ供シタル第二豎坑ハ捲揚機ヲ廢シ零尺ヨリ三百五十尺ノ間ニ於テ單ニ土砂豎坑トシテ使用スルニ至レリ選鑛場ニテハ從來ノ手選鑛場ノ外之ニ隣接シテ機械選鑛場ヲ新設セリ其工程一日約六萬貫ニシ

テ附屬機械次ノ如シ

「ブレイキ」式碎鑛機	一	「クローム」式轉碎機	一	電氣篩	一
「ベルト」運鑛機	一	「バケット」運鑛機	二	水洗圓錐篩	一
「ハルツ」式淘汰器	一	水壓分級器	一	「カロー」式「コーン」	一
「ウキルフレー」汰盤	一				

製鍊場ニ於テハ取扱鑛量ノ激増ト共ニ左ノ新設備ヲ爲セリ

鎔鑛爐

三 各長十五呎十吋、幅四呎、鎔鑛量三爐合計ニテ一日十一萬貫トス

「コンバーター」坐

一 從來ノ者ト同型ニシテ附屬シエル「四個」ヲ増加セリ

三十噸起重機

一 鍊銅場ニ増設ス

鼓風機

四 内容左ノ如シ

種 類	一分間ノ風量	風 壓	用 途
二號「ターボ」鼓風機	四、〇〇〇 <small>立方尺</small>	一平方吋ニ付 十二封度	コンバーター用
三號 同	一六、〇〇〇	同 一封度半	鎔鑛爐用
四號 同	二五、〇〇〇	同 三封度	同
離心鼓風機	一〇、〇〇〇	水銀柱 三十五耗	同

電鍊場ニ於テハ從來電氣銅一箇月百萬斤ヲ製出シタルモ更ニ五十萬斤ヲ増シ一箇月百五十萬斤

トセリ其擴張ノ内容次ノ如シ

分解室 既設電鍊場建家ノ西方ニ接續建設シ長百三十五尺幅五十尺ニシテ電槽ハ長九尺五寸幅二尺六寸深サ三尺五寸ノモノ九十八槽幅深サ前同様ニシテ長十尺ノモノ四十二槽合計百四十槽ヲ増設シ一箇月工程電氣銅五十萬斤ノ豫定ナリ

製板室 電氣銅種板ヲ製作スル爲メ前記分解室脇ニ新設ス其長六十尺ニシテ幅三十六尺ナリ又現今當鑛山ノ原動力トシテハ石岡發電所ヨリ四千「キロワット」ノ電力供給ヲ受ケツ、アルモ事業ノ發展ニ伴ヒ電力ノ不足ヲ感シ本年八月更ニ福島縣石城郡赤井村ヲ流ル、夏井川ニ七千二百「キロワット」ノ水力發電所ヲ設クル計畫ヲ建テ大正三年ヲ以テ完成ノ筈ナリ

高取鑛山 錫重石

鑛業人置 三英城縣東英城郡岩船村菱合資會社

本山一番鑛下部探鑛ノ目的ヲ以テ通洞地並以下百五十尺ヘ向ケ相ノ澤通路分岐點ヨリ延長千四百尺ノ豫定ヲ以テ本年一月ヨリ開鑿ニ着手シ十二月末ニ於テ其掘進延長千三百八十尺ニ達シタリ右ハ次年初メニ於テ竣工ノ筈ニシテ該貫通後坑況如何ニ依リ機械選鑛等一般ノ事業設備ヲ改良ル豫定ナリ

足尾銅山 金銀銅

鑛業人置 栃木縣上都賀郡足尾町古河合名會社

前年來坑夫ノ不足ヲ補ハンカ爲メ坑井掘上ニ「ストーパー」ヲ試用セル結果ニ鑑ミ更ニ進ンテ之ヲ階段掘ニ應用シタルニ其成績良好ニシテ探鑛工程ヲ増進スルト共ニ人力ヲ節約スルコト尠カラサルニ至レリ

鑿岩機殊ニ「ストーパー」ノ使用大ニ増加シタルヲ以テ、字新梨子ニ壓氣機工場ヲ増設シ更ニ從來ノモノト同型ノ「インガーソルランド」會社製三百二十馬力、壓氣機一臺ヲ据付ケタリ其要點左ノ如シ

一分間ノ壓氣量

一、七〇〇^{立方尺}

使用動力

二〇〇^{馬力}

輸送鐵管（八吋管）

八、〇〇〇^尺

使用シ得ヘキ「ライナー」式鑿岩機

一七

通洞第二選鑛場ハ從來一日平均二百噸ノ二番粗鑛ヲ取扱ヒツ、アリシカ坑内ニ於ケル粗鑛採取方法ノ進歩ニ伴ヒ取扱鑛量ヲ倍加スルノ必要起リ四十三年下季ヨリ擴張工事ニ着手シ本年五月竣工セリ

本山第三選鑛場及小瀧第二第三各選鑛場共現在ノ設備ニテハ晝間ノ操業時間ニ於テ二番粗鑛二百噸ヨリ生スル細粒鑛ヲ取扱フニ止マリ現在ノ產出高及將來ノ計劃ニ對シ規模小ニ過クルノミナラス選鑛方法ニ改良ヲ要スヘキ諸點亦尠カラサルヨリ今後ハ二番粗鑛二百六十噸ヨリ生スル細粒鑛ヲ處理スルト同時ニ從來漲水又ハ汰滓トシテ流失セシモノヲ再ヒ處理シ其實收率ヲ本山ハ百分ノ五小瀧ハ百分ノ五・〇五ニ増加セシムル爲ニ改修ヲ施シ本年六月竣成セリ

產銅増加ノ計劃ニ伴ヒ新製鍊工場完成後一時廢止セル舊三號鎔鑛爐及附屬排煙扇風機ノ再使用ヲ爲スト共ニ傾轉式燒熔壺一個及鍊銅爐一個ヲ増設セリ其大サ能力左ノ如シ

傾轉式燒熔壺

胴徑 九尺
深サ 四尺二寸

一回燒熔量

十噸

同燒時間

十一時間

鍊銅爐 橫置圓筒型

胴徑 七十二吋
胴長 百吋

一回ノ容量

五噸

從來製鍊熔鑄爐ヨリ生スル粒鏝ハ電氣鐵道ニ依リ高原木堆積場ニ送棄シツ、アリシモ漸次場所ノ狹隘ヲ告クルニ至リシヨリ字松木ニ第二堆積場ヲ新設シ之カ搬送ノ便ニ供スル爲メ目下單線式架空鐵索架設中ニシテ大正二年一月中ニ竣工スル見込ナリ其方式及能力左ノ如シ

索道ノ方式

單線玉村式

一時間ノ運搬量

二十噸(上荷)

線路ノ延長

八千六百九十一尺

運搬速度

一秒間六尺

日光電氣精銅所ニ於テハ左記工作物ヲ増築及新設セリ

反射爐ノ増設及附屬煙突設置

目的

精銅及電氣銅ノ再熔

寸法

從來ノモノト同型

汽罐ノ増設

一

目的

丹礬液加熱用

種類 「スターリング」水管多管式

常用壓力 一平方吋四十封度

併列分銅場ノ増設

昨年ヨリ工事中ノモノ本年五月竣工使用スルニ至レリ

空氣壓搾機及電働機ノ設置

目的 直列分銅、併列分銅、鍊銅工場及丹礬工場へ送風スルモノナリ

(イ) 空氣壓搾機

二

回轉數

百六十五

一平方吋壓力

最低 三十封度
最高 三十封度

常壓送風量

一臺一分間 千六十八立方尺

(ロ) 電働機

二

樣式

三相交流式

馬力

百二十五馬力

「ルーツ」式鼓風機ノ設置

目的 鍊銅工場及分銀工場へ送風ス

型 五番型

常壓送風量 六千立方呎（一分間）

分銀場ノ擴張

目的

取扱量増大シ從來ノモノ、ミニテハ狹少ヲ感スルヨリ左記ノ機械ヲ増設セリ

(イ) 吸込扇風機及電働機各一及

(ロ) 小吹爐一、南蠻爐二、燒鍋爐一ヲ新設ス

丹礬場移轉及増設

目的

新設分銅場ノ落成ニ伴ヒ從來ノモノノミニテハ狹隘ヲ告クルヨリ他ニ移轉シ同時ニ左ノ通り擴張セリ

蓄液槽

一一

結晶槽

二〇

蒸汽槽

二

蒸發爐

一

空氣壓搾唧筒

一

木戸ヶ澤鑛山 銅

位置 栃木縣鹽谷郡藤原村
鑛業人 田中合名會社

前年來設計中ノ機械選鑛場ハ本年九月其工事ヲ完成シ一箇月十五萬貫ノ粗鑛ヲ處理シ精鑛三萬貫ヲ得ツ、アリ右ニ使用セル機械器具左ノ如シ

鐵 篩

一

「クローム」式轉碎機

一

「ブレーキ」式嚙鑛機

一

「バケット」運鑛機

一

回轉圓篩

二

跳汰器

二

手選臺

一

「レツフェル」式橫置汽機

一

從來鑛石ノ全部ハ日立鑛山ニ販賣シツ、アリシカ本年其大部ヲ本山ニ於テ製鍊スルノ方針ニ改

メ舊來廢止シタル製鍊場ヲ復興セリ其設備次ノ如シ

隋圓形（長徑四呎六吋
短徑三呎）熔鑛爐

真吹爐（徑三尺）

一 四

「ルーツ」式五番型鼓風機

一

尙ホ大正二年ニ於テハ熔鑛爐一座鼓風機一基ヲ増設スルノ計劃中ニアリ又鑛石其他ノ運搬ノ便ヲ計ル爲メ豐岡村大字栗原ヨリ藤原村大字柄倉同小佐越ヲ經テ鑛山ニ至ル馬車鐵道ヲ布設スル計劃中ナリ

坑内諸機械ノ動力トシテ從來蒸汽ヲ使用シ來リタルモ大正二年末迄ニ之ヲ電氣力ニ改ムルノ目的ヲ以テ其原動所ノ設計中ニ屬ス

釜ノ澤鑛山 銅

位 置 栃木縣鹽谷郡船生村
鑛業人 前 川 忠 藏

本鑛山ハ數年來微々タル稼行ヲ繼續シタリシカ明治四十四年末坑内打上ニ於テ富良鑛帶ニ逢着シ爾來採鑛場ヲ増設シ而シテ同年ニ於テハ僅ニ銅鑛六萬四千四百九十貫餘ヲ產シタルモ本年ニ於テハ三倍餘ノ増加ヲ示シ銅品位百分ノ七ノ鑛石二十萬千六百四十七貫餘ヲ產出スルニ至レリ

日光鑛山 金銀銅

位 置 栃木縣鹽谷郡大宮村外二村
鑛業人 安 藤 德 之 助

鑛床下部ヲ採掘スル爲メ明治四十四年中起工シタル通洞地並以下大堅坑ノ掘下工事ハ本年九月第一期計劃ノ深度百二十尺ニ達シ以來同坑底ヨリ水平坑道ヲ掘鑿シ採鑛ヲ開始セリ又大堅坑内排水及鑛石捲揚裝置並ニ之ニ要スル原動裝置ハ同年九月之ヲ完成セリ

從來採掘ノ鑽石ハ手選ニ付シタリシモ坑内ニ於テ含銅低キ粗鑛ノ漸次増加スルニ至リシカ爲メ
本年度ニ於テ機械選鑛場設置ノ計劃ヲ定メ十二月ヨリ工事ニ着手シ大正二年五月之カ完成ノ豫
定ナリ而シテ其設備ノ機械器具左ノ如シ

四十耗鐵篩 一 「バケツト」連鑛機 二

十五耗鐵篩 一 圓篩 四

循環式手選帶 一 「ハルツ」式跳汰器 三

「ブレーキ」式嚙鑛機 一 「リツチンガー」式尖箱 一

「クローム」式轉碎機 二 「ウキルフレー」式汰盤 二

右設備完成ノ上ハ一日四十噸ノ粗鑛ヲ處理シ平均含銅百分ノ一〇ノ精鑛十四噸ヲ産スル豫定ナ
リ

野州銅山 金銀銅 鑛業人 伊木縣鹽谷郡船生村

本鑛山ハ從來本鑛及裏山鑛ノ黃銅鑛ヲ目的トシテ稼行シ而シテ四十四年末ヨリ繼續工事中ナリ
シ第三通洞ハ本年一月ニ至リ延長七百五十尺餘ヲ掘進シテ第二通洞掘下ケ堅坑ト貫通セリ又八
月ヨリハ第三通洞ヨリ堅坑ヲ掘下ケ十二月中四十尺ノ下底ニ達セリ大正二年一月ヨリ第四通洞
即チ大通洞ノ開鑿ニ着手スヘク諸準備整頓セリ此ノ大通洞ハ約三百尺ニシテ本鑛ニ着シ尙ホ掘
進六百尺ニシテ裏山鑛脈ニ達スヘク其途中二條ノ鑛脈ヲ縫行スヘキ豫定ナリ
本鑛山裏山坑ノ事業トシテハ明治四十四年末第二通洞鑛押掘進中斷層ニ會シ鑛脈ヲ見失ヒタル

爲メ一時操業ヲ中止セシカ其後銳意探鑛ノ結果本鑛脈ヲ發見セシカハ再ヒ工事ヲ進行シ十二月末ニ至リ鑛押合計三百尺ニ及ヘリ依テ大正二年ヨリ階段掘ニ着手スヘキ豫定ナリ坑外設備トシテハ從來架設ノ自働鐵索ノ外更ニ一條ヲ増設シ其下端ト選鑛場間ノ鑛石運搬ノ便ニ供シ其他選鑛場ニ嚙鑛機、搗鑛機及跳汰機ヲ新設シ且ツ此等諸機械ノ動力トシテ直徑十五尺ノ水車ヲ設置セリ

幸鑛山 金銀銅 亞鉛 鑛業人 兵 木 縣 鹽 谷 郡 船 生 村

本鑛山ノ稼行鑛床ハ二條ニシテ何レモ石英粗面岩及其凝灰岩中ニ胚胎シ而シテ其一ハ走向三五度乃至四十度他ハ五十度ニシテ相交叉シ共ニ西北ニ傾斜ス其脈幅ハ三十五度鑛ニ於テハ二尺乃至三尺五十度鑛ニ於テハ上部二尺内外ナルモ下部ニ至リ三尺乃至四尺トナリ又兩鑛脈ノ交叉點附近ニ於テハ膨大シテ六七尺ヲ呈スルコトアリ

含有鑛物ノ種類ハ三十五度鑛ニアリテハ素灰鉛（粉狀ヲ爲セル鑛）紫蘇鉛（斑銅）ヲ主トシ黃鐵鑛及黃

銅鑛ヲ混合シ又五十度鑛ニアリテハ黃銅鑛ヲ主トシ之ニ黃鐵鑛及素灰鉛ヲ夾在ス

右鑛床ハ數年間ニ亘リ探掘セラレシモ五番坑ニ下リテ湧水ノ爲メニ其操業困難ヲ極メ茲ニ同方面ノ探掘ヲ中止セリ爾來兩三年間上部ニ於テ微々タル稼行ヲ繼續シタリシカ銅價恢復ノ機ニ接シ再ヒ下底ノ探掘ヲ企劃シ本年五月通洞坑口附近ニ十馬力吸入瓦斯發動機並ニ二百二十「ボール」ト「七」キロワット「直流發電機ヲ据付ケ坑内ニ送電スルコト、シ坑内ニ於テハ通洞坑準以下一百尺ノ五百番坑ニ五馬力直流電動機並ニ之ニ直結セル五馬力ノ「タービン」唧筒ヲ据付ケ一日平均四時

間ノ運轉ヲ以テ一晝夜ノ湧水二百石ヲ揚水シ得ルニ至リ前年來中止シアリタル五番坑ヲ延長シ又五番坑ヨリ五十尺ノ下底ニ六番坑ヲ開鑿シ以上二坑道ニ於テ採鑛場ヲ増設シ六七月頃ヨリ漸次鑛夫ヲ増員シ平均品位百分ノ七ノ銅鑛十三萬八千五百九十四貫ヲ掘採シタリ之ヲ前年度產額八萬六千三百七十七貫ニ對比スレハ實ニ六割以上ノ増額ナリトス

久根銅山 銅 鑛業人 古河合名會社

運搬ノ敏活ヲ期スル爲メ久根川口間ニ鑛業特設電話ヲ架設セリ

峰ノ澤鑛山 金銀銅 鑛業人 久岡縣磐田郡龍山村

本山ハ明治四十一年以降三箇年間探鑛ニ從事シ而シテ四十四年ニ至リ探鑛ノ準備成リタルヲ以テ本年一月ヨリ探鑛ニ着手シ同月鑛石十二萬貫ヲ產出セリ二月鑛山ヨリ天龍川船積場ニ至ルハ「リデー」式單線架空鐵索ノ工事完成ヲ見ルニ至リ爾來每月出鑛ヲ増加シ五月香平鑛山ト合併シ本年中銅鑛六百三十四萬千二百二十一貫其品位百分ノ三・八八ヲ產出スルニ至レリ其鑛石ハ日立鑛山ニ送致シ同山ニ於テ製鍊ニ附スルモノトス

本年中ニ於ケル事業ノ進捗及擴張ノ大要ヲ述フレハ次ノ如シ

峰ノ澤坑内ハ其主要四坑道共ニ北方ニ掘進シ其最下ナル運搬坑道ハ延長二千五百尺餘ニ達シ舊香平坑内ノ下底ニ達セントセリ又香平坑ノ北方四箇所ニ露頭部ニ近ク探鑛ヲ爲シタル結果悉ク其鑛床ノ北方ニ連亘スルヲ證シ現在知り得タル鑛床ノ延長六千尺ニ達セリ此等露頭ノ下底ヲ探ラン爲メ天龍川水面上千尺ノ高サニ於テ寺澤ノ北岸ニ一坑奥城秋葉街道上ニ一坑ノ鑛入ヲ掘進

セリ前者ハ著鑛豫定七百尺ニシテ後者ハ八百十尺ナリ而シテ此掘進ニハ迅速ヲ期スル爲メ「ウオ
ターライナー」七番型鑿岩機各二臺ヲ使用スルコト、セリ又本年八月千代澤ノ南岸ニ選鑛場ヲ設
置シ一箇月百八十萬貫ノ粗鑛ヲ處理シ得ルニ至レリ選鑛ニ使用スル機械器具其大サ數量等左ノ
如シ

種 類	幅	長	目ノ大サ	個 數
鐵 篩	五 _尺 〇	五 _尺	一五〇 _耗	三
斜 篩	五 _尺 〇	一八	四〇	三
麻 帶 運 鑛 機	一 _尺 五	二五〇		一
鐵板製手選運鑛機	二 _尺 五	二四〇		一
嚙 鑛 機	口 徑 七 _吋	一〇 _吋	四〇	一
圓 錐 篩	口 徑 五 _尺 〇	六 _尺	一八	一
「バケツト」運鑛機	〇 _尺 八	三七		一
覆 車 機				

尙ホ選鑛用並ニ鑿岩機用原動力トシテ天龍川ノ對岸宇大庭地内ニ二百五十「キロワツト」發電所ヲ
設置シ本年十一月其工事ヲ竣成セリ

大松山鑛山 金銀 位置 靜岡縣賀茂郡下河津村 鑛業人 黒瀧 慎三郎

本鑛山ハ四十四年二月以來銳意坑内ノ整理ニ努メ出鑛量ヲ増加シ毎月鑛石十萬貫内外ヲ製鍊ニ供シ來リシモ四十五年五月日立鑛山ニ賣鑛ヲ開始スルニ至リテヨリ毎月鑛石二十萬乃至三十萬貫ノ出鑛ヲ見ルニ至レリ目下運搬ハ東京灣汽船會社ト特約ヲ爲シ三日毎ニ汽船ヲ回航セシメ搬出シツ、アルモ將來ハ汽船一艘ヲ購入シ一箇月四五十萬貫ヲ輸送スル計劃ナリ

本年中手選鑛場二棟及泥鑛青化製鍊場一棟ヲ開設シ其他貯鑛場並ニ倉庫附屬建物等五棟ヲ増築セリ

繩地鑛山 金銀 位置 靜岡縣賀茂郡下河津村外一村 鑛業人 磯野 良吉

本山ハ數年以前製鍊場ヲ設置シ採金セシモ實收率不良ナリシ爲メ萎靡振ハス殆ント休業同様ノ狀態ニアリシカ近來日立鑛山ニ賣鑛ヲ開始スルト共ニ俄ニ長足ノ進步ヲ爲シ本年二月以來坑夫數ヲ増シ其產額ハ前年ノ二倍半即九十六萬二千四百貫ニ達セリ此含有金量九貫二百四十八匁餘同銀量百三十三貫七百七十五匁餘ニシテ重要鑛山ノ資格ヲ得ルニ至レリ

土肥鑛山 金銀 位置 靜岡縣田方郡土肥村 鑛業人 長谷 川 銑五郎

賣鑛運輸上ノ便ヲ計ランカ爲メ海岸ニ手選鑛場二棟ヲ増築シ之ヨリ坑口ニ至ルノ距離二百間ト坑内延長二百七十間計四百七十間ノ間ニ十二封度軌條ヲ布設セリ本山ハ坑況良好ニシテ以上運搬設備ノ改善ト相俟チテ大ニ出鑛量ヲ増加シ其產額金銀鑛八十一萬三千百六十八貫品位金十萬分ノ二、銀萬分ノ二、四其販賣價格金七萬二千八百八十五圓餘ニ上リ金銀山トシテ重要鑛山ノ資格

ヲ得ルニ至レリ

奥山鑛山 銅 鑛業人 渡岡縣賀茂郡南上村
位 置 靜岡縣邊平四郎

本山鑛區ノ内探登第七九號ハ前年中事業ヲ開始セル試登第二三八號ヨリ移リタル者ニシテ其鑛石ハ一般ニ品位高ク鑛物ハ輝銅鑛ヲ主トシ黃銅鑛及斑銅鑛之ニ次ク品位ハ百分ノ六乃至一〇ニシテ富鑛帶ニテハ百分ノ七十ニ達スルモノ珍ラシカラス坑道ノ延長ハ本年中千尺餘ニ達シ鑛脈ハ時々膨縮シ廣キハ幅十尺以上トナレルモ二尺ヲ下ラス

又其隣區探登第二號及第三號鑛區ハ前年七月第一等坑ト稱スル舊坑ノ取明ケニ着手シ最近ニ至リ延長六百尺ニシテ前記第七九號ノ鑛床ト同一ノモノニ逢着セリ

以上三鑛區ハ合併操業ヲ營メルモノニシテ本年中ノ總出鑛量ハ四十二萬七千貫ニ上レリ而シテ此等ノ鑛石ハ全部日立鑛山及關東酸曹株式會社ニ賣鑛ス現在使役人員百十五名ナリ本年ノ擴張事業ハ坑内ノ探鑛場整頓ノ外幅九尺長千百四十間ノ特設道路ヲ作り山元ヨリ荷馬車ヲ以テ鑛石運搬ノ道ヲ開キ又分析所ヲ新設セリ

神岡鑛山 金銀銅鉛亞鉛 鑛業人 岐阜縣吉城郡船津町外一村
著鉛鐵重石砒 位 置 三井鑛山株式會社

前年以來進鑿中ナリシ漆山坑内堅坑ハ餅ヶ淵坑道準以上約二十尺ノ地點迄掘下ヲ了シ通洞餅ヶ淵兩坑貫通シ相互間ニ「ケージ」ノ運轉ヲ見ルハ近ク數週ノ後ニ迫レリ（目下通洞準以下下三番坑迄三百五十五尺間「ケージ」運轉ス）

捲揚機械ノ掘付ヲ了セシモノハ胴ノ直径七呎幅一呎一分間ノ回轉數十回、一回ニ付實量二百貫ヲ

捲揚クルモノニシテ之カ原動力トシテ直徑三呎十馬力ノ「ペルトン」水車ヲ据付タリ

兼テ計劃中ナリシ鑿岩機ハ四十四年下期ヨリ使用ヲ始メ漆山豎坑掘下リニハ「ウォンダー」式餅ヶ淵坑々道進鑿ニハ「ウォーター・ライナー」式ヲ使用セリ而シテ空氣壓搾機ハ坑内豎坑口附近ニ一基餅ヶ淵坑口附近ニ一基ヲ据付ケタリ何レモ「シリンダー」徑十二吋衝程十吋回轉數百八十氣壓八十封度ニシテ水頭ハ坑内ノ分五百八十三尺餅ヶ淵ノ分四百二十五尺ナリ而シテ原動「ペルトン」水車ハ何レモ徑四尺馬力十二ナリ

茂住方面ニ於テ清五郎谷坑探鑛ノ結果有望ナルヲ認メ其運搬設備トシテ清五郎谷三號附近ヨリ天戸平池ノ山間運搬軌道終端迄左記單線無極式架空鐵索ヲ建設セリ

水平距離

四、四二九_ハ

鐵索ノ長サ

四、八〇〇

兩端高距ノ差

一、一八八

原動用「ペルトン」水車徑

四

有効水頭

二七〇

前記清五郎谷鑛床ハ遠ク越中國福澤村ニ僻在シ操業上不便尠ナカラサルニ依リ池ノ山方面ト連絡スルノ必要上池ノ山四號坑ヨリ一大橫坑開鑿ノ目的ヲ以テ「ウォーター・ライナー」式鑿岩機ヲ据付ケ空氣壓搾器ハ「シリンダー」徑十吋衝程十吋回轉數百八十氣壓八十封度ヲ用ヒ之カ原動力タル「ペルトン」水車ハ徑四尺有効水頭二百七十尺ノ豫定ヲ以テ今ヤ施工中ナリ

鹿間精鑛場比重選鑛場ニ粗鑛篩別用鐵製斜格子二、尖函三ヲ増設シ「ウキルフレ」汰盤二ヲ撤去セリ

鹿間精鑛場磁氣選鑛場ニ衝動長方形篩一、廻轉燒鑛爐一、冷鑛室一、「バケット」運鑛機一ヲ増設セリ

茂住精鑛場ニ「ウキルフレ」汰盤二ヲ増設セリ

製鍊場ニ於ケル舊來ノ煙道ハ通風不充分ナリシヲ以テ之カ完全ヲ期スル爲メ煙道ヲ改築シ略ホ竣工セシヲ以テ近キ將來ニ於テ新煙道ヲ使用スルト共ニ扇風機ヲ廢止スル豫定ナリ

「バチレソン」收銀爐容量四千貫ノモノ並ニ獨逸式分銀爐容量千五百貫ノモノ各一座据付ヲ爲セリ
亞鉛鑛焙燒ノ目的ヲ以テ反射爐長四十八尺五寸幅十六尺二寸ノモノ十座ヲ新設シ亞鉛精鑛毎月一千噸ヲ處理スル計劃中ニシテ建物ハ既ニ落成セリ

右燒鑛ヲ蒸餾スル製鍊場ハ福岡縣三池ニ新築中ニシテ竣工ノ上ハ一箇年燒鑛一萬二千噸ヲ處理シ亞鉛約四千三百噸ヲ得ルノ豫定ナリ

大倉鑛山 銀銅鉛 位 置 岐阜縣益田郡高根村
鑛業人 永田吉右衛門

本鑛山ハ本年中坑内外ニ輕便軌道ヲ布設シ選鑛機械「ブレイキ」式碎鑛器一臺轉碎機一臺ハンチントン「磨鑛機二臺」ウキルフレ「汰盤四臺」ノ据付ヲ了シ而シテ右諸機械ヲ運轉セシムルニ足ルヘキ發電機据付工事設計中ナリ

生野鑛山 金銀銅鉛亞鉛銻
重石錫安質母尼 鑛業人 兵庫縣朝來郡生野町
三菱合資會社

昨年新設ニ係ル銻鑛爐使用ノ結果從來ノ電働機五十馬力ノモノヲ七十馬力ニ變更セリ

太盛坑ノ鑛況ハ顯著ナル變化ナク從來ノ如ク太盛本鑛及千荷鑛ニ重キヲ置タリシカ更ニ發展ノ目的ニテ南ハ授盛坑及貴盛坑ヲ取明ケ西ハ奥鑛ヲ探リ北ハ新德坑方面東ハ久寶坑方面ヲ夫々探鑛シ尙ホ千荷鑛及前鑛ノ太盛本鑛以西ヲ探鑛セントスル計劃ナリ

金香瀨坑ニ於テハ金香瀨本坑道ト蟹谷坑トノ貫通セシ結果同坑ハ金香瀨坑ト合併シ鑛石ハ總テ金香瀨坑ニ搬出シ若林選鑛場ヲ廢止シタリ

千珠銅脈堅坑ハ本坑道以下八百尺ニ達シ十一番坑道ニ至レリ五番坑道ト光榮銀脈堅坑トヲ貫通セシムヘキ坑道ノ掘鑿ハ尙ホ七百尺ヲ餘シ大正二年八月貫通ノ豫定ナリ

金香瀨坑ノ鑛況ハ益々良好ナレトモ運搬設備未タ充分ナラサルヲ以テ大正二年ニ於テ堅坑選鑛場間ニ電氣鐵道ヲ布設シ之カ原動力トシテ長谷發電所内ニ二百「キロワット」發電機一臺ヲ設置スル計劃ナリ

瓢箪坑ハ明治四十五年五月以降一番坑ヨリ六十尺下部ニ二番坑ヲ開坑セリ昨年十二月瓢箪坑口ノ對岸ニ開坑シタル櫻坑ノ鑛脈ハ瓢箪坑鑛床ノ西五六十間ニ位シ之ト併行シ全ク異ナル鑛床ナルカ如シ

明延支山產出ノ錫鑛尾鑛ハ從來「ウキルフレー」汰盤及「ビンダー」汰盤各一臺乃至三臺ヲ以テ淘汰シ來リタルモ更ニ其尾鑛ヲ選鑛スル目的ニテ本年四月以降本山沈鑛場ニ水壓分粒器一臺「ウキルフレー」汰盤一臺自然分粒器二臺三番型「デイスター」汰盤一臺ヲ増設中ナルカ大正二年一月ヨリ運轉開始ノ見込ナリ

尙ホ錫汰鑛中ノ銅鑛除去ノ目的ヲ以テ各汰盤ヨリ穫收シタル錫汰鑛ヲ「ヘレスホッフ」式燒鑛爐一座(爐全高十三尺五寸内徑九尺五寸外徑十二尺)ニテ煅燒シ其約九割ハ「デイング」式選鑛機一臺幅三尺十一吋長七尺十吋高八尺三吋ニ依テ分離シ他ノ小部分ハ水溶解槽及硫酸溶解槽各一個(水槽内徑四尺酸槽内徑三尺五寸深各三尺)ニ給送シテ銅溶液ヲ造リ鐵ヲ以テ沈澱銅ヲ得ル計畫ナルカ磁選鑛機取扱豫定量ハ十時間十噸錫汰鑛ノ錫品位百分ノ五三銅百分ノ二ノモノヲ錫品位百分ノ六〇銅品位百分ノ〇・六ニ向上セシムル見込ナリ又附屬原動機トシテ十二馬力電壓四百四十「ボルト」三相交流電勵機一臺及五馬力電壓百十「ボルト」直流發電機ヲ新設シ明年四月頃ヨリ操業開始ノ豫定ナリ而テ錫汰鑛ハ反射爐(爐床長十二尺幅七尺)ヲ用ヒ還元シ粗錫ハ鐵鍋三箇ヲ有スル絞床ニヨリ精製スヘキ計畫ニシテ一箇月取扱豫想量燒錫鑛六十噸ニ對シ上錫卅一噸六ヲ得ヘキ見込ナリ生野鑛山明延坑

本鑛山ハ近年錫鑛ノ產出ヲ以テ其名最モ顯著トナレリ鑛區内ニハ無數ノ露頭アリテ主ナル坑口ハ小峯坑、赤榮坑、百間坑、龜盛坑、明盛坑、大瀧坑、二本松坑等ニシテ就中龜盛坑ハ主トシテ銅鑛ヲ明盛坑ハ主トシテ錫鑛ヲ產出シ其他ハ錫及銅鑛ヲ共產ス其他煙山坑、萬年坑、鹿盛坑、大洞坑等ハ鑛況振ハス目下殆ント操業中止ノ狀態ナリ

最近開坑セシ坑口ハ大瀧坑、林榮坑、明盛、東山新坑、新盛坑等ニシテ尙ホ近キ將來ニ開坑セントスル露頭數箇所アリ

尙ホ大正二年ニハ鑿岩機五臺ヲ以テ主要坑ヲ錫押ニ掘進シ探鑛ヲ兼ネ探鑛場ヲ擴張セントシ更

ニ大正三年ニハ明延ニ機械選鑛場新設ノ計畫アリ而シテ此等ノ原動力トシテ明延川及橫行川等ノ水分ヲ調査中ナリ

從來鑛石ヲ生野本山ニ運搬スル爲メニハ迂廻路ヲ執リ荷車ヲ以テ養父市場停車場ニ送り更ニ汽車便ニ依リタリシカ今回明延神兒畑間三哩三分ノ間ニ玉村式單線索道ヲ架設シ神兒畑ヨリ軌道ニ依リテ本山ニ送付スルコト、ナリ將來明延坑ノ發展ニ資スル所多大ナリトス

生野支山神兒畑坑

秀盛第二坑ハ前年末鑛床ニ着シ一時非常ノ良銀鑛ヲ出シタリ同二年一月ニハ更ニ其百尺下部ニ大切坑ヲ開坑スル豫定ナリ

川上鑛山

銀銅鉛

鑛位 兵庫縣神崎郡長谷村
置 土屋峰吉

設備ニ變更ナキモ第一坑内ニ於テ富鑛帶ニ遭遇シタル結果鑛夫十數名ヲ増加セリ

赤金鑛山

銅 鑛位 兵庫縣栗原郡繁盛村
置 石原久之助

川向第一坑ニ於テ富鑛帶ニ遭遇シタルト又川途第三坑内坑口ヨリ百七十間ノ位置ニ「ジエツト」唧筒ヲ裝置シ十二月ヨリ排水ニ着手シ(一分間ノ排水量十立方尺)同坑下底ノ開發ニ努メ鑛夫ヲ増員

シ採鑛ヲ爲セル結果鑛產額ヲ増加セリ尙ホ製鍊場ニハ容量八百貫人熔燒爐一臺設置中ナリ

南谷鑛山

銀銅鉛

鑛位 兵庫縣養父郡南谷村
置 西川寅太郎

桐ノ木迫谷ニ於テ硅質鑛脈ヲ發見シ一號、二號、三號ノ三坑口ヲ開坑シ鑛追ニ探鑛シツ、アリ

立脇鑛山

金銀銅

鑛位 兵庫縣朝來郡中川村
置 大橋倉次郎

八千代坑ノ下底百尺ニ向ヒ「ラン谷」上流ヨリ南向ニ大切坑ヲ開鑿中ニシテ大正二年十月完成ノ見込ナリ

大杉山鑛山 銅 位置 奈良縣吉野郡下市町 鑛業人 林平造

四十五年七月ヨリ第四坑口前ニ選鑛場ヲ新設セリ

寶永鑛山 銅 位置 奈良縣吉野郡白金村 鑛業人 房田セウ

四十五年一月現鑛業人ニ鑛業權移轉ト共ニ鑛夫ヲ増加シ疏水坑口前ニ手選鑛場ヲ新設シ約二萬

貫ノ精鑛ヲ搬出セリ

紅陽鑛山 銅 位置 奈良縣吉野郡白金付 鑛業人 外村宗治郎

現鑛業人ニ於テ鑛業權取得以來探鑛ニ全力ニ注キ疏水坑ノ開鑿中ナリ

竹田鑛山 銅 位置 福井縣坂井郡竹田村 鑛業人 伊藤熊槌

四十五年以來鑛夫ヲ増加シ探鑛及探鑛ヲ擴張シ目下豎坑ヲ掘下中ナリ

牧谷鑛山 銀鉛亞鉛 位置 福井縣南條郡北杣山村 硫磺 鑛業人 櫻尾長右衛門

舊坑ナル御手山坑水準下ノ富鑛部ヲ採取ノ目的ニテ四十五年三月以來同坑下底ニ向ヒ通洞坑ノ

開鑿中ナルカ十月初メ進捗工程二百五十尺ニ達シ大正二年二月貫通ノ豫定ナリ

巖洞鑛山 銀銅 位置 福井縣大野郡下穴馬村 鑛業人 三菱合資會社

大正元年十一月以來碎鑛跳汰機各一臺ヲ設置シ之レカ原動用トシテ十馬力「ベルト」水車一臺ヲ

新設セリ

尙ホ四番坑口ヨリ選鑛場迄鑛石捲下ノ便ニ供スル目的ニテ大正元年十一月三百八十四尺ノ自動
複線式索道ヲ架設セリ

面谷鑛山 銀銅亞鉛 位 置 福井縣大野郡上穴馬村
鑛業人 三菱合資會社

本鑛山ハ四十五年六月以降中切坑道水準並以上岩松坑道及地表ニ向ヘル部分ヨリ亞鉛鑛ノ採掘
ヲ開始シ粗鑛ノ亞鉛品位百分ノ一五乃至百分ノ三、鐵百分ノ八乃至百分ノ一五ノモノ毎月約五十
噸ヲ採取セリ又選鑛場ニ「スライム」中ノ殘鑛集取ノ目的ニテ徑十尺ノ「ビンダー」汰盤一臺「デイス
タ」汰盤一臺、床付跳汰器一臺、三角尖箱六個ヲ増設セシカ成績佳良ナリ

中天井鑛山 銀銅鉛 位 置 福井縣大野郡西谷村
鑛業人 三菱合資會社

附屬上若王子製鍊場ニ五噸入り鍋燒釜二箇ヲ増設シ製鍊高ノ増加ヲ計レリ

富來鑛山 金 位 置 石川縣羽咋郡富來村外一村
鑛業人 三菱合資會社

廣地坑鑛況良好ノ爲メ製鍊作業擴張ノ必要ヲ生シ明治四十五年七月以降搗鑛器八百五十封度五
本一組二臺、捕汞器一個、自動給鑛器二個「クリーン、アッブバン」幅四呎深三呎一個「デー
ン」式壓搾器一
個及原動用トシテ「タンギ」式九十四馬力吸入瓦斯發動機一臺ノ増設ニ着手シ十一月初メ完成シ
運轉ヲ開始シタル結果金銀共ニ一箇月約一貫五百目ノ増産ヲ得ルニ至レリ

五國寺鑛山 金銀銅 位 置 石川縣能美郡金野村
鉛亞鉛 鑛業人 合名會社橫山鑛業部

選鑛器械ノ補足改良ヲ計ル目的ニテ明治四十五年一月以降自動給鑛器一、大型圓篩器一、廻轉手選
臺一、粗粒跳汰器二、細粒跳汰器一ヲ増設シ三月ヨリ之ヲ運轉ヲ開始シ又選鑛捨石運搬用ノ目的ニ

テ延長三百五十尺ノ單線式鐵索ヲ架設セリ尙ホ近キ將來ニ於テ金澤電氣瓦斯株式會社ヨリ八十馬力ノ送電ヲ受ケ從來使用セル蒸汽原動機ヲ全廢スル見込ナリ

堅坑ハ二番坑以下百二十尺ヲ掘下リ三番坑道ヲ設ケ採鑛ヲ開始セリ

遊泉寺鑛山

銅 鑛業人 石川縣能美郡國府村外一村
宗治 郎

前年九月以來新築中ナリシ角型鎔鑛爐一基及九十五馬力電動機直結「フンボルト」式高壓扇風機一臺并ニ鎔鑛鑛石運搬用複線式索道ハ四十五年五月落成セリ該扇風機ハ我邦鑛山ニ於テ使用セル嚆矢ニシテ成績良好ナリ

從來ノ大堅坑蒸汽捲揚機ヲ七十五馬力「リチャード」式電動捲揚機ニ變更シ本年七月使用ヲ開始セリ尙ホ十月ヨリ之ヲ鑛夫ノ昇降ニ供用セリ

五番坑道掘下リノ捨石坑水搬出ノ爲メ全坑道準ニ十馬力單胴電動捲揚機一臺ヲ設置シ本年七月ヨリ使用セリ

尙ホ原動力トシテ金澤電氣瓦斯株式會社ヨリ送電ヲ受クルコト、ナリ在來ノ原動機ハ凡テ使用ヲ廢止セリ

尾小屋鑛山

銅 鑛業人 石川縣能美郡西尾村外一村
合名會社 鑛山鑛業部

取扱鑛量増加ノ結果四十五年三月以降「ウキルフレイ」汰盤、「オーバー」ストローム「汰盤」、「ヂスタ」汰盤一ヲ増設セリ又製鍊送風用トシテ四月以降四十馬力及二十五馬力電動機各一臺ヲ新設セリ外ニ運搬設備トシテ厚身坑ヨリ本鋪準ニ鑛石捲下ノ目的ニテ四月以降斜坑ニ自動捲下機ヲ設置

中ナリシカ六月ヨリ運轉ヲ開始セリ又太田坑口ヨリ搬出セル鑛石ヲ本鋪地並ニ降下スル爲メ延長七百二十五尺ノ自動架空索道ヲ架設シ四月ヨリ運轉セリ

本山阿手一部ノ坑内連絡ハ既ニ完成セシカ更ニ其下底即本山三番坑準ヨリ阿手十番坑準下五十尺ノ位置ニ貫通スル疏水坑道ノ開鑿ニ着手ス其豫定延長約二千尺大正二年九月完成ノ見込ナリ波佐羅舊坑道準ヨリ五十谷坑道準下二百二十三尺ノ位置ニ連絡スヘキ坑道ハ大正元年九月完成シ又本山本鋪坑ト波佐羅五番坑トノ貫通工事モ繼續工事中ナルカ大正二年十月完成ノ豫定ナリ又二番坑道準ヨリ掘下中ナル大谷堅坑ハ其豫定延長百二十尺ニシテ三番坑道ヲ新設スル計畫ナリ

澤鑛山

金銀銅 鉛 鋅 位置 石川縣能美郡國府村
鑛業人 大阪亞鉛鑛業株式會社

本年二月鑛業權移轉後諸般ノ整理ニ努メ從來主トシテ水準以上ヲ稼行セシモ下底坑道開鑿ノ爲メ五馬力電動捲揚機及タービン、ポンプヲ設置セリ而シテ是等ノ原動機トシテ廿七馬力「ナシヨナル」吸入瓦斯發動機一臺ヲ増設セリ尙明年一月ヨリ動力ハ總テ金澤電氣瓦斯株式會社ヨリ送電スヘキ豫定ナリ

附屬岡山縣神島製鍊所ハ昨年末神島鑛山附屬製鍊所トシテ反射爐ニ依リ燒鑛作業ヲ爲シツ、アリシカ本鑛山ハ鑛業權ノ移轉ト共ニ其附屬製鍊所トシ更ニ規模ヲ擴張シ亞鉛製鍊ヲ爲スヘク其工事ニ着手セリ豫定計畫トシテ燒鑛用反射爐(高三十三尺、巾十五尺八寸、長四十五尺五寸)六基溜爐埧埧數百二十本一本五十盞入(六基ヲ築設スルモノニシテ全部完成ノ上ハ一箇月百八十噸ノ亞鉛ヲ

產出スヘシ是等ニ附屬ノ汽罐汽機等ハ百二十馬力汽罐二、船用型汽機(實馬力三十一、十七、キロワツト)直流發電機一、百十馬力複式橫置汽機一、八十「キロワツト」發電機一、七馬力、廿五馬力、五十馬力電動機各一、五馬力電動機二、十馬力電動機三、粉鑛機二、碎鑛機二、篩器一、土鍊機一、配合機二、水壓機一ニシテ反射爐ノ内一基ハ從來ノモノニ代リテ既ニ本年二月ヨリ使用ヲ開始シ蒸溜爐一基ハ本年十二月初旬完成シ始メテ蒸溜作業ヲ開始セリ目下引續キ反射爐并ニ蒸溜爐ノ築造工事ヲ急キツ、アリ來年二月中更ニ反射爐二基蒸溜爐二基ノ竣成ヲ見ルヘシ附屬汽機汽罐等モ一部既ニ完成セリ

龜谷鑛山 銀銅鉛 鑛業人 置 富山縣上新川郡大山村
亞鉛 鑛業人 置 高島基

本年五月ヨリ俗稱烏目ニ於ケル露頭ヨリ新ニ開坑掘進セシニ鑛況漸次良好ニシテ「ホコラ」坑内ノ操業今後益々擴張ノ計畫中ナリ

白萩鑛山 金銀銅鉛 鑛業人 置 富山縣中新川郡白萩村
金銀銅鉛 鑛業人 置 高田貞三郎

本坑下底開發ノ目的ニテ本年五月以來本坑下二百尺準ヨリ疏水坑ヲ開鑿シツ、アリ豫定總延長一千尺ニシテ落成期日ハ來年一月中ナリ

大森鑛山 金銀銅鉛 鑛業人 置 島根縣大森町
合名會社 藤田組

昨年着手ニ係ル排水原動力トシテ清水谷舊收銀場跡ニ設置ノ發電所工事ハ本年六月完成セリ既設鎔鑛爐老朽ノ結果改良ノ目的ニテ同爐ノ北側ニ第二鎔鑛爐ヲ新設シ六月工事完成セリ其構造ハ圓形開頂式ニシテ總高十五尺六寸内徑六尺六寸裝入口ヨリ羽口準迄ノ高九尺水胴ノ高五尺内徑五吋四分ノ一羽口三本ナリ又選鑛用トシテ泥渣攪拌器一臺ヲ新設セリ

永久坑内六番坑ヨリ永久坑道準ニ坑内水排出ノ目的ニテ六番坑準ニ七十五馬力獨逸製横置複動「エキस्पレス」式電動唧筒二臺新設セリ

機械選鑛設備ノ面目ヲ一新シテ實收率ヲ高ムルト共ニ從來堆積シアリシ泥渣鑛ヲ處理センカ爲メ選鑛場内ニ「ブレーキ」式碎鑛機一臺、ハンコック式跳汰機一臺、「ハルツバレコック」混合式床附跳汰機一臺、「オーバーストローム」式汰盤二臺、「デヨンストン」汰盤一臺、「バットル」一臺目下増設ノ工事中ニシテ是等竣成ノ曉ニハ精鑛一割増加ノ見込ナリ

寶満山鑛山 銅

位 置 島根縣八東郡出雲郷村 外一
礦業人 堀 藤 十 郎村

選鑛用トシテ本年一月「リツチンガー」式撞擊汰盤一ヲ増設シ製鍊用トシテ本年十月六番型「ルーツ」送風機一箇ヲ増設シ本堅坑排水用トシテ參聯横置式「プランジャ」式唧筒一臺ヲ新設セリ

笹ヶ谷鑛山 銀銅亞鉛

位 置 島根縣鹿足郡知迫村
礦業人 堀 藤 十 郎村

從來甚シク不便ヲ感シツ、アリシ石ヶ谷七番坑ヨリノ鑛石運搬ニ便センカ爲メ四番坑道内ニ九封度軌道ヲ布設シ本年四月以降運搬ヲ開始シ尙七番坑道準以下ノ排水設備トシテ同坑道部内三番掘場附近ニ深二百尺ノ堅坑ヲ開鑿シ之レニ十馬力及七馬力ノ電動「プランジャ」唧筒ヲ据付クヘキ計畫ニシテ新タニ發電所ヲ設ケ「ラストン」式吸入瓦斯發動機及三十馬力直流發電機一臺ハ本年末其据付ヲ終リ豫備發電機及唧筒等ノ据付等モ明年二月中完成セシムヘキ豫定ナリ

豐國鑛山 銅

位 置 岡山縣勝田郡豐國村 外一町一
礦業人 西 澤 六 藏村

昨年來開鑿シタル新堅坑坑口ニ坑内水排水ノ目的ニテ三馬力「ウオシントン」唧筒一臺ヲ設置シ鑛

石又ハ捨石運搬ノ目的ニテ本年五月以降十馬力双胴式蒸氣捲揚機一臺ヲ新設シ之レカ原動用トシテ「コルニツシユ」式汽罐一基ヲ増設本年十月以降運轉ヲ開始セリ又機械選鑛開始ノ豫定ニテ本年五月以降「ブレーキ」式碎鑛機一臺(四馬力)「クローム」式ロール一臺(五馬力)跳汰機六臺圓篩機四箇「ウキルフレー」汰盤一臺「バットル」二臺固定手選臺六臺運轉手選臺一臺三角尖箱二臺設置中ナルカ其完成ノ曉ハ同時ニ全山諸器械運轉ノ動力ヲ電力ニ變更シ津山電氣株式會社ヨリ六十馬力ノ電力供給ヲ受クル計畫ナリ

帶江鑛山 銀銅鉛 鑛業人 岡山縣都窪郡早島町外一村
坂本合資會社

本鑛山附屬犬島製鍊所ニテハ從來使用セル煉瓦製直立圓形鎔鑛爐ヲ水胴式ニ改築シ本年五月以來使用セリ其構造ハ內徑四呎五吋水胴ノ高サ三尺床上ヨリ裝入口迄ノ高サ十一呎十吋羽口ハ徑五吋ノモノ八本ナリ

吉岡鑛山 金銀銅亞鉛硫化鐵 鑛業人 岡山縣川上郡吹屋町外一郡一村
三菱合資會社

本年五月以降坑外二番坑及三番坑水準並ヨリ選鑛場迄粗鑛ヲ運搬スル目的ニテ三十五馬力「リヂヤ」ウツド式双胴電動捲揚機ヲ設備シ五月以降大仙鍾三番地並掘下リ上部ニ七馬力半輕便電動捲揚一臺ヲ新設シ八月以降ノ五番坑道ヨリ三番坑道迄ニ排水ノ目的ニテ五番坑道ニ六十馬力橫置「タービン」式電動唧筒一臺及百馬力橫置三聯成「プランシヤ」唧筒一臺ヲ新設シ從來使用セルモノヲ廢止セリ又本年八月以降選鑛原動用トシテ使用セシ二十馬力電動機ヲ五十馬力ノモノニ變更セリ

柵原鑛山

銅 鐵 硫 化 鐵

鑛業人 置

岡山縣勝田郡南和氣村
下 山 豐 次 郎

本年八月以降大切坑道ノ上部二十尺ノ位置ニ横坑道ヲ開鑿シ同時ニ地表ヨリ新堅坑(長八尺幅五尺)ヲ掘下ケ横坑道ノ坑口ヨリ約百尺ノ奥部ニテ會セシメ本年末同坑道水準以下約六十尺ニ達セリ而シテ從來使用廢止ニ係ル「コルニツシユ」式汽罐一基「スペシヤル」蒸氣唧筒一臺ヲ修繕シ本年九月ヨリ再ヒ使用ヲ開始シ坑内水ヲ排出坑内底部ノ探鑛ニ着手セリ又前記堅坑ノ坑口ニ本年末ヨリ十五馬力双胴式電動機一臺ノ新設ニ着手シ明年一月完成ノ筈ナリ尙又明年一月迄ニ同堅坑内ニ十五馬力「ダービン」式電動唧筒一臺設置スル計畫アリ以上諸器械完成ノ曉ニハ動力ハ凡テ電力ニ變更シ津山電氣株式會社ヨリ六十馬力ノ電力供給ヲ受クル豫定ナリ

日吉鑛山

銅

鑛業人 置

岡山縣後月郡青野村外二村
伊 之 助

本年一月以降第四坑ノ開鑿ニ着手セリ豫定延長六百尺ニシテ本年中完成ノ見込ナリ本年二月鑛石搬出ノ目的ニテ坑内堅坑口ニ岡田式複動吊下唧筒一、二馬力半無點火式石油發動機一ヲ設置シ同時ニ坑内排水ノ目的ニテ「ウオシントン」唧筒一臺ヲ新設九月以降運轉ヲ開始セリ又坑内鑛石捨石搬出用トシテ烏飼場斜坑口ニ双胴式捲揚機一及三馬力無點火式石油發動機一ヲ設置シ本年五月以降運轉ヲ開始セリ其他本年二月燒鑛爐二座ノ増設ニ着手シ五月完成使用ヲ開始セリ

山手鑛山

銀 銅

鑛業人 置

岡山縣久米郡立川村外一村
野 村 長 兵 衛

昨年度着手セシ斜坑開鑿工事ハ一時中止セシカ更ニ又本年六月ヨリ再始シ明年一月中完成セシムル豫定ナリ尙ホ運搬用トシテ据付中ノ十二馬力捲揚機及横置多管式汽罐常用壓力九十封度一

臺ハ本年內ニ完成ノ計畫ナリ

金生鑛山 銀銅 位置 岡山縣英田郡吉野村外一縣一郡二村
鑛業人 坂田貢

本坑四番坑ヨリ櫻坑五番坑ヘノ連絡坑道ヲ開鑿計畫中ナリ

因島鑛山 銀銅 位置 廣島縣御調郡田熊村
鑛業人 合名會社 安藤組

坑內採鑛作業進捗ノ結果出鑛量増加シタルカ故選鑛用トシテ本年七月以降手動二連跳汰器一臺手動圓篩機二臺新設シ運轉ヲ開始セリ

神路鑛山 銅 位置 和歌山縣那賀郡新淵村 外二村
鑛業人 阪田貢

神路坑ニ於テハ昨年以來通洞坑ノ擴大及開鑿ニ從事シ既ニ奥部ニ於テ上部各坑道ト連絡シ尙ホ通洞坑引立ヲ改修シ捲揚車道開設中ナリ

新淵坑ニ於テハ新ニ第三番坑道ヲ開鑿シ追テ之レト第二番坑道トヲ斜坑ヲ以テ連絡スル筈ナリ製鍊ニ於テハ本年二月以降甌吹式二座及二番型「ルーッ」送風機設置ニ着手シ八月末工事落成ノ結果從來ノ鎔鑛爐一座及扇風機一臺ヲ廢止セリ

赤沼田鑛山 鐵銅 硫化 位置 和歌山縣那賀郡麻生津村
鑛業人 日本製銅硫酸株式會社

設備上ノ變化ナキモ採鑛ハ漸ク上部ニ向ヒテ發展シ尙ホ鑛夫ヲ増員シ出鑛ヲ増加セシメン計畫ナリ

飯盛鑛山 銅硫化鐵 位置 和歌山縣那賀郡麻生津村
鑛業人 中江種造

昨年中第四坑道部內ニ於ケル採鑛準備完成ニ伴ヒ鑛夫ヲ増加セシ爲メ出鑛量大ニ増加シ一箇月

約七十萬貫ヲ産スルニ至レリ更ニ第五番坑道ノ開鑿ヲ企畫シツ、アリ

浦神鑛山 銅 位置 和歌山縣東牟婁郡下里村
鑛業人 中道 於 菟 次

本坑ヨリ西方約百尺ノ位置ニ開鑿中ノ豎坑ハ本年十月ニ於ケル進捗工程六十尺ナリ之レカ完成ノ曉ニハ那智水力電氣會社ヨリ送電ヲ受ケ排水運搬ニ對シ相當ノ機械ヲ設置スル計劃ナリ其他設備上ノ變更ナキモ鑛夫ヲ増加セリ

東山鑛山 銅硫化鐵 位置 德島縣名西郡阿野村外一町二村
鑛業人 代表者 久原房之助

東山本山ト廣石坑トノ間探鑛ノ側ヲ通洞開鑿ヲ目的トセル六番坑道及七番坑道ノ開鑿工事ハ本年終期ニ於ケル延長ノ工程六番坑道ハ千二百七十五尺、七番坑道ハ四千二十尺ニ達セリ又本年六月ヨリ斜坑頭ニ捨石及湧水搬出用トシテ五馬力單胴式電動捲揚機一臺ヲ設置シタリ尙又本年一月七番六番各坑道ニ三馬力二聯成「ブランジャ」式電動唧筒各一臺ヲ設置シ順次ニ三百尺間ヲ排水シテ二番坑道ニ據リ選鑛用水ニ之ヲ供給スルニ至レリ其他本年五月本山選鑛場ニ手選臺二個圓篩機三個「ハルツ」式跳汰器八個ヲ新設シ之レカ原動トシテ二十馬力三相交流誘導式電動機一臺ヲ設置シ七月ヨリ運轉ヲ開始セリ

廣石坑ニアリテハ精鑛ヲ持部拔合坑道中ニ運搬スル爲メ本年四月廣石選鑛場ニ往復式索道（五馬力同式電動機ヲ原動力トス）ヲ架設シ次テ同所二番坑道ヨリ搬出スル鑛車ヲ選鑛場ノ上部ニ運搬スル爲メ本年八月無極索道捲揚機（五馬力同式電動機ヲ原動力トス）ヲ設置シ孰レモ運轉ヲ開始セリ又選鑛用トシテ本年四月手選臺二個圓篩機三個「ハルツ」式跳汰器四個及之レカ原動トシテ二十

馬力三相交流誘導式電動機一臺ヲ設置シ翌五月ヨリ運轉ヲ開始セリ

持部新斜坑ニアリテハ本年一月五馬力單胴式電動捲揚機一臺ヲ設置セリ

其他本年六月ヨリ德島水力電氣株式會社ヨリ電力(五十馬力乃至二百馬力)ノ供給ヲ受クルコトニナリ其結果既設自家用發電ヲ中止セリ

川田山鑛山 銅 鑛業人 德島縣麻植郡三山村 原田善三郎

鑛石搬出ノ便ヲ計ル目的ニテ本年六月中新斜坑ニ五五馬力双胴式蒸氣捲揚機一臺ヲ設置セルカ
本山附近ニ於テ更ニ水力發電所ヲ起工シ二十五、キロワット「發電機ヲ据付ケ前記蒸氣捲揚機ニ代
フルニ電動機捲揚機一臺及製鍊鼓風用電動機一臺ヲ設置中ニシテ明年三月頃工事竣成ノ豫定ナ
リ

祖谷鑛山 銅 鑛業人 德島縣美馬郡東祖谷山村 合名會社 藤田組

本年一月ヨリ稍々秩序のナル探鑛ニ着手シ「ロープ、ボーリング」ニ依リ地表ヨリ直下ニ掘鑿シ尙又
鑛入坑道ノ掘進及舊坑取明ケヲ爲セリ而シテ本年五月ニ至リ小規模ナル舊式製鍊ヲ開始シ製鍊
鼓風用トシテ「ルーツ」ニ番型鼓風機ヲ設置シ之レカ原動力トシテ二十馬力「ベルト」水車一臺ヲ新
設セリ

別子鑛山 銅 鑛業人 愛媛縣宇摩郡別子山村外一郡二村 住友吉左衛門

本鑛山ニ於テハ第四通洞開鑿工事ノ進行ハ益良好ニシテ平均一箇月工程約三百尺本年末ニ於ケ
ル總延長ハ六千三百四十六尺ニ達シ此割合ヲ以テセハ殘餘ノ八千五百尺ハ向後二箇年、半ヲ出テ

スシテ掘鑿シ終ルヘク最初豫定十三箇年ヨリ著シク短縮スルコト、ナルヘシ本年七月以降捨石及鑛夫運搬ノ目的ニテ同坑道ニ電車運轉ヲ開始セリ

大堅坑開鑿工事ハ坑口ニ設置セル器械ニ故障アリテ一時完全ナル操業ヲ爲ス能ハサリシモ本年末ニ於ケル總延長六百尺ニ達シ比較的良好ノ結果ヲ示シタリ尙ホ餘ス所千三百餘尺ナルカ現在工程ノ割合ヲ以テ推定セハ今後二箇年以内ニ終了スルニ至ルヘシ且又工事中ナリシ端出場發電所ハ既ニ完成シ本年五月末日ヨリ運轉ヲ開始セリ其据付機械ハ一、五〇〇キロワット「三相交流回轉電磁式發電機二臺及二千二百馬力横置「ペルトン」式水車二臺發電機直結」トス

又四阪島製鍊場ニ於テハ工事中ナリシ六號爐完成シ本年八月ヨリ操業ヲ開始セリ其構造ハ全部水胴式ニシテ羽口準ニ於ケル長サ二十四尺同幅三尺五寸裝入口ニ於ケル幅四尺三寸中央「ボツシユ」ニ於ケル幅六尺五寸羽口準ヨリ裝入口迄ノ高サ二十尺羽口二十四本ニシテ之レカ送風用トシテ一分間風量二六、四八五立方呎同回轉數三、二〇〇ノ「ターボブロー」五百馬力ノ一臺及之レカ給氣用トシテ六百馬力「バブコック、エンド、ウキルコック」水管式汽罐一臺ヲ増設セリ而シテ該鑛爐ノ完成ニ依リテ燒鑛作業ヲ廢止スルコト、ナレリ唯鍛ノ品位稍々低下ノ傾アルヲ以テ專ラ此點ニ關シ考究中ナルカ如シ

鑛鑛鑛ハ從來鑛壺ニ依リ海岸ニ運搬シタルカ勞力多大ナルヲ以テ水碎シテ鑛爐前ノ鑛溜ニ集メ「バケツト、エレベーター」ニテ引揚ケ無極調帶上ニ移シ運搬スルコトニ改良シ其工事ハ前年九月ヨリ着手シ本年二月ニ完成シ以降操業ヲ開始セリ

骸炭窯及汽罐ヨリノ餘熱ヲ利用シ汽罐給水ヲ溫ムル爲メ「グリーン」式燃料節約器三臺ヲ設置セリ

西ノ川鑛山 銅 位 置 愛媛縣新居郡大保木村
鑛業人 住友 吉左衛門

永進坑下底開發ノ目的ニテ本年十一月ヨリ同坑水準以下二百四十尺ノ位置ヨリ疏水坑ヲ開鑿セ
ルカ豫定總延長五百四十尺ナリ又從來堆積シタル粉鑛ヲ處理スル目的ニテ燒結窯一個ヲ設置シ
タルカ操業成績良好ナリ

千原鑛山 銅 位 置 愛媛縣周桑郡櫻樹村外一郡二村
鑛業人 藏 內 仙 藏

選鑛拾石運搬用ノ爲メ水衝式捲揚機一箇所ヲ新設セリ又製鍊用四番型「ルーツ」式鼓風機及四十馬
力橫置「タービン」式水車一臺ヲ設置セリ尙ホ之レト同時ニ從來ノ素鑛ヲ高爐吹ニ改ムル目的ヲ以
テ新ニ鎔鑛爐一臺ヲ完成シタルモ煙害關係上未タ使用スルニ至ラス

大瀬鑛山 銅 位 置 愛媛縣喜多郡大瀬村
鑛業人 大瀬鑛山株式會社

前年以來坑內鑛況良好トナリシカハ本年ニ入り採鑛作業ヲ擴張シ出鑛ノ増加ヲ計リ一箇月精鑛
三十萬乃至四十萬貫ヲ出鑛スルニ至レリ尙ホ坑內鑛石捲揚ノ目的ニテ第一坑道堅坑口ニ二十
馬力双胴式電動捲揚機一臺二十五馬力吸入瓦斯發動機二十「キロワット」直流六極分巻發電機各一
個ヲ設置中ナリ

大峰鑛山 銅硫化鐵 位 置 愛媛縣西宇和郡川ノ石村
鑛業人 明治製鍊株式會社

本鑛山ハ從來操業ヲ中止シタル第三通洞坑ノ奥部約二千百餘尺ニ於テ探鑛ノ結果鑛幅二尺内外
ノ富鑛帶ヲ發見シタリ又第四番坑附近ノ鑛石運搬ノ目的ニテ本年五月以降通洞坑地並ヨリ傾斜

ニ沿フテ第四番坑道迄五百尺ノ間ニ複線式索道ヲ架設シ之レカ運轉用トシテ五馬力石油發動機ヲ使用セリ尙ホ第二番坑道地並ニ三聯成「ブランジャ」式唧筒ヲ設置シ通洞坑以下ノ坑内水ヲ排出シタリ是等設備改善ノ結果從來一箇月精鑛量僅カニ七萬乃至八萬貫ニ過キサリシモ本年ハ約五萬貫ノ増加ヲ見ルニ至レリ此他第四番坑道ニ本年五月以降七馬力半ノ二聯成「ブランジャ」唧筒ヲ設置セリ尙ホ目下計劃中ノモノトシテハ第四通洞坑々外ニ四十馬力發電機ヲ設置セントシテ十二月月上旬ヨリ之レカ基礎工事ニ着手シ明年一月下旬ニハ發電機ヲ設置スル見込ナリ

九町鑛山 銅 鑛業人 愛媛縣西宇和郡見村外一村 代表者 豐島 薰

明治四十三年ヨリ掘進シツ、アリシ第三番坑地向開鑿工事ハ本年五月第二番坑ニ貫通シタルヲ以テ目下同坑内九百尺ノ所ニ三十五度ノ傾斜ヲ以テ延長四十五間ノ複線式索道ノ建設ニ着手シ十二月下旬落成セリ

忠城鑛山 銅硫化鐵 鑛業人 愛媛縣西宇和郡見村 宇和 寶合 名會 社

鑛夫ヲ増加シタル結果前年度ヨリモ出鑛量著シキ増加ヲ示セリ尙前年十月完成シタル忠城坑内自動捲下機及同坑外選鑛場ハ本年九月ノ暴風雨ニ際シテ非常ナル災害ヲ受ケ其後南風雨ニ際シテハ常ニ損害ヲ被リツ、アリテ其位置最モ不適當ナルヲ以テ爾來全ク使用ヲ中止シ鑛石ハ總テ二見方面ニ搬出シ本年七月二見選鑛場ヨリ海岸貯鑛場迄五百尺ノ間ニ架設シタル複線式索道ヲ使用シ運搬ヲ爲シツ、アリ

見上谷鑛山 銅 鑛業人 愛媛縣西宇和郡喜須來村 小松 仁三 郎

本鑛山ハ探鑛ノ結果富鑛帶ニ遭遇シタルヲ以テ出鑛量ニ於テハ昨年ヨリ約一割ノ増加ヲ示スニ至レリ鑛石ハ從來牛馬ニ依リ運搬シツ、アリシモ總テ之レヲ廢止シ見上谷坑ニ於テハ本年十月竣工シタル延長百八十間ノ複線式索道ニ依リ又高手坑ニ於テハ本年十一月竣成シタル延長二百十間ノ複線式索道ニ依リ貯鑛場迄運搬ヲ開始スルニ至レリ尙目下開鑿中ナル第二通洞坑ハ其延長五百尺ニシテ尙ホ六十尺ヲ掘進スレハ鑛體ノ西部ニ到達スル豫定ナルヲ以テ明年三月ニハ同方面ノ探鑛ニ從事スルヲ得ヘキ豫定ナリ

大北川鑛山 銅 位 置 高知縣土佐郡大川村
鑛業人 代表者 渡邊祐常

昨年六月事業ヲ開始シタル以來專ラ操業準備中ナリシカ本年十月ヨリ探鑛ニ着手シ燒鑛法及甑吹ニ依リ製鍊ヲ開始シ之レカ原動力トシテ木製水車ヲ運轉シ漸次產額ヲ増加セリ

上關鑛山 銅硫化鐵 位 置 高知縣長岡郡本山村
鑛業人 合名會社宇都宮鑛業本部

鑛石搬出ノ目的ニテ本年七月以降大切坑終點斜坑頂部ニ双胴式手動捲揚機一臺ヲ又排水ノ目的ニテ本年十月以降斜坑底部ニ壓搾空氣動「ウォーシングトン」唧筒一臺ヲ設置セリ

波佐見金山 金銀 位 置 長崎縣東彼杵郡上波佐見村
鑛業人 波佐見鑛業株式會社

明治四十五年一月ヨリ年末迄ニ於テ探鑛運搬排水ノ便ニ供シ坑道ヲ開鑿スルコト六千九百七十一尺ニ達セリ内本鑛區内金山谷ニ於テ第一號鑛新坑ノ開鑿ヲ開始シ其南向ハ二月中旬ヨリ十二月末ニ至ル二百二十五尺ヲ掘進シ其北向ハ三月中旬ヨリ十二月末ニ至ル二百九尺ヲ掘進シ頗ル豊富ナル鑛脈ナルコトヲ確メ將來坑道ノ掘進ト掘下ヲ開鑿シ探鑛ノ便ニ供セントス其他第一大

谷新坑ニ於テ先盛鑛南部ノ鑛先ヲ探鑛スル爲メ立入坑道ヲ十一月中旬ヨリ開始シ七十尺ノ掘進ヲ爲セリ不日着脈ノ豫定ナリ

安田鑛山

銀銅鉛 鑛業人 長崎縣下縣郡樫根村
亞鉛 鑛業人 シーファアブルブランド合資會社

本鑛山ハ下部ニ於テ著シク發達セルヲ以テ掘下ヲ主トス故ニ操業進捗ニ伴ヒ人力ニ依リタル運鑛排水ハ彌々困難ヲ極メ之ニ要スル鑛夫ノ如キ夥シキ増員ヲ要スルコト、ナレリ然ルニ各探鑛箇所ハ豊富ナル鑛物ニ掘着シ向後益々發達スルニ從ヒ將來機械力ニ俟ツモノ多キニ至レリ

此ニ於テ排水運搬選鑛共ニ機械力ヲ應用スルコト、ナシ夫々準備ニ着手セリ

本坑道垂直下二百尺ヲ捲揚運鑛ノ目的ニテ斜豎坑開鑿ノ豫定トス

竣成ノ曉ニハ電氣捲揚機一臺ヲ据付ケ各探鑛場ヨリ蒐メタル鑛石ヲ捲揚運鑛スルモノトス

本坑道垂直下三百尺ノ箇所ニ「フランジヤ」唧筒一臺ヲ据付ケ排水スルモノトス而シテ從來使用

セシ揮發油發動機唧筒ハ之レヲ廢シ豫備トシテ据ヘ置クモノトス

此等ノ原動力タル電力ヲ供給スヘク電線路トシテ本坑道ヲ追切開鑿シ以テ電線ヲ布設シ危險ノ

虞ナカラシム

而シテ從來ノ軌道ヲ改築シ之ニ三百分ノ一ノ勾配ヲ付シ運鑛ニ便ナラシムルト同時ニ四吋ノ鐵管ヲ布設シ全坑水ヲ之レニ集注シ選鑛用水ト爲ス又坑内燈火ニ付テハ從來坑内ニ於テ使用セシ油燈ニ更フルニ「カーヴアイト」燈ヲ以テセリ

選鑛ハ從來嘴鑛機一臺轉碎機一臺ヲ据ヘ付ケ操業シタルモ到底多額鑛石ヲ處理スルコト不可能ナルニ依リ之カ個數ヲ増スト共ニ磁選鑛機一臺ヲ据付ケ從來顧ミサリシ含鐵多量ナル亞鉛鑛ヲ之ニ依リテ收得スヘキ計劃中ニシテ此等ニ要スル敷地及發電所ノ敷地ヲ開墾スル爲メ大正二年一月之ニ着手同年六月竣工ノ豫定トス

原動機(スキス)式石油發動機

直流發電機(二百二十「ボルト」
十八「キロワット」)

長登堀鑛山 銀銅 位置 鑛業人 堀山 口縣美福郡大田村

新工事ノ施設セシモノ

烏帽子新橫坑(着手大正元年七月) 竣工豫定期大正二年十二月

大正坑(着手大正元年八月)

烏帽子新橫坑 烏帽子坑下底ニ連絡ヲ計ル爲メニシテ坑道迄長四百四十尺ナリ貫通ノ曉ニハ從來使用ノ馬絞車ヲ廢止シ新坑道ニ依リ鑛石ノ搬出其他ノ運搬道或ハ人道ト爲シ經費ノ節約ヲ計ル目的ナリ

大正坑 坑道延長約五百尺ヲ第一期工事トシテ開鑿シ濱ノ宮坑下底ノ探鑛ヲ爲スモノニシテ其豫定點ニ達スルハ大正二年十二月ノ見込ナリ

第二期工事トシテハ右坑道引立ヨリ更ニ六百尺掘進シ北平坑ノ下底ヲ探鑛スルモノニシテ其ノ目的點ニ達スル豫定期日ハ大正四年十月ナリ幸ニシテ着鑛ノ曉ニハ夫々鑛床ニ應シ相當設

備ノ上操業セントス

大切堅坑 湧水量ハ漸次増加シ從來排水ノ爲メ使用ノ竹製引上ケ唧筒ニテハ充分ナラサルヲ以テ大正元年八月ヲ以テ排水設備ニ着手シ排水唧筒原動力トシテ徑四呎長十二呎ノ「コルニツシユ」型汽罐ヲ据付ケ唧筒トシテハ「ウヲーシングトシ」唧筒三臺ヲ以テシ大正元年九月完成排水ニ從事セシモ其後又々湧水劇増ノ結果此ノ設備ニテハ排水困難ナルヲ以テ更ニ徑六呎長二十四呎「ランカシャー」型汽罐及「ウヲーシングトシ」唧筒二臺汽壓揚水機二臺ヲ据付クル豫定ナリ尙又從來ノ鑛石搬出用馬絞車ヲ廢シ蒸汽捲揚ヲモ設計中ニシテ共ニ大正二年二月ヨリ着手同年四月竣工ノ豫定ナリ

製鍊ニ於テハ荒吹床ハ從來內徑長二十五尺幅三尺高七尺ノ爐ニシテ地磐ヨリ床迄二尺五寸ハ生煉瓦ニテ圍ミ其上部ハ御影石ヲ砂土ニテ詰メ使用セシ處熔鑛性分鐵分ニ富ミ之カ爲メ爐鐵ヲ生シ處理ニ手數ヲ要スルニ依リ大正元年七月ヨリ爐床ノ下ニ鐵板ヲ敷キ爐下ニ三尺ノ空處ヲ設ケシ結果爐鐵ヲ生セサルノミナラス煉瓦等ノ費用ヲ節約シ得ルニ至レリ

眞吹ハ從來二床（再吹床ハ高三尺橫三尺縱二尺五寸羽口二本ヲ付ス）ニテ操業ノ處三間ニ四間ノ一棟増設再吹眞吹床寸方從來ノ通りニシテ大正元年十一月着手大正二年一月六日竣工ノ豫定ニシテ之レカ爲メ從來ニ比シ風力ノ餘分ヲ利用シ尙ホ時日ヲ節約スルノ便アリ

大正元年九月新設セル汽罐左ノ如シ

コルニツシユ型

一

十二馬力

藥王寺鑛山 銅

鑛業人 山口縣美禰郡綾木村
河邊九良三郎

本山繼續事業ノ山神疏水坑ハ本年ノ延長百五十尺總延長七百九十尺ニシテ今百十尺掘進セハ西部第一鑛床ニ掘當ノ豫定ナリ選鑛淘汰場ノ移轉工事ハ四十四年末ニ於テ竣功シ本年六月更ニ搗鑛器三本ヲ増加シ六本ニ爲シタリ

本年五月製鍊付屬機械場建坪十七坪ヲ増築シ四番型「ルーツ」式鼓風器新調一基ヲ据換ヘタリ

河山銅山 銅硫化鐵

鑛業人 山口縣玖珂郡河山村
外村宗治郎

坑内 延長九百八十一尺 但シ十二封度鐵軌各坑道新規敷設

坑外 延長 百七十一尺 但シ十二封度鐵軌捨石運搬用トシテ敷設

三井山鑛山 銅

鑛業人 山口縣阿武郡生雲村
林大郎

明治四十五年三月八日施設ヲ爲シタル汽罐一個ハ「コルニツシュ」式（直徑三呎五吋長十一呎九吋）ニシテ坑内排水用唧筒運轉ニ供セシモ捲揚機設置後ハ其運轉ニ併用セリ又豎坑（大サ六尺四寸深サ三百尺）明治四十五年五月十日着手大正元年九月九日竣成運搬排水及通氣ノ用ニ供ス

双汽笛横置式捲揚機指示馬力十八馬力ハ大正元年八月十九日着手同年八月三十日竣成シ豎坑ヲ利用シテ坑内ヨリ坑外ヘ鑛石等ヲ搬出スルノ用ニ供ス從前ノ運搬方ハ坑内掘場ヨリ中段マテハ人脊ニ依リ中段ヨリ大切坑道マテハ轆轤ニテ捲揚ケ夫レヨリ鑛車ニテ坑外ヘ搬出セシモ捲揚機使用後ハ從前ノ量ニ比シ數倍ノ搬出ヲ爲スニ至レリ
將來ニ對スル計畫ニシテ未タ着手セサルモノ左ノ如シ

鑛山專用電話機

大正二年一月中旬ニ着手竣成ノ豫定

製鍊場増設

着手期未定

石油發動機及「ル」ツ扇風機据付

同上

選鑛場増設

同上

喜和田鑛山 銅錫重石

位置 鑛業人 山口縣玖珂郡北河内村 栗敏顯

前年度ヨリ採掘中ノ鑛床ハ本坑及中坑ノ二箇所ニシテ何レモ脈石分解作用ヲ蒙リテ霏爛シ極メテ分解シ易キカ故ニ凡テ露天掘リニ依リ採掘シ來リシモ下部ニ掘進スルニ從ヒ脈石堅硬トナリ操業困難トナリシヲ以テ九月十八日ヨリ本坑現採鑛場下部二十五尺ノ箇處ヨリ新坑(幅五尺高六尺)ヲ開鑿シ十二月中旬ニ至リ鑛石ニ遭遇ス坑道延長二十五尺

大正坑(幅五尺高六尺)ハ九月十四日ヨリ新露頭ヲ追ヒテ開坑セルモノニシテ掘進延長二十一尺

得泉坑ハ本年十二月十日ヨリ開坑ヲ始メシモノニシテ主ニ選鑛用水探求ノ目的トス

明治坑ハ明年一月ヨリ探鑛ノ爲メ開坑ヲ初ムル計畫ナリ前年ニ於ケル選鑛ハ舊式手選鑛ニ依リシモ前年ヨリ据付工事中選鑛機ノ内「ブレ」キ式碎鑛器一臺轉碎機一臺二百封度搗杵一臺「ウキルフレ」汰盤二臺「ペルトン」水車一臺ハ一月二十日竣工シ直ニ選鑛ヲ初メ同時舊式手選鑛ヲ廢止シタルモ用水不充分ノ爲メ「ペルトン」水車ノ運轉充分ナラス依テ二月二十八日ニ至リ殘部ノ選鑛機八角形「トロムメル」大小二個跳汰機二臺分級函一個ト共ニ西山式船用吸入瓦斯發動機(實馬力十五馬力)一臺ヲ据付ケ專ラ此ノ發動機ニ依リテ選鑛機ノ運轉ヲ初メタリ其結果取扱粗鑛量ハ舊選鑛

ニ比シ大ニ増加シ殆ント十數倍ニ及ヒシモ主ニ舊時ノ廢鑛ヲ取扱ヒシヲ以テ品位粗惡ノ爲メ精鑛量ハ僅カニ一倍半内外増加セシノミナリ次テ十月三十一日選鑛場ヲ増築シ選鑛機「ベルトロー」一臺六百五十封度搗杵一臺「ウキルフレ」汰盤二臺及原動力用トシテ西山式船用吸入瓦斯發動機實馬力二十五馬力一臺ヲ増設セリ尙ホ選鑛ヨリ生スル廢水ヲ再揚水シ更ニ選鑛ニ供スル爲メ「セントリフユーガル」唧筒一臺ヲ据付ケ搗杵ニ揚水シツ、アリ

元來右選鑛場ハ用水不充分ノ爲メ常ニ選鑛ニ不便ヲ感シツ、アルヲ以テ目下出願中ノ鑛區内小字正ヶ谷地所使用裁定ノ上ハ直ニ第二選鑛場ヲ新設シ完全ナル選鑛ヲ行フ目的ナリ

明年ヨリ選鑛機増設計畫中ノモノハ「ウキルフレ」汰盤二臺跳汰機三臺及圓錐篩二個ニシテ何レモ明春二月ヨリ着手ノ計畫ナリ

玖珂鑛山

金銀銅 鑛業人 山口縣玖珂郡桑根村
重石 田中銀之助

本年七月ヨリ疏水坑上部採鑛坑道ヨリ百五十尺ノ垂距アリヲ開鑿シ五六ノ加背ヲ以テ進行シ年末七十五尺ノ延長ヲ得タリ此坑道ノ延長豫定ハ二百尺ナリ該坑ハ上部既知採鑛々脈數條ヲ貫通スヘキモノニテ向一箇年半ニシテ上部各坑道トノ連絡ヲ遂ケ得ヘク其曉ニハ運搬採鑛共ニ輕便トナリ產出量ニ於テモ三割以上ノ增收ヲ見込メリ

吉原鑛山 銅

鑛業人 福岡縣企救郡中谷村
西七太郎

明治四十三年五月三十日着手ノ東谷村大字呼野字西山地内ニ開坑シタル排水運搬橫坑ハ本年二月十五日延長百二十間ニシテ一坑々底ニ貫通ス右貫通ニ依リ坑内湧水ハ從來機械力ヲ以テ排水

セシモ爾後ハ自然ニ坑外ニ排出スヘク又鑛石運搬ノ如キモ從來人肩ニ依リ負上ケ又捲揚ケタル
モ爾後ハ同坑道迄人肩ニテ搬出シ直ニ軌道上ノ鑛車ニ積込坑外ニ搬出シ大ニ利便ト其搬出力ヲ
増加シ從テ產出ヲ増加スルニ至ル又右貫通ニ依リ同坑口ニ接スル地所ニ選鑛場ヲ設ク其建坪六
十五坪七合五勺ナリ

前記選鑛場ノ移轉(以前中谷村大字頂吉地内ニ設ケアリシヲ)ニ伴ヒ坑外ニ於テ鑛石運搬裝置ノ必
要起リ架空索道ヲ設ク此延長二百六十七間複線式ニシテ動力石油發動機五馬力ノモノヲ用ユ此
機械室建坪十坪五合並ニ積場及附屬倉庫建坪二十一坪二合五勺山頂積替場建坪二十七坪五合卸
場建坪二十坪

明治四十四年十二月二日着手ノ中谷村大字頂吉字中河内地内開坑ノ横坑道ハ延長十七間ニシテ
既ニ着鑛シタルモ鑛石品位貧弱ニ付未タ探掘ノ運ニ至ラス

第二坑四十四年六月末日ニ於テ休止シタルヲ明治四十五年十月ヨリ從來ノ排水坑道ヲ切擴ケ中
ニテ延長二十八間十二月末日迄ニ坑道完成大正二年一月ヨリ直ニ排水ニ着手ス排水完了ノ豫定一
月末同坑ハ曩ニ種々探鑛ヲ爲シタルモ施業不完備ノ點アリ今回排水完了ノ上ハ充分ナル探鑛方
法ヲ定ムルモノトス

上星野鑛山 金

鑛業人 福岡縣八女郡星野村
伊藤 壽太郎

本年二月仁田ノ本坑口附近ヨリ堂ノ上製鍊場迄鑛石運搬ノ用ニ供スル爲メ延長六十五間ノ架空
索道架設ニ着手シ三月竣成セリ

本年七月伊良ノ迫堅坑ノ最下部ニ貫通スル目的ヲ以テ疏水坑道四十間ノ終端ヨリ貫通工事ニ着手シ十月之ヲ完成シ同坑排水井ニ採鑛ヲシテ容易ナラシメタリ

本年二月ヨリ仁田ノ本ニ新ニ坑口ヲ開鑿シ延長十間ニシテ鑛脈ニ達シ七月ヨリ出鑛ヲ見ルニ至レリ

熊渡鑛山 金銀

鑛業人 置 福岡縣八女郡星野村 重村

本鑛區第一鑛床ノ冠採鑛ノ目的ニテ明治四十五年四月十四日ヨリ新坑ノ開坑ニ着手二間三分ヲ掘進シ同年五月五日着鑛夫レヨリ走向ニ從ヒ掘進採鑛ヲナシツ、アリ脈幅ハ廣キ所四尺狹キ所五寸ナリ第三鑛床ノ鑛先キ露頭大正元年十月十日ヨリ開坑直ニ採鑛掘進ヲ爲シ坑内高サ五尺幅四尺ニシテ延長六間三尺四寸ヲ掘延ハ夫レヨリ長七尺三寸幅四尺五寸ノ堅坑ヲ設ケ七十三度ノ傾斜ニ從ヒ掘下ク

矢野鑛山 金銀

鑛業人 置 福岡縣八女郡星野村 吉

本年ハ前年ノ坑道切脈ヲ襲用進掘セシメ以テ新ニ工事ヲ施スコトヲ爲サ、リシモ本業ノ傍ラ新鑛脈ノ探索ニ力ヲ傾注シタルヲ以テ谷頭鑛區内ニ良好ナル新鑛脈ヲ發見シ陽春解雪期ヲ俟チテ事業方法ヲ設計スルコト、シ又瀧ノ脇鑛區内宇野稻久保ニ於テ横走セル大鑛脈アルコトヲ探知セシモ猶施業方法等講究ヲ要スルヲ以テ來ル三月ニ計畫ヲ立ツル豫定ナリ從來破損等ノ爲メ休止セル搗鑛水車ニ對シテ修繕又ハ新ニ建設ニ着手シ二月頃竣成ノ見込ナリ

佐賀關鑛山 銅

鑛業人 置 大分縣北海部郡佐賀關町 武田 恭作

明治四十五年四月第二中央堅坑下部五十尺ノ所ニ於テ排水設備ノ爲メ五馬力「タービン」式電氣唧筒ヲ設置セリ爲ニ從來人力唧筒ヲ以テ排水ヲ行ヒ殊ニ降雨ニ際シテ非常ノ困難ヲ受ケアリシカ爾後之ニ依リテ大ニ排水上ノ利便ヲ得タリ又同年七月中央堅坑側ニ於テ五馬力電氣捲揚機ヲ据付同堅坑ニ依リテ鑛石及捨石等運搬ノ用ニ供シ爾來大ニ運搬上ノ利便ヲ得タリト云フ

溝部鑛山 金銀

鑛業人 大分縣下毛郡溝部村
兒島哲太郎

深迫鑛ニ對シ舊坑ヲ利用シ堅坑開鑿ハ明治四十四年ヨリノ繼續事業ニシテ豫定ノ箇所即チ百四十二尺ヲ掘鑿シ明治四十五年四月十日竣工堅坑百二十五尺ノ箇所ヨリ二百尺走向ニ沿ヒ東ニ鑛押ニテ大正元年十一月迄探行堅坑百三十五尺ノ箇所ヨリ五尺西方ニ偏シ六十尺傾斜ニ沿ヒ用鑛幅長サ十尺ニテ探鑛ス

排水ハ宮西式手動唧筒六臺使用

運搬堅坑ハ捲胴徑十三吋ノ手動「ウインチ」ヲ使用シ他ハ九封度軌道ヲ布設シ半噸鑛車ヲ使用シ人力ニテ坑外ニ搬出ス

將來ニ於テハ當鑛山白鐘鑛白鐘中鑛白鐘前鑛トヲ連結スヘキ大疏水道延長二百五十間各鑛ニ着脈ノ上ハ各走向線ニ延長探鑛ヲ施シ富鑛帶開發ノ豫定ナリ

深迫堅坑々底ヨリ走向ニ沿ヒ東ニ探鑛中増水ノ爲メ意ノ如ク豫定各部ノ探鑛ヲ果ス能ハス一時排水休止ノ止ムナキニ至リ堅坑二十七尺ノ箇所即チ疏水道ヨリ走向ニ沿ヒ舊坑ヲ取明ケ探鑛開始ノ豫定ナリ

鯛生野鑛山 金銀 鑛業人 南大分縣日田郡中津江村
位 置 郷 德 三 郎

新ニ施設シタル工事左ノ如シ

(イ) 水力發電所新設

(ロ) 斜坑開鑿

(ハ) 電氣「ポンプ」座設備

(イ) 本鑛山附近津江川筋ノ上流柳ノ谷川字姉子淵ノ上ニ堰堤ヲ築キ石造及木鑊水路ヲ經テ小字「イ
ラハラ」ニ發電所ヲ設ケテ坑内排水其他事業上必要ニ應スル目的ヲ以テ本年六月工事ニ着手シ十
二月竣工セリ其機械類左ノ如シ

水車 一 「タービン」百五十馬力 附屬品一式

發電機 一 二千三百「フオールド」 附屬品一式
百五十「キロワット」アンペヤ「三相發電機」

(ロ) 本年一月中工事ニ着手シ九月大體ノ工事ヲ終了セリ新貴坑道ヨリ三百十九度ノ方向ニ向ヒ四
十五度ノ傾斜ヲ有シ將來電氣設備ノ上通氣及出鑛量ノ確實ト迅速ヲ期セシ爲メ捲揚道ト爲スノ
準備ナリ

(ハ) 本年三月開鑿ニ着手シ貯水池ヲ作り終リシハ同年八月下旬ナリ而シテ唧筒座ノ大サハ高サ一
丈幅一丈二尺長サ二丈ニシテ其西方ニ貯水池ヲ作レリ深サ一丈二尺幅一丈長サ一丈五尺ナリ電
氣唧筒ノ据付ハ同年十二月下旬終了セリ此設備ニ依リテ一分時ニ五十立方尺ノ水量ヲ排水シ得
（現今ハ十八立方尺）而シテ從來ノ蒸汽唧筒ニ要セシ石炭ノ消費ヲ省減シ得テ多大ノ利益トナレ

リ
唧筒ノ種別左ノ如シ

唧筒		名	稱	馬力	臺數	製造會社
定置	唧筒	セントリフユガル	唧筒	五	十	デバウエル
移動	唧筒	セントリフユガル	唧筒	四	十	デバウエル

昨年來開鑿ヲ始メシ山ノ神鑣疏水坑道ハ本年二月一旦着脈セシモ八月中鑛脈細小トナリ目下鑛先ニ向ツテ探鑛掘進中ナリ平均一箇月四十尺位ノ工程ニシテ大正二年二月頃マテニハ有望ナル部分ニ到着スルノ豫定ナリ

將來ニ對スル計畫ニシテ未着手ノ工事ニ屬スル電氣捲揚裝置ハ大正二年一月中旬ニ着手シ新鑣坑掘下リ用電氣唧筒ノ据付ハ同年八月中ニ着手スヘキ豫定ナリ
本年中廢止シタル汽罐ハ多管式十五馬力一臺及煙筒一本ナリ

日平銅山 銅 位 置 宮崎縣東白杵郡北方村
鑛業人 內 藤 政 舉

繼續工事中ナル一號斜坑并ニ二號斜坑進捗工程左ノ如シ

一號 二番坑道以下六十尺掘進ノ儘掘下中止中ナリ

二號 三番坑道以下掘下繼續中ノ處既ニ四番坑道ヲ開鑿シ尙以下七十尺掘進セリ本年中ニハ五

番坑道開鑿ノ豫定ナリ

槇峯銅山 銅 鑛業人 三 宮崎縣東臼杵郡北方村
菱合資會社

新ニ施設シタルモノ左ノ如シ

槇峯製鍊場鎔鑛爐側ニ水衝捲揚機一臺新設

鑛石及眞吹鑛捲揚用トス明治四十五年四月工事ニ着手シ同六月竣工七月ヨリ操業開始ス爾來製鍊場上下ノ鑛車連絡ヲ得操業上大ニ便利ナリ

工事概略左ノ如シ

櫓ノ高サ直立四十尺

捲揚櫓材料松材五寸角

捲網四分ノ三吋「ラング」式七本線六撚中心麻鋼索手動制車連絡

一回捲揚鑛車數一基

鑛車重量七百磅容量九百磅

槇峯選鑛場中機械淘汰新設

細鑛ヲ選鑛スル目的ヲ以テ手選鑛場南側ノ空地ニ建坪三十三坪ノ機械淘汰場ヲ建設シ明治四十五年三月ヨリ工事ニ着手大正元年十一月竣工同月ヨリ操業セリ

鑛物ノ種類三十「ミリ」目鐵格子ヲ通過シタル細鑛

原動力五百「ボルト」直流十馬力電動機

選鑛場ハ三段ニ建造シ其上部ニハ粗鑛舍中部ニ圓錐篩二個及手選鑛場ヲ設ケ下部ニハ「ハルツ」式及「ハンコック」式跳汰器ヲ備付ク

動力ノ分布

圓錐篩二個三馬力「ハルツ」式跳汰器四馬力ニシテ細鑛ハ全部取扱フ計畫ナルモ現今ニ於テハ尙ホ試験中ニ屬スルヲ以テ充分ノ效果ヲ認ムルヲ得ス然レトモ現時一箇月四百噸餘ノ粗鑛ヲ處理シツ、アリ

綱ノ瀬川瓢箪淵ニ出現セル露頭探鑛ノ目的ヲ以テ大正元年十一月二坑道冠入探鑛ヲ開始ス豫定掘進二百五十尺ニシテ大正二年中豫定ノ鑛層ニ達スヘシ

前記二坑道冠入探鑛ハ當年十二月末ニ於ケル掘進地二十九尺六寸

大斷層ノ爲メ切斷ヲ受ケタル槇峰主要鑛層ハ爾來探鑛ニ從事シ未タ奏功ナシト雖モ尙ホ探鑛ヲ繼續セリ

三井串木野鑛山 金銀

位置 鹿兒島縣日置郡串木野村
鑛業人 三井鑛山株式會社

前季ヨリ繼續セル三番坑道ハ脈中百十尺ニシテ下磐ニ達セシヲ以テ之ヨリ東西向ヲ鑢押ニ掘進シ將來ノ運搬坑道ト共ニ探鑛ノ目的ニテ東向七百二十尺西向六百二十尺ヲ開鑿セリ而シテ三番坑道ノ掘進ト相俟チテ二番坑道ヨリ約五百尺ノ間隔ヲ以テ坑井ノ掘下井ニ切上ニ着手シ本期中ニ竣工セル坑井七箇所何レモ三番坑道準ニ於テ各東西ニ向ツテ其連絡ヲ急キ以テ將來ノ探鑛準備トス

四十四年末買收セル羽島鐵山及其附近ノ鐵區ハ串木野鐵山羽島鐵ト稱シ本年申ニ於ケル工程ハ主トシテ疏水道ノ改修及探鑛ナリ從來ノ疏水道ハ狹隘ナルヲ以テ七八ノ加背ニ切擴メ複線十二封度軌條ヲ布設セリ本年中ニ於ケル總延長千二百六十尺トス

西山坑口製鍊所間運鑛道路ハ本月ヲ以テ竣工シ其延長一萬尺十二封度軌條ヲ以テ軌道ヲ複線ニ布設シ中央ニ木樋ヲ通シ以テ製鍊所用水トス

本年一月ヨリ起工セル製鍊場工事ハ着々進捗シ發電所及事務所並ニ附屬諸築造物ノ建設ヲ了シ目下製鍊場ノ基礎工事中ナリ而シテ米國ニ注文セシ製鍊機械類ハ全部到着シ製鍊場上家切組中ニ屬シ大正二年一月ヨリ建設ニ着手シ一方ニ於テハ組立ニ從事シ六月ヲ以テ全部ヲ完成シ七月ヨリ試運轉ニ着手スルモノトス

英國注文ノ三百十八馬力吸入瓦斯機關及二百「キロワット」發電機各二臺到着目下是レカ基礎工事ニ從事シツ、アリ大正二年三月試運轉ヲ行フノ運ヒトナルヘシ尙ホ同型二臺宛目下英國ヨリ運送途中ニアリ

牛尾金山 金銀

位 置 鹿兒島縣伊佐郡大口村
鐵業人 牛尾金山株式會社

製鍊場一部變更工事ハ大正元年十二月十一日ニ着手シ大正二年三月三十一日ヲ以テ竣工ノ豫定ナリ其竣工ノ曉ニ於ケル生産力ニ及ホス効果ハ目下一日搗鑛量一萬四千貫ノ内砂鑛八千四百貫泥鑛五千六百貫且ツ又從來ノ廢鑛滓七千貫ノ内ヨリ砂鑛四千二百貫泥鑛二千八百貫ヲ得ル故ニ泥鑛製鍊ニ供給スヘキ泥鑛量ハ鑛石ヨリ五千六百貫廢鑛滓ヨリ二千八百貫合計八千四百貫即チ

三十五噸トス右ハ第一實收率ノ増加スルノミナラス總テ自然力ト機械力ノ應用ニ依リ著シク生産費ヲ節シ產出額ヲ増加スルコト多大ナリ

製鍊方法及其裝置ハ搗鑛及混汞製鍊ニ於テハ從來ノ方法ニ變更ヲ加フルコトナク單ニ銅板尻即チ混汞製鍊ノ鑛尾ヲ砂鑛ト混鑛ニ分別シ砂鑛ハ現在ノ青化場ニ送り現在ノ方法ニ依リ收金シ泥鑛ハ別ニ今般新設ノ泥鑛製鍊場ニ送り泥鑛製鍊ヲ行ヒ含金ヲ採收スルモノトス

泥鑛製鍊裝置ハ搗鑛銅板ヨリ流出スル鑛尾ハ木鏈ヲ通シテ分級機ニ入り砂鑛ト泥鑛ト分別シ砂鑛ハ現在ノ青化場ニ送り泥鑛ハ今般新設ノ泥鑛製鍊法ニ依リ收泥調濃機ヲ經テ攪拌機ニ入り青化液ノ濃度及鑛泥ト清水量ノ割合ヲ調整シ壓搾空氣ヲ以テ泥水ヲ攪拌シタル後壓搾機ニ移送流入シ金液ハ真空唧筒ヲ以テ金液槽ニ送ラレ亞鉛函ニ流入シテ金分ヲ沈澱シ廢液ハ集液槽ニ流入シ唧筒ヲ以テ貯液槽ニ送ラレ搗鑛用水ニ再用セラル、モノトス

家屋ハ舊汽機ヲ撤去シ其一部ノ屋根ヲ改修シ其東側搗鑛原動機室ノ前面ニ接續シテ五間ト七間即チ三十五坪ノ建増ヲ爲ス

年末ニ於ケル進步ノ程度ハ前記家屋改修工事及收泥調濃機攪拌機土臺ノ八分竣工シ全竣工ハ大正二年三月三十一日ノ豫定爲リ

春日鑛山

金銀

位 置 鹿兒島縣河邊郡東南方村
鑛業人 今藤 矢太夫 外一名

東南方村西鹿籠字小宇都内ニ製鍊場設計ヲ大正元年十月十五日ヨリ着手シ十一月三十日ニ竣工セリ

原動力ハ十馬力ノ吸入瓦斯發動機二臺(神戸森田鐵工場製作)ヲ設置シ原料ハ木炭ヲ使用ス
 搗鑛機ハ百五十封度搗杵四本立十碓其用水ハ井戸ヨリ唧筒ニテ貯水槽ニ引揚ケタル水ヲ用ユ而
 シテ沈澱池ヨリ流出セル製鍊餘水ハ暗渠ヲ經テ再ヒ井戸ニ返リ貯水槽ニ引揚ケラレテ更ニ製鍊
 用水トナル

沈澱池ハ周圍ヲ堅石ニテ疊ミ接目ノ空隙ハ「セメント」ニテ埋塗ス之レヨリ揚ケタル鑛尾ハ半噸入
 ノ運鑛車ニテ乾燥場又ハ鑛尾貯藏場ニ運搬ス製鍊ノ方法ハ濕式冶金法ニシテ混汞製鍊及青化製
 鍊ヲ併用シ其見積高一箇月六萬貫ナリ

本鑛山ニ對シ西南方村坊字主膳ノ下地内ニ從來ノ火藥倉庫ヲ廢シ更ニ火藥倉庫二棟設置スルコ
 トヲ申請シ目下工事中ニシテ大正二年一月中ニハ落成スヘキ豫定ナリ

漆金山 金銀

位 置 鹿兒島縣始良郡蒲生村
 鑛業人 上 村 良 輔

從來探鑛中ノ雉子段鑛ハ其鑛質愈々良好ナルヲ認メ四十五年三月舊豎坑九十尺ヲ補修シ之レニ
 捲揚機ヲ設ケ鑛石及廢鑛搬出ヨリ落チ迫鑛ノ探鑛ヲ止メ專ラ雉子段鑛ノ探掘ニ係リ鑛石ヲ精選
 シ製鍊ニ對スル供給ヲ裕カニシ而シテ坑内ニ於テハ通氣ヲ完全ナラシムル爲メ本年四月通氣坑
 道兼人道ヲ開鑿シ一面汽罐ヲ増設シ坑夫ヲ増シ事業擴張ノ結果從來ノ捲揚機ニテハ鑛石ノ搬出
 意ノ如クナラサルニ由リ同年六月ヨリ十月マテノ間ニ於テ舊豎坑ニ直下更ニ九十尺ヲ延下シ從
 來ノ捲揚機ヲ齒車附ニ改良シ其捲揚ケタル鑛石ハ豫テ設備セル延長二十五尺ノ輕便軌道ニ依リ
 鑛車ニテ選鑛場ニ運ヒ入レ廢鑛モ亦此ノ方法ヲ以テ延長二百五十尺ノ軌道ニ依リ廢鑛捨場ニ運

搬シ大ニ便利ヲ得ルニ至レリト云フ

尙ホ本年五月汽罐一臺十馬力ノモノヲ増設セリ

烏帽子鑛山 金銀

位置 鹿兒島縣揖宿郡穎娃村
鑛業人 樋口典常

從來中止シアリシ本坑道ノ掘進ハ本年八月ヨリ起工シ目下工事中而シテ八月以降ノ掘進ハ百二

十尺、幅員五六從前八、八ナリキナリ其目的ハ本鑛ノ掘下リト連絡セシムルニ在リシカ漸次兩網館

鑛、清兵衛鑛、立神平鑛等トモ連絡セシムルモノトス之カ竣工ニハ約二箇年ヲ要スヘキモ將來操業

上ニ與フル利便ハ偉大ナルモノアルヘシ

布計鑛山 金

位置 鹿兒島縣伊佐郡山野村
鑛業人 中島辰次郎

本年八月十一日引割坑下部へ貫通スル目的ヲ以テ同坑ヨリ西部約七十尺ヲ隔テ鑿坑ヲ開鑿シ地

平面ヨリ起算シ百十尺ノ處ヨリ西方ニ掘進シ競爭場疏水坑道ニ貫通シ排水ヲ容易ナラシメタル

ニ依リ今後ハ乙部ニ掘進スルニ從テ豐富ナル含金鑛石ヲ採掘スルヲ得ヘク從テ大ニ生産力ヲ増

加センコトヲ期待セリ同坑ハ「ウオーシングトン」式十吋及十二吋唧筒二臺ヲ以テ排水シツ、アリ

夕張第一鑛 石炭

位置 石狩國夕張郡登川村
鑛業人 北海道炭礦汽船株式會社

本炭鑛所屬萬字鑛ニ於テハ「ポロホロムイ」川附近露頭ヨリ炭層ノ傾斜ニ沿ヒテ斜坑開鑿ヲ企圖シ

既ニ明治四十四年中ニ於テ工事ニ着手セシカ一時休止シ更ニ同四十五年二月ヨリ之ヲ繼續シ目

下四百尺ヲ掘進セリ

本鑛ハ明治四十五年四月二十九日及大正元年十二月二十三日二回ノ瓦斯爆發ニ依リテ第二斜坑

ノ全部ヲ休止スルノ已ムナキニ至リシ爲メ事業上至大ノ頓挫ヲ來セリト雖モ將來益々發展ノ餘地ヲ存ス從テ既設ノ電力ニテハ不足ヲ感スルニ至リシヲ以テ本年七月五日二番坑附近ニ中央發電所ノ新設ニ着手シ既ニ建物ハ竣成シタリ而シテ茲ニ設置スヘキ發電機ハ「カーチス」式一千「キロワット」蒸汽「タービン」發電機ナリ尙ホ一番坑方面ノ出炭ハ從來手選法ニ依リシモ機械選炭ト爲スノ必要ヲ感シ本年七月ヨリ之カ建設ニ着手シ既ニ建物ヲ竣工シ目下諸機械据付中ナリ該選炭機ハ毎時百二十噸ヲ處理シ得ル設計ナリ

夕張第二礦 石炭

位置 石狩國夕張郡登川村
鑛業人 北海道炭礦汽船株式會社

本礦所屬眞谷地礦ト沼ノ澤驛間運炭用馬車鐵道ハ從前單線ナリシカ本年七月下旬之ヲ複線ト爲シタリ

大夕張炭礦 石炭

位置 石狩國夕張郡登川村
鑛業人 大夕張炭礦株式會社

今後ハ主トシテ若葉坑ニ依リ採炭スルノ豫定ニシテ斜坑及第一、第二坑ノ掘進ニ主力ヲ注キ同時ニ切羽ノ増設中ナリ

從來若葉坑ノ出炭ハ二十五馬力ノ假捲揚機ヲ以テ運搬ヲ爲シツ、アリシモ更ニ其傍ニ百二十馬力捲揚機据付中ニシテ之ヨリ直チニ無極索道ニ接續ス而シテ該索道ハ從來曲折多クシテ運搬力微弱ナリシモ本年六月其改良工事ニ着手シ先ツ五層ノ澤以下六千尺ヲ一直線ト爲シ選炭場傍ニ五千馬力ノ原動機ヲ据付ケ運搬力ヲ増加シタリ續テ若葉無極索道五千尺ヲ敷設シ捲揚機ヨリ五層ノ澤ニ至リテ下部無極索道ト連結ス而シテ上部ノ原動機ハ電力三十五馬力ノモノヲ用フ又下

部ノ原動機ハ十吋複式橫置汽罐ナリシカ更ニ「コルニツシユ」型汽罐二基ヲ増設シタリ發電所ハ電力供給ノ増加ニ伴ヒ明年度ニ於テ改築ノ豫定ナリト

新夕張炭礦(鹿ノ谷坑) 石炭 位置 石狩國夕張郡登川村
礦業人 東京瓦斯株式會社

本礦南部ニ於ケル炭層狀態調査ノ爲金剛石試錐ヲ行ヒタルモ未タ充分其結果ヲ知ル能ハス然レトモ今後事業ノ發展ハ疑ヒナキ所ニシテ電力ノ不足ヲ補ハンカ爲メ百五十「キロワット」ノ汽機直結交流發電機一臺ヲ増設シ又五番坑々内運搬用トシテ同坑口附近ニ上綱式循環機一臺並ニ之カ動力トシテ交流三相式五十馬力ノ電働機一臺ヲ設置セリ尙ホ五番坑ニ在リテハ水準下ノ石炭ヲ掘採センカ爲メ同坑々内ヨリ斜坑ヲ開鑿シ之カ通氣用トシテ「キャベル」式徑八呎ノ扇風機ヲ設置スル計畫ナリ又排水ニハ電氣唧筒ヲ運搬ニハ電氣曳揚機ヲ採用スヘシト

新夕張炭礦(若鍋礦) 石炭 位置 石狩國夕張郡登川村
礦業人 東京瓦斯株式會社

西一番坑通氣用トシテ同坑第二風井ニ「キャベル」式徑八呎ノ扇風機一臺ヲ設置セリ選炭場ト西一番坑口約二百間ハ從來手押運搬ニ依リシカ本年七月之ヲ上綱式無極索道ニ改メタリ又出炭額ノ増加ニ伴ヒ貯炭場増築ノ必要ヲ來シ本年十二月之ヲ完成シ附屬ノ「リングチエン、エレベーター」モ竣工セリ

尙ホ今後計畫中ニ屬スルモノハ斜坑本坑ニ百馬力電氣無極索道ヲ設置シ又斜坑方面排水用トシテ電氣唧筒ヲ据付ケ尙ホ西一番坑西二番坑内外ノ運搬ニ「ガソリン」機關車ヲ採用スル等ナリ

三井登川炭礦 石炭 位置 石狩國夕張郡登川村
礦業人 三井礦山株式會社

坑内通氣用トシテ三中切坑口附近ニ「キャペル」式徑六呎ノ扇風機一臺ヲ設置シ之カ動力トシテ七十馬力電働機一臺、百馬力單汽笛橫置式瓦斯發動機一臺、七十五「キロワット」三相交流發電機一臺ヲ設備セリ又製材機運轉ノ爲メ十五馬力電働機一臺ヲ有ス

三中切以上ノ出炭及材料運搬ニ供スル爲メ自轉車道ヲ起工セリ將來斜坑ヲ開鑿シテ水準以下ノ埋藏炭ヲ掘採スル爲メ之カ準備トシテ本坑々道ノ切替工事ニ着手セントス

文珠炭礦

石炭

鑛業人 石狩國空知郡歌志內村
文珠炭礦株式會社

水準下ノ石炭探掘ノ目的ニテ本年九月末ヨリ二箇所ニ斜坑(高サ八尺)ノ開鑿中ニシテ捲揚用トシテ單汽笛捲揚機各一臺ヲ据付ケ之カ動力トシテ多管式船用型汽罐一臺及直立汽罐一臺ヲ設置セリ該斜坑ハ大正二年二月三月頃完成ノ見込ニシテ其曉ニハ同坑口ニ選炭場ヲ新設シ更ニ同所ヨリ鐵道積込場迄循環機ヲ設置スル筈ナリ

白威炭礦

石炭

鑛業人 石狩國空知郡歌志內村
花井 昌三 郎

白威炭坑トシテ舊時探掘セシ部分ハ其後廢坑ニ歸シ現今探掘ニ着手セル箇所ハ隣鑛區歌神炭礦ノ大坑道ヲ運搬道トシテ歌神炭礦ノ手ニ依リテ受負的ニ稼行セラレツ、アリ而シテ本年七月ニ至リ更ニ數箇所ニ露頭部ヨリ開坑セリ

幌內炭礦

石炭

鑛業人 石狩國空知郡三笠山村
北海道炭礦汽船株式會社

去ル明治四十三年以來開鑿中ナリシ第二堅坑(長サ十七尺、幅九尺五寸)ハ四十五年四月深サ三百四十五尺ニ達シ茲ニ完成ヲ告ケタリ仍テ大正二年度ニ於テ堅坑内諸機械据付ノ筈ナリ

大和田炭礦 石炭

鑛業人 天鹽國留萌郡留萌町
鑛業人 大和田炭礦株式會社

明治四十四年十月齋藤炭礦ヲ譲リ受ケ其斜坑ヲ第二坑ト名ケ之ニ單汽笛捲揚機ヲ据付ケ原動力トシテ徑七呎長サ三十呎ノ「ランカシヤ」型汽罐二臺ヲ設置セリ尙ホ坑内通氣用トシテ「キヤベル」式徑八呎ノ扇風機一臺設置セラレアルモ原動力タル蒸氣不足ノ爲メ之力運轉ヲ爲スニ至ラサリシカ大正二年ニ入り早々運轉ヲ開始シ得ルニ至ルヘシ

鷹池鑛山 亞炭

鑛業人 宮城縣桃生郡鷹來町
小野寺辰三郎

坑内排水ノ爲メ九月石油發動機一臺ヲ設置ス

三星綴炭礦 石炭

鑛業人 福島縣石城郡内郷村外二村
三星炭礦株式會社

坑内右三坑道本卸方面ノ石炭ヲ右三坑道迄捲揚クル目的ヲ以テ横置型双滾齒車付捲揚機械二十七馬力一臺ヲ据付ケ七月ヨリ運轉ヲ開始ス

坑内ノ排氣ハ從來第二豎坑ニ依リ自然排氣ニ委シツ、アリシモ新ニ豎坑ヲ穿チ深サ四十六尺ノ所ニテ第二豎坑及排水坑ト貫運セシメ新豎坑口ニ「チャンピオン」式扇風機(直徑八呎幅四呎五吋半一分間ノ排氣量八萬立方尺)ヲ設置シ九月ヨリ運轉ス

小野田炭礦 石炭

鑛業人 福島縣石城郡磐崎村外二村
磐城炭礦株式會社

小野田豎坑右大延坑道奥部長澤風井坑附近ハ往時自然發火ノ爲メ通氣不良トナリ一時採炭ヲ中止シ居タリシカ近來全ク鎮火セシヲ以テ殘留セシ炭柱及炭壁採掘ヲ目的トシテ十月ヨリ第三斜坑ヲ去ル西北方十二間ノ箇所ニ坑口ヲ設ケ二十度ノ勾配ニテ九十尺ヲ掘進シ炭層ニ達シ目下坑

道延長中ナルカ日々十萬斤内外ノ出炭アリ設備トシテハ坑口ヨリ二十八間ノ所ニ徑九吋衝程十二吋ノ双汽笛捲揚機ヲ設置セリ汽罐ハ第三斜坑ニ用ヒタルモノヲ其儘使用ス

三月長倉堅坑南坑道五卸ニ十九馬力單汽笛單鼓胴齒車式蒸汽捲揚機ヲ設置ス又五月第一斜坑左二坑道及梅ヶ平三坑道切替本線ニ各三十馬力單鼓胴電氣捲揚機ヲ掘付ケ坑内運搬ノ進捗ニ便セリ四十二年十月浸水シタル第一斜坑ノ右三坑道跡向坑道以下ノ排水ハ電氣唧筒ヲ以テ排水ノ計畫ナルガ其原動機トシテ目下内郷炭礦ニ掘付中ノ發電機及汽罐ノ完成ヲ待チ居レリ前年來梅ヶ平坑及長倉坑排氣堅坑口ニ掘付中ノ扇風機ハ完成セリ

入山炭礦 石炭

位置 福島縣石城郡内郷村外三村
鑛業人 入山採炭株式會社

第三坑發電機原動用トシテ「バブコック、エンド、ウイル」コック「ス」水管式汽罐二臺ノ設置アリシモ五月更ニ同型ノ汽罐一臺ヲ増設セリ

第四坑ニ於テ前年來第二堅口ニ建造中ナリシ「フンボルト」式扇風機(徑三「メートル」、回轉百八十五回排氣量十萬立方呎)ハ十月以降運轉ス

好間炭礦 石炭

位置 福島縣石城郡好間村外二村
鑛業人 好間炭礦株式會社

第二斜坑ヨリノ出炭ハ萬斛ニテ手選ヲ行ヒタリシモ今回第一斜坑附屬選炭場ニ隣接シテ長サ十四間幅三間ノ選炭場一棟ヲ増築(設備トシテ鐵條篩長サ十四呎、振動篩長サ十二呎、幅四呎二吋網目一時四分ノ一、手選帶長サ五十一呎、幅四呎一晝夜工程五百噸)シ尙ホ第二斜坑々口ヨリ選炭場ニ至ル二千二百三十尺及第一斜坑構内貯炭場ヨリ材料置場ニ至ル七百三十二尺ノ二箇所ニ下網式旋

條機ヲ設置シ十二月ヨリ運轉ヲ開始ス又動力補充ノ爲メ十月第一斜坑第二斜坑ノ各汽罐場ニ徑六呎六吋長二十八呎、ランカシャ「汽罐一臺ツ、ヲ新設ス

内郷炭礦 石炭

位 置 福島縣石城郡内郷村外三村
礦業人 磐城炭礦株式會社

本炭礦及小野田炭礦原動力ノ一部ヲ電氣ニ變更スルノ目的ヲ以テ「ハブコツク、エンド、ウイルコツクス」水管式汽罐二臺同附屬耐震煙突(徑六尺高サ百尺)一本並ニ三百「キロワット」發電機二臺目下据付中ニシテ大正二年一月完成ノ豫定ナリ

前年來工事中ナリシ町田排氣坑坪下新唧筒座ハ五月完成シ同時ニ同坑口ニ設置セル「キヤベル」式扇風機(一分間排氣量十萬立方尺)ノ運轉ヲ開始ス其他動力補充ノ爲メ五月及九月ノ二回ニ於テ徑七呎長三十呎「ランカシャ」汽罐二臺ヲ増設セリ

町田堅坑南坑道ニハ坑内電車ヲ使用シ運搬ノ便ヲ計ラントシ之カ計畫中ナルモ動力不足ノ爲メ未タ起工スルニ至ラス

三友炭礦 石炭

位 置 福島縣石城郡内郷村
礦業人 代表者 大塚寅壽郎

本炭礦鑛區ノ北方ハ從來斷層ノ關係上炭層存在セサルモノト思惟シ放棄シ居リシカ或ル動機ニ依リテ五千餘坪ノ炭層殘存スルコトヲ發見セシヲ以テ九月斜坑ノ開鑿ニ着手シ汽罐、捲揚機据付準備中ナリ

磐前炭礦 石炭

位 置 福島縣石城郡内郷村外一村
礦業人 代表者 山崎藤太郎

本炭礦斜坑ハ從來人力ニ據リ運搬ヲ行ヒシモ十一月直立汽罐捲揚機、唧筒各一臺ノ据付ヲ爲シタ

リ

三星窪田炭礦 石炭 位 置 福島縣石城郡窪田村外二村
鑛業人 三星炭礦株式會社

本炭礦ハ元勿來炭礦ト稱シタルモノニシテ明治四十四年從來ノ採炭計畫ヲ一變シ同年七月斜坑ノ開鑿ニ着手シ同四十五年一月本卸傾斜十八度延長五百十尺ニシテ着炭ス炭層厚サ四尺五寸餘其質無煙ニシテ從來採掘セシ炭質ニ比シ優良ナリ將來ノ採炭準備トシテ坑道ノ延長ニ努メツ、アリ

中野炭礦 石炭 位 置 福島縣石城郡川部村外一村
鑛業人 中野喜三郎

第二斜坑一坑道上部一萬餘坪ノ炭層ヲ採掘セントスルノ目的ヲ以テ現今汽罐場ノ北方ヲトシ第三斜坑ノ開鑿ニ着手セリ

高田炭礦 石炭 位 置 福島縣双葉郡廣野村外一村
鑛業人 合資會社高田商會

從來動力ノ不足ヲ忍ヒツ、稼業セシカ九月徑四呎十吋二分ノ一、長十九呎三吋二分ノ一「コルニツシユ」式汽罐一臺ヲ増設ス

廣野炭礦 石炭 位 置 福島縣石城郡廣野村
鑛業人 石山幾三郎

動力ノ不足ヲ補充スル爲メ九月從來ノ汽罐場ニ徑四呎十吋二分ノ一、長十九呎三吋二分ノ一「コルニツシユ」式汽罐一臺ヲ増設ス

安川炭礦 石炭 位 置 福島縣西白河郡金山村
鑛業人 安川長治

從來人力ノミニ依リシカ本年三月徑四呎八吋、長十五呎五吋「コルニツシユ」式汽罐、三馬力單汽笛鼓

胴捲揚機各一臺並ニ坑内排水用トシテ「スベシヤル」唧筒二臺ヲ設置シ事業ノ革新ヲ爲シタリ
鳥坂礦山 石炭 位置 秋田縣秋田郡荒瀬村
鑛業人 横尾彌門

明治四十四年擴張ヲ行ヒタル本炭山ハ大正元年十月骸炭場粉炭機運轉用トシテ「シリンドル」無管
式汽罐一臺ヲ設置運轉スルニ至レリ

茨城無煙炭礦 石炭 位置 茨城縣多賀郡華川村
鑛業人 茨城無煙炭礦株式會社

採掘權登錄第五號鑛區ハ本年ニ於テ昨四十四年新ニ着手シタル多賀郡南中鄉村外一村採掘權登
錄第二十一號石岡炭礦ト合併操業ヲ爲スニ至リ前者ヲ第一坑ト稱シ後者ヲ第二坑ト名ケタリ
第一坑 本年度内ニ新設又ハ増設シタル設備左ノ如シ

五十馬力「タービン」唧筒

一 (排水用)

山下豎坑々外増設

五馬力電氣唧筒

三 (排水用)

山下豎坑々内増設

十馬力捲揚機

一 (坑道修繕及材
料並研揚卸用)

産子澤舊斜坑々外新設

外焚多管式汽罐

一 (運搬及排水
原動用)

車置坑新設

三十五馬力捲揚機

一 (運搬用)

車置坑々外在來ノモノ改造

前記車置坑ハ昨四十四年ノ新開坑ニ屬シ同年末迄ニ大體ノ起業工事ヲ完成シ本年ヨリ採炭ニ着
手シタルモノニシテ現在ノ斜坑延長百五間ニ達シ左右ニ各二坑道ヲ設ケ其總延長百八十間ヲ有
セリ

第二坑 本坑ハ昨四十四年ノ新着手ニシテ同年中ニ大體ノ起業工事ヲ完成シ本年一月ヨリ採

炭ヲ開始シタル以來新設シタル設備左ノ如シ

(本坑ニ於ケル使用動力ハ大部分電力ニ依ルモノニシテ之レニ要スル電力ハ南中郷村大字石岡日立鑛山水力發電所ヨリ供給ヲ受クルモノトス)

四十「キロワット」單相油入變壓器	三	諸機械原動用
四、四「キロワット」自動變壓器	一	同
二「キロワット」單相變壓器	一	點燈用
四十馬力電働機	二	坑内無極索道用 坑外同
三十馬力電働機	二	採炭機用
十五馬力電働機	一	排水唧筒用
十馬力電働機	三	排水唧筒用 扇風機用 選炭機用
五馬力電働機	二	排水唧筒用
選炭機	一	給水用
塊炭用選別帶	二	粉炭用選別帶
覆車機	三	條 篩
上綱式無極索道	三千七百六十尺	坑内運搬用
五馬力電氣唧筒	三	
十馬力電氣唧筒	一	

十五馬力電氣唧筒

「コルニツシユ」式汽罐

電氣捲揚機

以上ノ外扇風機一基ノ据付工事中ニシテ第一坑第二坑ヲ通シ本年度内ニ新築シタル建設物ハ鑛夫納屋三十六棟千二坪五合、工場三十九棟三百四十五坪其他社宅、倉庫、事務所等十棟此坪數二百十七坪五合ヲ算セリ

山口無煙炭礦 石炭

位置 鑛業人 茨城縣多賀郡北中鄉村
山口無煙炭礦合資會社

本炭礦ニ於ケル坑内作業區域ハ漸次下底ニ進ミタル結果運搬及排水動力ノ不足ヲ感シ本年ニ於テ徑七呎長三十呎「ランカッシャー」式汽罐及附屬煙突各一基並ニ十吋「スペシアル」唧筒一基ヲ増設シタリ

清田炭礦 石炭

位置 鑛業人 茨城縣多賀郡松岡、南中鄉村
清田炭礦株式會社

本鑛區ハ元手綱炭礦ト稱シ茨城炭田中主ナルモノ、一ニ數ヘラレシカ去ル四十二年春坑内火災ヲ起シ次テ坑内全部浸水シ窮餘露頭部ノ採炭ヲ爲セシモ收支償ハス經營上非常ノ窮地ニ陥リ遂ニ鑛業權ノ移轉ヲ見ルニ至レリ現鑛業權者ハ四十四年三月排水ニ着手シ萬難ヲ排シテ銳意之カ遂行ニ努メ本年八月排水作業ヲ終了シタリ時恰モ石炭ノ需用時季ニ近キ居リシヲ以テ坑道ノ修理ヲ急キ採炭箇所設置ノ準備ニ全力ヲ注キ且ツ舊採炭箇所ノ殘炭ヲ採炭スル等出來得ル限りノ出炭ヲ計リシモ排水後日淺ク最近ノ日產六十噸内外ニ過キス然レトモ引續各坑道ノ改修及採炭

切端ノ増設計劃中ニ屬シ運搬及排水ノ原動力トシテ「ランカッシャー」汽罐二基ノ据付工事中ニアリテ漸次發展ノ氣運ニ向ヘツ、アリ

秋山炭礦 石炭

位置 桑城縣多賀郡松原町
鑛業人 桑田知明

先年輔場坑水準以下ノ採炭ヲ開始シタル以來專ラ此方面ノ事業ヲ繼續シ本年ニ於テ斜坑六十間(總延長約百間)ヲ延長シ左右坑道又之ニ準シ其全延長五百間ニ達シタリ從テ運搬及排水設備ノ不足ヲ感スルニ至リ本年八月從來ノ人力「ウインチ」捲ニ代フルニ十馬力捲揚機一座ノ据付ヲ了シ尙ホ排水ニ就テモ從來水箱ヲ用ヒテ捲揚機ノ力ニ依リシモノヲ蒸汽力ニ依ル唧筒ニ代フルノ計劃ニアリテ其原動力トシテ本年八月「コルニツシュ」式及直立式各一基ツ、ノ汽罐ヲ新設シ尙ホ坑外運炭設備ニ於テ輕便軌道支線九百間餘ヲ布設シタリ而シテ現在ノ日產八十噸ナルモ前記諸設備ノ整頓ヲ待テ日產百噸ニ達セシムルノ豫定ナリ

高島炭坑 石炭

位置 長崎縣西彼杵郡高島村
鑛業人 三菱合資會

高島坑

蠟瀬坑内戸先掘進延長ヲ計ルノ目的ヲ以テ鑛車運搬用トシテ本年十一月二十九日九片磐ニ三馬力橫置兩汽笛無極索道機一臺ノ据付ニ着手シ十二月末之レカ竣工ヲ告ケタリ

二子坑

第一斜坑々道鑛車運搬及人車運轉ノ爲メ本年二月九日ヨリ九十八馬力橫置式兩汽笛片捲々揚機一臺ノ据付ニ着手シ三月十六日竣工シ又第二斜坑々道鑛車運搬ノ爲メ三月十五日ヨリ五十

馬力横置兩汽笛片捲々揚機械一臺ノ据付ニ着手シ四月二十日竣工運轉ヲ開始セシモ坑道ノ延長ニ比シ機力微弱ナリシタメ更ニ五月七日ヨリ同機後方ニ二百馬力横置兩汽笛片捲機械一臺ノ据付ニ着手シ八月十四日竣工直チニ運轉ヲ開始シ同時ニ五十馬力捲機械ノ使用ヲ停止シ十二月三日同機ノ取除ヲ了セリ

坑道ノ延長ニ伴ヒ鑛車運搬上「エンドレス」機ノ必要ヲ生シタルニ據リ本年六月十五日ヨリ第二坑水平坑道第一目貫ニ十馬力直流電勵機連結無極索道機一臺ノ据付ニ着手シ八月八日竣工セリ

從來坑外ニ設置ノ十「キロワット」發電機一臺ヲ坑内外點燈ニ使用シ來リシモ事業ノ發展ニ伴ヒ點燈數増加シ電力ニ不足ヲ告クルニ依リ九月二十九日ヨリ坑内十二片磐ニ電勵機直結二十「キロワット」發電機一臺ノ増設ニ着手シ十月二十七日竣工セリ

坑内排水量増加ノ爲メ本年三月十二日ヨリ二子坑内四片及六片ニ二十五馬力直流電勵機直結「タービン」唧筒六臺ノ増設ニ着手シ十二月十五日竣工セリ

端島坑

通風量ヲ増大スルノ目的ヲ以テ從來ノ「ギバル」式扇風機ヲ廢止シ更ニ三十吋三分ノ一雙汽笛横置形蒸汽機關ヨリ調網ニ據リ傳動サル、直徑十一呎「キャベル」型「ダブルインレット」扇風機一臺ヲ第二坑口ニ設置工事ハ四十四年五月八日ヨリ着手シ本年一月末竣工セリ而シテ第二坑口ニ新設扇風機ノ落成ト共ニ坑口ニアル「ギバル」式扇風機ハ不用ニ歸スルヲ以テ之ヲ新設扇風機ノ

豫備ニ供スルノ目的ヲ以テ次テ本年六月七日第二坑第三坑間ニ之レカ風道ノ開鑿ニ着手シ十二月末竣工セリ

前記施設ニシテ本期中ニ竣成セサルモノ左ノ如シ

二子坑

繼續事業ナル二子島新坑開鑿工事ハ漸ク進捗シ本年末ニ於ケル水平坑道ノ延長第一坑ハ二千六百八十四尺第二坑ハ二千六百三十三尺ニ達シ目下ノ處大正二年一月中ニハ着炭ノ豫定ナリ坑内排水電力用直流二百五十「キロワット」バーソンス、ターボ、ゼネレーター「二臺ノ豫備トシテ本年九月二十八日ヨリ同型同大ノ發電機一臺及同上用既設加熱面積二八五二平方呎」バブコック、エンド、ウキルコックス「汽罐二臺ノ豫備トシテ本年十二月三日ヨリ同型同大ノ汽罐一臺ノ増設ニ着手シ本年中基礎工事及大略ノ組立ヲ終了シ大正二年一月末全部完成運轉ヲ開始スルノ豫定ナリ

端島

舊汽罐用現煙突ハ煉瓦製ニシテ高サ八十七呎ヲ有スルモ西側丘陵ノ高サニ及ハサルヲ以テ南風ノ際ハ常ニ煙道「ドラフト」ヲ壓遮セラレ爲メニ規定ノ汽壓ヲ維持スルコト困難ナリ依テ高サ百二十呎徑六呎六吋「カーン」式鐵筋「コンクリート」製ノモノ一基ヲ新設シ之レニ代ヘントシ十一月十五日工事ニ着手シ大正二年四月末竣工ノ豫定ナリ
將來ニ對スル計畫ニシテ未タ着手セサルモノ左ノ如シ

二子坑

坑内ノ排氣ハ目下自然通風ニ據ルノ外ニ將來瓦斯發生ノ際ヲ慮リ六呎徑「チャンピオン」型扇風機一臺ヲ設置シアルモ坑道ノ進掘ニ伴ヒ同機ニテハ風量不足ナルヲ以テ更ニ二百馬力直流電動機ヨリ調繩ニテ傳動サル、二十萬立方呎「ラトウ」型扇風機一臺ヲ据付クルノ計畫ニシテ大正三年一月中旬着手ノ豫定ナリ

端島

坑内排水用トシテ三坑内砥先ニ十五馬力乃至二十五馬力直流電動機直結「タービン」唧筒六臺据付計畫ハ昨四十四年七月着手ノ筈ナリシモ工事ノ都合上豫定ノ進捗ヲ得ス依テ大正二年一月着手ノ豫定ナリ

第三坑砥先ニ探炭ヲ開始スルニ當リ同卸口ヨリ第三坑底ニ至ル間ヲ炭車運搬用トシテ六馬力電動小型無極索道機一臺ヲ設置スルノ計畫ニシテ大正二年一月着手ノ豫定ナリ

松島炭礦 石炭

位置
松島郡西彼杵郡松島村
古賀炭業合資會社

新ニ工事ヲ施シタルモノ

第二坑ノ西北方百三十間ヲ隔テ、海面上十五尺ノ位置ニ第三坑ヲ開鑿ス右ハ運搬坑道排氣坑道ノ二斜坑傾斜何レモ十八度ナリ明治四十五年三月一日起工シ同年五月二十日運搬坑道ハ坑口ヨリ七十七間排氣坑道ハ七十三間ニシテ着炭セリ炭層中ノ坑道ノ延長ハ卸坑道百六十間又卸八十間片磐坑道五個ニシテ其延長合計二百十間ナリ猶ホ四尺炭層探掘ノ目的ヲ以テ掘進中

ノ分歧坑道ハ大正二年一月中着炭ノ豫定ナリ運搬用トシテハ坑口ヲ距ル四十五間ノ位置ニ横置式兩汽笛不凝縮徑十四吋衝程二十八吋ノ捲機械ヲ据付ク

從來ノ裸火ヲ廢シテ横田式及小柳式安全燈ヲ使用スルコト、爲シ十月一日ヨリ之ヲ實施セリ
第二坑四尺眞卸左二十五片上ニ電氣唧筒座ヲ開設シ「エーゲル」式及ヒ「ズルツアー」式「タービン」唧筒(馬力各七十五)五臺ヲ設置シ第二坑四尺全部及ヒ第一坑又卸全部ノ水ヲ直接坑外ニ排出スルコト、シタルヲ以テ從來本卸又卸二十三片上ニ設置セル蒸汽唧筒四臺ハ之レヲ撤回スルコトヲ得タリ

第三坑々外ニ幅十二尺長十二間ノ選炭棧橋ヲ設ケ萬斛三個ヲ備フ

第二坑々外ニ船積棧橋五個ヲ設ケ和船積ニ便ス

前年ヨリノ繼續工事ノ進捗ハ左ノ如シ

前期中ヨリ工事中ノ動力設置完成セリ、即チ三百「キロワット」三相交流蝸輪發電機(一臺ハ「バーン」(一臺ハ「ツアイベル」)二臺ニシテ一臺ヲ常用シ一臺ヲ豫備トス之ニ附屬スル機關ハ「バブコック」、エンド、ウイルコック、汽罐(馬力各二百五十)自動給炭機付ニシテ三基ヲ設置ス十月一日ヨリ之ヲ使用ス

第一坑四尺眞卸ハ前期中ヨリ斷層掘鑿中ナリシカ八月二十日坑口ヨリ四百六十間ニシテ四尺層ニ着炭セリ爾後ノ坑道延長ハ卸坑道六十間片磐二個ニシテ合計百間ナリ猶ホ目下進掘中ナリ第一坑四尺層左三片先卸ハ延長二百四十間ニ達シ片磐坑道七個其延長合計二百九十間ノ進

捗ヲ爲シ猶ホ繼續中ナリ

第二坑四尺眞卸ハ第一坑右二十二片ト交叉點以下百五十五間ノ進掘ヲ爲シ片磐四個其延長四百五十間ニ達シ猶ホ進掘中ナリ

將來ニ對スル設計ノ概要

本坑坑口ヲ南方ニ距ル七百四十間松島村字外浦ニ第四坑ヲ開鑿シ本坑南方ノ區域ヲ採掘セントス

第四坑運搬用トシテ外浦ヨリ第二坑ニ至ル延長約一哩ノ運炭道路ヲ設ケ無極索道ヲ以テ運搬セントス

第二坑ニ選炭機ヲ設ケ第二、第三、第四坑ノ選炭ヲ爲サシム

廢止セルモノ左ノ如シ

從來本坑ニ使用セシ「ランカシャ」式汽罐三臺ハ十月以後其使用ヲ廢止ス

松浦炭礦 石炭 位置 長崎縣北松浦郡世知原村
松浦炭坑合資會社

繼續事業

新坑探登二五九號内大斷層掘鑿工事ハ客年一月ヨリ着手セシモ未タ完成スルニ至ラス尙繼續事業トシテ施行スルモノトス

右ニ對スル年末掘鑿進捗ノ程度延長三十間

竣成豫定大正三年六月末日迄ノ見込

崎戸炭礦 石炭

位置 長崎縣西彼杵郡崎戸村
鑛業人 九州炭礦汽船株式會社

動力ニ於テハ從來使用セル「タンデム」複式汽機ニ連結セル三相交流五百「ボルト」百五十「キロワット」發電機二臺ニ更フルニ三相交流三千五百「ボルト」五百「キロワット」「タービン」發電機二臺並ニ「ハイネ」水管式汽罐二個及附屬煙突(内徑八尺高百四十五尺)ノ設置ヲ計リ一部ハ已ニ落成セリ

運搬ニ於テハ下風坑口ニ設置セル十四吋蒸汽捲機械ニ更フルニ百馬力電働無極索道曳揚機ヲ設ケ六月之レカ設置ニ着手シ十二月七日落成セリ

選炭機ハ從來ノ「トラベリング・バンド」ヲ廢シ「チンメル」式選炭機ニ更ヘントシ六月之カ基礎工事ニ着手シ十二月初旬完成ヲ告ケタリ而シテ從來小塊粉炭混入ノ儘洗炭シツ、アリシカ小塊及粉炭ヲ別ケ各二個ノ「ブラツケツ」式洗炭機ヲ備ヘ洗炭ノ改良ヲ計ルヲ得タリ

採掘ノ方法ハ別ニ從來ト異ナル處ナシト雖モ炭柱ノ太サヲ漸次増大シ炭室ト炭室トノ中心間距離ヲ百二十尺以上ト爲セリ

將來ニ於ケル計畫トシテハ上風坑口ニ排氣量十五萬立方尺ノ電働「キャベル」式扇風機ヲ設置シ從來ノ自然通風ヲ更メ坑内ニ於ケル蒸氣捲揚機械ヲ電働無極索道曳揚機ニ更メ更ニ坑内卸用蒸汽唧筒ヲ總テ「タービン」式電働唧筒ニ變更セントス其竣工豫定期日ハ來年三月ノ交ナルヘシ

淺浦鑿坑

鑛區内崎戸村蠣ノ浦郷ノ南部字淺浦ノ地ヲ相シ明治四十五年六月鑿坑ノ開鑿ニ着手シ(何レモ圓形下風坑ハ徑十八尺五寸上風坑ハ徑十四尺)目下下風坑ハ百七十七尺上風坑ハ八十尺進工セ

リ而シテ深サ約六百三十尺ノ豫定ナレハ大正三年二月末ニハ着炭スルコトヲ得ヘシ
本年中新ニ設置シ又ハ廢止シタル汽罐左ノ如シ

「ハイネ」水管式汽罐二基二百三十馬力 新設

「ランカシャー」式百馬力（一八一四）一臺 廢止

大嶺海軍炭山 石炭 位置 山口縣美禰郡大嶺村
礦業人 海軍省

大サ一三「ミリ」以上三〇「ミリ」以下ノ粒炭洗滌ノ目的ヲ以テ五月中米國「コンセントレート」會社製「ニユーセンチュリー」型洗炭機一臺据付ニ着手六月十五日竣工爾來引續キ運轉中ニシテ前記粒炭ハ品質粗惡ナル爲メ從來煉炭用ニ適合セサリシモ本機据付洗滌ノ結果該炭ヨリ約六割ノ良炭ヲ採取スルヲ得タリ

沖ノ山炭鑛 石炭 位置 山口縣厚狹郡宇部村
礦業人 渡邊祐策

工事施設

堅坑開鑿準備起工

從來陸地ヨリ掘進セル入土五ツ段兩坑共運搬幹坑道ノ方向カ鑛區ノ形狀ヨリ左ニ偏シ右片磐ノ採炭ニ大ナル不便ヲ感スルノミナラス坑道ノ掘進ニ從ヒ漸次通氣ノ困難ヲ感スルカ爲メ現在ノ鑛業地ヨリ南西距離五百十二間ノ海面ニ方百間ノ築堤ヲ爲シ以テ鑛業地ヲ造リ捲揚用及排氣用ノ二個ノ堅坑ヲ開鑿スル目的ヲ以テ九月起工石垣築造中ニ屬ス而シテ堅坑全部ノ竣工ハ大正三年末季ナルヘシ

機械設備

本年三月入土坑左一號卸ニ二十五馬力電氣「タービン」唧筒一臺ヲ据付ケ從來ノ蒸氣「ポンプ」ト併用シ又五ッ段坑左二號卸ニ二十馬力電氣捲揚機一臺五馬力及七馬力半「スリースロー」型電氣唧筒一臺并ニ豫備トシテ二十五馬力「タービン」唧筒一臺ニ取替ヘタリ

入土坑坪下排水ニハ從來使用ノ二十吋「エバンス」型唧筒三臺ニ代ユルニ百十馬力「デュープレツキス」コンパウンド「唧筒」二臺ノ据付ニ着手シ十一月末起工大正二年二月中旬ニ於テ全部竣成運轉開始ノ見込ナリ

建物

本年中ニ竣成シタル建物ハ坑夫住宅六棟百九十五坪一合傳染病類似患者隔離室一棟二十四坪人事係員并ニ坑内係員事務室一棟十坪五合ニシテ又從來坑夫子弟ヲ教育セル沖ノ山炭礦家庭學校々舍狹隘ヲ告クルニ到リシヲ以テ更ニ同校舎一棟四十五坪ノ建設ニ着手シ大正二年二月中ニハ竣工ノ見込ナリ

本年中ニ廢止セル汽罐ハ「ランカシヤ」型二臺(各四十五馬力)ニシテ新設セルモノハ「ランカシヤ」型三臺(各六十八馬力)ナリ

西沖ノ山炭坑 石炭 鑛業人 山口縣厚狹郡宇部村
置 高 良 七

明治四十四年十一月ニ着手シタル本卸斜口八吋兩汽笛捲揚機械(一四・七馬力)ハ明治四十五年一月ヨリ運轉シ又四十四年九月着手シタル本卸十二片無極索道機(三十一馬力)ハ四十五年四月ヨリ運

轉シ共ニ運搬ニ多大ノ便利ヲ與ヘタリ

銚田炭坑 石炭

位 置 福岡縣嘉穂郡飯塚町
礦業人 三菱合資會社

當年中ニ於テ新ニ施設シタル工事ハ左ノ如シ

笠松坑出炭ノ搬出ハ從來丘腹ニ沿ヒ三十分ノ一ノ勾配ヲ有スル電車道ニ依リタルモ諸般ノ不便尠カラサルヲ以テ第四坑々口附近ニ連絡スル捲卸車道約四鎖ヲ新設シ第四坑專用ノ電車道ニ依リ搬出スルコトト爲セリ

笠松坑ハ從來自然通風ナリシカ「トーラン」五尺左九片ニ於テ第三坑々内ニ貫通セシメタルニ依リ第三坑ニ設置ノ「チャンピオン」式扇風機ニ依ルコトニ改メタリ

第五坑ハ水害復舊後本卸ノ掘進著シク進捗シタルヲ以テ二十四片盤ニ第二唧筒座ヲ新設シ七十二馬力ノ電氣唧筒二臺ヲ設置シタリ

明治四十三年七月新設使用ヲ始メタル第一、第二號「チンメル」式選炭機ノ傍ニ更ニ一晝夜約千噸ヲ處理スヘキ塊粉及切込選炭機ヲ増設シ八月ヨリ之カ運轉使用ヲ開始ス

明治四十五年二月第五坑新設百馬力電氣捲揚機械据付工事竣成シタルヲ以テ從來使用ノ十吋双汽笛蒸汽捲揚機械ヲ解放シ同年七月笠松坑新設六十馬力電氣捲揚機械据付工事竣成ト同時ニ十吋双汽笛及八吋二分ノ一双汽笛ノ舊捲揚機械二臺ヲ廢止シタリ

第四、第五兩坑ノ發展ニ伴ヒ建物ヲ増設シタルハ役員、職工、坑夫等ノ住宅ニ充ツルモノ木造千六百九十四坪一合一勺風呂場木造二十四坪、理髮所二箇所木造二十二坪七合五勺、事務室木造三十

四坪醫務室木造七坪、小使室木造三坪「ランブ」室煉瓦造十七坪五合ナリ

前年ヨリ繼續ノ工事ニシテ本年中ニ竣成セサルモノ左ノ如シ

柳坑右又卸ハ捲揚遠距離ニ達シタルヲ以テ右二十四片盤ニ捲揚機械ヲ設置シ二段接キ捲揚ヲ爲サンカ爲メ其準備工事ニ着手シ既ニ工事ノ三分ノ一ヲ終リ大正二年五月全部竣成ノ豫定ナリ

第一坑底部ニ於ケル深ク上リ大斷層先ノ「ドーラン」五尺層ハ採掘發展ニ伴ヒ運搬、通風共ニ困難トナリタルヲ以テ四十四年三月左又二十五片ヨリ約十二度ノ勾配ヲ以テ豫定延長百十間ニ及フヘキ切り昇リ運搬坑道ノ開鑿ニ着手シ目下進掘九十間ニ達シ大正二年三月ヲ以テ着炭ノ豫定ナリ

本年中廢止及新設ヲ爲シタル汽罐ノ種類及其馬力數左ノ如シ

種 類	馬 力	數	備 考
「バブコックウイルコック」水管式	毎時凡ソ三千二百封度ノ水ヲ百五十封度壓ニテ蒸發セシム	新	設
同 上	同 上	同	上
「ランカシャー」式	毎時二千三百封度ノ水ヲ五十封度壓ニテ蒸發セシム	廢	止
同 上	同 上	同	上

上山田炭礦 石炭

位 置 三 福 岡 縣 嘉 穂 郡 熊 田 村
業 人 三 菱 合 資 會 社

第一坑々内發展ニ伴ヒ運搬力ニ不足ヲ生シ十四吋複汽笛横置式捲揚機械一臺ニテハ捲揚力不充分ナリシヲ以テ更ニ從來使用シ來リテ一時中止シアリシ十三吋半單汽笛横置式捲揚機械ヲ併用スルコト、ス而シテ尙坑内右三十片上部ニ捲揚機械一臺ヲ設置シ二段接キ捲揚ヲ爲サンカ爲メ其準備工事ニ着手セリ

第一坑ニ於テ四十四年末ニ着手セシ「チャンピオン」扇風機一臺設置工事ハ本期ノ始メニ於テ竣工セリ

第一坑ニ徑七呎長二十八呎六吋汽罐二個、徑四呎八吋高サ五十九呎一時ノ鐵製烟突一基増設工事ニ着手セリ

第二坑大斷層先炭層採掘ニ就テハ一月ヨリ更ニ横坑ノ開鑿ニ着手シ九十間餘ニシテ豫定ノ炭層ニ着シタリシモ數多ノ小斷層ニ遭遇シ尙探進中ナリ

第二坑大斷層肩全部ノ採掘終了ト共ニ十三吋四分ノ一複汽笛直立式捲揚機械及七吋複汽笛横置式捲揚機械ヲ廢止シ大斷層先開鑿用トシテ七吋複汽笛横置式捲揚機械ヲ設置セリ

又前項大斷層先横坑開鑿ハ年末ニ於テ掘進スルコト百二十間ニ達セリ而シテ其着炭豫定期日ハ大正二年一月末トス前項汽罐増設工事及前項坑内捲揚機械設置工事ハ大正二年一月末竣成ノ豫定ナリ

本年増設シタル汽罐ノ種類及馬力數左ノ如シ

種	類	馬	力	數	備	考
「ランカシャー」式	同	上	同	上	新	設
毎時二千三百封度ノ水ヲ五十封度壓ニテ蒸發セシム						
同	上	同	上	同	同	上

大辻炭礦 石炭 位置 福岡 遠賀郡香月村
 鑛業人 貝島 鑛業株式會社

本鑛區深部ニ含有セル高江炭層採掘ノ目的ヲ以テ本年三月排氣竪坑開鑿ニ着手シ十二月末迄二百四十六尺進掘シ大正二年十月着炭ノ豫定ナリ本竪坑ハ内徑十六尺圓型周圍「コンクリート」壁ニシテ深サ五百九十五尺ノ豫定ニテ開鑿ニハ「フロットマン」式鑿岩機ヲ使用シ之レカ原動機ニハ百二十馬力電氣壓搾空氣機ヲ設置シ本年十月其運轉ヲ開始セリ

同上運搬斜坑ハ本年十二月工事ニ着手シ十二月末迄六間掘進シ大正三年三月延長三百五十一間ニシテ着炭ノ豫定ナリ本坑開鑿ニハ排氣坑ト同様ノ鑿岩機及電氣壓搾空氣機ヲ使用セリ

坑内排水ハ從來凡テ蒸氣唧筒使用ノ處鞍手郡宮田村桐野坑業所中央發電所ヨリ送電シ竪坑底以下ハ全部電氣唧筒ニ變更シ左記ノ唧筒ヲ設置セリ

「タービン」唧筒	五十立方	八十馬力	二臺	三尺層第一中段	運轉開始八月一日
同 上	三十立方	三十三馬力	一臺 同	第二中段	同 八月七日
「ブランヂャー」	十立方	十二馬力	一臺 同	卸	同 十一月五日

「タービン」

四十立方 五十五馬力 二臺 四尺層第一中段 同

八月二十日

同 上 十五立方 十六馬力 一臺 同 卸 同

八月二十三日

高江層堅坑開鑿用トシテ十四吋双汽笛横置式捲揚機械八十五馬力ノモノ一臺ヲ設置シ本年五月運轉ヲ開始セリ又同斜坑開鑿用トシテ十三吋双汽笛横置式捲揚機械七十馬力ノモノ一臺ヲ設置シ本年十二月運轉ヲ開始セリ

又從來使用ノ坑外運炭用無極索道十吋捲機械ハ出炭増加ニ伴ヒ運搬力不足スルヲ以テ更ニ十二吋無極索道捲機械ニ變更ノ計畫中ニシテ大正二年一月運轉開始ノ豫定ナリ

風道斜坑使用ノ十三吋假捲機械ハ出炭ノ曉ニハ十六吋横置式双笛捲揚機設置ノ計畫中ニテ大正二年五月運轉開始ノ豫定ナリ

選炭機据付計畫 大辻風道坑ニ汽力選炭機械ヲ設置スル計畫ニテ目下設計中ニテ落成ノ曉ニハ選炭上多大ノ効果ヲ奏スルナラン

採掘方法ノ改良 採掘方法ハ從來全部手掘リヲ以テセシカ今回「ヒツク、クイツク、コール、カツター」二十馬力一臺ヲ使用シ採掘ノ計畫中ニテ目下電纜ノ配置、機械ノ据付中ニテ落成ノ曉ニハ採掘上多大ノ勞力ヲ省キ出炭上大ニ面目ヲ改ムルナラン

熊田炭礦 石炭 位置 福岡縣嘉穗郡熊田村
礦業人 中野德次郎

登録第一一六號鑛區合併施業ノ結果本年ニ於テ高層片盤約七十間大一片盤百二十間左右盤百三十間ヲ延長シ且坑口ヨリ百八十間ノ處ニテ捲卸坑道ヲ左部ニ變更(九十八間)更ニ三十五間延長シ

目下掘進中ナリ工作物ニ就テハ在來ノ「ベルト」式選炭機中ニ本年十一月十六日ヨリ中塊水洗機十二時間行程約三十噸ヲ設ケタリ

芳雄炭礦 石炭 位置 福岡縣嘉穗郡飯塚町
鑛業人 麻生太吉

本年中ニ於テ新ニ施設シタルモノハ左ノ如シ

上三緒坑第一坑内ニ於テ昨年五月ヨリ向二箇年ノ豫定ニテ着手セシ風道開鑿工事ハ本年十二月迄ニテ三百三十間ヲ竣工シタルヲ以テ明年一月以降ハ通風上多大ノ効果アルヘク通氣抵抗モ等積孔ニ於テ目下ノ十四平方呎ノモノヲ十八平方呎ニ擴大シ得ヘシ

上三緒坑大丈燐石及「カタギ」五尺層燐石ヲ探掘スル目的ヲ以テ本年五月大丈層ノ露頭ヨリ第三斜坑ノ開鑿ニ着手シ現今坑口ヨリ五十五間延長セシヲ以テ今後ハ一箇月一千噸以上ヲ探掘シ得ヘシ

前項ノ出炭ヲ運搬スル爲メ第一坑無端網條線路ノ終點ヨリ二百五十間ノ單線軌道ヲ延長シ明年ヨリ人力又ハ馬力ニテ運搬スルノ豫定ナリ本年七月着手十一月竣工セリ

上三緒坑第三坑用トシテ八吋双汽笛捲揚機一臺(衝程一呎馬力十二馬力)ヲ据付ク本年五月着手六月竣工セリ

山内坑第三坑ニ大正二年一月ヨリ實施スル豫定ニテ「ギヤベル」式扇風機(幅八呎徑七呎排氣量一分時間十五萬立方呎水壓計三吋ノ時)一臺ヲ据付ク本年十月着手十二月竣工セリ

山内坑第四坑用トシテ八吋双汽笛捲揚機一臺(十八馬力)ヲ据付ク本年四月着手十二月竣工セリ

上三緒坑ニ於テ昨年五月ヨリ着手セシ鑛夫納屋ノ改築ハ瓦葺平家八棟此建坪四百八十坪本年十二月五日ヲ以テ終了ス鑛業用火藥取扱ニ就キ左ノ通り改築及建設ヲ爲ス

上三緒坑火藥倉庫三棟四坪改築

本年七月着手
全 八月竣工

同 坑火藥倉庫一棟三坪建設

同 上

山内坑火藥倉庫一棟三坪建設

同 上

本年中廢止又ハ新設ヲ爲シタル汽鑛ノ種類馬力數等

新設シタルモノ「ランカシャ」式

長徑七呎三吋
長三呎十吋

百十五馬力

上三緒第一坑

増設シタルモノ堅置式

長徑三呎二吋
長七呎四吋

二十馬力

同 第三坑

移轉開設シタルモノ「コルニツシュ」式

長徑二呎三吋
長二呎三吋

四十馬力

全 第二坑ヨリ
全 第二坑ヨリ

同 同 式

長徑二呎三吋
長二呎三吋

四十馬力

全 第二坑ヨリ
全 第二坑ヨリ

増設シタルモノ堅置式

長徑三呎七吋
長七呎九吋

三十五馬力

山内坑第四坑

同 同 式

長徑三呎七吋
長九呎七吋

三十五馬力

同 上

同 同 式

長徑四呎十吋
長四呎十吋

四十五馬力

同 上

同 同 式

長徑三呎十吋
長八呎五吋

三十五馬力

同 上

同 「コルニツシュ」式

長徑四呎十吋
長二呎七吋

五十馬力

同 第三坑

同 同 式

長徑四呎十一吋
長二呎三吋

五十馬力

同 上

廢止シタルモノ堅置式 上三緒第三坑ニ増設シタルモノ

其他山内坑ニテ是迄使用シ來リタル燈具「デビー」式安全燈ヲ全廢シ合金發火器附「ウォルフ」式安全燈ニ改ム

豆田炭礦 石炭 鑛業人 置 福岡縣嘉穂郡桂川村 太吉

第一坑底五尺層ヲ採掘ノ目的ニテ一坑右卸各片磐軌道ニ向ヒ炭層ノ露頭ヨリ捲卸斜坑ヲ開鑿ス此延長百五十間前項ノ石炭ヲ運搬スル爲メ坑内軌道二百七十間坑外軌道三百四十間ヲ延長ス本年三月着手九月竣工セリ

底五尺炭曳揚用トシテ十一吋双汽笛捲揚機一臺馬力三十一ヲ新坑ヨリ移轉開設ス本年三月着手九月竣工セリ鑛業用火藥取扱ニ就キ火藥倉庫一棟建坪三坪建設ス

新坑ハ本年五月第二坑ハ本年十月採掘終了ニ付何レモ閉坑セリ

汽鑛ノ移轉設置シタルモノ「ランカシャー」式 長徑六呎一時 八十五馬力 第二坑ヨリ 第一坑ヘ

同 同 式 長徑六呎一時 八十五馬力 同上

網分炭礦 石炭 鑛業人 置 福岡縣嘉穂郡庄内村 太吉

坑内右卸採掘ノ目的ニテ右二片ノ上部ニ捲立ヲ造リ此處ヨリ以下百八十間ノ捲揚ヲ爲シ更ニ馬力ヲ以テ同所ヨリ本卸捲立間ノ運搬ヲ爲スノ裝置ヲ爲セリ捲卸軌道ノ延長百二十間トス前項ノ捲揚用トシテ十吋双汽笛捲揚機一臺(衝程十六吋二十六馬力)ヲ据付ク

鑛業用火藥取扱ニ就キ火藥倉庫一棟此建坪三坪建設ス

金谷炭礦 石炭 鑛業人 置 福岡縣田川郡神田村 金谷鑛業合資會社

上三尺炭探掘ノ目的ヲ以テ第三豎坑(明治三十六年開鑿延長九十尺二寸五分ニテ中止ノ坑底ヨリ百三十五尺ノ掘進ヲ爲ス而シテ其着手ハ大正元年十月一日着炭豫定期日ハ大正二年三月末日ニシテ將來ハ排水及排氣坑トス

五尺炭ノ肩部地山及殘柱式探掘跡ノ炭柱ヲ探炭スル目的ニテ第四豎坑及第三斜坑ヲ開鑿ス

第四豎坑四十九尺ニ着炭第三斜坑傾斜十五度距離百四尺ニテ着炭セリ而シテ其着手ハ大正元年九月二十七日竣工ハ大正元年十月十七日ナリトス

第四豎坑ヲ排氣トシテ第三斜坑ヲ入氣及運搬坑道トス

以上ノ工事竣工ノ曉ハ其生産力一箇年間一億一千萬斤ノ出炭ヲ爲シ得ヘキ豫定ナリ

坑内ニ於ケル通氣ハ自然通氣ニシテ第一斜坑ヨリ入氣セルヲ第二豎坑ニ排氣セシメ居ルヲ第二豎坑「チャンピオン」式扇風機徑八呎巾四呎動力ハ汽力ヲ設置シ排氣ハ扇風機ニ依ル

第三豎坑大正元年末ニ於ケル進捗ノ程度ハ六十三尺掘進ニシテ其着炭迄ノ竣工豫定期日ハ大正二年三月末日ナルモ通風坑道ト貫通シ通風完成スル迄ノ竣工豫定期日ハ大正二年末ナルヘシ上三尺炭探炭ニ付テ第三豎坑開鑿着炭ト同時ニ第一斜坑五尺層本卸ヨリ上三尺第一切上リ(向フ降リ傾斜五度距離七十一間ニシテ着炭ス)坑道ヲ開鑿シ第三豎坑ト連絡ヲ計リ將來ハ入氣及運搬坑道トス

該坑道開鑿ノ着手ハ大正二年三月末日ナリ

大正元年九月十三日坑内火災ノ爲メ坑口密閉ニ依リ事業ヲ縮少セリ

横島炭礦 石炭

位 置 續業人

福岡縣田川郡後藤寺町
藏内大郎 製作

第一坑(特第三七四三號)

坑内左八尺(第一斷層手前)ニ雙汽笛徑七吋九八實馬力ノ汽機ヲ設置シタリ

「ランカシャー」式徑六呎長二十八呎三七七實馬力同式徑六呎二吋長二十八呎五吋三七七實馬力ノ汽罐ヲ増設セリ

第二坑(特第五一九九號)

上三尺炭ニ着シ當時延長五百十八尺ニ達セリ

捲揚機械新設ノ分ハ雙汽笛徑十四吋三八二實馬力ナリ

第一坑ニ於ケル前年ヨリノ繼續事業

第二斷層先八尺殘柱同下三尺炭採掘ニ着手シタリ第二斷層先八尺燐石炭同上「チラク」炭七重炭ハ引續キ採掘シ同四尺殘柱(左四尺)ハ五月中ニ於テ採炭終了セリ

第三斷層先八尺燐石炭同「チラク」炭七重炭并下三尺炭ヲ採炭シ四尺殘柱(新四尺)ハ八月迄ニ全部採取ヲ爲シタリ

第四斷層先八尺燐石炭ハ三月中全部ニ採掘シ下三尺炭ハ當時採掘中ナリ

又第二坑ニ於テハ前期ヨリ引續キ幹線坑道開鑿中ナルモ上三尺炭ハ本卸坑道ヨリ右ニ運搬坑道ヲ掘進シ自家燃料トシテ試掘中ナリ

將來ニ對スル計畫 第一坑ニ於テハ第三斷層先下三尺左一片二卸ヨリ卸ニ向ヒ切昇傾斜三度

延長百三十五尺ニテ八尺着炭同層燐石炭リイラ炭并ニ七重炭採炭ノ目的一月中着手ノ豫定ナリ坑口ヨリ百〇八尺上三尺炭層内ヲ左斜二卸坑道ヲ掘進シ第一斷層手前上三尺炭ヲ自家用燃料炭トシテ採掘ノ目的ニテ一月中着手ノ豫定ナリ又第二坑ニ於テハ本卸及連卸ヨリ新ニ開鑿セル兩斜卸八尺着炭後同層採掘ノ豫定ナリ又第一坑ニ於テ第二斷層先四尺殘柱及第三斷層先四尺殘柱ト第四斷層先八尺層ハ共ニ採炭終了ニ付廢止ス

高田炭礦 石炭

位置 福岡縣粕屋郡篠栗村
鐵業人 橋本牛次郎

採掘登錄第八七號鑛區ノ一部即チ福岡縣粕屋郡勢門村大字津波黑字大浦ニ於テ深鑛ノ目的ヲ以テ大正元年九月二十五日舊坑ノ取り明ケニ着手ス其本年末ニ於テハ探鑛進捗區域ハ炭層ノ傾斜ニ沿ヘル距離二十七間片磐ニハ三十間ニシテ最早ヤ各方面トモ舊探掘區域ヲ脱出シテ新床ニ達セリ工事竣成豫定期日ハ大正二年五月三十一日ナリ

第二坑開鑿工事前項記載ノ通り採掘登錄第八七號鑛區ノ一區域即チ粕屋郡勢門村大字津波黑字大浦ニ於ケル探鑛工事モ其主要ナル目的ヲ達シタルヲ以テ高田炭礦第二坑ヲ起業セントス汽罐ハ直徑六呎ノ「ランカシャ」式三本直徑七呎ノ同形一本ヲ設備ス其他詳細ナル設備ニ至リテハ未タ設計確定ニ至ラス

第二坑附屬坑開鑿工事採掘登錄第八七號鑛區ノ一區域即チ粕屋郡勢門村大字津波黑字高辻ニ高田第二坑附屬坑ヲ開鑿セントス

長禮炭鑛 石炭 鑛業人 福岡縣箱屋郡須惠村
松平

建物ノ建設ヲナセルコト左ノ如シ

種別	棟數	坪數	構造	用途	着手年月日	利便
納屋	一	七二	木造平家小坂葺	鑛夫住宅用	四十五年二月十日起工 年三月廿五日完成	從來ヨリハ坑夫約五十人ヲ收容スルヲ得
選炭場	増築	四〇	掘立杉皮葺	選炭用	全年六月一日起工 年七月二十日完成	從來狹隘ナリシモノ 完成後不便ヲ見ス
火藥庫	二	二、八	煉瓦作り屋根瓦葺	火藥貯藏用	全年七月廿四日起工 元年十二月八日完成	

方城炭鑛 石炭 鑛業人 福岡縣田川郡方城村
鐵業人 三菱合資會社

新ニ工事ヲ施設シタルモノ

本年三月彦山川端發電所新設工事完成シ送電シ始メタレハ從來坑内ニ於ケル動力(蒸汽又ハ壓搾空氣)ヲ電力ニ變更シ左記ノ通り捲機機及唧筒ヲ新設シ運轉ヲ開始セリ

百馬力交流電働機付捲揚機械	一
五十馬力 同	一
三十馬力 同	一
十五馬力 同	四
七馬力半 同	一

二十馬力「タービン」唧筒

十五馬力 同 同

十馬力 同 同

三馬力「トラツク」同

一 四 一 三

從來使用ノ氣錠式安全燈ヲ廢シ本年八月ヨリ磁錠式安全燈ヲ使用ス

本年十二月一日ヨリ下風坑底二十五馬力電動機付「クリーパー」ノ新設ニ着手セシモ年内ニハ基礎工事ノミニテ据付ノ運ヒニ至ラス明年一月上旬竣工ノ豫定ナリ

將來ニ對スル計劃ニシテ未タ着手セサルモノ

鐵橋附近ノ遠賀川改修工事落成ノ曉ニハ彦山川左岸ニ新選炭機械二臺「チャネルバー」式鎧板ノ長サ八十呎選炭力一臺八百噸ヲ据付ケ原動機ハ電力ヲ使用スル豫定ナリ

坑内右部ノ通風ヲ改善スヘキ目的ニテ同部ニ「シロッコ」式扇風機一臺風量十萬水計三吋動力電氣ヲ大正二年上半期ニ於テ据付ノ豫定ナリ

坑内全部ノ通風量ヲ増加スル目的ニテ坑外ニ「ラト」式扇風機一臺風量四十萬水計六吋動力汽力ヲ大正二年下半期ニ於テ据付ノ豫定ナリ

大正二年上半期ニ於テ第一中段ニ三十馬力「タービン」唧筒二臺四十馬力「タービン」唧筒二臺ヲ第二中段ニ二十馬力「タービン」唧筒二臺ヲ新設スル豫定ナリ

當坑鑛區八百五十萬坪以上ニシテ長方形ヲ呈シ現今ノ兩豎坑ノミニテハ他日通風ノ完全ヲ期

シ難キヲ以テ來年度ニ於テ金田鑛區内ヨリ兩斜坑ヲ開鑿シ當鑛區ノ右半部ニ屬スル(川上ニ屬スル部)凡ソ六十萬坪ヲ獨立區域トシ通氣ヲ圖ル豫定ナリ而シテ兩坑開鑿ニ要スル諸機械ハ凡テ電力ヲ利用シ其電力ハ方城發電所ヨリ供給スル豫定ナリ

宇美炭礦 石炭 位置 福岡縣粕屋部宇美村
鑛業人 堀川 國吉

捲揚機械十六時横置式双汽笛兩捲一臺据付前捲機ハ汽笛十時ニシテ一日ノ使用時數十二時間ニ對シ現在ノ坑内延長數ニテ積載炭量一函ニ付八百斤ノモノ三百函位ノ捲揚力ナリシモ明治四十四年六月十八日工事ニ着手同四十五年一月十一日工事完成ヲ爲シタル坑内ヨリ搬出スル總炭數ノ約二割五分ハ硬箱ナルヲ以テ一日十二時間ノ運轉ニ付七百五十函斤數六十萬斤即チ約三百六十噸ノ出炭ニ耐ヘ得ヘク十五時間ヲ使用セハ一日ノ出炭四百五十噸ノ量ニ耐ヘ得ヘキナリ排水從來ハ中段ニハ十八吋「スベシヤル」唧筒一臺壺下ニハ十八吋「スベシヤル」唧筒二臺ノ据付アリテ常ニ運轉ナサシメ居リシモ排水坑口ヨリ直立二百七十尺延長百五十一間ノ箇處中段及直立百七十尺延長九十間壺下唧筒座ノ二箇所ニ二十吋「エバンス」唧筒各一臺明治四十五年三月十五日工事ニ着手同年五月三日完成ヲ据付タル後ハ前ノ十八吋ハ兩所共豫備ト爲セシヲ以テ揚水ノ回數及蒸氣ノ費消ヲ減シタリ

選鑛場 明治四十五年五月九日工事ニ着手同年六月十二日完成セリ

忠隈炭礦 石炭 位置 福岡縣嘉穗郡穗波村
鑛業人 福岡縣嘉穗郡穗波村
住友 吉左衛門

給水唧筒ノ増設

東京石川島造船所製横置渦捲唧筒一臺揚水量百立方呎水頭八十呎一分時間千百六十回轉及之
ニ直結スヘキ芝浦製作所製三相交流六十「サイクル」二千百「ボルト」三十馬力電動機一臺ヲ工場用
並ニ飲料ノ供給ヲ爲ス秋松給水場ニ据付ケ從來据付アリシモノ、豫備トシテ二月二十二日起
工四月十日竣工セリ

扇風機

從來ノ機械修繕工場使用ノ送風機破損ノ個所多ク實用ニ堪ヘ難キヲ以テ「ル」ト式送風機風量
一分間ニ八百立方呎水頭八吋回轉數百二十ノモノ一臺ヲ機械工場ニ据付九月九日起工十月十
日竣工セリ

建設物

種 別	構 造	棟 數	坪 數	起 工 月 日	竣 工 月 日	用 途
鑛夫長家新築	木造平家瓦葺	二	五三・七五 ^坪	三月十三日	六月三十日	鑛 夫 住 宅
油倉庫新築	同	一	二・二一	六月三十日	九月十八日	油 類 貯 藏 用
火藥庫新築	煉瓦造瓦葺	二	五〇・六	八月三十一日	十月三十日	火 藥 貯 藏 用
火藥倉庫新築	同	一	二・八三	九月二日	十月三十日	同
敎誠所新築	木造平家亞鉛板葺	一	七八・七五	十月六日	十二月三十日	勞 役 者 敎 誠 場

選炭機増設

從來手選帶ヲ大塊中塊二帶ト爲セシモ中塊ノ選炭困難ナル爲メ更ニ幅四尺延長二十八尺ノ手選帶ヲ設クル爲メ七月二十五日起工シ從來使用ノ「ジンマー」式篩ノ長サヲ延長シ中塊ヲ中塊小塊ニ區別シ各一手選帶ニ運ヒ選炭ヲ容易ナラシメタリ而シテ建物ハ木造二階建亞鉛板葺坪數二十一坪一合一タニシテ九月三十日工事竣工セリ

本工事完成ニヨリ選硬力一割以上ヲ増シ且ツ選硬ヲ容易ナラシメタリ

三井本洞炭礦 石炭

位置 鑛業人 福岡縣鞍手郡下境村 三井鑛山株式會社

第一坑々内ニ電力「エントレス」曳揚機械二臺(各馬力數六十)ヲ設置ス

甲ハ三尺眞卸九片坑口ヨリ五百七十間ニ同卸九片下ニ右斜ノ斷層アルヲ以テ前個所ヨリ斜卸坑道ヲ設ケ斷層右部ノ運搬用トナス爲ニ四十五年一月ニ起工シ同上五月落成ス

乙ハ五尺右又卸右五片坑口ヨリ六百三十間ニ五尺層右片磐延長ニ過ルヲ以テ五片延先キニ右斜卸坑道ヲ設ケ運搬促進ノ用トス爲ニ四十五年二月ニ着手シ同上五月落成ス

第一坑汽罐場移轉

同坑ニテハ蒸汽唧筒ヲ全然撤廢シタルヲ以テ從來ノ汽罐場ハ蒸汽使用ノ便宜上移轉ノ必要ヲ生シ同所曳揚機械ノ側面ニ之レカ据替ヲ爲シ四月着手六月落成セリ同時ニ從來「ランカシャ」式汽罐六臺ヲ四臺ニ減シ二臺ヲ廢止セリ

排水坑

前年着手シタル排水坑穿進ハ都合ニ依リ中止セリ

發電機増設

電力擴張ノ爲メ從來二百「キロワット」三相交流發電機三臺ニ加ヘテ更ニ同一機械一臺ヲ増設シ

四月竣工セリ

三井田川炭礦 石炭

位置 福岡縣田川郡後藤寺町
礦業人 三井礦山株式會社

本坑斜坑一個本坑右間卸右左延以上肩部ニ年來伏在セル火災全滅ヲ圖ル目的ヲ以テ本坑々口ヨリ百四十八度〇八分三十間六ヲ距ル地點ニ於テ高サ五尺幅十尺ノ坑道開鑿ヲ本年二月一日工事ニ着手シ本年末迄ニ二百二十間ヲ掘進セリ

本年七月伊田堅坑ニ一日選炭量二十噸百馬力ノ選炭機ノ新設工事ニ着手シ同年八月十一日竣工セリ

現在ノ蒸汽發電所ハ發電力不足ヲ告クルニ至リシヲ以テ之レカ擴張ノ爲メ内徑十一呎六吋「モンド」式瓦斯發生爐六個ヲ以テ一日百噸ノ石炭ヲ蒸餾シ十三萬立方呎ノ瓦斯ヲ發生セシメ之レヲ以テ汽笛徑二十二及二十三吋衝程二十四吋ノ「シツクス」クランク「ガスエンジン」六臺ヲ運轉セシメ四千「キロワット」ノ電力ヲ發生セシムル瓦斯發電所設置ノ目的ヲ以テ二月地均ラシ工事ニ着手シ十月十五日ヨリ發生裝置据付ニ着手シ本年中ニ工事ノ約半ハヲ竣成セリ

瓦斯發電所機械上家ハ幅百四尺長百二十尺高六十尺ノ「錢筋コンクリート」建造ニシテ八月四日其工ヲ起シ本年中ニ工事ノ半ハヲ成工セリ

瓦斯機械据付ハ大正二年三月ヨリ着手ノ豫定ニシテ全部ノ竣工ハ同年六月中ノ豫定ナリ

以上全部竣工ノ上ハ本礦及本洞、山野炭礦ヘ電力ヲ供給シ坑内排水及運搬機械ヲ運轉セシメ以テ坑内ノ保安ヲ増進シ且ツ運搬ヲ良好ナラシムルニ至ルヘシ

本坑右斜卸部内ノ石炭搬出ノ目的ヲ以テ汽笛徑十四吋衝程二十七吋馬力百三十ノ双汽笛蒸汽曳揚機一臺ヲ大正二年一月起工シ同年三月竣工ノ豫定ナリ

大藪坑出炭量増加ノ爲メ從來設置ノ選炭機ニテハ其全部ノ用ヲ便スル能ハサルニ依リ現在ノ選炭機ト同様ノモノ一基ヲ増設シ一日四百噸ヲ選出スルノ豫定ニシテ大正二年一月工事ニ着手シ

同年三月中竣工ノ豫定ナリ

大藪坑左斜卸ヨリ石炭搬出ノ目的ヲ以テ汽笛徑二十二吋衝程四十八吋二百五十馬力蒸汽曳揚機一臺ヲ大正二年一月起工シ同年三月竣工ノ豫定ナリ

伊田堅坑坑内四尺層全部ヘ通風ノ目的ヲ以テ三百馬力排氣量二十萬立方呎ノ「シロツユ」式扇風機一臺ヲ大正二年三月起工シ同年六月完成ノ豫定ヲ以テ四尺層ニ据付ノ計劃ナリ

伊田堅坑四尺層石炭運搬ノ目的ヲ以テ大正二年一月起工シ同年二月竣工ノ豫定ニテ百二十馬力電氣曳揚機据付ノ豫定ナリ

伊田斜坑現在ノ選炭機ハ大塊及粉炭ノミノ選炭裝置ナリ然ルニ必要上小塊ヲモ選出シ得ル様裝置改修ノ目的ヲ以テ大正二年一月工事ニ着手シ同年五月竣工豫定ナリ

伊田斜坑左斜卸部内ノ石炭搬出ノ目的ヲ以テ坑内三十九片ニ三十五馬力電氣無極索道曳揚機ヲ

設置スルノ豫定ニシテ大正二年一月工事ニ着手シ同年二月中竣工ノ豫定ナリ

當中廢止又ハ新設ヲ爲シタル汽罐ノ種類番號馬力數等

大藪坑「ランカシャ」式汽罐二個ヲ増設ス本年四月増設工事ニ着手シ同年六月竣工セリ其汽罐馬力ハ各五十八馬力ナリ

三井山野炭礦 石炭 位置 福岡縣嘉穂郡稻葉村 三井礦山株式會社

十月一日ヨリ漆生第二坑運搬卸及排氣卸ノ開鑿ヲ同時ニ着手シ十一月二十五日運搬卸ハ坑口ヨリ四十二間ニ於テ着炭シ越テ十二月一日排氣卸ハ五十間ニテ着炭セリ而シテ十二月末日迄ノ延長ハ兩卸共九十間ニ達シ今後益々坑内ヲ發展シ豫定噸數ノ出炭ヲ計ラントス

鴨生坑ニ「シロツコ」式通風機一臺漆生坑ニ曳揚機一臺新設ノ豫定ニシテ尙九鐵漆生引込線完成ト相俟ツテ鴨生及漆生兩坑共選炭機新設ノ豫定ニシテ目下設計考案中ナリ

豐國炭礦 石炭 位置 福岡縣田川郡糸田村 明治礦業株式會社

第二礦ハ去四十二年四月ヲ以テ開鑿工事ニ着手シタリ爾來坑内外各般施設ノ進捗ヲ圖リ今ヤ殆ント各般ノ設備完成シタルヲ以テ之ヲ前年度ニ比スレハ著シク其面目ヲ進ムルニ至レリ而シテ坑内主要坑道ノ掘進ハ益進捗シ其延長八尺層卸約五百二十三間四尺層約四百七十二間ニ及ヒ本年内出炭總額ハ九萬四千噸餘ナリ又本年內竣成ノ工作物ハ事務所、安全燈室、扇風機、醫院、選炭機及鑛夫集會所ナリ

明治炭礦 石炭 位置 福岡縣鞍手郡額田村 明治礦業株式會社

明治第一礦ニ於テ明治四十四年七月七日ヨリ着手シタル新坑(第二橫坑ト稱ス)ハ上半期中ニ於テ豫定ノ坑道九百九十間ヲ掘進シ下半年期ヨリ切羽ノ探掘ニ着手シ四三馬力八吋橫置式不凝縮双汽笛捲揚機一臺ヲ据付タルヲ以テ本坑着部ニ殘存セル炭層ハ全部探掘シ得ルニ至レリ又明治第一礦ニ於ケル本卸及斜卸ハ過半退却シテ坑内探掘區域亦從テ減少シ無極索道捲揚機一臺豎坑捲一臺坑内捲一臺都合三臺ヲ使用スルハ機械經濟上不利益ナルノミナラス坑内未探掘區域ノ現狀ニ照シ捲卸坑道一方ニ偏スルニ至リシ爲新タニ新坑口(第三橫坑ト稱ス)ヲ開鑿シ僅カニ十六間ニシテ舊來ノ坑道ニ接續シ之ヲ修理改築シテ捲揚坑道ト爲スコト、シ三月中旬其工ヲ起シ五月下旬竣工セリ坑口ニハ十四吋橫置式不凝縮双汽笛捲揚機(一二馬力)ヲ据付ケ豎坑捲ハ三月中旬無極索道捲ハ八月中旬其使用ヲ中止シ得ルニ至レリ

明治第一礦ニ於テハ現時稼業中ノ五尺層ノ下層約六百尺ノ新五尺層探掘ノ目的ヲ以テ三月中旬起工年末ニ於テ本卸百五十間連卸百四十間人道八十五間斜卸八十四間ヲ掘進シタルヲ以テ大正二年上半期中ニ於テ九千噸探掘ノ豫定ナリ坑口ニハ八吋橫置式双汽笛不凝縮捲機九五馬力一臺ヲ据付ケ運搬軌道布設ノ爲メ七百六十坪ノ切取ヲ爲シ軌道四十九鎖ヲ布設セリ

新手續業所 石炭 鐵業人 福岡縣遠賀郡長津村
新手續業所 石炭 鐵業人 福岡縣遠賀郡長津村

新ニ工事ヲ施設シタルモノ

本鐵區深部ニ於テ明治四十四年度ヨリ施工セシ試錐ハ本年度ニ於テ全部竣成セリ

試 錐 名 稱	四十四年度末深尺數	自四十五年一月 至大正元年十二月 深尺數	竣 成 年 月 日
第一號八王子試錐	二百二十尺	三百六十八尺	大正元年十月十五日竣成
第三號鍋山試錐	八十七尺七寸	二百七尺一寸	大正元年八月一日竣成

尙昨年九月着手セシ本坑本卸斷層開鑿ハ目下引續キ進掘中ニテ本年十二月末ノ總延長ハ七十間五合ニシテ昨年末ノ延長ハ二十二間四合本年ノ延長ハ四十八間一合ナリ新坑五尺本卸ニ排水用豫備トシテ十立方呎「ゼット」唧筒一臺ヲ増設セリ尙本坑本卸排水用トシテ從來据付ケノ八吋「スベシャル」唧筒ヲ取除キ其代用トシテ十吋「スベシャル」唧筒一臺ヲ据付タリ

五十「キロワット」相交流式二千二百「ボルト」五十「サイクル」發電機一臺ヲ購入シ明治四十五年四月四日工事ニ着手シ大正元年九月十六日ニ竣成シ同時ニ電燈營業ヲ開始シ鑛業所並ニ附近需用家ニ點燈シツ、アリ而シテ其動力ハ蒸汽ヲ使用セリ

坑所内外ノ區域ヲ嚴ニシ且ツ他人ノ亂入ヲ防ク爲メ坑所外柵ヲ建設セリ而シテ其竣成延長三百四十間未成延長ハ七十間ニシテ大正二年中ニハ全部竣成ノ見込ナリ汽車積込炭量ノ増加ト共ニ從來ノ棧橋ノミニテハ不便ヲ感スルニ依リ一方ニ積込棧橋ヲ増設セリ其延長ハ十間ニシテ幅員ハ二間ナリ

坑夫用水供給場改築ノ豫定ニテ昨年十一月起工中ノ處本年一月ヲ以テ工事竣成セリ其鐵管配置

ノ延長ハ二百四十間ニシテ給水場ノ數ハ五箇所トス

本坑本卸斷層開鑿終了ノ曉ハ三百尺内外ノ坑内試錐ニ着手スヘキ豫定ナリ又大正二年一月ニハ在來ノ徑六呎「ランカシャー」式汽罐一臺ヲ取除キ更ニ徑七呎長サ三十呎ノ「ランカシャー」式汽罐一臺施設ノ豫定ナリ而シテ工事ハ同年三月竣成ノ見込ナリ

泉水炭礦 石炭 位置 福岡縣鞍手郡西川村
鑛業人 伊藤藤傳 右衛門

無極索道運搬路新設汽罐兩汽笛ニシテ汽笛ノ徑十三吋銜程廿吋馬力八十五線路ノ延長一哩二鎖從來馬力ヲ以テ運搬セシカ本年二月循環下網式ニ改メ專ラ運炭用トス而シテ工事ハ馬力運搬ノ際線路ハ大部分既成ナリシヲ以テ一部ニ修理機關ノ設置等ナリシヲ以テ昨四十四年十二月ヨリ起工四十五年二月ニ運轉開始直チニ運炭ヲ始ム

汽罐「コルニツシユ」式二基各馬力二十五ニシテ八月及十月中据付

捲揚機關(銜程二十吋)汽笛(銜程二十吋)汽筒直徑十一吋馬力四十二第二坑石炭捲揚用トシテ十二月基礎工事及同屋根

工事ヲ完成セシメ明年二年中据付運轉セシムル豫定ナリ

本坑々内ニ中段唧筒座新設ノ目的ヲ以テ九月ヨリ起工シ十一月竣成セル半圓徑ノ煉瓦一枚半積ニシテ内徑九尺高サ八尺長三十尺水溜ノ延長三十二間貯水容積六千四百立方尺大正二年一月中「シムブレッツクス」十四吋二臺据付ヲ爲ス

八月針金炭採掘ノ目的ヲ以テ第二坑開鑿ニ着手十一月着炭大正二年迄ハ專ラ主要坑道ヲ掘進スルモノトス

坑夫納屋四棟(各四十六坪)十月ヨリ起工十一月竣成木造平家建ニシテ各棟十戸ニ區分ス

貯水池(面積一反四畝八步、貯水容積十萬七千方尺)一般使役人ノ飲料用トシテ設置シタルモノニシテ八月ヨリ起工十一月竣成

金田炭礦 石炭 位 置 福 岡 縣 田 川 郡 神 田 村
礦 業 人 三 菱 合 資 會 社

八尺層ハ從來殘柱式ニテ採掘シ來リタルモ既ニ境界線ニ達セシヲ以テ今ヤ其大部分ハ左右共背進的柱引ヲ爲シ居レリ

五尺層ハ八尺層ノ上位ニアルヲ以テ八尺層採掘跡ハ木積若クハ岩積ヲ以テ之ヲ支持シ或ル期間其鎮靜ヲ俟テ徐々ニ殘柱法及「ストール」式ニテ採掘シ又一部ハ柱引ヲ爲シ居レリ

四尺層ハ八尺層ノ下部約五十尺ノ處ヨリ殘柱式ニテ採掘ヲ爲シ而シテ九月一日ヨリ其一部ヲ長四十間ノ長壁面ヲ片磐拂トシテ「ビツク、キツク、コールカツター」ヲ使用シ始メタリ

通氣上ニ付テハ從來ト大差ナク第一坑(同號)第二坑(六卸)口ヨリ入氣ハ各一直線ニ卸底ニ直進シ夫ヨリ左右各層ノ要部ヲ經テ第一第二ノ扇風機ニテ排出スルモノナリ而シテ四尺排氣ハ主ニ七昇ヲ昇リシモ事業ノ都合上右四十片迄ハ七昇ヲ昇セ以上三十三片迄ハ右三昇ヨリ再ヒ七昇ヲ徑テ第一扇風機ニ至リ排氣セシムルコト、セリ今一分間ノ排氣量ヲ計上スレハ平均二十五萬八千立方尺以上ヲ出セリ

排水上ニ付テハ將來増水アリタル場合ノ準備トシテ其豫測浸透水量一分間約百立方呎ヲ排出スルノ目的ヲ以テ坑内ヘ唧筒ノ据付及水管繼ヲ始ムルコト、シ其増設箇所及「ポンプ」ノ種類并ニ大

サ等左ノ如シ

五十三片ヘ十五馬力「タービン」唧筒一臺二十五馬力同上一臺ヲ据ヘ五十三片ヨリ五十片マテ五
時ノ水管ヲ繼キタリ

五十片ニ二十馬力「タービン」唧筒三臺ヲ据ヘ五十片ヨリ三十二片マテ八時ノ水管ヲ繼キタ
リ

三十二片ニ三十馬力「タービン」唧筒二臺ヲ据付ケタリ

十三片ニ一分間揚水量百五立方呎ノ「ジンスピル」蒸汽唧筒一臺ヲ据付ケ十三片ヨリ七片マテ十

時ノ水管ヲ繼キタリ

峯地炭礦 石炭 位置 福岡縣田川郡添田村
鑛業人 藏内次郎作

第一坑 鑛業上ノ工事ヲ施設シタルモノハ去四十一年七月變災ノ爲メ深部浸水中ノ處本年下半
期排水ヲ終リ深部ノ採掘ヲ開始セリ、選炭機一部ノ改良、鐵道側線變更工事、坑外運搬方法、無極索道
ノ改良、坑外捲揚機、双汽筒横置式十六吋新設、新設改良硬割機ノ新設及選炭場「クラッシャ」場汽罐
場増築火藥庫等ヲ建設セリ

第二坑選炭機新設 原動機双汽機ノ十四吋双汽筒横置式十八吋捲揚器百二十馬力汽罐一基選炭
場ヲ新設セリ

岩瀬坑捲揚器ハ第一坑ヨリ移轉開設セリ

新入炭礦 石炭 位置 福岡縣鞍手郡新入村
鑛業人 三菱合資會

各坑深部ニ於ケル未採掘部(地山)坑道掘進ハ順調ニ進行シ順次ニ長壁法ニ據リ採炭面ヲ擴張スルヲ得タリ仍テ

第一坑内右二十九片磐三十片磐ニ於テ採炭面長サ百間ヲ設備スルヲ得タリ又舊捲卸深部ノ排水掘進ハ繼續進行シ延長百五間餘三十九片磐ニ達スルヲ得タリ

第二坑々内目下新層掘進中ナリ而シテ三尺層内水平坑道總延長約百三十間ニ達セリ

第三坑内又卸ハ掘進延長約百間ニ達シ左方深部ニ殘留セル(元第一坑第三坑境界ニ在ル)炭壁(地山)ヲ二十九片三十六片間ニ於テ採掘中ナリ地山部内坑道掘進延長約九十三間舊第一坑部内ナリシ採炭跡ニ再設坑道總延長約二百十間餘ニ達シタリ

第四坑々内南方各坑道ノ終端ニ於テ四十八片磐五十六片磐間ニ採炭面長サ百十間餘ヲ設備スルヲ得タリ而シテ五十一片磐十四卸(斜卸)ハ五十六片ニ於テ斷層ニ遭遇シ目下掘進ヲ中止セリ

第五坑々内水平坑道總延長約三百四十間餘ニ達セリ

第一坑々内新捲卸曳揚力増加ノ爲メ從來使用セル百馬力電働曳揚機ノ外更ニ百五十馬力電働曳揚機ヲ運轉開始セシメタリ

第二坑々内三尺層斜坑道ノ曳揚用トシテ本年四月十五馬力電働曳揚機ヲ坑内八片磐ニ設置シ出炭増加ニ伴ヒ更ニ十二月十五馬力電働曳揚機ヲ前者ト直列ニ設置シ曳揚力ヲ増加セシメタリ

第四坑々内五十一片磐十四卸用十五馬力電働曳揚機ヲ五十一片磐十四卸用十五馬力電働曳揚機ヲ五十一片ニ据付ケ使用中ナリシモ十四卸五十四片五十六片磐ノ延長出炭増加ニ伴ヒ更ニ十二

月十五馬力電働曳揚機ヲ十四卸五十半片磐ニ設置シ前者ト聯用シテ曳揚力ヲ増加セリ
 前年ニ於テ主要部ノ扇風機設置竣工セシニ由リ坑内一部ノ通氣促進用トシテ小形電働扇風機四
 臺ヲ増加シ目下第一坑新捲卸右二十九半片磐九卸ニ於テ十六馬力電働「シロツコ」式扇風機一分間
 風量六〇、〇〇〇立方呎ヲ第四坑又卸左三十七片ニ於テ四十馬力同型扇風機(一分間風量四〇、〇〇
 〇立方呎)ヲ第五坑右十三片三尺層切下第一片磐ニ於テ四馬力電働同型扇風機ヲ左斜卸二十四片
 磐ニ十五馬力同型扇風機ヲ設置シ坑内局部ノ通氣ヲ促進セシメ居レリ
 本年中開設ノ機械建物ノ名稱種類等左ノ如シ

場 所	着 手 年 月 日	竣 工 年 月 日	種 類 名 稱	數
第一坑南豎坑	四十五年四月二十三日	大正元年十二月廿五日	鐵製櫓及エヤタワー	一
同 坑 内	大正元年九月二十四日	据付中 大正二年二月落成見込	三百八十五馬力 「イルクナー」捲揚機	一
同 坑 内	四十五年七月九日	大正元年九月十一日	百五十馬力捲機	一
第三坑發電所	大正元年八月九日	同 十一月十七日	千「キロ」交流發電機 但シ從來五百「キロ」三臺ニ對シ増設	一
同	同 九月二十七日	据付中 大正二年三月落成見込	二百馬力「バブコック」汽罐	二
同	同 十月十六日	据付中 大正二年四月落成見込	第五五四號及第五五五號 二百馬力「バブコック」汽罐第一坑ヨリ移轉	二
同	同 十月二十七日	工事中 大正二年四月落成見込	「コンクリート」製百二十尺煙突	一
第四坑	同 九月一日	据付中 大正二年四月落成見込	二百五十馬力 「コリンズ」コンパウンドエンドレス「曳揚機	一

赤池炭礦 石炭 位置 福岡縣田川郡上野村
礦業人 明治礦業株式合資會社

赤池炭礦本坑ノ西南約六百間ノ位置ニ坑口ヲ開キ明治四十五年一月工ヲ起シ炭層ノ傾斜ニ沿フテ掘下ルコト九十間左右ニ二片磐ヲ取り炭柱式採掘法ニ依リ採炭セシム之ヲ五坑ト稱ス

五坑々外ノ丘上ニ左記汽機ヲ設置シ同坑内炭函ヲ運搬ス

橫置單一膨脹双汽笛併列不凝縮式汽機
汽笛内徑十二吋 衝程距離二十四吋

本機ハ一月据付完成直チニ運轉セリ

五坑々外運炭方法

一坑々外ニ左ノ原動機ヲ設置シ無極索道裝置ニ依リ一坑選炭場ニ運炭セリ此ノ無極索道ノ總延長五百五十間トス

橫置單一膨脹双汽笛併列不凝縮式汽機

汽笛内徑九吋 衝程距離十二吋

本機ハ本年三月ヨリ設置ニ着手シ同年四月完成直チニ運轉ヲ開始セリ

三池炭礦 石炭 位置 福岡縣三池郡大牟田町
礦業人 三井礦山株式會社

萬田坑

「バブコック」汽罐六臺ノ假置工事ハ當年前期間ハ工事ノ都合上一時中止ノ姿ナリシモ後期ニ入り再ヒ開始シ七月煙突十月汽罐六臺等順次落成シ目下汽罐据付工事中ニシテ全部落成ハ大正

二年三月ノ豫定ナリ

坑底「デュプレッキス」唧筒五臺ノ内一臺ヲ移動シ其跡ニ七百八十馬力「エキゾースト、タービン」唧筒(水量三百立方呎揚水ノ高サ一千尺)一臺ヲ据付クル計劃ヲ建テ目下六基改造中ナリ大正二年四月上旬据付完成ノ豫定ナリ猶大正二年度ニ入り同型ノ唧筒一臺据付ノ豫定ニシテ機械ハ已ニ到着シ居レリ全部完成ノ曉ニハ坑底ノ排水力一層強大トナルノミナラス燃料炭ニ於テモ亦節減シ得ヘシ

宮ノ原坑大浦坑

此ノ兩坑ハ從來其坑内ニ於テ裸火ヲ使用シ居リシモ經濟上利益ナルト兼テ瓦斯ニ對スル危險ヲ豫防スル爲メ宮ノ原坑ニ於テハ「ウォルフ」式安全燈ヲ採用スルコト、シ去ル九月安全燈室等ヲ完成シ之レカ使用ヲ開始セリ大浦坑ニ於テハ季末漸ク準備ヲ終ヘ横田式安全燈ノ使用ヲ始メタリ

之ニ依リ三池炭礦全部安全燈ヲ使用スルコト、ナレリ

宮ノ浦坑

宮ノ浦坑ハ九月ヨリ一時間約九立坪ヲ充填シ得ル裝置ヲ爲シ宮ノ浦坑内一部ニ土砂注填法ヲ應用シ炭柱採炭ヲ開始シタリ其成績良好ナリ

充填材料ハ汽罐焚殻及洗炭ヨリ生スル捨石トス

新焦煤所並ニ瓦斯發電所

前年來ノ繼續事業タル「コツバー」式焦煤窯六十基及副產物採集諸機械ノ据付ハ四月下旬悉皆落成シ直チニ其作業ヲ開始セシカ成績良好ナリ

瓦斯發電所ハ前年ニ引續キ据付工事ヲ繼續シ十月悉皆落成シ十一月初旬ヨリ試運轉ニ着手セリ其運轉開始ノ曉ニハ二千「キロ」一臺ヲ常用シ他ノ一臺ヲ豫備トスヘシ
廢止又ハ移動シタル汽罐左ノ如シ

種	類	馬	力	員	數	記	事
ラン	カシヤー型		一三二、六		一	宮ノ原坑ヨリ新焦煤場へ移動	
コル	ニツシュ型		四二、八		一	廢止	
同			四二、八		一	同	

大ノ浦炭礦 石炭

位置 福岡縣鞍手郡宮田村
鑛業人 貝島鑛業株式會社

菅牟田坑

第三坑豎坑開鑿工事

菅牟田第一坑及第二坑採掘區域ノ東方深部ニ於ケル未採掘ノ廣域ニ屬スル三尺炭及五尺炭層ヲ採掘センカ爲メ二個ノ豎坑ヲ開鑿ス形狀ハ共ニ圓形ニシテ内徑十六呎煉瓦築壁トス開鑿成

工後ハ一箇年四十萬噸出炭ノ計畫ニシテ其一ヲ下風坑トシ石炭捲揚ニ專用シ一ハ上風坑トシ人員ノ昇降及諸材料ノ運搬ニ供シ且ツ必要ニ應シ石炭捲揚ニ使用スルモノトス起工ハ明治四十五年一月八日ニシテ大正四年三月完成ノ筈ナリ

本期成工尺數 下風坑三百尺 上風坑二百八十尺

第三坑豎坑開鑿附屬該工事

捲揚假櫓建設工事

上風坑及下風坑開鑿中ニ於ケル捲揚用トシテ共ニ杉丸太末口一尺物ヲ以テ高サ四十呎ノ櫓ヲ建設セリ滑車ハ徑八呎車軸ノ徑四吋ナリ其他重量六、七〇〇封度ノ「シンキングタビン唧筒」及「ウオーリング、スカフホルド」ヲ懸垂スル堅牢ナル櫓ヲ捲揚櫓ニ連結ス其起工ハ明治四十五年一月ニシテ竣工ハ上風坑全 明治四十五年三月二十日ナリ

假捲揚機械据付工事

第三坑豎坑開鑿中下風坑捲揚用

汽機種類大サ 双汽笛汽機横置式一臺

汽笛徑二十吋 衝程二呎五吋 捲胴徑八呎幅四呎

起工 明治四十五年六月竣工同七月

第三坑豎坑開鑿中上風坑捲揚用

汽機種類大サ 双汽笛横置式 一臺

汽筒徑十六吋 衝程二呎八吋 捲胴徑五呎六吋幅三呎六吋
起工 大正元年十月 竣工同

「クラブエンジン」据付工事

第三坑豎坑開鑿中「シンキング」唧筒釣用

種類大サ 双汽筒横置式 二臺

「ドラム」二個付汽筒徑八吋 衝程十吋胴徑一呎九吋幅二呎

起工 明治四十五年七月 竣工同七月

空氣壓搾機据付工事

第三坑豎坑開鑿鑿岩機用

汽機種類 單汽筒横置式

汽筒徑十二吋 空氣筒徑十二吋四分ノ一 衝程十二吋

起工 明治四十五年三月 竣工同三月

「シンキング」唧筒設置工事

第三坑下風坑開鑿排水用

種類大サ 水頭三〇〇尺 馬力四〇 電働「タービン」唧筒 一臺

設置 本年九月

第三坑上風坑開鑿排水用 一臺

種類大サ 水頭三〇〇尺 馬力四〇 電働「タービン」唧筒 一臺

設置 本年十二月

菅牟田第五坑々内外設備改良工事

運搬法

上綱式無極索道捲揚機械施設工事

本卸運搬坑道ノ延長ニ伴ヒ出炭増加ヲ計ル爲メ從來ノ設備ニ係ル徑十六吋汽笛捲揚汽機ヲ廢シ更ニ上綱式無極索道捲揚機ヲ裝置シ坑道ノ改修及複線車道ノ敷設且ツ坑口ヨリ選炭場ニ至ル自動運搬裝置ヲ爲セリ

汽機ノ大サ種類 双汽笛橫置式

徑二十吋 衝程三尺 胴徑十呎 幅二吋四分ノ三

起工 明治四十五年一月 竣工大正元年九月

第五坑々外捨石捲揚機据付工事

汽罐燃殻選鑛々滓及坑内ヨリ搬出ノ捨石等坑所附近ノ溪谷ニ搬出ノ目的ニ供ス

汽機ノ種類大サ 双汽笛橫置式

汽笛徑十吋 衝程一呎七吋二分ノ一 捲胴徑三呎六吋十六分ノ五 幅二呎十一吋

起工大正元年八月竣工同九月

第五坑人道捲揚機据付工事

係員及鑛夫等坑内昇降用臺車運搬ノ目的ニ供ス

汽機種類ノ大サ 双汽笛横置式

汽笛徑十六吋 衝程二呎七吋二分ノ一 捲胴徑六呎六吋 幅三呎

起工 大正元年十一月 竣工大正元年十二月

坑内排水設備(第五坑)

從來ノ蒸氣動力排水設備ヲ廢シ桐野中央發電所ヨリ送電セシメ全部電力揚水設備ニ變更ス

一號唧筒座「タービン」電氣唧筒二臺 二二〇馬力 水頭七〇〇呎 排水量八〇立方呎

二號同 同 二臺 八〇馬力 同 五〇〇呎 同 五〇立方呎

本卸坑底唧筒座 同 一臺 二七馬力 同 三〇〇呎 同 二五立方呎

斜卸坑底唧筒座 同 一臺 二七馬力 同 三〇〇呎 同 二五立方呎

起工 大正元年七月 竣工同九月

坑内排氣設備(第五坑)

從來ノ排氣坑道ヲ人道兼入氣坑道ニ變更スル爲メ明治四十三年一月新排氣坑道開鑿ニ着手シ
四十四年十二月末竣工シ四十五年一月坑底連結工事及ヒ坑外吹上安全掩蓋取付ケ等諸裝置ヲ
完成ス尙大正二年度ニ於テ「シロッコ」扇風機一臺ヲ増設スル計畫ナリ

桐野坑

中央發電所擴張工事ハ菅牟田、桐野、滿之浦並ニ大辻ノ各坑業所ニ動力供給ノ目的ヲ以テ明治四

十四年十月起工同四十五年六月三十日竣工セリ

汽罐ハ水管式ニシテ英國「バブコック、エンド、ウイルコック」會社ノ製造ニシテ各一基三百五十馬力ノモノ五基ヲ設置シ「スーパ―ヒーター」及「チエーン、グレート、ストーカー」ヲ各罐ニ裝置シ使用汽壓ハ百八十封度トス

汽機ハ英國「トムソン、ハウストン」會社製「カーチス」横置型三回膨脹凝縮式「スチーム、タービン」ニ基ニシテ毎分間回轉數二千四百各千五百馬力ニシテ發電機軸及勵磁機軸ト直結シ同一臺上ニ裝置セラル

發電機ハ磁田回轉型三相交流發電機二基ニシテ英國「トムソン、ハウストン」會社ノ製造ニ係リ電壓二千三百「ボルト」各容量千「キロボルト、アムペーア」四十「サイクル」トシ各同一軸ニ十三、五「キロワット」ノ勵磁機ヲ具備セリ

煙突ハ煉瓦製丸形ニシテ頂上内徑八呎高サ百五十呎底部外徑二十一呎トシ昇降用階梯及避雷針ヲ裝置セリ

以上送電線路中大辻坑業所ハ其距離延長ナルヲ以テ特ニ遞昇變壓器ニ依リ電壓ヲ一萬一千四百「ボルト」トシテ送電シ更ニ大辻發電所ニ於テ二千三百「ボルト」ニ遞減シ坑内外ニ配電セリ
各坑業所ニ使用セル電働機ハ排水唧筒ニ直結セルモノヲ主トシ何レモ三相交流誘導電働機ニシテ電壓ハ二千百及二百二十「ボルト」ノ二種トシ坑内石炭捲上ケ及鑿岩機用ニ之レヲ使用セリ
右工事落成ト同時ニ從來使用シ來リタル百五十「キロワット」發電機二臺「ランカシャー」汽罐三基

ハ四十五年六月末日限り此ヲ廢止シタリ桐野第二坑新斜坑右部運搬ノ爲メ着炭點以上ハ軌道ヲ複線トシ以下ハ更ニ右斜坑道ヲ設ケ坑外ニハ從來ノ二十吋双汽笛捲揚機械一臺ナリシヲ更ニ同型捲揚機械一臺ヲ増設シ本年七月末日工事完成セリ本坑口一日ノ出炭量一千噸ナリ從來坑内蒸氣捲揚機ヲ廢シ更ニ六十三馬力ノ電力捲揚機ヲ設置シ十月起工同月完成セリ通氣設備トシテ四十四年堅坑ニ設置セシ十一呎及ヒ八呎六吋「キャベル」式扇風機ノ豫備トシテ舊堅坑ニアリシ八呎及七呎「キャベル」式扇風機ヲ同堅坑ニ設置ス此工事ハ三月十八日着手六月二日完成セリ

坑内排水法ハ從來本捲卸部ノミ電氣唧筒ヲ使用シ他ハ凡テ蒸汽唧筒ナリシヲ本年七月以降十月迄ニ於テ第一唧筒座ヲ除ク外全部電氣唧筒使用ニ改メタリ即チ

第二唧筒座、タービン電氣唧筒 二臺 七〇馬力 水頭三五〇呎 排水量五〇立方呎

左
豎
卸
同

一臺	一七馬力	同	三〇〇呎	同	一五同
----	------	---	------	---	-----

第三、唧筒座同

二臺	二七馬力	同	三〇〇呎	同	二五同
----	------	---	------	---	-----

新本
三豎
尺卸
卸座
同

二臺	一七馬力	同	三〇〇呎	同	一五同
----	------	---	------	---	-----

新五尺卸同

一臺	一二馬力	同	三〇〇呎	同	一〇同
----	------	---	------	---	-----

坑内炭塵沈靜ノ爲メ風道各所ニ噴霧機ヲ設置シ將來増設ノ計畫中

滿之浦坑

桐野三坑捲卸詰ニ遭遇セル上リ斷層先キ炭層探掘ノ目的ヲ以テ坑口ヨリ七十間ノ點ニ於テ右

斜捲卸坑道ヲ付シ又通氣坑道トシテ坑口以下百三十間ノ點ヨリ連延坑道ヲ付シ本年一月ヨリ
 斷層開鑿工事ニ着手シ十二月末掘進右斜捲卸ニ在テハ百間通氣坑道ニ在テハ延長百三十間ニ
 達ス而シテ着炭迄ノ殘餘豫定間數捲卸坑道約百二十間通氣坑道約四十間ニシテ明年度上半期
 中ニハ竣工ノ豫定ナリ

同坑口設置ノ捲揚機械ハ假捲機械ナリシ爲メ本年八月十六時双汽笛橫置式捲揚機ニ改タリ從
 來坑内排水ニハ一部電氣唧筒ヲ使用シ其多クハ蒸氣唧筒ナリシモ本年末ニ至リ一部ヲ除キ他
 ハ悉ク電氣唧筒ニ變更セリ即チ

第一坑	「タービン」電氣唧筒	二臺	一四〇馬力水頭六〇〇尺	排水量七五立方呎
第二號唧筒座				
第三號同	同	二臺	五五馬力同	四〇〇尺 同 四〇立方呎
第四號同	同	二臺	二一馬力同	三〇〇尺 同 二〇立方呎
第一號坑	同	一臺	一七馬力同	三〇〇尺 同 一五立方呎
第二號同	「プランジャ」電氣唧筒	二臺	一二馬力同	三〇〇尺 同 一〇立方呎
第三號同	「タービン」電氣唧筒	一臺	一七馬力同	三〇〇尺 同 一五立方呎
第二號坑	「プランジャ」電氣唧筒	一臺	五馬力同	三〇〇尺 同 五立方呎
第三號同	「タービン」	一臺	三三馬力同	三〇〇尺 同 三〇立方呎
第四號同				

菅牟田坑 第五坑捲揚機械廢止

双汽笛橫置式徑十六吋二三二馬力

四十五年五月廢止

右ハ止網式無極索道汽機新設ノ爲メ廢止セリ

同 第二坑 扇風機運轉中止

右ハ第二坑々内殘柱退掘ノ結果通風區域縮少シ自然通風ニテ充分ノ風量ヲ排氣シ得ル爲メナ
リ

種別徑十呎幅五呎「チャンピオン」式扇風機并ニ同原動機汽笛十四吋單氣笛橫置式
右運轉中止ハ大正元年九月十八日

第二坑々内揚水蒸氣唧筒全部廢止

坑内殘柱退掘之結果揚水區域減少ノ爲ナリ

右廢止ハ大正元年十月八日

桐野坑

桐野坑第一坑ハ大正元年十月一日ヨリ一時採掘中止セリ

右中止ノ結果十六吋双汽笛橫置式捲揚機械并ニ徑十呎幅五呎「チャンピオン」式扇風機ハ豫定ノ
採掘區域終了シ同時ニ運轉中止セリ

本年中廢止又ハ新設シタル汽罐ノ種類馬力數

移轉汽罐

「ランカシャー」式

八八馬力

三

右ハ菅牟田第一坑ヨリ菅牟田第三坑へ移轉

「ランカシャー」式 八八馬力 一

右ハ菅牟田第一坑ヨリ岩屋炭礦へ移轉

「ランカシャー」式 八八馬力 一

右ハ菅牟田第一坑ヨリ滿之浦坑桐野三坑へ移轉

「ランカシャー」式 八八馬力 一

廢止汽罐

「コルニツシュ」式 六八馬力 一

右ハ菅牟田第一坑据付中ノ處廢罐

「ランカシャー」式 一六一馬力 一

右ハ桐野發電所ヨリ桐野第二坑堅坑へ移轉

「ランカシャー」式 一六一馬力 一

右ハ桐野發電所据付中ノ處「バブコック」水管式ト取替ニ付休罐追テ岩屋炭礦へ移轉スルコト
新設汽罐

水管式 三五〇馬力 五

右ハ桐野發電所へ新設

移轉汽罐

「ランカシャー」式 八四馬力 一

右ハ滿之浦第一坑ヨリ桐野三坑へ移轉

龜山炭礦 石炭 位 置 福 岡 縣 柏 屋 郡 志 免 村
礦 業 人 中 野 德 次 郎

本年中施設サルモノ左ノ如シ

鑛夫納屋藁葺建坪五十二坪五合一棟一月中建設ス

同 上 同 六十坪一棟三月中建設ス

十八吋「エバンス、コルニツシユ」唧筒一臺、坑内第二唧筒座へ三月中据付ヲ爲ス

「ランカシヤ」式汽罐一臺五月中増設ス此汽罐七十馬力ナリ

亞鉛板葺汽罐場幅八尺奥行八間五月中増設ス

十吋「エバンス、コルニツシユ」唧筒一臺、坑内第四唧筒座へ六月中据付ヲ爲ス

坑内「ウインチ」捲揚機上層斜卸右三片十六目貫ニ据付ヲ爲ス

選炭棧橋幅六尺高十六尺ニシテ延長三十間八月中建設ス

鑛夫納屋藁葺建坪二十六坪二合五勺一棟十月中建設ス

十二吋「エバンス、コルニツシユ」唧筒一臺、坑内第四唧筒座ニ十月据付ヲ爲ス

「ランカシヤ」汽罐一臺十一月中増設此汽罐七十馬力

亞鉛板葺汽罐場幅八尺奥行八間十一月中増設ス

排氣筒下幅十二尺角上幅六尺角高九間一本十一月中建設ス

火藥庫二棟十一月中建設ス此建坪三坪二合ナリ

十四時「エバンス、コルニツシユ」唧筒一臺坑内第三唧筒座ニ十一月中据付ヲ爲ス

六吋瓦斯管一千百尺坑内蒸汽管トシテ坑外汽罐場ヨリ坑内第三唧筒座間ニ十二月中布敷ス

鐵板煙突高八十尺徑三呎七吋一本十二月中建設ス

廢止及未竣工

十吋捲揚汽機ノ一十月中廢止ス

鐵板煙突一十月中廢止ス

十六吋捲揚汽機一十二月中新設着手セリ

新原海軍炭山 石炭

位置 福岡縣粕屋郡須惠村
鑛業人 海軍省

本年中新ニ施設シタル事項

鑛區交換並ニ擴張

當所鑛區西方部ト其隣鑛區タル龜山炭礦區トノ間ニ鑛利保護上協定ヲ爲シ鑛區一部ノ交換

ヲナセリ

新坑ノ掘進

昨年末開坑シタル第六坑連卸ハ坑口ヨリ約八十間ノ進捗ヲ見今後約二十間ヲ進行スルト五

重炭層ニ達スル見込ミナリ人道卸ハ目下約六十間ノ位置ニ進行セリ明年三四月ノ候ニ於テ

連卸着炭ノ上本卸ヲ開坑シ明後年ヨリハ採炭ヲ開始スル計畫ナリ

水洗機ノ設備

第五坑ニ跳汰機様ノ水洗機一基ヲ新設シ粉炭ノ水選ヲ開始ス洗鑛量一日六十噸

通氣改良發破法ノ改善及安全燈ノ取締

通氣方法ニ關シテハ既ニ充分ノ設備ヲ爲シ來リシモ尙ホ排氣道ヲ擴張シ風壁ノ材料ヲ改善シ全部耐久的ノ建造法ニ依ル板壁ヲ設ケ發破法ハ大部分電氣發破ヲ爲サシメ發破係員ヲ増員シ安全燈ノ取締ハ益々研究ヲ重ネ錠ヲ堅クシ貸與取戻シノ際ニ於テハ檢査ヲ嚴ニシ坑内ニ於ケル火番箇所ヲ増加スル等施設上毫モ遺憾ナキヲ期セリ

工作物ノ設備及増設

第三坑ヨリ「ランカシャー」式汽罐一基ヲ第四坑ニ移轉第五坑ニ「ランカシャー」式汽罐一基ヲ増設ス第六坑ニ捲揚機一基ヲ煙管入「ポーテブル」式汽罐一基ヲ移轉假設シ尙ホ「ランカシャー」式經七呎高壓汽罐二基新設及煙突一基移轉建設シ並ニ同上汽罐上家一棟(三十二坪)ヲ新築ス前記ノ施設ニシテ本年中ニ竣工セサルモノ及繼續事業トシテ施設中ニ係ルモノ

前記ノ第六坑設備ハ繼續事業トシテ施設中ニ屬スルモノニシテ爾後三箇年ヲ期シテ坑内外ノ諸設備ヲ完成シ年額約十萬噸ノ採炭ヲ爲シ得ルニ至ラシムル計畫ニシテ年次ヲ逐フテ汽罐汽機扇風機選炭機排水唧筒坑場各建造物官舎坑夫納家等坑道進掘ノ程度ニ適應シテ造營ヲ爲スノ豫定ナリ本施設ニシテ竣成ノ曉ニ於テハ當所ノ產出額ハ優ニ三十萬噸ニ達シ得ヘキヲ疑ハス

廢止セシ汽罐

「ランカシャー」式	一基 (第三坑ノ分)	馬力	九五
「ユルニツシユ」式	同	同	五四
同	同	同	五四
同	同	同	五四
煙管入	同	同	五八
煙突	同	同	同

新設シタル汽罐

「ランカシャー」式	二	(第六坑)	馬力	一九〇
同	一	(第五坑)	馬力	九五

中鶴鑛業所 石炭

位 置 伊 福 岡 縣 遠 賀 郡 長 津 村
鑛 業 人 伊 藤 藤 傳 右 衛 門

選炭機一臺長九間幅三尺鐵條篩式假選炭機ニシテ原動力ハ十二吋唧筒ヲ改造シテ使用シ蒸汽力ニヨリ運轉スルモノ本年二月工事ニ着手シ三月竣成セリ

捲機械一臺十二吋双汽笛橫置式ニシテ本年六月据付工事ニ着手七月竣成新坑開鑿ニ付岩石及石炭捲揚用ニ供ス

坑夫長屋一棟木造瓦葺三十坪坑夫住宅ニ使用ス本年四月竣工

新坑開鑿

既設運搬堅坑ヨリ百三十八度四十五分水平距離九十三間七分ノ地點ニ運搬及通氣用ニ供スル

目的ヲ以テ斜坑ヲ開鑿シ本年六月着手同二年中ニ竣成セシムルノ豫定ニシテ其概要左ノ如シ
斜坑傾斜ハ二十度ニシテ坑口面ヨリ十尺迄ハ開放シ兩袖ニ築石工ヲ爲シ以下二十間迄ハ内端
十二尺高サ八尺五寸ノ煉化「アーチ」卷ヲ爲ス其他ハ必要ニ應シ梓建ヲ爲ス而シテ年末ニ於テ百
十五間ヲ進掘セリ

前記新坑開鑿ノ爲メ大正二年二月ヨリ壓搾空氣動力ニヨル鑿岩機「リットル、ウオンダー」徑一時ヲ
使用ノ計畫ナリ

大正二年三月ヨリ「ウォルフ」安全燈一千個ヲ設備シ就業者ニ全部使用セシムル計畫ナリ

高松炭礦 石炭 位置 福岡縣遠賀郡水卷村
礦業人 三好德松

本年五月一日水卷村大字吉田元肥春坑跡舊堅坑取明ケニ着手ス坑口ハ幅七尺長サ十三尺深サ百
五十尺ニシテ坑底ニ達シ同所ヨリ五十四度ノ方向ニ依リ坑道ノ掘進ヲ爲シ百六十四間(内斷層五
十九間掘鑿ニシテ本年十一月三十日着炭ス蒸汽卸ハ堅坑下ヨリ左部ニ四十尺ノ炭柱ヲ存シ同所
ヨリ五十三度ノ方向ヲ以テ前進シ坑道ト並行ス而シテ別ニ舊斜坑ノ取明ケヲ爲シ七十六間ニシ
テ坑道ノ上部(坑内捲揚頂)ニ貫通シ斜坑ヨリ専ラ入氣セシメ堅坑ヨリ排氣セシム以上操業及排水
ニ使用スヘキ汽機ハ左ノ種類ニシテ十二月中ヨリ一月平均百函(此斤量六萬五千斤)内外ノ產出ヲ
見ルニ至レリ

汽罐「ランカシャー」式 三臺 二〇〇實馬力

捲機 坑外(十三吋橫置式) 一臺 一三四同
坑内(十二吋全) 一臺

唧筒

坑外(六時「ワカシント」)
坑内(八時「スバシヤル」)
坑内(二十時「エバアン」)

七十八 同

以上ノ產出炭ハ坑口ヨリ二十五間ノ所ニ運ヒ選炭ヲ加ヘ同所ヨリ積込場(堀川)ニ至ル百二十三間ハ棧橋ヲ架設シ人力ニ據リ運搬ス而シテ社宅二棟(此坪數三十八坪)納屋四棟(此坪數百三十八坪)ヲ建設シ從業者ヲ收容セシモ事業ノ進捗ニ從ヒ向後増設ヲ要スヘシ

三好炭礦

石炭

位置
鑛業人

福岡縣

遠賀郡

水卷村

好

德

松

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

前年中ヨリ開鑿中ノ三尺坑ハ掘進百二間ニ達シ左右各三片磐ヲ付シ目下採炭中ニ屬ス而シテ蒸汽卸モ亦同シク坑道ト並進シ排氣及排水ノ用ニ供セリ

五尺炭層ノ採掘ハ坑道ノ延長ニ伴フ經費ノ増加ト炭況不振ノ結果トニ依リ收支償ハサルヲ以テ其採掘ハ本年末ニ止メ明年ハ之ヲ休止セントス

製鐵所二瀬出張所

石炭

位置
鑛業人

福岡縣

嘉穗郡

西村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

事業擴張ニ關スルモノ

高雄第一礦

本年中ニ於ケル主要坑道ノ延長八百二十二間一合

風坑人道卸開鑿交通ノ安全ヲ期スル爲メ排氣坑道ニ並行シテ五間ノ間隔ヲ保チ向ヒ七度ノ

傾斜ヲ以テ開鑿シ延長二十間ニシテ右方ニ曲折シ排氣道ニ通ス總延長二十五間本年二月中

旬着手同四月末竣成ス

舊坑五尺炭層開鑿上層右三延先ハ上リ斷層ニ出會シ一時休止シタルモ本年九月上旬開鑿ニ

着手シ延長十七間ニシテ十二月末着炭セリ

坑内運搬方法ノ改良 從來本坑ハ傾斜ヲ利用シテ自動式ニ依リ炭函ノ運搬ヲ爲シツ、アリシモ本年六月中旬本坑口ヨリ八百三十尺ヲ距ル上層坑底ニ十五馬力電動機一臺ヲ据付ケ旋條機式ニ改ム八月末竣成速度一分間約八十呎軌道總延長二千五百呎從來ニ比シ運搬力ヲ増大スルニ至レリ

選炭方法ノ改良 風坑炭ハ從來手選ニ依レルモ精選ヲ期スル爲メ「チンマー」式搖動選炭機設置ノ計畫本年十月上旬着手大正二年竣成ノ豫定

高雄第二礦

本年中ニ於ケル主要坑道ノ延長九百八十三間五合

七層「カンカン」本卸開鑿七層坑附近ニ存在セル「カンカン」炭ハ未タ全ク採掘セラレサリシヲ以テ大正元年十月二十四日七層坑本卸坑口ヨリ七十四間下ニテ方位五十一度四十分

俯角二十度高サ七尺幅十尺ノ坑道開鑿ニ着手セリ延長約三十五間大正二年二月末「カンカン」炭ニ逢着ノ豫定

七層坑「カンカン」入道卸開鑿上記採炭區域ノ入道ト爲ス爲メ大正元年十二月十七日七層坑現在入道卸左一延上添口ヨリ方位七十八度俯角十八度高サ六尺三寸幅七尺坑道開鑿ニ着手延長約四十間ニシテ「カンカン」炭層ニ逢着ノ豫定本工事ハ大正二年四月中旬竣成ノ見込
選炭方法ノ改良 石炭ノ精選ヲ期スル爲メ本坑炭ハ從來ノ選炭機ヲ廢シ更ニ「チンマー」式搖

動選炭機ヲ設置シ炭種ヲ大中ニ區分シ七層坑炭ニ在リテハ「センチュリー」式洗炭機ヲ設備シ洗滌精選ヲ爲ス明治四十五年二月十八日着手大正元年十月二十七日竣成

本坑内右四延ニ電氣捲揚機設置本年一月上旬着手三月末竣成

潤野礦

本年中ニ於ケル主要坑道ハ延長千九十二間三合

本坑上層風道卸坑道開鑿潤野及中央礦通氣連絡後通風路ノ擴大ヲ要スルヲ以テ從來ノ排氣道タル鐵管卸ノミニテハ容積狹隘ナルニ付右一延八昇風道ニ連絡スヘク右四延上添口鐵管卸ヨリ分岐スル風道卸開鑿本年四月上旬着手七月上旬竣成總延長二百間現在排氣量ハ已ニ一分間十五萬立方呎ニ達セルモ尙現在ノ坑道ヲ取擴或ハ分岐シテ一層風量ノ増加ヲ期セントス

三尺炭精選ノ目的ヲ以テ從來ノ選炭機ニ一部ノ模様替ヲ施シ「センチュリー」式洗炭機設備中本年九月上旬着手大正二年一月下旬竣成ノ豫定

通風機關ノ遺漏ナキヲ期スル爲メ一分間三十萬立方呎ノ「ラト」式扇風機ニ一分間十五萬立方呎ノ「キヤベル」式扇風機ヲ並置シ原動機トシテハ電勵機ヲ專用セルモ電氣故障ノ場合ニ處スル爲メ「キヤベル」式扇風機ニ對シテハ蒸汽機械ヲ併用ノ設備ヲ爲セリ六月下旬竣成

中央礦

本年中ニ於ケル主要坑道ノ延長八百十四間九合

堅坑内ニ於ケル上層炭ノ一部ヲ運搬スル爲メ上層ヨリ下層ニ垂直百二十尺ノ礦井ヲ開鑿シ運搬坑道ニ充テ從來ノ運搬坑道ハ下層全部ノ排氣坑道及上層人道坑道ニ充ツ明治四十五年七月上旬着手十一月中旬貫通目下捲揚機械設備ノ計畫中ニシテ完成ノ曉ハ上層炭ハ捲機械ニ依リ礦井ヲ通シテ下層運搬坑道ヲ經テ堅坑ニ依リ坑外ニ搬出スル計畫ナリ堅坑内ニ假設施條機ヲ設ケ坑底ヨリ右零延ヲ通シテ第一堅入坑道左右一延ニ達ス延長三千二百尺本年十一月上旬着手同月下旬完成從來ニ比シ運搬力ヲ増大スルニ至レリ

「デンマー」式搖動選炭機一臺増設本年九月中旬着手大正二年一月末竣成ノ豫定

汽罐焚滓放置ノ爲メ「バケット、コンベヤー」ヲ設置シ索道ニ連結シ硬捨場ニ運搬ス本年一月上旬着手三月末竣成

選炭棧橋上空函押上「クリーバー」設置本年三月十七日着手同年末竣成

「バブコック、エンド、ウキルコック」會社製水管式汽罐二臺及口徑二米突五百耗高サ五十五米突煉瓦作煙突一基増設明治四十五年四月中旬着手煙突ハ十月末竣成汽罐据付ハ大正二年一月末竣成ノ豫定

繼續事業ニ關スルモノ

高雄第一礦

石炭ノ精撰ヲ期スル爲メ「センチュリー」式洗炭機設置ハ本年三月三十一日竣成洗滌ノ結果中塊ハ精良トナリ微粉ハ濁水トナリテ放流ノ途中二箇ノ沈澱池ニ停滯セシメ使用スルニ足ル

坑外運搬方法ノ改良トシテ坑内ヨリ搬出シタル捨石及諸材料ヲ運搬スヘク旋條運炭機設置
ハ本年一月十一日竣成

風坑内排水方法ノ改良トシテ蒸汽唧筒ニ替フルニ五十馬力「エキスプレス」電氣唧筒二臺設置
ハ本年二月二十九日竣成

高雄第二礦

下層右四延豎入坑道ハ本年中掘進九十六間三合

掘進總延長百三間大正二年三月下旬竣成ノ豫定

下層右二延底三尺豎入坑道ハ本年十一月末ヲ以テ豫定ノ底三尺ニ着炭竣成ス掘進延長七十
間八合

潤野礦

本坑排氣坑道開鑿ハ當年一月下旬竣成引續キ排氣量一分間三十萬立方呎ノ「ラト」式扇風機
据付ニ着手シ本年二月末竣成

中央礦

豎坑内右零延ニ於ケル唧筒座ハ本年二月下旬完成セリ

選炭工場内「チンマー」式搖動選炭機一臺設置ハ本年三月末完成

汽罐ノ廢止

潤野礦

七八・二五馬力 一

長浦礦

四一・八馬力

二臺

四一・八馬力

一臺

高江炭礦

石炭

位置
鐵業人

福岡縣遠賀郡香月村
佐藤慶太郎

事業ニハ改良發展ナシ第三坑高江層延先傾斜漸次從來ト反對ノ狀態トナリ上磐ノ壓力著シク強大セシ爲メ探掘ニ堪ユル迄ニ設備ヲ爲ストキハ收支到底相償ハス不止得掘進ヲ停止シ殘柱ヲ掘採セリ又同坑ハ坑内排水唧筒ヲ廢シ出水ハ自然第一坑々内ニ透徹スルモノ、如シ而シテ重要坑道ノ延長ハ第一坑ニ於テ草上層百間及第三坑ニ於テ草上層七十間ナリ

新設工作物

「ランカツシャー」式

徑七呎汽罐 一〇九・三馬力

一

同

徑六尺

七九・二同

一

鐵製煙突

徑三呎
高五呎六

一

使用廢止工作物

「コルニツシユ」式

徑五呎汽罐

一

鐵製煙突

徑二呎六
高六〇呎

一

古河西部鑛業所 石炭

位置
鐵業人

福岡縣嘉穂郡大谷村
古河合名會社

新坑開鑿運搬斜坑道掘進

一〇八間

(勝野)

同 通氣斜坑道掘進 一〇一間 (同)

同 通行斜坑道掘進 八四間 (同)

等ニシテ事業ノ都合上着炭豫定期日ハ延ヒテ大正二年二月末日ト成レリ通氣ハ従前ノ通り自然排氣ニシテ氣量約二十萬立方呎ノ「シロツコ」式扇風機据付中ナリ

機械ハ十六吋捲揚機一臺設置セリ

動力ハ蒸汽力ニシテ汽罐二臺ヲ増設セリ

建物ハ發電機室、汽罐室、捲揚機室、各一棟及ヒ鑛夫納屋二十棟等ニシテ總建坪約八百坪ナリ捲揚機室及ヒ鑛夫納屋ハ共ニ竣工セリ

發電機及ヒ汽罐ハ目下据付工事中ニシテ二分方成大正三年度中ニ工事ヲ終ル豫定ナリ

扇風機ハ目下基礎工事中ニシテ來ル三月末迄ニ完成ノ豫定ナリ「マークス」式選炭機二臺及ヒ之ニ

附屬スル建物等ノ開設ハ大正二年三月ヨリ着手シ六月ニ至リ竣工ノ豫定ナリ

本年中左記種類ノ汽罐二臺ヲ増設セリ

「ランカシャー」式 一〇〇馬力 一

船用炎管式 五〇馬力 一

室木炭礦 石炭 位置 福岡縣鞍手郡西川村
鑛業人 大倉久米馬

坑外運搬變更

從來坑外運搬ノ方法ハ馬ヲ用平坑口ヨリ積込場ニ運炭セシメタルヲ本年五月一日八時兩汽笛

横置式三十八馬力ノ蒸汽機械ヲ据付無極索道ニ變更シ運炭上大ニ便利ヲ得タリ

芳谷炭礦 石炭 鑛業人 佐賀縣東松浦郡北波多村
三菱合資會社

第一坑口變更工事

第一坑々口變更ノ爲メ明治四十四年十一月十五日ヨリ起工シタル浦ノ谷地開工事ハ明治四十五年三月十九日竣工セシヲ以テ明治四十五年二月二十日ヨリ直チニ新坑口開鑿ヲ開始セリ坑内ヨリハ既ニ一月十日ヨリ該新坑口ニ向ヒ開鑿工事ニ着手シ居リタルヲ以テ着々進捗シ六月十三日ニ至リ新坑口ヨリ五十一間坑内ヨリ六十九間合計百二十間ニシテ互ニ貫通セリ然ルニ坑内ヨリ開鑿セシ坑道ハ工事ノ都合上狹隘ニ爲シ來リシヲ以テ直ニ之カ擴張工事ニ取掛リシモ開鑿中遭遇セシ舊坑道ノ密閉排水ノ設備等ノ爲メ捗々シカラス漸ク十一月十二日ニ至リ全部ノ完成ヲ見ルニ至レリ

第一坑道開鑿工事

第一坑及牟田部ヲ連絡スル目的ヲ以テ起工シタル第一坑道ハ牟田部ヨリ明治四十四年九月十日第一坑内ヨリ同十一日各開鑿ニ着手セシ處明治四十五年四月二十二日ニ至リ全長二百四十五間ニシテ貫通竣工セリ即チ一月一日ヨリノ掘進間數ハ第一坑ヨリ五十六間三合七勺牟田部ヨリ三十八間六合六夕ナリ

採掘方法ノ改良

從來五尺炭層ハ其全層上炭、中炭、底炭ノ三炭層或ハ之ニ「ガラリ」炭ト稱スル五尺最下炭層ヲ合セ

四炭層ヲ同時ニ採掘シ來リ一枚物炭層ハ天井ニ遺棄シテ採掘セザリシモノ斯クテハ不利益ナルニヨリ試ニ先ツ五尺中炭以下ノ炭層ヲ採掘シ後ニ至リ五尺上炭ト一枚物炭トヲ採掘スル所謂二段法ナルモノヲ開始セシ處好良ナル成績ヲ示セシヲ以テ一枚物炭層ト五尺上炭間ノ夾岩カ薄クシテ砂石ヲ含有セサル所ハ漸次此方法ニ改良シツ、アリ尙從來放棄セシ一枚物炭層ノ稍厚キモノハ本層ノミノ試掘ヲモ爲セシ處稍有利ナルヲ認メシヲ以テ漸次一枚物炭層ノ採掘ヲモ開始スル豫定ナリ

通風機械變更工事

芳谷第一坑第二坑及牟田部坑等ニ架設ノ「チャムピオン」式「ギハル」式扇風機ヲ廢止シ新ニ三十萬立方呎ノ排氣力ヲ有スル「ラト」式扇風機一基ヲ設置スルニ決シ大正元年八月上旬ヨリ新排氣坑開鑿ニ着手中ニシテ竣工豫定ハ大正二年六月末日ニシテ大正元年末日迄ニ機械基礎着手ノ程度ニ至ル可シ

第一坑蒸氣卸擴張工事

無極索道布設ノタメ明治四十四年十一月十五日ヨリ起工セル第一坑蒸氣卸擴張工事ハ大正二年二月中竣成ノ豫定ナリ

新設排氣坑道開鑿工事

大正元年八月十七日ヨリ着手シタル新排氣斜坑口及「ラト」式扇風機据付地開工事ハ機械据付地及斜坑口ノ開鑿ヲ了シタルノミナルモ第二坑蒸氣卸ヨリハ新排氣坑口ニ向ヒ大正元年九月

八日ヨリ開鑿ヲ開始シ同十二月末日三十六間ヲ完成シ第一坑蒸氣卸ヨリハ同九月十二日ヨリ開鑿ニ着手シ同十二月末日迄ニ三十二間四合八勺ヲ掘進シ其他第一坑ニアリテハ二箇所ヨリ開鑿セシモノ五十九間九合一勺ニ達セリ

第一坑運搬機械改良工事

第一新坑道口ニ百二十馬力電働上綱式無極索道運搬機械設置ノ目的ヲ以テ其基礎工事ニ着手シ着大正二年五月頃竣工ノ豫定ニシテ竣成ノ曉ニハ現時ノ運搬力ヲ二倍ニセシムルノ豫定ナリ

電力増加設備

現在有スル發電所ハ已ニ全荷重ニ達シ今後新興スル電力ノ應用ヲ充タシ能ハサルニヨリ新ニ相知炭礦地内ニ於テ相知、芳谷兩礦ノ兼用トスル發電所ヲ設置スル事トシ已ニ逓信大臣ノ認可ヲ得工事中ニシテ「チエリー式」「ダービン直結」「チキロ」發電機二臺ノ据付準備中ニシテ一臺ハ大正二年六月頃竣工ノ豫定ナルヲ以テ當時芳谷發電所ニ使用スル發電機ハ更ニ一臺ノ竣工迄豫備トシテ備フル事トセリ新設相知、芳谷共同發電所内發電機ノ概要次ノ如シ

獨逸國「シーメンス」シュツケルト「會社」製 瑞國エツシヤアウキス會社製
ツウエリー「蒸氣迴轉汽機」直結 磁田回轉型千二百五十「キロボルト・アムペーア」一個

牟田部變壓所設備

出力七十五「キロボルト・アムペーア」

變壓器一次電壓 三千三百[ヴ]オルト 二次電壓 五百五十[ヴ]オルト 三箇

芳谷發電所設備

出力七百五十[キ]ロボルト、アムペーア

變壓器一次電壓 三千三百[ヴ]オルト 二次電壓 五百五十[ヴ]オルト 三箇

斷層渡過工事計畫

第一坑三尺卸先ニ於テ明治四十五年四月十七日走向北五十度西傾斜六十度ノ斷層ニ切付ケ同月二十二日第二坑三尺本卸先ニ於テモ亦走向北三十一度四十分西傾斜六十一度ノ斷層露出シ共ニ落差不明ナリ然ルニ其狀態ヨリ該二斷層ハ全ク同一ノモノニシテ且ツ下投順斷層ナル事ヲ信シ第二坑五尺本卸底ヨリ探鑛スル事トシ大正元年十月三十日ヨリ斷層面ヲ切破リシ處上層炭ニ屬スル「七ヘダ」炭層類似ノモノ顯ハレタルニ付銳意之カ探鑛中ナリ若シ「七ヘダ」炭層ト決定セハ約二百尺内外ノ下投順斷層ナリト推定シテ大差ナカル可キモ未タ「七ヘダ」炭層ト確定スルヲ得サルヲ以テ進行探究中ナリ

曳揚機布設工事

第一坑内無極索道設備ノ曉ニハ第一坑道及牟田部坑左一片先ノ坑道ヲ用ヒ之ニ曳揚機ヲ布設シ以テ牟田部坑内ノ出炭及土石ヲ第一坑蒸氣卸迄曳揚ケ而シテ第一坑内ノ無極索道ニヨリ坑外ヘ搬出セシムル豫定ニシテ大正元年十一月十七日ヨリ第一坑蒸氣卸ト第一坑道トノ間ニ卷立取ヲ開始シ同十二月末日迄十四間九合ヲ完成セリ尙落成期ハ大正二年三月頃ナル可

シ

選炭機械改造工事

明治四十五年一月中旬落成シタル石炭積場ト現在ノ選炭機トハ尙二千百十六尺ノ距離アリテ無極索道ニ依リ運炭シツ、アルモ其不便不利不尠茲ニ鐵道延長布設ノ目的ヲ以テ別ニ一晝夜千五百噸ノ選炭力ヲ有スル機械ヲ新設シ直接貨車ニ積込ム可キ計畫中ナリ着手月日ヲ未定ニ屬ス

牟田部坑ノ廢止

牟田部第一井坑ハ坑底梓破損シ井坑内ニ大修繕ヲ施行セサルヲ得サル事トナリタリ然ルニ第一新坑道落成ノ上ハ牟田部採掘炭ノ運搬ハ總テ同坑道ニ取り前記井坑ハ廢止ノ豫定ナリシヲ以テ此修理ノ時期ヲ機トシテ同井坑ノ使用ヲ廢止セリ

石炭積込場ハ工事中ナリシ鐵道布設落成ニ付明治四十五年一月中旬ヨリ從來ノ無極索道距離六千六百五十尺ヲ二千百十六尺ニ短縮スルヲ得タリ

前年ト鑛產額ノ比較

本年中ノ出炭總額ハ明治四十四年度ニ比シ著シク増加シタルモ明治四十四年度ハ芳谷炭礦カ三菱合資會社ノ所有トナリ同社ノ營業一箇年ニ滿タサルモ前會社時代ノモノトヲ合セ年產額ヲ比較スルニ

明治四十四年出炭高 三一一、九八九噸

大正元年度 出炭高 四一七、六八七噸

差引一〇五、六九八噸ニシテ三割四分ノ激増ヲ來セリ之レ坑内切羽ノ擴張ト坑夫増員等ニ因ルモノナリ

牟田部ニ於ケル徑五尺ノ「コルニツシユ」式四十八馬力汽罐ハ明治四十五年二月末日限り其使用ヲ停止セリ

牟田部豎坑石炭搬出中止ニ付蒸氣ノ需要ヲ減シ大正元年十月上旬ヨリ從來ノ使用罐數半減二箇使用シツ、有リ

岸嶽炭鑛 石炭 位置 佐賀縣東松浦郡北波多村
鑛業人 三 菱 合資會社

當礦ハ大正元年十一月三日岸嶽鑛業合資會社ヨリ讓受ヲ爲シ當會社ノ經營尙日淺ク新ニ鑛業上ノ施設ヲナシタルモノナシ前會社ニ於テハ主トシテ下層ナル五尺炭層ヲ採掘シ卸底ノ一部ヲ除ク外左方ハ三菱芳谷炭坑鑛區境界ニ右方ハ本坑々區ノ約中央ニ於テ北西ヨリ南東ニ亘ル大斷層ニ達セシヲ以テ本年度ハ上層ナル三尺層ト兩層中間ニ存スル一枚物層トヲ採掘スル事トセリ坑内採掘方法及通氣排水運搬等ニ於テハ通氣上多少ノ改良ヲ施行シツ、アル外別ニ改良ヲ加ヘタル事ナシ

繼續事業トシテ施設中ノモノナシ

將來ニ對スル計畫

前項ニ記載シタル右方斷層ハ已ニ探鑛ヲ試ミタルヲ中途ニシテ廢絶シタルヲ以テ更ニ適當ノ位

置ヲ撰ヒ探鑛ヲ爲ス豫定爲リ又此斷層先ノ炭田ハ地表ヨリモ試錐ヲ施シ調査スル計畫ナリ
坑口ヨリ三百五十間ヲ距ル左二十二片先ヨリ水平坑道ヲ約百二十間延長シ芳谷方面ノ五尺炭層
ヲ探掘スル計畫ニシテ大正二年一月中着手ノ豫定ナリ

人道開鑿

本坑口ヨリ着炭箇所迄約百間ノ處ハ傾斜二十度ノ坑道ニシテ運搬兼通行路ニ充ツルヲ以テ新ニ
通行專用ノ坑道ヲ二坑中央ヨリ本坑ニ向ケ約百五十間開鑿スヘク計畫中ニシテ大正二年一月中
着手ノ豫定ナリ

發電所變更

當坑發電所ヲ廢止シ新ニ變電所ヲ設ケ相知芳谷共同發電所ヨリ送電シ從來ノ電燈ニ供給スルト
共ニ電動力ヲモ使用スルニ至ル可シ

坑内ニ於ケル排水設備トシテハ從來蒸汽力ヲ以テ「スペシャル」式及「エバンス」式唧筒ヲ使用セルモ
發電所落成ノ上ハ同所ヨリ電力ヲ供給シ全部「タービン」唧筒ニ變更ノ計畫中ニシテ着手ハ大正二
年三月頃ニシテ竣工ハ同七月末日ノ豫定ナリ

相知炭礦 石炭

位置 佐賀縣東松浦郡相知村
鐵業人 三菱合資會社

本期三月ヨリ第二新坑道三尺分岐點ヨリ四百間ノ間從來單線坑道ヲ複線ニ開鑿工事ヲ開始シ六
月末竣工セリ同時ニ同所方面運搬ノ爲メニ電働五十馬力無極索道機械一臺ヲ新設ニ着手七月上
旬完成中旬ヨリ運轉セシカ前年竣工ノ新坑道五十馬力無極索道機及ヒ一片磐ニ於ケル十五馬力

無極索道機ト相俟ツテ運搬力ヲ増大ナラシメタリ本期九月中第三卸ヲ第一新坑道ニ直線ニ開通セシムヘク其工事ヲ第一新坑道及三尺右二片磐及三片磐ヨリ着手セシカ各工事延長坑道ヲ合スレハ年末現在三百六十間餘ヲ進捗セリ目下繼續工事中ニシテ本年六月頃完成ノ豫定ニシテ本工事完成ノ曉ニハ同方面ノ運搬力ヲ増シ利便ヲ得ルコト大ナリ

又從來五尺層ニ通スル氣流ハ全部五尺一片磐ヲ經三尺層ヨリ五尺層ニ掘下シアル豎坑ヲ吹キ登サシメツ、アリシカ本年七月中新坑道左四片磐ヨリ五尺新坑道四片磐ニ切下リ工事ヲ開始シ本期末完成シタルヲ以テ爾來同斜坑ニ排出セシムル目的ナリシモ三尺新坑道四片磐ノ風道狹隘ノ爲メ一部ハ從來ノ如ク五尺一片磐一部ハ同斜坑ヲ吹キ登サシメ三尺新坑道ノ排氣ト合シ新坑道左四片磐ニ排出セシムルコト、ナシタルヲ以テ兩層ノ通風上利便ヲ得タルモ尙ホ着々風道開鑿ヲ繼續シ益々良好ナラシムルコトニ勉メツ、アリ

新發電所工事 相知、芳谷兩炭礦ヘ電力供給ノ目的ヲ以テ當礦々所内ニ千「キロワット」三相交流式蒸汽回轉汽機二臺(千キロワット常用)ヲ設置スル爲メ本期三月諸般ノ準備ニ着手シ同機用凝縮機用導水工事其他汽罐(バブコック、エンドヴイルコック)水管式(加熱面四千十二平方呎)二臺煙突鐵筋「コンクリート」等ハ約三步ノ出來形ナリ大正二年六月第一期工事ヲ終リ第二期工事ニ移リ豫備ノ諸機械其他之ニ供フ附屬器械ヲ据付クル筈ナリ汽罐ハ又「ヅルサー」式水管式汽罐二臺ヲ増設スルモノニシテ既ニ諸器械等注文中ナリ

前記ノ施設ニシテ本年中ニ竣成セサルモノハ年末ニ於ケル進捗ノ程度及竣工ノ豫定年月日

第三卸改修工事 年末五步出來大正二年六月竣工ノ豫定

中央發電所第一期工事 年末三步出來大正二年六月竣工ノ豫定

同 第二期工事 大正三年二月 同上

本期中新設汽罐ハ二基ニシテ各「バブコック、エンド、ウイルコック」水管式(傳熱面二千百九十七平方呎)ナリ

杵島炭礦第二坑 石炭 鑛業位置 佐賀縣杵島郡北方村
高賀取伊好

新ニ鑛業上ノ工事ヲ施設シタルモノ左ノ如シ

通氣堅坑ヲ開鑿ス内徑十六尺深百八十尺ニシテ本年四月起工十一月三十一日落成

右新設ノ堅坑口ニ扇風機ヲ設置ス「キャペル」式風車徑八呎排氣量一分時間十五萬立方呎ニシテ

八月起工十月三十日落成

粉炭ヲ選炭スル爲「フラツケフト」式水洗機二臺ヲ設置シ本年四月起工五月二十日落成

本年中新設汽罐ハ「ランカシャー」式(八十馬力)二臺ニシテ廢止セルモノハ「ランカシャー」式(八十馬

力)三臺及「コルニツシュ」式(五十馬力)一臺ナリ

岩屋炭礦 石炭 鑛業位置 佐賀縣東松浦郡嚴木村
貝島鑛業株式會社

九月二十三日工事ニ着手シタル坑内無極索道坑道ノ開鑿ハ全延長七十七間ノ内本年未迄ニ四十間ノ工程ヲ終リ其工事ハ大正二年二月竣工ノ豫定ナリ

工事落成ノ曉ニハ坑内無極索道捲揚機械設置ノ計畫ニシテ之レカ原動機トシテ五十馬力電動機

一臺ヲ裝置シ現在坑外設置ノ十六吋橫置式双汽笛捲揚機械ト併用シ其運搬力ヲ増大ナラシメ一箇年出炭量十萬噸ヲ搬出スヘキ豫定ナリ

石狩鐵山 石油

位置 鐵業人 石狩國石狩郡石狩町
日本石油株式會社

採油事業ニ關スル設備ハ昨年ニ比シ變更ナキモ從來ノ油井ハ出油力次第ニ衰ヘ新井ハ未タ油層ニ着セサル爲メ產額月次降下ノ狀態ニ在リ而カモ八ノ澤二號井ハ明治四十五年三月二十四日百六十餘間ヲ掘下ケタル時突然大噴油ヲ爲シタルヲ以テ大ニ將來ニ嚙望セラレ遂ニ本年十月輕川驛ニ製油所ニ設立シ製油事業ヲ開始スルノ機運ニ至レルモ其後出油減少セリ該製油所ハ元山ヲ距ル約十五哩ノ所ニ在リ原油ハ徑二吋ノ鐵管ニ依リテ流送ス次キニ製油所ノ主ナル設備ヲ舉ゲ
シニ

一 建物

總建坪 四百六十五坪五合 一一棟

一 蒸汽汽罐

總馬力 百五十五馬力 四臺

內譯

外焚多管式

長 四呎十吋
徑 八吋

馬力(公稱)

三〇

同

長 四呎六吋
徑 八吋

同

二五

水管附外焚式

長 四呎十吋
徑 十一吋九吋

同

六〇

半通筒多管式

長 四呎十吋
徑 十二吋半

同

四〇

一 蒸汽唧筒

總馬力

三十四馬力

十二臺

内譯

「ウォーシントン」式	馬力	九	五臺
「ノールス」式	同	二	二臺
「ノールス」式空氣唧筒	同	一〇	一臺
「カメロン」式	同	一五	一臺
「ゴールドン」式	同	三五	二臺
單筒式	同	八〇	一臺

一 蒸餾釜 三基

内譯

百石釜 一
五十石釜 二

一 冷却槽 三

一 鐵槽 二八

一 製罐工場原動機 一

「ミーツ、ツ、サイクル」石油發動機 十五馬力

一 製罐機 一一

現在ノ設備ハ一日原油二百石ヲ精製スルヲ得ヘク又製罐部ハ一日三千個ヲ製シ得ヘシ然レトモ

目下原油不足ノ爲メ一日約百石ノ原油ヲ處理スルニ過キス

當所製出燈油ノ商標ハ蝙蝠印ニシテ「白一羽」ト稱ス

尙本鑛山ノ掘鑿ニハ網掘式及「カリフオルニヤ」式ヲ採用シ外人技師二名(米國人)ヲ傭聘シ居レルモ地質カ硬軟混交ノ頁岩ニシテ坑心屈曲シ易ク從來ノ網掘式ニテハ鑿進困難ナルヲ以テ明春融雪後全部水壓掘ニ改良ノ計畫ナリト云フ

槻木鑛山 石油 土瀝青 鑛業人 置 秋田縣南秋田郡豐川村 日本アスファルト工業株式會社

二月保龍田鑛山ノ一部分割ニ因リ成立シタル鑛山ニシテ從來一、二、三號ノ三個製鍊場ヲ以テ稼行セシカ出鑛量増加シタルニ由リ五月及七月ノ兩度ニ四、五號ナル製鍊場ヲ建設シ釜數三十六枚ヲ増加セリ

旭川鑛山 石油 鑛業人 置 秋田縣南秋田郡旭川村 日本石油株式會社

本年度内ニ於テ新ニ鑿井シタルモノ十二井アリ深度五十間乃至百間ニシテ油層ニ會シ其質良好ニシテ何レモ多量ノ出油アリ産額ハ從來ノ深掘井ハ出油著シク減シタル爲メ從テ一時非常ニ不振ノ姿ニアリシモ其後前記ノ新油井ヲ開鑿シタル結果未タ曾テ見サル淺層ニ於テ數箇所ノ坑井ニ多量ノ出油アル油層ニ會セシヲ以テ産額頗ル激増スルニ至リ土崎製油所ニ於ケル製出高亦増加スルノ機運ニ向ヘリ尙ホ將來旭川ノ流域ニ沿フテ鑿井ヲ行フ計畫ニシテ收支ノ許ス限リハ「一口タリー」式ニ依リ開鑿スヘシト云フ

豐川鑛山 石油 鑛業人 置 秋田縣南秋田郡豐川村 中外アスファルト株式會社

一月第一號井ノ開鑿ニ着手シ米國式鑿井法ヲ應用シ九馬力「モーガン、エンジン」ヲ動力ニ使用ス深度二百間多少ノ出油ヲ見ルニ至レリ尙ホ十一月ニ入り第二號井ノ開鑿ヲ始メタリ

小國鑛山 石油

位置 秋田縣由利郡院內村
鑛業人 保科儀藏

前年來上總掘鑿井ニ從事シ居リタルモ着手以來五箇所ニ鑿井ヲ試ミ内現時出油セルモノ三井アリ未タ出油セサル他ノ一井ハ掘進中ニシテ近日出油ヲ見ルヘキ見込アルモ他ノ一井ハ廢井ニ歸シタリ大正二年ニ至ラハ器械掘ヲ開始スヘキ豫定ナリ

黒川鑛山

石油 位置 秋田縣南秋田郡金芝村
土瀝青 鑛業人 日本石油株式會社

本鑛山ハ從來専ラ土瀝青ノミニ付稼行セシカ今回石油稼行ヲモ行フコト、ナリ七月新網式鑿井ヲ開始シ十一月ニ至リ百八十四間ニシテ汲油スルニ至リ同時ニ汽罐一臺ヲ新設セリ

長嶺鑛山 石油

位置 新潟縣刈羽郡二田村外一町二村
鑛業人 日本石油株式會社

本鑛山ニ於ケル深掘ハ近時着々成功ヲ告クルニ至リシカ就中瀧谷伊毛兩鑛場ニ於ケル發展ハ實ニ顯著ナルモノニシテ伊毛第七十一號井(普通網掘)ハ本年九月十九日深度四百六十四間ニシテ豐富ナル油層ニ逢着シ成功當時日產四百七十六石ヲ產出シ現今ニ於テモ約百石ヲ持續セリ又瀧谷第一號井(普通網掘)ハ八月八日深度三百六十七間ニシテ成功シ當時一日百五石現今百石内外ノ出油ヲ見ルニ至リシ爲メ兎角沈靜勝ナル斯業界モ頓ニ氣運ヲ挽回スルニ至レリ殊ニ本會社カ鑿井ノ敏活ヲ圖ル爲メ開始セル「ロータリ」式鑿井ノ成績最モ良好ニシテ斯業家ノ齊シク注目ス所ルトナリ非常ノ活氣ヲ呈スルニ至レリ今其「ロータリ」掘坑井ノ狀況ヲ見ルニ伊毛第七十四號井ハ

本年六月二十八日深度三百二十三間ニシテ成功出油量當時五十石最近二十二石、鎌田第七十六號井ハ八月四日成効深度四百二十二間、出油量當時百二十石最近八十石、伊毛第七十七號井ハ七月二十二日成功深度四百三十一間、出油量當時五十石最近二十二石、鎌田第八十號井ハ十二月十四日成効、深度三百九十七間二尺ニシテ瓦斯層ニ會シ當時六百六十萬立方呎最近百萬立方呎ヲ發噴セリ又瀧谷第二號井ハ十月十二日成功深度三百九十五間、出油量當時百八十五石最近百五十石、瀧谷第四號井ハ十二月十三日成効深度四百二十九間二尺、出油量當時四十石最近二十五石ヲ產出シ又瀧谷第三號井ハ十二月下旬深度五百四十七間ニシテ是又稀有ノ大油脈ニ到着シ當時ニ於ケル一日ノ所產ハ實ニ二百五十石ニシテ現今ニ在リテモ二百石内外ヲ維持セリ如斯、ロータリー式鑿井ノ成功等ノ爲メ本年ニ於ケル同鑛山ノ出油量ハ前年ニ比シ約二萬五千石ノ増加ヲ見西山油田ノ深油層ニ豊富ナルヲ世ニ紹介スルニ至レリ尙ホ同式掘鑿井中ノ坑井ハ何モ第七十八號同第七十九號長嶺第一百五十三號井同第一百五十六號瀧谷第五號鎌田第八十一號ノ各井トス

西山鑛山 石油

鐵業人 實田石油株式會社
新潟縣刈羽郡二田村外一町二村

本鑛山ニ於ケル深掘井ハ爾來漸次好果ヲ奏スルニ至リ且ツ入和田方面モ漸ク發展ノ傾向ヲ呈セルヲ以テ今ヤ入和田及鎌田兩鑛場ニ於テ更ニ十數坑ヲ開掘スル計劃中ニ在リ殊ニ最近、ロータリー式掘ノ成績顯著ナルヲ認メ同式ニ依リ十一月八日入和田第八號井ノ掘鑿ニ着手シタルニ十二月二十三日迄ニ深度三百九十三間四尺ニ達シ油層ニ逢着セリ次テ入和田第九號同第十號同第十一號同第十二號ノ各井及長嶺第九號鎌田第五十號ノ各井モ本式ニ依リ掘鑿スヘク目下銳意之

レカ準備中ニアレハ早晚同方面ハ一層ノ盛況ヲ觀ルニ至ルヘシ

新津鑛山 石油

位 置 新潟縣中蒲原郡新津町外一村
鑛業人 日本石油株式會社

本鑛山ノ内飯柳地内ニ於テ本年八月五日ヨリ「ロータリー」式掘一坑ノ鑿井ヲ開始シタルニ地質不良ノ爲メ豫定ノ進行ヲ爲サ、リシモ十月十二日深度二百八十三間ニシテ油層ニ逢着スルヲ得タリ然ルニ素ト該井ハ深層油探究ノ目的ナルノミナラス油量僅少ナリシヲ以テ採油裝置ヲ爲サス五百間迄掘下ノ見込ニテ掘進中ナルカ目下深度四百七間ニ達セリ因ニ同井ノ成績如何ハ實ニ新津油田ニ於ケル瀧谷柄目木方面ノ命脈ヲ決スル試掘井ナルヲ以テ附近ノ斯業者ハ刮目シテ快報ニ接センコトヲ期待セリ

足洗場鑛山 石油

位 置 新潟縣中蒲原郡小須戸町
鑛業人 中央石油株式會社

本鑛山ハ鹽谷金津油帶ノ南方ニ位スル地域ニシテ此方面ハ明治初年以來微々タル手掘事業ノ繼續セラレタルニ過キサリシカ本會社ハ同油田ノ有望ナルヲ認メ從來ノ姑息ナル鑿井ヲ改メ機械鑿井ヲ試ミタルニ第一號井ハ本年七月二十八日深度五十四間ニシテ油層ニ逢着シ當時最多日產十五石ノ出油ヲ見ルニ至リ成績良好ナルヲ以テ九月七日第二號井ノ開掘ニ着手シタルニ是レ又十月十五日深度六十二間ニシテ成功シ當時日產約五十石ヲ採油セシカ其後モ引繼キ相當ノ油量ヲ持續セル有様ナルヲ以テ愈々望ヲ囑シ全力ヲ傾注シテ發展ヲ期スヘク尙ホ數坑ノ鑿井計劃中ニアリ因ニ油質ハ「ボーメー」八度内外ナリトス

五智鑛山 石油

位 置 新潟縣中頸城郡春日村
鑛業人 日本石油株式會社

本鑛山ハ從來微々タル採油事業ヲ繼續セシニ過キサリシカ本年八月十七日「ロータリー」式掘一坑ノ鑿井ニ着手シ目下深度四百四十三間三尺ニ達シタルモ未タ油層ニ達着スルニ至ラス今尙ホ掘進中ニアリ

奥尻鑛山 硫黃

位 置 後志國奥尻郡奥尻村
鑛業人 奥尻鑛山株式會社

前年事業ニ着手以來探鑛ノ結果ニ依レハ硫黃鑛存在區域ノ確實ナルモノ二萬五千八百坪ニシテ其鑛量約九十萬噸ナリ又其外ニ鑛脈存在セルモ尙ホ探鑛ヲ要スヘキ區域大約六萬七千五百坪アリト云フ

全部露天掘ニシテ坑内掘進ハ單ニ探鑛ヲ爲スニ過キス

本年中ニ於テ製鍊窯五基ヲ増設シ前年ノ十七基ニ合シ二十二基ヲ以テ製鍊ヲ爲セリ一製鍊時間ハ八時間ニシテ一晝夜三回ノ裝入製鍊ヲ爲ス

三井岩雄登鑛山 硫黃

位 置 後志國磯谷郡南尻別村
鑛業人 三井鑛山株式會社

第二岩雄澤ニ於テ十六箇所ニ試鑛ヲ行ヒタル結果愈々鑛量豊富ナルコトヲ確認シ目下運鑛道路ノ開設中ナリ

中小屋製鍊場ニ於ケル燒取窯ハ四基ナリシヲ十一基ニ増加シタリ

辨慶別鑛山 硫黃

位 置 膽振國有珠郡壯瞥村
鑛業人 小田眞治

元山幌別間(四哩)ニ高架索道ヲ設ケ便宜上幌別鑛山ニ於テ製鍊ヲ爲スコト、セリ該工事ハ本年七月着手シ略ホ完成セリ而シテ幌別鑛山事務所附近ニハ燒取製鍊窯十基ヲ建設中ニシテ内五基ハ

既ニ竣工セリ

倉石嶽硫黃山 硫黃 位置 宮城縣刈田郡宮村 木村善三郎

從來運搬費ニ多額ヲ要シ發展遲々タリシカ現鑛業人ハ山元遠刈田間六哩ニ玉村式鐵索ヲ架設シ又一方チル爐五十基ヲ据付ケ一箇月二千噸ノ賣品ヲ製出セントシ工事中ニ屬ス

沼尻鑛山 硫黃 位置 福島縣耶麻郡吾妻村 日本硫黃株式會社

本鑛山採鑛場附近ヲ流ル、酢川ハ降雨ノ際土砂ヲ流出シ露天及坑内採鑛場附近ニ多量ニ之ヲ殘留スルコト頻々ニシテ之カ爲メ採鑛作業ヲ困難ナラシムルニ依リ之カ防禦トシテ現採鑛場ヨリ上部字一ノ瀧ノ廣濶ナル地ニ石堤延長七十五間(高五間幅中央十間兩端三間)ヲ築造セリ又同所西方尼澤ニ通水坑延長百二十五間(幅十尺高サ八尺傾斜四十分ノ一)ヲ開鑿セントシ目下工事中ナリ製鍊場ト大原間ハ從來馬車ニテ運搬セシカ此間距離一哩二十鎖ニ玉村式固定單線索道(十時間運搬量六十噸)ヲ架設シ其動力用トシテ水車徑二十四尺幅二尺五寸實馬力八ヲ新設セリ又前年起工セシ岩越線川桁停車場及山元大原間輕便軌道ハ其大半竣工シ酢川野ニ假停車場ヲ設ケ差當リ大原酢川間ノ運轉ヲ開始スヘキ準備中ナリ

鶯澤鑛山 硫黃 位置 岩手縣神宮郡湯口村 梅津友藏

從來採掘ノ鑛床ハ一層ナリシカ五月下部ニ於テ有望ナル鑛床ヲ發見シ七月燒取鍋六枚一座ノモノ四座ヲ増設セリ

板谷鑛山 硫黃 位置 山形縣南置賜郡山上村外一縣一郡二村 箕田定吉

地方薪材不足ナルヲ以テ明治四十四年十月三個連續ノ自熱爐一座ヲ開設シ硫黃鑛ノ自熱ヲ利用シテ含有硫黃ヲ鎔解スル方法ヲ發見シ本邦自熱硫黃製鍊ノ機運ヲ開キ四十五年七月更ニ自熱爐五座ヲ開設シ製鍊ヲ繼續シ來レルカ成績良好ナルヲ以テ大正二年六月ヨリ一箇月製品二百三十噸ヲ產出スル目的ヲ以テ自熱爐四個連續ノモノ十座トシ之カ運搬トシテハ鑛山清六平間ニ軌道一哩、清六平與羽線板谷驛間ニ玉村式自働鐵索一哩五分ヲ架設セントシ目下其準備中ニアリ

藏王鑛山 硫黃 位 置 山形縣南村山郡中川村 鑛業人 代表者 石川昭

當地方薪材燃料ヲ求ムルコト不便ニシテ經營上苦慮シツ、アリシカ種々試驗ノ結果堅釜二十座ヲ据付ケ一日三百本(一本十六貫)ノ硫黃ヲ製出セントスル計劃中ナリ

赤倉澤鑛山 硫黃 位 置 秋田縣北秋田郡山瀨村 鑛業人 代表者 松本良太郎

前年末開始シタル蒸汽製鍊ハ結果不良ニ終リ一時事業ノ縮少ヲ來シタリシカ十一月之ヲ廢止シテ堅釜四十個ノ新設ニ着手シ同方法ニ依リ將來ノ發展ヲ計ラントノ計劃中ニ在リテ十二月ノ末ニ至リ約七十噸ノ產出ヲ見ルニ至レリ

川原毛硫黃山 硫黃 位 置 秋田縣雄勝郡須川村 鑛業人 富谷榮助

七月第二製鍊場ヲ増築シ燒取釜四個立一基ヲ開設セリ

九重山硫黃鑛山 硫黃 位 置 大分縣玖珠郡飯田村 鑛業人 廣海二郡三郎

繼續事業トシテハ從來本鑛ニ於ケル製鍊用ノ燃料ハ總テ薪材ヲ用ユ然ルニ永年ノ事トテ附近ノ森林ハ最早伐リ盡クシテ現今ニアリテハ本鑛ヲ去ル三里以上ヲ隔タル國有林ヨリ其供給ヲ受ケ

ツ、アルモ是レ又限リアリテ爰幾年後ニハ遂ニハ其缺乏ヲ見ルニ至ルヘク故ニ明治四十一年本
鑛ヲ去ル四里ノ所ニ原野實測五十四町九反二十一步ヲ買入レ薪材ノ目的ヲ以テ是レニ桐木十萬
三千八百十本ヲ新植セリ本年又桐木二萬五千本ヲ補植シ之レニテ合計十二萬八千八百十本ヲ有
ス尙ホ年々幾分宛植栽ヲ爲シ將來ニ對スル燃料ニ充用ノ計畫ナリ以上植栽ノ桐木ハ今後約二十
年ヲ經ハ薪材ニ使用シ得ルノ見込ナリト云フ

眞形尻鑛山

土瀝青

位 置 秋田縣南秋田郡豐川村
鑛業人 中外アスファルト株式會社

漸次採鑛部面ヲ擴張シ三月採鑛場揚水ノ原動力トシテ石油發動機一臺ヲ開設セリ

三 事業ヲ縮少シタル鑛山

壽都鑛山

金銀銅鉛

位 置 後志國壽都郡壽都町
鑛業人 武田恭作

本鑛山ニ於テ從來豫備製鍊ヲ爲シタル後椿鑛山ニ輸送シ居リシカ其製鍊モ豫期ノモノヲ得ス且
ツ費用多大ナル爲メ遂ニ本年十二月製鍊ヲ休止シ鑛石ノ儘椿鑛山ニ輸送スルコト、ナレリ

美利加鑛山

滿俺

位 置 後志國瀨棚郡利別村
鑛業人 北海道鑛業合資會社村

目下採掘シ居レルモノハ皆鑛脈薄ク且ツ品位モ良好ナラス當底豫期ノ出鑛ヲ見ル能ハス去レハ
本年六月以來主トシテ元山方面ノ採鑛ニ從事シ「ガロ」ノ澤及「クンベ」澤ニ設ケシ選鑛場ハ之ヲ廢止
スルニ至レリ

枝幸金山

金銀

位 置 北見國枝幸郡枝幸村
鑛業人 枝幸金山株式會社

本鑛山ハ前年中製鍊場ヲ建設シ本年其製鍊ニ着手シタルモ製鍊器械不完全ナリシ爲メ豫期ノ目的ヲ達スル能ハス遂ニ之ヲ中止シ專ラ同鑛區内ニ存在スル砂金ノ採取ヲ爲セリ

尙ホ大正二年度ニ於テハ流水ヲ利用シテ金鑛上部ノ表土ヲ洗滌シテ砂金ノ採取ヲ爲シ且露頭ニ於ケル鑛石ヲ露天掘シテ搗鑛ニ供スル計畫ニテ同五月ヨリ此等ノ作業ニ着手スル豫定ナリト云フ

砥澤鑛山 金銀銅鉛 鑛業人 置 宮城縣栗原郡花山村外一村 小 林 重 藏

明治四十三年以來工事中ナリシ製鍊設備ハ全部完成ヲ告ケ一時試驗的製鍊ヲ行ヒシカ鑛況ノ不良ト品位降下ノ爲メ幾許モナク之ヲ中止シ爾來僅カニ探鑛ヲ繼續スルニ止リ殆ント休業同様ノ狀態ニアリ

御岳鑛山 金 鑛業人 置 宮城縣本吉郡御岳村 山 下 秀 實

鑛石中ニ硫化物ヲ伴隨スルコト漸次多キニ至リ從來ノ青化製鍊ヲ行フコト困難トナリシヲ以テ三月以來製鍊ヲ中止シ下底ニ於ケル銅鑛ニ向テ探鑛ニ努メツ、アリ

横倉鑛山 金 鑛業人 置 宮城縣本吉郡十三濱村 代表者 杉 武一郎

湧水多量ノ爲メ昨今主トシテ排水ニ從事シ事業ヲ縮少ス

桃生鑛山 金銀 鑛業人 置 宮城縣桃生郡飯野川町 橋 本 忠 次郎 外一村

本鑛山ハ排水困難ノ爲メ八月限り探鑛ヲ中止シ又十月ニ入り開鑿中ノ大切坑ノ掘進ヲモ中止シ今後ノ方針ニ就キ研究中ニアリ

内ノ澤鑛山 金

鑛業人 福岩手縣和賀郡湯田村

金鑛ノ探掘ヲ休止シ鑛夫二三名ヲシテ銅鑛ヲ目的トシ探鑛シツ、アリ

分譯鑛山 金銀

鑛業人 福岩手縣和賀郡澤内村

鑛況不振ノ爲メ自然操業ノ縮少ヲ來シタリ

大平鑛山 金

鑛業人 福岩手縣紫波郡長岡村

鑛況不振ノ爲メ探鑛ヲ中止シ專ラ探鑛ノミヲ行ヘリ

上磯鑛山

金銀銅 鑛業人 青森縣東津輕郡一本木村

年來引續キ探鑛中ノ處今後ノ計畫ニ就キテ目下研究中ニ屬シ單ニ排水事業ヲ繼續シツ、アリ

二重坂鑛山 金銀銅

鑛業人 山形縣東置賜郡二井宿村

鑛況頓ニ不良ニ陥リ四月一時休山シ五月現鑛業人之ヲ讓受クルト同時ニ探鑛ニ着手セリ

増田鑛山

金銀銅鉛 鑛業人 秋田縣雄勝郡西成瀬村

本鑛山ハ本年春來鑛石ノ品位低下シタルカ爲メ收支ノ關係上殆ント休業同様ノ有様ナリシカ去

ル十月以來殘鑛石中ニ稍ヤ有望ナルモノヲ發見シタルヲ以テ多少産額ヲ恢復スルニ至レリ

鴫鑛山

金銀銅 鑛業人 秋田縣鹿角郡七瀨村

從來ノ主要坑場タル大立坑ハ上部ノ探掘ヲ了シ下部又漸次硫化鐵ノ増加ヲ見ルニ至リ鑛況振ハ

サルニ至リタルヲ以テ一時人員ノ大減員ヲ行ヒ年末右坑場ノ大部分ヲ中止シ同時ニ亞鉛鑛トシ

テ有望ナル上鴫坑方面ノ探採鑛ニ着手シ小坂亞鉛製鍊ノ資料供給ヲ計ラントス

倉狩澤鑛山

金銀銅 硫磺 鑛業人 秋田縣平鹿郡増田村外一村
小杉佐五兵衛

從來ノ探鑛場ハ排水運搬等不便尠カラサルヲ以テ今夏中切坑ノ開鑿ニ着手シ目下掘進中ニシテ探鑛ノ全部ヲ中止ス

大澤金山

金 鑛業人 新潟縣岩船郡黒川俣村
敏徳

從來ノ製鍊場ハ其組織不完備ナルカ故ニ之ヲ改善センカ爲メニ三月以降製鍊ヲ休止シ爾後探鑛ノミニ從事中ナリ

平泉寺鑛山

金銀 鑛業人 福井縣大野郡勝山町外一村
三郎

本鑛山ハ本坑道ノ直下約百三十尺ニ存在スル本鑛ノ富鑛部分ヲ採取スル目的ニテ疏水道ヲ開進中ナリシカ坑内湧水激甚ニシテ且ツ坑内整理ノ爲メ殆ント操業休止ノ姿ナリ

平岩鑛山

銅 鑛業人 愛媛縣西宇和郡日土村
三郎

本鑛山ノ鑛床狀態ハ漸次不良ニ陥リ探鑛箇所目下僅ニ一箇所アルニ過キス

市之川鑛山

安質母尼 鑛業人 愛媛區新居郡大生院村
代表者 工藤善次

鑛況益不良ナルト製品ノ市價下落ノ爲メ漸次悲況ニ陥リ鑛夫ヲ減少スルニ至レリ

富岡鑛山

銅 鑛業人 高知縣吾川郡富岡村
代表者 田中銀之助

鑛況不良ノ爲メ使用人員三割ヲ減少セリ

大田鑛山

銅 鑛業人 山口縣美禰郡太田村
生田國藏外二名

當年五月六日大盛坑底部増水ノ爲メ探鑛休止ヲ爲シ隨テ製鍊モ七月限休止シ目下復舊ニ付協議

中ナリ

筑後鑛山 金銀 位置 福岡縣八女郡星野村 六

四十四年下半年以來引續キ殆ント事業ノ全部ヲ休止シ爾來何等ノ設備ヲ爲サス

上熊渡鑛山 金銀 位置 福岡縣八女郡星野村 五

新タニ施設シタルモノナク一般ニ事業ノ縮少ヲ爲セリ

眞幸鐵山 金鐵 位置 宮崎縣西諸郡眞幸村 之助

一月ヨリ製鍊業ヲ開始シ銑鐵ノ試製ヲ爲セシモ經營上ノ都合ニ依リ計畫ヲ變更シ製鍊業ハ四月

限り全部廢止シ專ラ鑛石ノ儘販賣スルコト、セリ

仁田平鑛山 金銀 位置 鹿兒島縣梶宿郡喜入村 永井榮吉外三名

本年中當鑛山ニ於テハ鑛脈甚タ稀薄ニシテ且含有金銀分僅少ナリシ爲メ採鑛及製鍊ヲ休止シ探

鑛ノミニ從事セリ而シテ大正二年ヨリハ日本式水車ヲ建設シ以テ製鍊ヲ再開スルノ計畫ナリト

云フ

高嶺鑛山 金銀 位置 鹿兒島縣始良郡蒲生村 大久保嘉市外四名

從來操業ニ係ル鑛脈ハ坑水多量ニシテ排水困難ニ至リシ爲メ本年四月ヨリ事業ヲ休止セリ

芹ヶ野鑛山 金銀 位置 鹿兒島縣日置郡串木野村 津忠重

新ニ施設シタルモノナク一般ニ縮少セリ

大口鑛山 金銀 位置 鹿兒島縣伊佐郡大口村 岩月彦

本年七月大雨頻リニ至リ坑内ノ湧水劇増シ加フルニ原動力ニ故障ヲ生シタル爲メ五坑道へ据付ケ置キタル排水唧筒ヲ引揚ケ四坑道以下全ク水没ニ歸セシムルノ止ムヲ得サルニ至リ爾來未タ排水着手ニ至ラス

大谷鑛山 金銅

位 置 鹿兒島縣桿宿郡今和泉村
鑛業人 薩南鑛山合資會社

新ニ施設シタルモノナリ一般ニ縮少セリ

隅田川炭礦 石炭

位 置 福島縣石城郡好間村
鑛業人 隅田川炭礦株式會社

本炭礦ハ斜坑々内ニテ從來數箇所ノ自然發火アリ局部密閉ヲ爲シ之カ鎮火ニ努メツ、アリシモ漸次延焼シ從テ通氣不良ニ且經費ノ膨脹ヲ見ルニ至リシヲ以テ九月同斜坑封鎖ノ目的ヲ以テ一坑道二坑道内ニ於テ本線及其他ノ坑道密閉ヲ行ヒタリ其後ハ一坑道上部ニシテ本年讓受ケタル隣鑛區ニ就キ横坑ヲ開鑿シ一坑道トノ連絡ヲ計リツ、アリシモ斜坑密閉ノ爲メ現今出炭量從來ニ比シ半減ス

木屋瀬炭礦 石炭

位 置 福岡縣鞍手郡木屋瀬町
鑛業人 木屋瀬探炭株式會社

一般ニ事業上ノ縮少ヲ爲セリ

絲飛炭礦 石炭

位 置 福岡縣田川郡金川村
鑛業人 田島嘉次郎

本鑛山第一斜坑ハ本卸ニ於テ斷層ニ逢ヒ操業上ニ障害ヲ生シタルヲ以テ更ニ新坑ヲ開鑿スルノ得策ナルヲ認メ六月ヨリ事業ヲ縮少シ專ラ排水ノミニ從事シ十一月ヨリ漸ク第四坑及第五坑ノ開坑ニ着手セリ

「ランカシヤ」式汽罐一臺ヲ廢止シ船用汽罐一臺ヲ新設セリ

大任炭礦 石炭 位置 福岡縣田川郡大任村

一般ニ事業上ノ縮少ヲ爲セリ

大隈炭礦 石炭 位置 福岡縣遠賀郡底井野村

一般ニ事業上ノ縮少ヲ爲セリ

相田炭礦 石炭 位置 福岡縣嘉穂郡二瀬村

採掘終了ニ近ツキ一般ニ縮少セリ

牟田炭礦 石炭 位置 福岡縣嘉穂郡西門村

採掘終了ニ近ツキ一般ニ縮少セリ

第一坑ハ七月限り廢坑シ汽罐五臺ノ使用ヲ廢セリ

植木炭礦 石炭 位置 福岡縣粕屋郡須惠村

採掘終了ニ近ツキ一般ニ縮少セリ

小松炭礦 石炭 位置 福岡縣田川郡後藤寺町

本炭礦ハ相當ナル出炭ヲ爲シツ、アリシモ九月十日坑内出水瓦斯爆發ノ變災アリテ爾來採炭事

業ヲ休止シ復舊工事中ニ屬セリ

三井古武井鑛山 硫黃 位置 渡島國龜田郡尻岸村

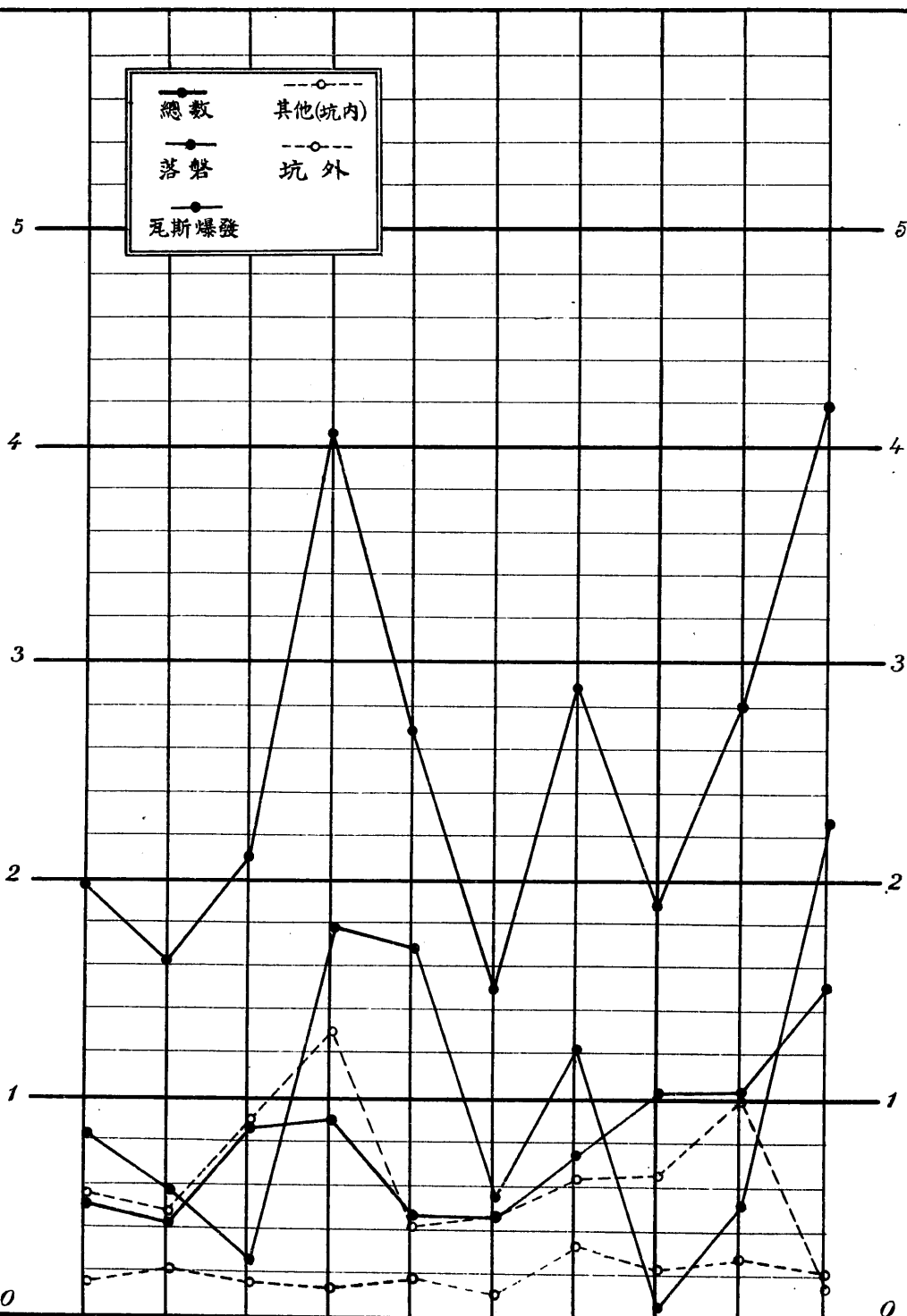
本鑛山ハ水準上ノ採掘略終了シ主トシテ最低水準タル四號坑以下ノ卸方面ヲ採鑛シ居リシカ明

治四十五年四月右「ムサ」ノ澤上流ノ河床ニ罅隙ヲ生シ河水坑内ニ浸入シ四號坑以下各卸ヲ水沒セシメ爲メニ出鑛ニ大頓挫ヲ來セシヲ以テ製鍊元鑛ニハ從來元山製鍊場附近ニ堆積セル舊釧勝興業株式會社時代ニ(元古武井鑛山ト稱セシ時)生シタル粉鑛ヲ水洗シテ之ニ充テ尙ホ之カ補充トシテ坑内各所ヲ取明ケ舊探鑛場ノ殘鑛ヲ採掘シテ漸ク製鍊ヲ繼續シ一方河床ノ裂罅ヲ充填シテ坑内ノ排水ニ努メ本年十二月漸ク舊中切坑道上迄排水ヲ爲セリ而シテ明年度ニ於テハ各所ヲ掘進探鑛シ一方地表各所ニ試錐ヲ施シ今後ノ發展ヲ期セリ

因ニ本鑛山ハ舊押野鑛山及舊古武井鑛山ヲ合併シタルモノニシテ製鍊場ハ合計四箇所ニ設置セラレアリシカ合併ノ結果舊古武井鑛山ニ屬セシ中小屋製鍊場ヲ廢止シ元山製鍊場ハ僅カニ一基ヲ殘セルノミ又押野鑛山ニ屬セシ青盤製鍊場ハ十九基ヲ、舊山製鍊場ハ八基ヲ操業スルニ過キス昨年末ニ比シ實ニ十八基ニ減シ昨年上半年期ニ比スレハ四十一基ノ減少ニシテ著シク悲境ニ在リ

鑛山變災ニ因ル死亡割合累年比較

就業人員ニ對スル千分率



年次

三六

三七

三八

三九

四〇

四一

四二

四三

四四

四五

大正元

年次